

LIBRARY OF

Dr. Z. P. Metcalf

1885-1956



Matsumura 1910E
19156

番號	384
部類	動物學書
鈴鹿昆虫研究所	

合資
會社
六盟館
出版圖書
大販賣所

東京市京橋區
南傳馬町二丁目

東京市日本橋區
鐵砲町

東京市日本橋區
本石町二丁目

長野市櫻枝町

長岡市表四ノ町

目 黑 甚 七

電話本局二一六三番
振替貯金口座二八〇九番

榊 原 友 吉

電話浪花三三二二番
振替貯金口座三〇九〇番

杉 本 七 百 丸

電話本局一六九八番
振替貯金口座五六一三番

西 澤 喜 太 郎

目 黑 十 郎

明治四十三年三月十日印刷
明治四十三年三月二十日發行

大日本害蟲全書前編

定價 金貳圓

著者 松村松年

東京市日本橋區鐵砲町三番地

發行者 合資六盟館

右代表者 杉本七百丸

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷者 石川金太郎



發行所

合資六盟館
東京市日本橋區鐵砲町三番地

電話浪花二七六四番
振替口座一二五五〇番

Matsumura 1910

1st ed.
vol. 1

— { 書 全 蟲 害 本 日 大 } —

大日本害蟲全書
前編終

は黒色、額片に沿うて黒條あり、第二の種類は黄橙色、背上に藍色を混ず、兩側に七個の黒色斜條ありて氣門上を走り、各背に出づ、初めの三節及び尾節の外、全面に黒藍色の小紋を散在す、尾角は暗黄、第三の種類は黄橙色を帯びたる初めの三節及び尾節の外は全體綠色、斑紋は前者に酷似す、尙老幼の如何により他色を現はすことあり、體長三寸五分乃至四寸。

經過 年一回の發生をなす、蛹にて越年するものと、卵子にて越年するものとあり、蛹は黒褐、黒色の氣門を具へ、地中に土窩を造りて其内にあり、蛾は普通九月の頃出づれども亦五六月頃出づるものあり、卵子は一粒宛葉裏に産下せらる、幼蟲は六月下旬より九月迄食害す。

此の害蟲は幼蟲、蛹、成蟲の何れを問はず、一種固有の音を發することは既に農家の知る所にして、其發音の方法は未だ判然せざるも成蟲は口吻を觸角に摩擦して鼠の如き音を發し、幼蟲は大腮の摩擦によりて電花の如き音を出だすものならんか、又蛹の發音は羽化の際其被鞘を破る時に於て發するものゝ如し。

驅除法 同前。

第二百六十八

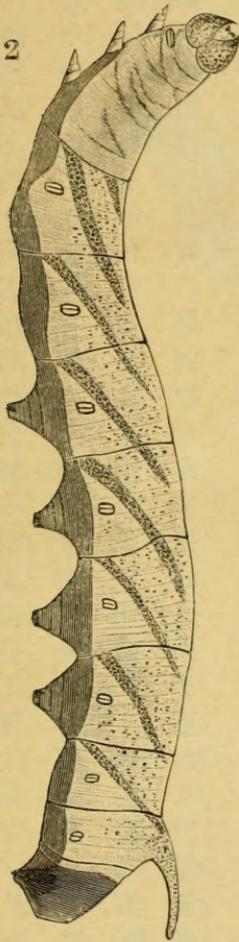
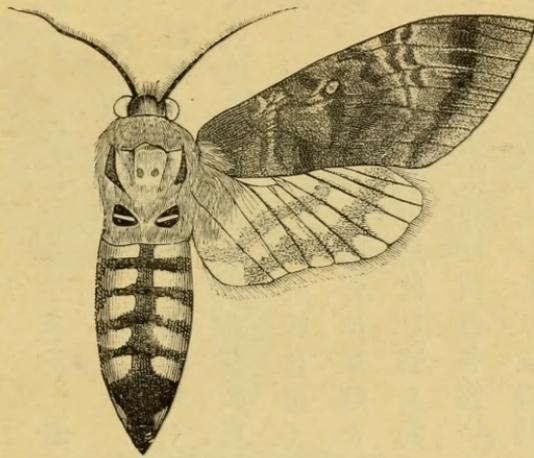
圖

めんがたすず

め

(1) 成蟲
(2) 幼蟲

1



紋を散在し冬期には褐色點を有す、第二及び第三節は黄橙色、白色或は赤褐、兩

側は灰褐、背上の中央に天鵝絨様の黒線を縦走し、其の線の中央に更に黄色の細線あり、第四節より第十一節の尾角に至るまで波状をなせる黒色の二背線を装ふ、第七節の兩側にも亦黒線ありて氣門上に斜走す、尾節は黒色及び黄色の顆粒突起を具へ、其の末端は前方に彎曲す、脚及び氣門は黒色、前者の末端は白色、頭は灰色、兩側

脚の兩側は赤褐を帶ぶ、頭綠色、白條を裝ふ、體長二寸七八分。

經過 年一回の發生をなし、蛹にて越年す、翌春五、六月頃蛾化す、蛹は黒褐、初めの

三腹節は小孔を散在し、他節には縮紋多し、尾節には粗糙面を有する突起を有し、第八腹節に尾角様の短突起を有す、夜間燈火を慕ひて家屋に飛來し、又糖液に集來す。

九、めんがたすずめ *Acherontia styx* West. (第二百六十八圖)

被害植物 胡麻、馬鈴薯、茄子。

特徴 成蟲 前翅は天鵞絨様の黒色若くは黒褐、白色及び黄色の鱗毛を散在す、

翅の中央に黄色の一紋を具へ、其上に更に小紋を有するものあり、濃色の横線

あれども餘り判然せず、唯だ外縁に近く波狀線を認め得べし、後翅は濃黄色、黒

色の二横線を有す、頭及び胸背は前翅と同色なれども後者は少しく藍色及び

黄色を混じ、中央に二個の黒紋を裝ふ、其形恰も骸骨に似たるを以て一名がい

こつすゞめとも云ふ、腹部は黄色、各節に黒帶を具へ、背上に太き黒線を縦走す、

脚黒色、黄輪あり、口吻短大にして黄褐、體長一寸六分、開張三寸乃至三寸五分。

幼蟲 色は様々にして、先づ三種あり、第一の地色は灰褐若くは綠褐、多數の白

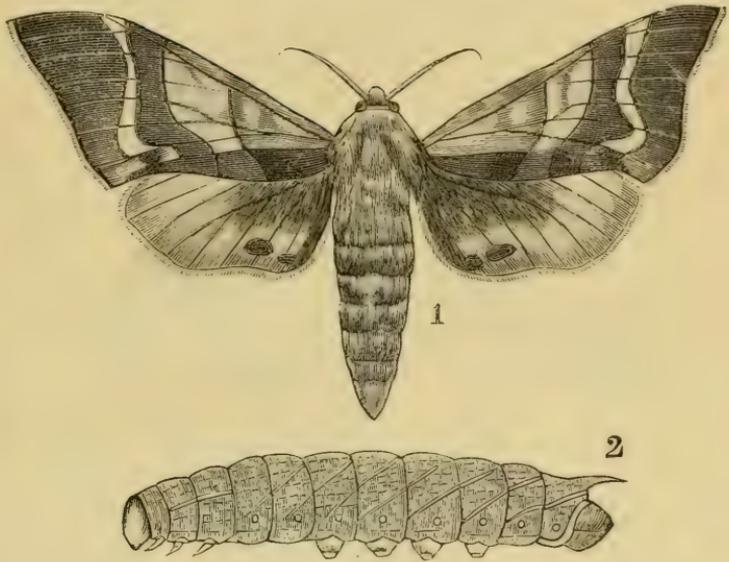
第二百六十七

圖

むむすずめ

(1) 成蟲

(2) 幼蟲



をなし突出す、外縁及び中央の大半は黒褐、其内側に横線を有するものあり、内縁は黒褐なれども少しく藍色を帯び、後縁角に近く楕圓紋あり、後翅桃赤色、外縁は暗褐、内縁角に二個若くは相合せる黒褐紋あり、頭及び體は前翅と同色、胸部の兩側毛は少しく藍色を帯ぶ、

幼蟲 綠色、前種同様に白色の顆粒を散在し、兩側に

七個の斜走せる疣紋列を有し、各節の背上にて殆んど相合す、尾角は長くして約三分五厘あり、氣門白色、黒縁を具へ、胸脚は帶綠暗黃、末端は褐色、腹部及び尾

幼蟲 綠色、前面に白色の小顆粒突起を散在し、兩側にあるものは他のものより大なり、第四節より第十一節に至る迄氣門上に斜條ありて白色若くは黄色を呈す、尾角は綠色、體同様に顆粒突起多し、頭青綠、顔に二個の黄線あり、氣門は白色、赤色の周縁を有し、胸脚及び體に赤紋を有す、體長二寸五分。

經過 年一回の發生をなし、蛹の有様にて越年す、蛾は翌春六七月の頃發生し、食樹の葉裏に一個宛産卵す、綠色にして光澤あり、一雌の産數約六百餘、幼蟲は七月月上旬より九月下旬迄加害す、老熟すれば地上に下り地中に入りて蛹化す、蛹は黒褐、蛾は夏日室内に入り來るもの多きを以て俗にうちすゞめと云ふ、其性好んで燈火に飛來し又糖液に集まる。

驅除法 同前。

(八) **ももすゞめ** *Smerinthus gaskewitschii* Brem. et Grey. (第二百六十七圖)

被害植物 桃櫻。

特徴 成蟲 前翅暗褐又は黄褐、黒褐の斑紋及び横線あり、翅底に短き半横線を具へ、其次に三條の横線ありて、各内縁に於て殆んど相合し、其合する處は濃色なり、翅の中央に弦月形の一紋を裝ひ、其外側に太き横線ありて、其外側は銳角

めずすちう 圖六十六百二第

$\frac{1}{2}$



褐體長一寸二分乃至一寸五分、開張三寸乃至三寸五分。

を具へ、外縁は濃色、前・中・後の三胸背に暗色の横線あり、尙腹節にも各一個同色の斜線あり、體下及び翅下に黄褐の部分あり、體長雌雄一寸四分乃至一寸六分、開長二寸二分乃至二寸四分。

幼蟲 綠色、淡黄の小斑を密布す、亞背線及び側斜線は淡黄第三節より第四節に亘り新月形の隆起を裝ふ、氣門は紫褐色、尾角は淡黄褐、體長二寸七八分。

經過 年二回の發生をなす、第一回は五月、第二回は八月、蛹の有様にて地中に越冬す、性前種に酷似す。

驅除法 同前。

(七) **うちすずめ** *Smerinthus ocellatus* L. var. *planus* Wlk. (第二百六十六圖)

被害植物 苹樹・櫻・柳・白楊

特徴 成蟲 前翅は暗灰色にして、少しく綠色を帯ぶるものと、褐色を帯ぶるものと二様あり、翅底及び前縁は灰色、内縁に濃色の二大紋を具へ、翅の中央は濃色にして之に弦月形の灰色紋あり、其外側に濃色の二黄帯を具へ、外縁に同色の雲狀紋あり、後翅の中央は桃赤色、黒輪を有する大形の眼狀紋ありて藍色を呈し、其中央は暗黒、觸角は黄色、頭及び前胸は灰褐、中後の兩胸背及び腹背は綠

三及び第四節の兩側は著しく膨大し、尾角は少しく弓狀をなし、其末端は赤褐、胸脚は黃褐、基部の外側は光澤ある黑色、體長二寸七分。

經過 年一回の發生をなし、蛹の有様にて越年す、翌春七月頃蛾化し、卵子を一二個宛葉裏に産下す、卵は黃綠にして稍々卵形、孵化前には少しく赤味を帶ぶ、孵化したる當時は長さ黑色の尾角を有すれども、成長するに従ひ其長さ體に準じ、且固有色を呈するに至る、老熟すれば地上に落ち、落葉を纏めて薄繭を造り、其内に蛹化す、蛹は灰褐、黑色の氣門を具へ、翅鞘に黒點の縦列あり、幼蟲は葡萄の新芽を喰ひ、時に花梗を切りて大害を加ふることあり。

驅除法 同前。

六、ぶだうすすめ

Acosmeryx ancea Gann.

被害植物 苹果、櫻、柳、白楊

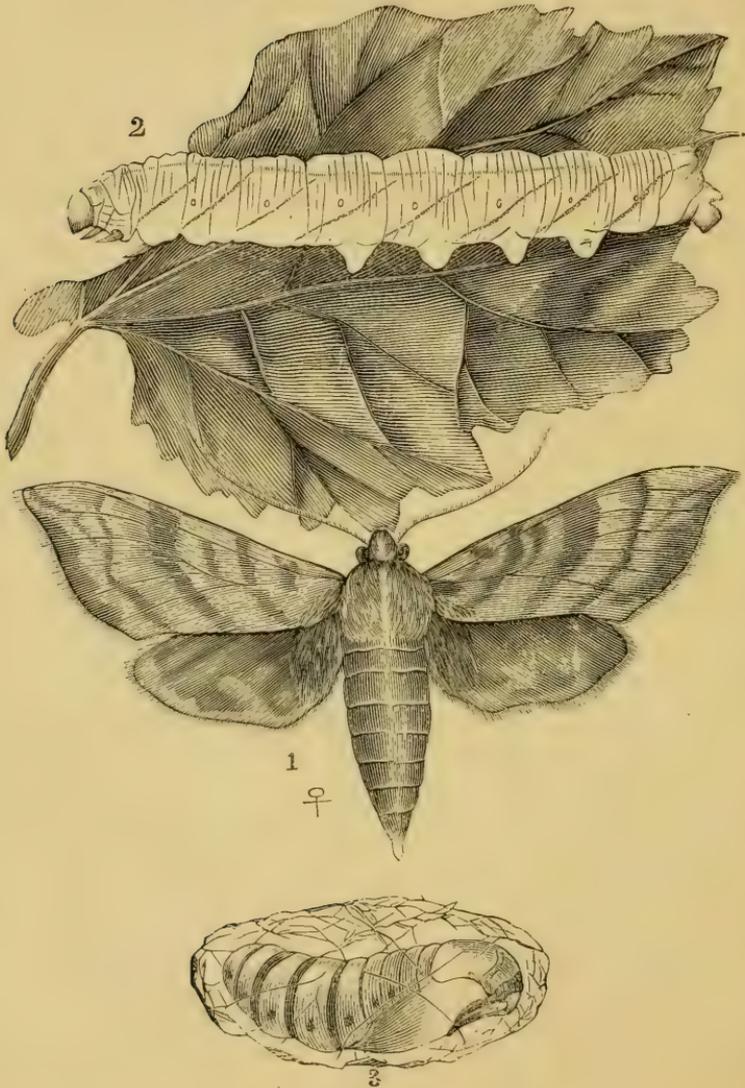
特徴 成蟲 體翅は灰色にして少しく紫色を帶ぶ、前翅に黒褐の九線を横走し、

中央に近く黒褐の大斜線ありて之より後縁に向ひ三條の波狀線を出だす、第七室に細き三角形の黒紋あり、中室の外側に黒褐の環紋ありて其中央は灰色、外縁は暗褐、其内側に判然せる灰色の横線を具有す、後翅は暗褐、濃色の二横線

圖五十六百二第

めずすまるく

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



及び第一節の硬皮板は割合に小にして黄緑を帯び、各節に七個の横皺あり、第

兩側に各二個の黒條あり、體長三寸五分乃至四寸。

經過 年一回の發生をなす、蛹の有様にて越年するものと、卵子にて越年するものとあり、蛹は光澤ある褐色、腹部は暗褐、頭端に短大の口吻鞘ありて二重に彎曲す、秋季出づるものは蛹化後大凡四週間にて九月下旬乃至十月上旬頃蛾化す、蛹にて越年するものは翌春五六月頃蛾化す。

驅除法 同前。

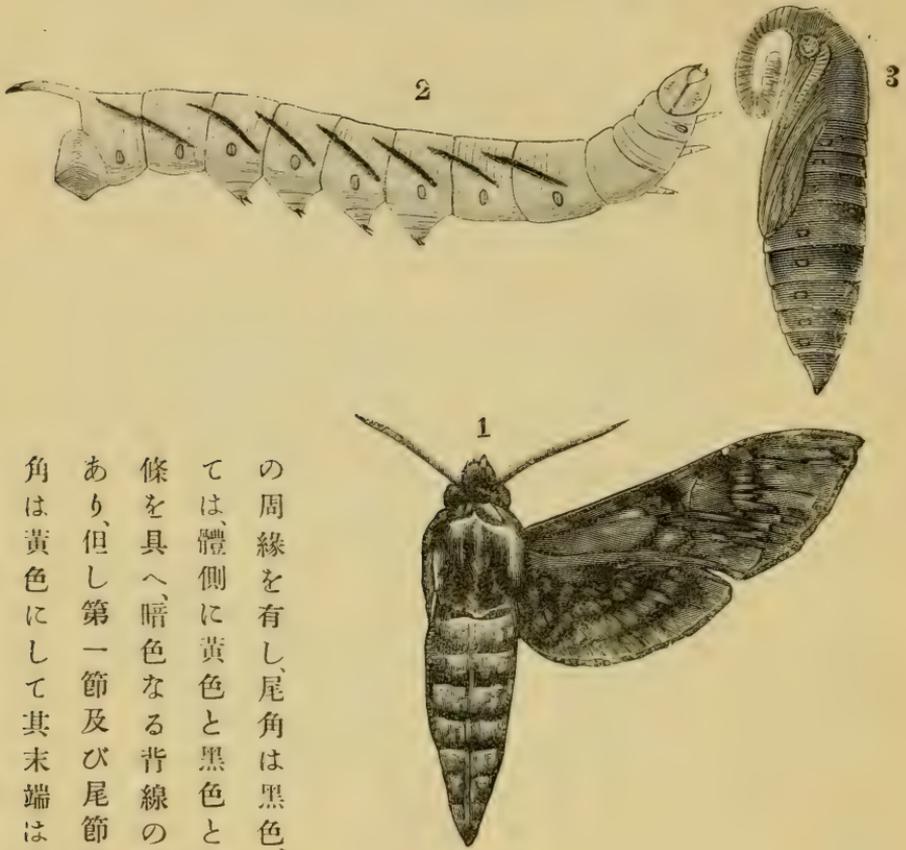
(五) くるますずめ *Ampelophaga rubiginosa* Brem. et Grey. (第一百六十五圖)

被害植物 葡萄。

特徴 成蟲 前翅褐色、少しく紫色を混じ、濃色の二四横帶あり、其中半横線は甚だしく判然せず、第三の横帶は廣く、雄にては第二と相接近す、前縁角に近く大なる濃色紋を裝ふ、雌にては此の紋第四の横帶と相接す、尙外縁の中央に長楕圓の一濃色紋あり、後翅暗黒、外縁は紫褐色、前翅同様に縁毛は光澤ある黃褐、觸角灰色、前胸、兩側及び胸腹兩背上の中央を通して灰色の一縦線あり、頭及び胸部は濃褐、體長一寸乃至一寸三分、開張二寸三分乃至三寸、

幼蟲 綠色、腹面に綾様の赤褐紋あり、背線、亞背線及び氣門間の斜線は赤褐、頭

めずすらがびる 圖四十六百二第



の周縁を有し、尾角は黒色、暗緑なる種類にあり
 ては、體側に黄色と黒色と相平行せる七個の斜
 條を具へ、暗色なる背線の兩側に各一個の黒紋
 あり、但し第一節及び尾節には之れを闕如す、尾
 角は黄色にして其末端は黒色、氣門は赤色、頭の

幼蟲 暗褐なる
 ものと暗緑なる
 ものとの二種あ
 り、何れも暗色の
 背線を裝ふ、暗褐
 なる種類にあり
 ては體側に黄褐
 の七斜條を具へ、
 腹部に黒條あり、
 氣門は黒色、黄色

じ、白毛あり、後翅黒色、内縁角及び中央部は灰黄、腹背の中央に四個の灰黄線を縦走し、兩側に金色毛あり、體長一寸二分、開張二寸二分。

幼蟲 綠褐若くは暗褐時に赤褐を呈することあり、斑紋は前種に酷似すれども、初めの三節に於ける亞背線の小紋は其數少なく僅かに二三個に過ぎず、又第七節に於ける兩側の黄紋は二個にして互に相接す、體長二寸五分。

經過 同前なれども蛹にて越年するものと卵子にて越年するものとあり、九月乃至十月に蛾化したるものは卵子にて越年す。

驅除法 同前。

四、**ゑびがらすずめ** *Proctoparce convolvuli* L. (第二百六十四圖)

被害植物 甘藷、朝顔ヒルガホ、旋花。

特徴 成蟲 前翅は灰褐、黒色及び灰色の紋條を具へ、中央に灰色の腎狀紋を有す、其中央は暗色なり、尙少しく外縁に近く犬牙狀をなせる黒色の波狀線を具へ、其内側は灰色、後翅は暗灰色、黒色の四横線あり、翅底に近きものは短くして第二線と銳角をなし、他の三線は略々相平行す、各腹節の背の上に黒毛、白毛及び赤毛の三横列あり、體長一寸七分、開張三寸三分。

をなして曲る、翌春六七月の頃蛾化す、蛾は葉裏に一粒宛産卵す、九月下旬乃至
 十月上旬地中に入りて蛹化する。

驅除法 同前。

(三) こすずめ *Cherocampa japonica* Boisdl. (篤二百六十三圖)

被害植物 葡萄。

特徴 成蟲 前種に酷似すれ

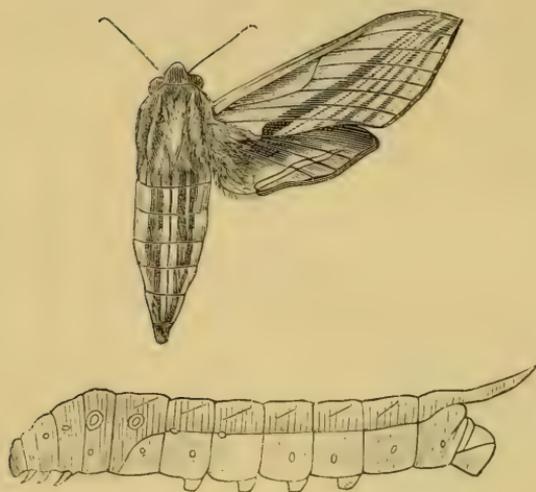
ども腹背に銀色の縦線なき
 を以て容易に區別すること
 を得べし、前翅は灰褐、綠色を
 混ず、翅の中央に一個の黒紋
 あり、内縁より是一個の太き
 緑褐條を前縁角の方向に斜
 走し、其の内側に數列相平行
 せる灰色及び綠褐の斜條を
 裝ふ、内縁は少しく紫色を混

第二百六十三

圖

こすずめ

(1) 成蟲
 (2) 幼蟲



第百二十六圖 せすぢすめ



の圓紋を具へ、内縁には銀白の縁毛あり、後翅は小にして暗色、中央に灰黄の部分あり、腹背に二條の銀白紋を縦走す、體長一寸三分、開張二寸五分。

幼蟲 綠褐、稀に紫色を混ざる者あり、第六節より尾角に至る迄暗色の亞背線を縦走し、第三及び第四節に至る迄の暗色背線は判然す、體側は淡色、氣門の下方に暗色の七斜條を裝ひ、亞背線に沿ふて黄色及白色紋を列ぬ、其中初めの三節に跨り兩側にあるものは小にして九個内外あり、第四節より第十節迄は各兩側に一個を裝ふ、第四及び第五節にある眼狀紋は黄色と青色とを混じ、第六節以下第十節に至る迄の眼狀紋は赤色、青色及び黄色を混ず、各節の接合部に黄色の横帶あり、氣門下線は白色、觸角及び額片は黄色、尾角は黒色、末端は白色、顆粒狀の小突起多し、體長二寸八分。

經過 年一回發生す、蛹の有様にて越年す、蛹は黒褐、灰黄を混ず、形小にして弓狀

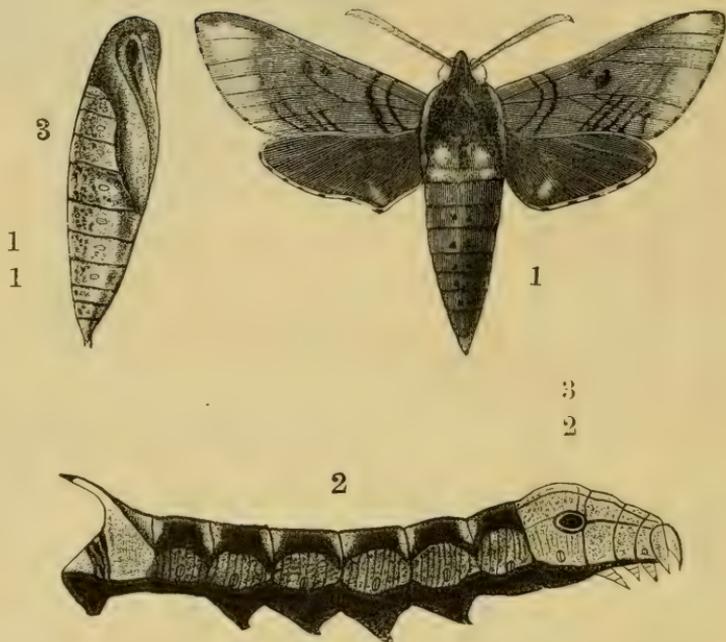
第二百六十

一圖

びろろどす

ずめ

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 蛹



白條を斜走す、其内側に太き黒褐條を有し、其の線の中央に更に濃色の細線あり、又外側に黒色の稍細き線ありて、更に其外側に灰白紋あり、翅の中央に黒色

を造り其内に蛹化す、蛾は燈火に飛來す。

驅除法 同前、

(二) せすぢすぢめ Chae-

rocampa oldenlandiae F.

(第二百六十二圖)

被害植物 青芋から

すびしやく。

特徴 成蟲 前翅灰

褐、少しく綠色を帶

び、後翅の中央より

前縁角に達する灰

したる場合には石油乳劑を用ふべし。

天蛾科 *Sphingidae*.

(一) びろろどすずめ *Metopius mongolianus* Butl. (第一百六十一圖)

被害植物 葡萄。

特徴 成蟲 前翅黒褐色、外半は灰白、翅底に近く濃褐の三横線あり、外半には灰褐の廣帯を横走し、其兩側に黒褐の點線を裝ひ、後縁角に近く三個の濃褐紋あり、後翅は暗褐、内縁角に近く黄色の斑紋を裝ふ、體は暗褐、後胸の左右に黄赤色の斑紋を具へ、複眼の上縁及び胸部の兩側に白條を裝ふ、腹部灰褐、橙色を帶ぶ、體長九分、開張一寸九分。

幼蟲 背面は黒褐、網狀の黒線を縦横に走らす、側部は暗黄、同じく網狀紋を具へ、氣門線は白色、第四節の兩側に一個褐色の眼狀紋ありて、其中央は黒色、尾角は割合に長し、體長二寸八九分。

經過 年一回の發生をなす、蛹の有様にて越年す、翌春六七月の頃蛾化し、卵子を

一粒宛葡萄の葉裏に産下す、八月中旬頃より老熟し、地上に落ちて地下に土窩

被害植物 萃樹、梨、櫻、柳、白楊、

特徴 成蟲 前翅は暗褐、翅底灰色、雄は中央に二條の波狀線を裝ふ、外縁に二列の褐紋列ありて、各紋の内側は白色、後翅は灰色、前縁は暗褐、其中央に灰白紋を具へ、體は灰色、腹背に暗褐毛あり、體長雄六分五厘、雌八分。

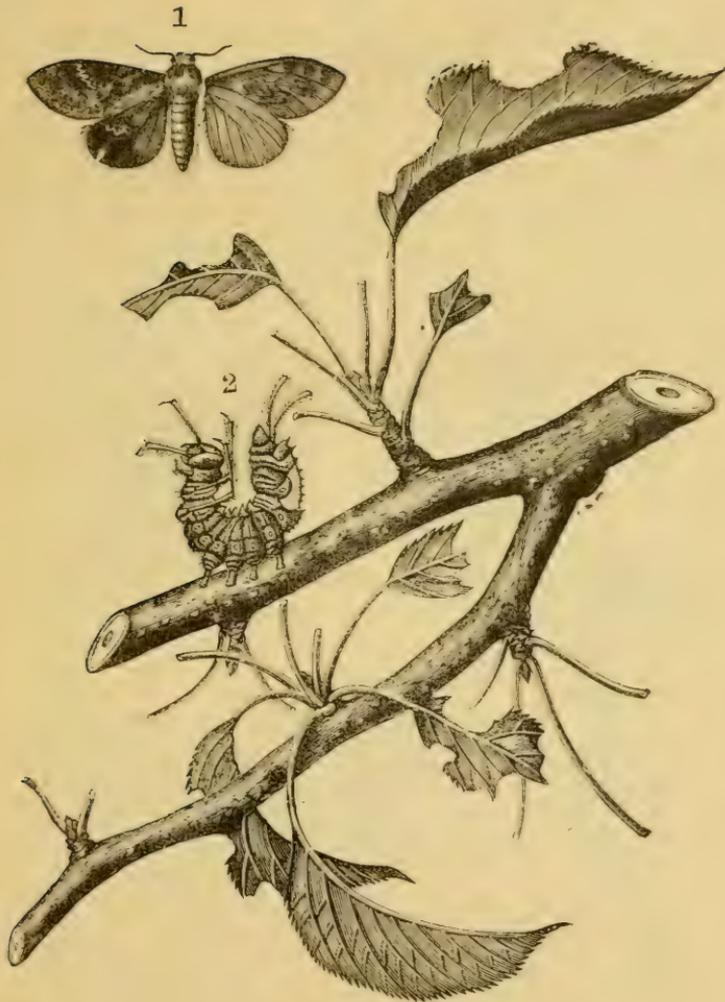
幼蟲 暗色黄色との兩種あり、頭は稍卵形、二條の黒褐縱條あり、初めの三節は細く、之れに各一双の長脚を裝ふ、但し第一節にあるものは短し、第四第五及び第六節の背上に各二個の棘狀突起ありて、後方に向ふ、第七第八第九節の背上には突起あれども棘狀をなさず、第十及び第十一節甚だしく膨大し、稍三菱形をなす、兩側に小齒を列ね、第十一節の背上に瘤狀の一突起あり、第十二節は小にして之に二個の細長き尾樣突起を出だす、常に頭尾の兩端を擧げ奇形を呈す、體長一寸八分。

經過 年一回の發生をなし、蛹の有様にて越年す、蛹は極めて薄き白繭を被る、蛹は光澤ある黒褐、尾端に四個の鈎狀刺あり、翌春五月乃至七月蛾化す、蛾は卵子を樹幹に一二個宛産附す、加害大ならず。

驅除法 幼蟲を捕殺すべし、其形顯著なれば發見すること容易なり、多數に發生

第二百六十圖
しやちほこが

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



しむべし、七八月頃葉上に静止せる蛾を搜索して殺すべし。
(二) しやちほこが *Stenopus fagi* L. (*S. persimilis* Butl.) (第二百六十圖)

圓柱形をなす、體長七分五厘乃至八分。

幼蟲 黒紫色、氣門上線及び氣門下線は紫色を呈す、全體黃白の長毛を装ひ、之れは殊に體側に多し、腹面の中央に紫色線を縦走す、頭は割合に大にして黒く、黃白毛あり、體長一寸四五分。

經過 年一回發生し、蛹の有様にて越年す、蛹は黒紫色、尾端に短き六刺あり、其中二刺は他より長し、腹部は粗糙にして各節の縫皺は深し、翌年七月乃至八月蛾化す、蛾は黃白の卵子を葉裏に産下す、一蛾の産數二百内外、一葉にあるもの約三十にして斑點をなして附着せらる、其初めて卵子より孵化したるものは黃褐にして殆んど裸體なり、幼時より成熟する迄集合するを以て一方の葉のみを食ひ去り、時に枯木の觀を呈せしむることあり、常に尾端を擧ぐるを以てしりあげむしの名あり、物に驚くときは絲を引きて地上に落つ、老熟すれば地中に入りて蛹化し、其儘越年す、此害蟲は時に大害を加ふることあり、札幌地方に於て九月頃加害する蛭蝨は多く之れなり。

驅除法 幼蟲は集合する性あるを以て驅除し易く、其存在は一方の葉の薄らぎあるを以て知るを得べし、冬季前、樹根の近邊を攪拌し、蛹を寒暖の變遷に逢は

第二千五百九十九号 繭糸白蛾



1) 成虫
2) 卵子
3) 幼虫
4)

♀

驅除法 冬季梢上に枯葉を見るときは採り去るべし、多くは越年せる卵塊なり、卵塊は灰白にして一見既に脱殻後の卵子の如きが故に注意を要す。

天社蛾科 *Notodontidae.*

(一) むんくろしやちほこ (しりあげけむし) *Phalera flavescens* Brem.

(第二百五十九圖)

被害植物 苹樹・梨・櫻・榆・櫟。

特徴 成蟲 體黃白、前翅の翅底に一個圓形の大紋あり、其内側は灰藍色、外側は黒褐、其殆んど中央に黃線あり、又後縁より外縁角の方向に太き紋ありて殆んど外縁に相接す、此の紋の外側は灰藍色、内側は黒褐色を呈し、此の兩者は波狀の黃褐線にて界せらる、尙此の紋の外側に白色部あり、翅の中央には三個乃至四個の波狀線あれども、種類により判然せず、裏面の外縁には五個の黒紋あり、後翅は黃白にして紋なし、頭は下方に向きて背面より見え、眼は黒色にして顆粒狀の突起に富む、雌の觸角は淡褐にして絲狀をなし、雄は櫛齒狀なり、胸背は球形に膨起し、腹背は黃褐、體下は淡色なり、靜止のときは翅を以て體を卷き

被害植物 平樹梨櫻すぐり、ふさすぐり

特徴 成蟲 雌は體翅灰黃、前翅の前縁に近く長楕圓の一黒褐紋あり、又翅底及

び後縁角に少しく藍色を混じたる小褐紋を散在す、翅の退化せるものによりては腹部甚だしく膨大し、胸背に暗黒毛多し、雄は暗褐、前翅の後縁及び翅底は黃褐、前縁角に近く黒褐紋を具へ、後縁角に眼狀紋ありて其中央は黒褐、周圍は白色、外縁に黒褐の波狀線ありて、其内側及び縁毛は黃褐、體長二分五厘乃至四分、開張一寸三分乃至一寸五分。

幼蟲 前種に酷似すれども色は暗黒、氣門線は灰黃にして判然せず、第五節の兩側より一個の長さ黒毛塊を出だせるは、其最も異なる所なり、體長九分乃至一寸二分。

經過 年二回の發生をなし、卵子の有様にて越年す、第一回の蛾は七八月、第二回は九十月に跨る、蛾は前種同様に繭上に産卵するものなれども、母蟲の體毛を以て被はれず、繭は暗灰色、蛹は光澤ある黑色體の前半は圓形の點刻を散在し、腹部の中央に一條の黃褐帶あり、尙腹面にも灰黃の部分をも有し、尾端に長突起あり、雄は前種同様に晝間旋轉して飛翔す。

のを殺すべし。

(二)しろもんどろが (ひめつのけむし) *Orgyia thyellina* Bntl. (第二百五十八圖)

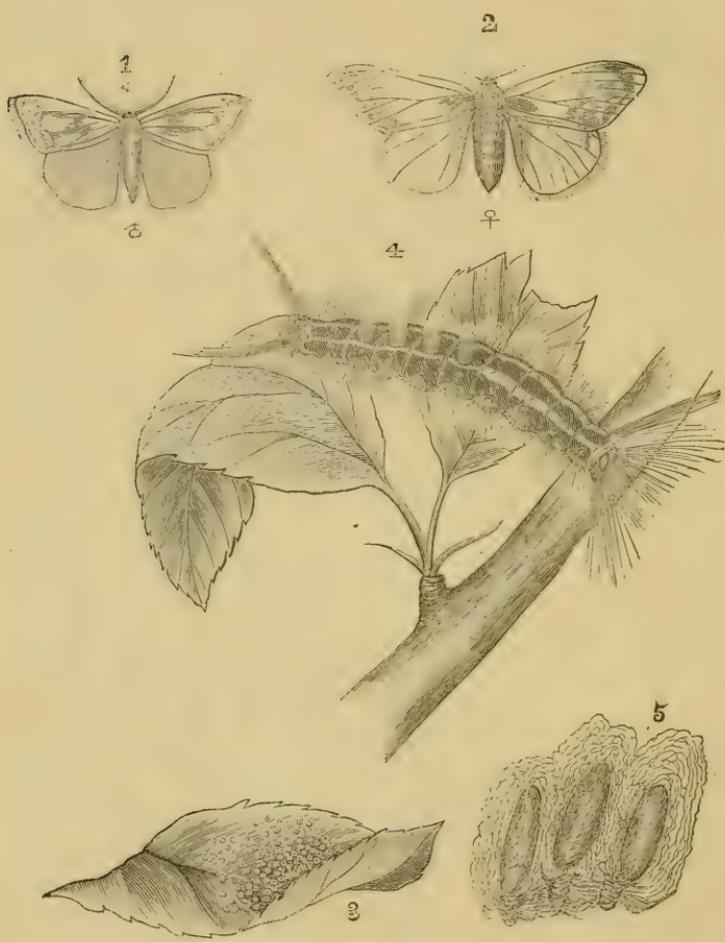
第二百五十八

圖

しろもんどろ

が

- (1) 成蟲(雄)
- (2) 同(雌)
- (3) 卵子
- (4) 幼蟲
- (5) 蛹



及び白色紋を装ひ、後縁角に黄色の部分ありて之に一個の白紋を装ふ、後翅黒褐、體長四分乃至七分、開張一寸二分。

幼蟲 黒色、二條の背線及び氣門線は赤黄、第一節よりは二個、尾節よりは一個筆毛様の長黒毛を簇生す、第四、第五、第六及び第七節の背上には黄褐の毛塊を具へ、各節に於ける疣狀突起よりは白毛若くは黒毛を叢生す、體長一寸三分。

經過 年二回の發生をなす、第一回の蛾は七月、第二回は九月、一二回の脱皮を經たる幼蟲の有様にて粗皮下其他の被蓋下に、越年し、翌春新芽の開綻と共に出て、嫩葉を食害す、卵は球形にして中央に凹陷部を具へ灰色なり、一卵塊中の卵子は三百内外、常に暗色なる繭上に産附せられ、母蟲の體毛を以て蔽はる、幼蟲孵化の當時は黒色にして長黒毛を装ひ、七月中旬乃至下旬老熟し、葉を纏めて暗褐の薄繭を營み、其内に蛹化す、繭は幼蟲の装へる暗黄毛を混ず、蛹は黒褐、尾端に長突起を具へ、腹關節は黄褐、背上に金色毛を装ふ、蛹期は二週乃至三週間、雌は蛾化すれば繭上に交尾し、其上に産卵す、雄は甚だ活潑にして晝間旋轉して飛翔す。

除法 卵塊を搜索すべし、幼蟲には石油乳劑を用ひ、冬季樹皮下に越年するも

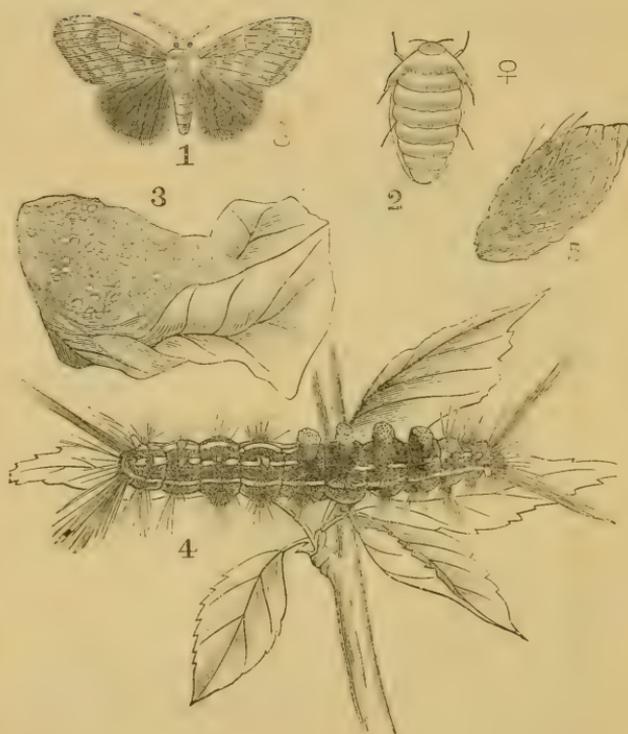
〔10〕あかもんどろが (つのけむし) *Orgyia gonostigma* F. (第二百五十七圖)
 被害植物 辛樹梨・櫻・すぐり・ふさすぐり

第二百五十七圖

あかもんどろが

(つのけむし)

- (1) 成蟲(雄)
- (2) 成蟲(雌)
- (3) 卵子
- (4) 幼蟲
- (5) 繭



特徴 成蟲

雌は體暗黒、翅は退化し、腹部大なり、雄の前翅は赤褐、前縁角に黄色

第二五百六十六圖 蛾めどくが



被害植物 大豆、藤、海棠、うつき

特徴 成蟲 體翅黄色、前翅底、外縁に近き一横帯及び

中室にある判然せざる腎狀紋は黄褐、後翅には紋な

し、體長五分乃至六分、開張一寸三分乃至一寸七分

幼蟲 頭黑褐、體黑色、第一節及び尾節の兩側に筆毛

様の黑長毛を具へ、第四、第五、第六及び第七節の背面

に各二個の黄褐毛塊あり、第四及び第五節の兩側に

黑褐の長毛を簇生す、第八及び第十節の背線上には各一個の赤紋を具へ、亞背

線上には各節一雙の疣狀突起ありて、之より白色短毛を簇生す、氣門上下の兩

線上には黄色、白色及び黑色の長毛を裝ふ、體長一寸。

經過 年二回の發生、第一回の蛾は七月上旬、第二回は九月上旬に出て、幼蟲の有

様にて越年す、幼蟲は翌春六月下旬に至り老熟し、葉を捲きて粗繭を造り、其内

に蛹化す、餘り大害を加へず、蛾は燈火に飛來す

驅除法 幼蟲の群生する場合には石油乳劑を用ふべし、蛾化すれば燈火を以て

誘殺すべし。

の一紋あり、翅底に黒色の横線を具へ、外縁に黒紋を装ふ、後翅暗色、體長六分乃至七分、開張一寸五分乃至二寸。

幼蟲 黄色若くは黄褐、第九及び第十節に黒色の亞背線を具へ、各節八個乃至十個の疣狀突起ありて之より綠黄の長毛を生ず、第四、第五、第六、及び第七節の背上に長さ白毛塊ありて、其中間は黒色、尙第十節の背上に淡紅の長毛塊あり、腹面は暗黒、頭部は灰黄、時に赤褐の體毛及び毛塊を有するものあり、體長一寸八分。

經過 年一回の發生、蛹にて越年す、蛹は黒褐、黄色若くは暗褐の繭中にありて葉に蔽はる、常に幼蟲の装へる體毛を附着す、六月上旬蛾化し、約五十粒の卵子を一塊となして樹幹に産下す、一雌の産卵數約四百粒、卵は淡褐、中央に一個の暗色點あり、孵化當時の幼蟲は黒色なれども、脱皮後は固有色を呈す、蛾は燈火に飛來す。

驅除法 冬期梢上にある繭を搜索すべし、幼蟲は長毛を装へるを以て發見すること難からず、群生する場合には石油乳劑を用ふ。

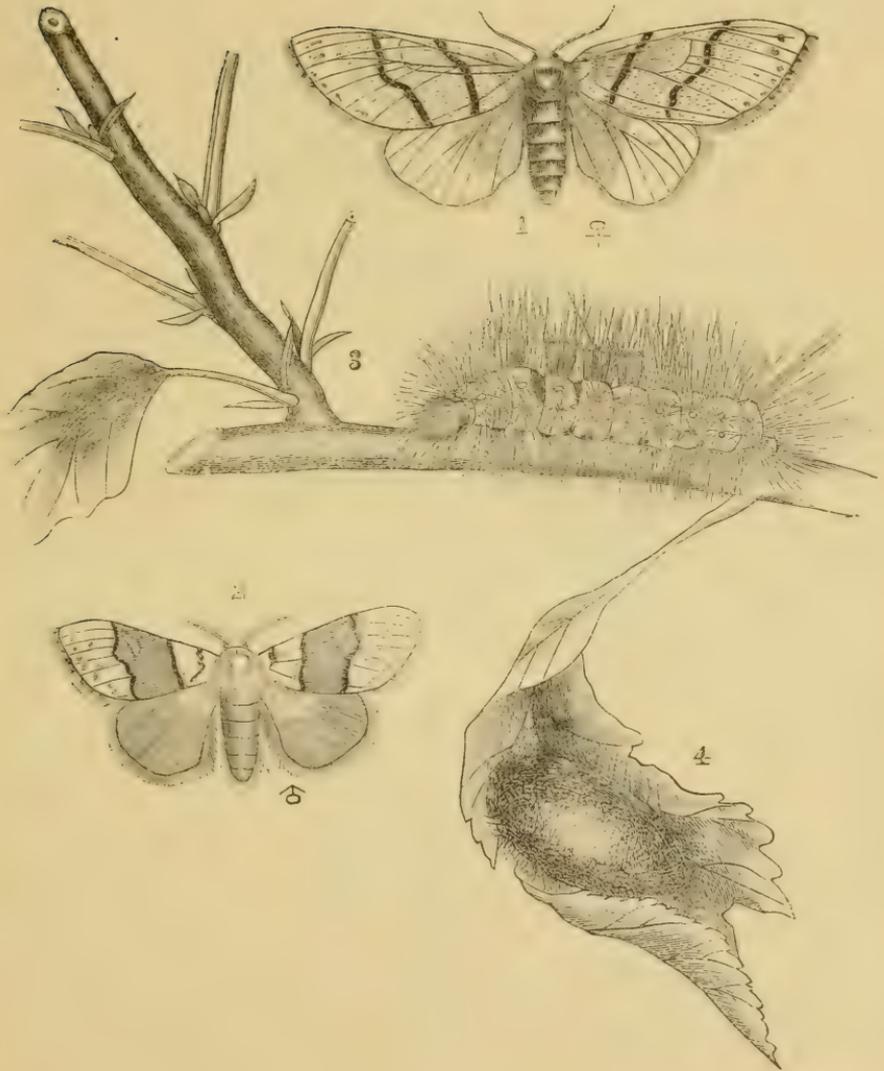
九、まめどくが

Citana loeuples Wlk. (第二百五十六圖)

りんごどろが

圖五十五百二第

- (1) 成蟲(雌)
- (2) 同(雄)
- (3) 幼蟲
- (4) 繭



縦走せる線條、第五節及び第六節の背上及び第七節より第十二節の兩側を縦走せる紋條は黒色、各節に十個乃至十二個の疣狀突起ありて之より各數本の黄毛を簇生す、第四及び第五節の背上は他より著しく膨起し、其疣狀突起は大にして黒色、第八節より第十節に至る迄の背上突起も亦黒色なり、氣門は黒く、其中央の縦線は白色、體長一寸。

經過 年二回の發生をなし、第一回は七月上旬乃至下旬、第二回は九月下旬乃至十月、卵子の有様にて越年す、卵は暗褐、常に母蟲の體毛を以て蔽はる、一塊の卵數は約二百粒、其加害の狀況及び結繭の狀に至りては前種に等し、蛾は夏日燈火を慕ひ家屋に飛來す、婦女子の皮膚に接觸するときは多少癩衝を生ず。

驅除法 同前。

(ハリんごどくか (あかのをのこぎや) *Dasychira pudibunda* L. 第二百五十五圖)

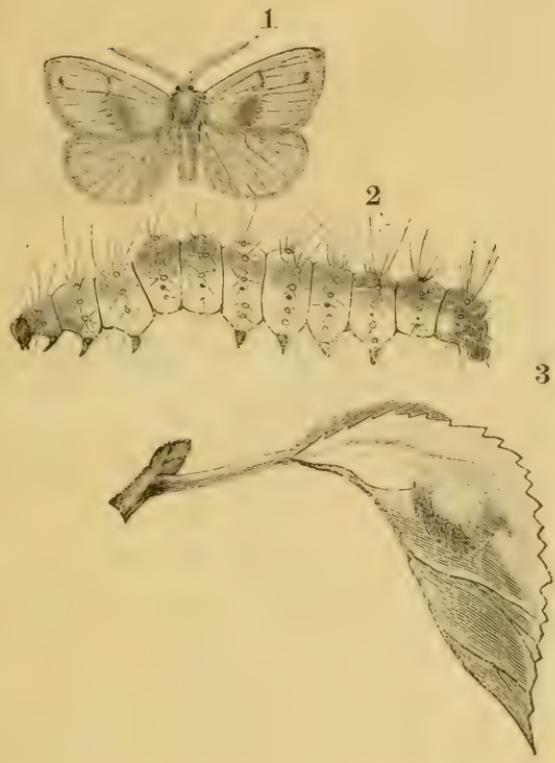
被害植物 苹樹・梨・榊・檉・柳・白楊・胡桃等

特徴 成蟲 雌の前翅は灰白、黒色の二横線を具へ、外縁に小黑紋を列ね、全面に無數の小黑點を散布す、後翅は白色、時に暗色紋を有するものあり、雄の前翅は灰白、中央に太き暗色帯ありて、其兩側は濃色、其前縁に近き部分に更に弦月形

第二百五十四圖

がくと

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 卵塊



七どくが (りんごのどくけむし) Tanyptochis (Artaxa) subhava Brem. (第二百五十四圖)

驅除すること容易なり、多數に發生する場合には石油乳劑に二十倍の水を混じて灌注すべし。

被害植物 萃樹・櫻。

特徴 成蟲 濃黄色、雄は前翅の中央に弓狀の白帶を裝ひ、其内側に褐色の小點より成れる太き一帯あり、後翅は前翅より少しく淡色、雌は白色帶を缺

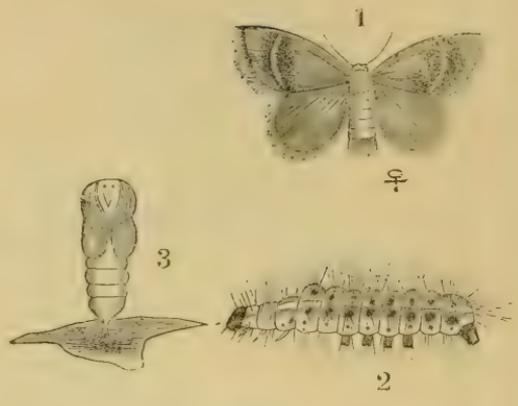
き、外縁に近く一褐紋を裝ふ、體長四分乃至五分、開張一寸二分乃至一寸五分。

幼蟲 橙黄色、頭黑色、割合に小なり、腹面・腹脚・尾脚・第一節より第三節の兩側を

第二百五十三

圖
ちやどくが

- (1) 成蟲(雌)
- (2) 幼蟲
- (3) 蛹



殊に其兩側にあるもの長し、第四及び第五節の背上は他より著しく膨起す、尙氣門上線と亞背線の中間に白色の縦條を裝ふ、體長六分乃至八分。

經過 年二回の發生をなす、第一回は

七月下旬、第二回は九月中旬、卵子の有様にて越年す、卵は普通樹幹にありて母蟲の體毛を以て蔽はる、一雌の産卵數約百粒、翌春孵化す、一二回の脱皮後迄は其性集合を好み數十疋頭部を揃へ後方に退きつゝ、食害す、老熟すれば根際若くは樹幹の適當なる場所を索め、褐色繭を造り、其内に蛹化す、成蟲及び幼蟲の装へる體毛は有害なり。

驅除法 冬季葉裏若くは樹幹にある卵塊を搜索すべし、幼蟲の發生せる場合には灰白の葉皮を殘留するを以て、容易に其存在を認め得べし、群居するを以て

至三百葉下にありて常に母蟲の體毛を以て被はる、七月下旬孵化す、時に大害を加ふることあり。

驅除法 冬季樹幹の粗皮下若くは空隙にある幼蟲の繭を搜索すべし、早春新芽の綻ぶる頃を見計ひ、石油乳劑に三十倍の水を混じり灌注すべし、七八月の頃注意して卵子を搜索すべし。

六)ちやどくが (ちやのけむし) *Euproctis (Artaxa) conspersa* Nutt. (第二百五十三圖)

被害植物 茶・山茶・椿・茶梅。

特徴 成蟲 雄の前翅は黒褐、黄色なる不明の二横線ありて其中央部は何れも少しく外方に屈折す、前縁及び外縁は黄色、外縁角に近く二個の褐紋を有するものあり、後翅黒色、縁毛は多少黄色、前胸背には黄毛を具へ、中後の兩胸背及び腹背には黒毛を密生し、腹面及び脚は黄色、雌の前翅は黄色、中央部には多數の黒褐點を散布し、外縁に二個の褐紋を有するものあり、後翅黄色、中央は多少濃色、體長三分乃至三分三厘、開張七分五厘乃至一寸一分。

幼蟲 淡黄綠、頭は赤褐、背線黒褐、其兩側は淡褐、亞背線及び氣門上線は灰色、各節に十個乃至十二個の黒色疣狀突起ありてこれより長短の灰白毛を簇生す、

第二百五十二

圖

もんしろどく

が(さんけむ

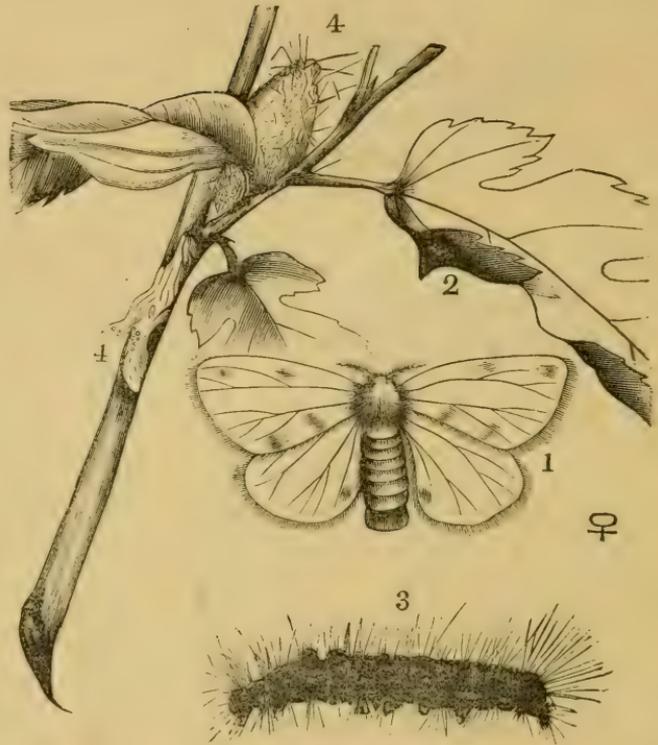
し)

(1)成蟲(雌)

(2)卵子

(3)幼蟲

(4)繭



春此繭を破りて出て、各種植物の新芽嫩莖及び稚果を食害す、更に二回の脱皮を終るの後老熟し、適當の隠處を求めて暗灰色の粗繭を造り其内に蛹化す、繭は常に母蟲の黒毛を混ず、二週乃至三週間を経て蛾化す、一雌の産卵は二百乃

經過 年一回の

發生をなし、幼蟲の有様にて越年す、幼蟲は多く二回の脱皮を経たるものにして、樹皮下若くは空隙に入り、灰白の小粗繭を被りて冬期間は其内に籠居す、翌

經過 年一回の發生をなす、卵子の有様にて越年す、卵は白色にして一塊に百五

十乃至二百粒あり、樹幹若くは葉に産下せらる、温暖なる年にありては秋期卵子の孵化することあり、幼蟲は群集せず、蛾は黄昏群飛す。

驅除法 冬季は卵子を探索し、翌春孵化したる幼蟲に對しては石油乳劑を用ふべし、蛾は遲鈍なるを以て捕獲すること容易なり。

(五) むんしろどくが (まんけいじ) *Porthesia similis* Fuess. (*P. auriflua* Hb.)

(第二百五十二圖)

被害植物 苹樹・梨・櫻・桑・李・梅・薔薇等。

特徴 成蟲 體翅白色、往々前翅と後翅と相接する處に相隔離せる二個の暗色紋を有し、前縁の裏面も暗色、尾端に黄色の毛塊ありて特に雌に多し、體長五分乃至七分、開張一寸一分乃至一寸六分。

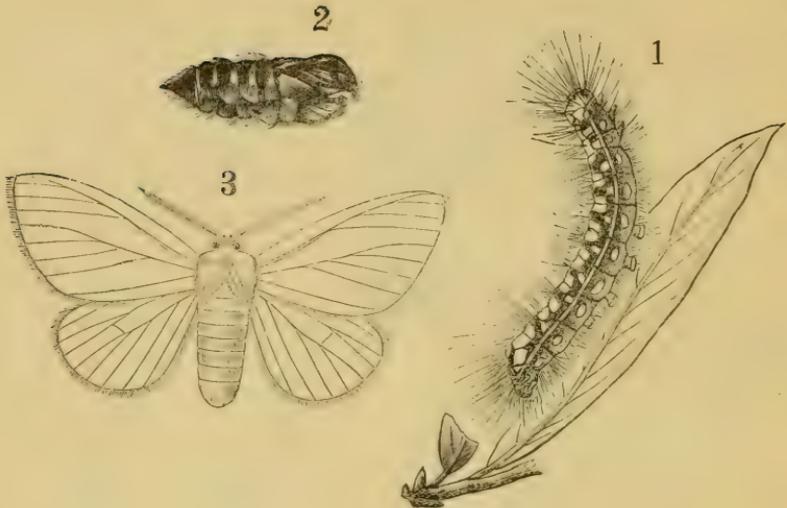
幼蟲 黒褐、背線及び氣門線は黄赤、第四・第五節の背上に光澤ある毛塊を裝ひ、背線の兩側にある毛塊には白毛を混ぜず、體の兩側に疣狀突起ありて、之より灰黒相混せる多數の粗毛を簇生す、氣門線上にある疣狀突起は紅色、頭は光澤ある黒色、胸脚端は黄色、體長一寸四分。

第二百五十一

圖

やなぎとくが

- (1) 幼蟲
- (2) 蛹
- (3) 成蟲



被害植物 柳・白楊。

特徴 成蟲 體翅白色、綠色の光澤あり、腹部は多少黒味を帯ぶ、脛節及び跗節に黒環あり、雌の觸角は黒褐、雄にては灰褐、體長五分五厘乃至七分、開張一寸四分乃至一寸七分。幼蟲 灰色、白色及び暗色の綾様紋あり、背線は黒褐、其の兩側に黃白の細線あり、各節に赤色の疣狀紋ありて之に黃白毛を簇生す、第一節にある毛は前方に向ふ、頭は黒色、前後の兩縁は灰色、體長一寸五六分。

して判然す、體長六分乃至一寸二分、開張一寸八分乃至三寸七分。

幼蟲 褐色、黄色の綾様紋あり、之れより以下の各節上には二個の赤色紋を裝ふ、各節六個乃至十個の疣狀突起を具へ、之より灰色及び黑色の長毛を簇生す、頭は灰黄、二黒條あり、體長二寸。

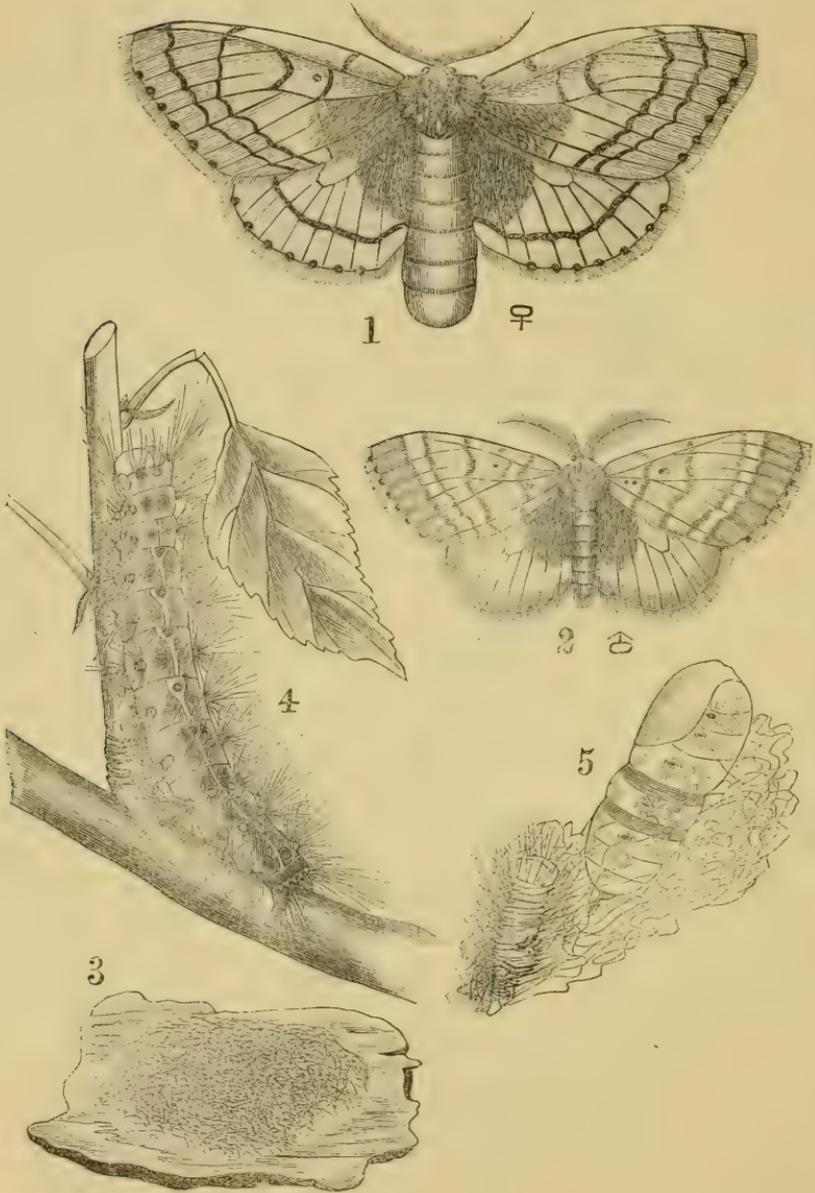
經過 年一回の發生をなし、卵子の有様にて越年す、一雌の産卵數二百乃至四百、卵は灰黄にして常に母蟲の體毛を以て被はれ、樹幹若くは其割目に産下せらる、翌春孵化當時は相集合すれども、成長するに従ひ互に離散す、初めは暗黒なれども次第に固有色を現はし、七月下旬に至り老熟す、時々絹絲を吐き樹枝より垂下し、風の助を得て他樹に轉ず、故に**ぶらんこけむし**の名あり、蛹は褐色にして赤褐の叢毛を斑に簇生し、極めて薄き繭を被り樹枝より垂下す。八月中旬蛾化す、雌は肥大せるため飛翔遲鈍なれども、雄は甚だ活潑にして白晝旋轉しつゝ飛翔するの性あるを以て**まいまい**がと云ふ、時に森林に大害を加ふるこ
とあり。

驅除法 同前。

(四) やなぎどくが

Stilpnotia salicis L. (第二百五十一圖)

第百二十五圖 かいまいま (ぶらこんけしむ)



(1) 成蟲(雌) (2) 成蟲(雄) (3) 卵子 (4) 幼蟲 (5) 蛹

起ありて各之より灰色若くは黒色毛を簇生す、第四節の背上にある二個の疣状突起は著大にして短毛を粗生す、尙第一節の兩側より長黒毛を生じ、角様に突起す、脚は割合に長く、腹側の外基部は黒色、體長一寸八分。

經過 年一回の發生をなす、卵子の有様にて越年す、卵は灰黃、常に母蟲の體毛を以て掩はれ、二百餘あり、相集合して樹幹にあるを常とす、翌春孵化し、數日間は其卵殼の近邊に相集合し、後食葉を索めて離散す、七月中旬乃至下旬に至り食樹を辭し、場所を擇ばず雜草の間に褐色の絹絲を吐きて之に蛹を結着す、蛹は黃褐灰毛を裝ふ、二週内外にて蛾化す、雌は常に樹幹に靜止すれども、雄は活潑にして空中を旋轉すること次のまいまいがに同じ。

驅除法 同前。

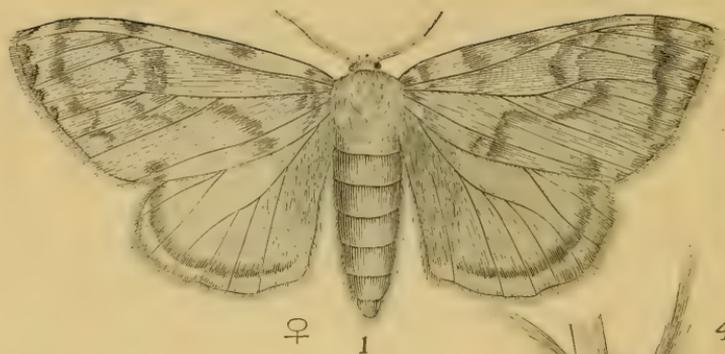
(三) まいまいが (ぶらんこけむし) *Lymnobia dispar* L. (第二百五十圖)

被害植物 萃樹、梨、櫻、梅、杏、李、桑、柳、白楊、赤楊、楓、榆、葵、藤等。

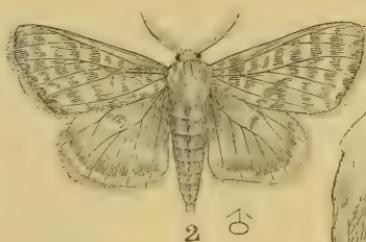
特徴 成蟲 雌は灰黃、前翅に各一個の字形の黒褐紋あり、其内方に同色の小圓

紋を裝ふ、尙暗色の二波狀線あれども其外側のもは判然せず、外縁に八個の黒褐紋を列ね、後翅に同様の九紋あり、雄は暗灰色、斑紋は同様なれども濃色に

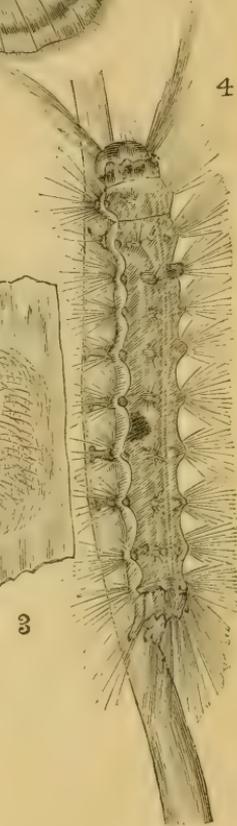
第二百四十九圖 かしはまいまい



♀ 1



♂ 2



4



5



3

- (1) 成蟲♀ (2) 同♂ (3) 卵子 (4) 幼蟲 (5) 蛹

上には濃黄紋を具へ、尾節の背には灰黄紋あり、各節六個乃至八個の疣状突

本邦に在りては此の蟲の加害未だ甚だしからずと雖も、獨乙地方にては群をなして大害を加ふることあり。

驅除法 卵子は藓苔、樹皮下其他樹幹の空隙にあるを以て探索して殺すべし、七月下旬乃至八月下旬松林を巡視し、網羅を以て蛾を捕獲すべし、遲鈍にして樹幹に靜止し居れば手を以て容易に殺すことを得べし。

(二) かしはまいまい (かしはけむし) *Tymantria mathura* Moor. (*Oenaria aurora* Butl.)

(第二百四十九圖)

被害植物 萃樹、梨、榲桲、櫟。

特徴 成蟲 雌の前翅は灰白、中央及び外縁に近く暗色部あり、翅底、前縁及び外縁は淡紅を帶ぶ、後翅は淡紅、外縁に近く暗色帶あり、體は白色、第一腹節より第四腹節までは淡紅、脚、觸角の基部及び下唇鬚は淡紅、雄の前翅は暗灰色、暗黒の紋條を裝ふ、後翅は暗黄、中央に暗色の一紋を具へ、外縁に接して暗色帶あり、腹部は濃黄色、背上一條の黒紋列あり、脚は黄色、觸角は羽狀にして暗色なり、體長六分乃至一寸一分、開張九分乃至二寸。

幼蟲 黒褐二條の背線及び波狀をなせる氣門線は黒色、第一及び第二節の背

第二百四十八圖

のんねまいまい

(1) 成蟲と
(2) 同 ♀



被害植物 松。

特徴 成蟲 前翅白色、黒色

の紋條あり、齒形の凹凸あ

る四横帯ありて第二の横

帯最も太し、後翅は灰色、外

縁は暗色、前後兩翅の縁毛は白色と黒色の斑をなす、體は白色、黒紋を裝ふ、雌の腹部には赤色の紋條あり、體長六分乃至七分、開張一寸一分乃至一寸八分。

幼蟲 灰色乃至暗灰色にして少しく綠色を帯び、第二節には天鵞絨様の黒横紋ありて之れより褐色の一線を縦走し、第十一節に達す、第八節、第七節の後縁及び第九節の前縁に鞍様の灰白紋ありて前述の縦線を遮斷す、各節に數個の疣狀突起ありて之より長毛を出だす、體長一寸七八分。

經過 年一回の發生をなし、卵子の有様にて越年す、卵子は普通二十乃至五十個

宛一塊をなして樹皮下、蘚苔下、其他空隙にあり、初めは赤色、次第に灰褐となり、孵化前には眞珠様の光澤を放つ、五月中旬乃至下旬に孵化し、七月中旬老熟し、次で蛹化す、八月上旬乃至中旬に至りて蛾化す。

あり、其數約二百五十、灰色にして一種の膠質物を以て堅く相連結す、早春孵化當時にありては幼蟲は黑色にして黄褐毛を裝へども、二齡に至れば稍固有の體色を表はす、初めは絲を吐き直徑一寸程ある天幕様の巢を造り、之れに小形の出入口を有す、寒冷の時若くは朝夕には此の内に集まり、成長するに従ひ散在するに至る、六月上旬乃至中旬に至りて老熟し、或は葉を纏めて白繭を造り其内に蛹化するものあり、或は食樹を辭して軒下、壁隅に入りて蛹化するものあり、皆多量の黄粉を裝ふ、是れ幼蟲のまるびぎ、氏管に存せる結晶體と同一なるものなり、三週間乃至四週間を経て蛹化する。

驅除法 冬季梢上にある指環狀の卵子塊を探索すべし、幼蟲の巢を造りて其内に群居する場合には柄付鋏を以て枝と共に切り落すべし、又鐵砲洗矢の如きものを以て巢と共に巻き採るも可なり、幼蟲老熟して相離散するに至れば石油乳劑を用ひ、蛾は燈火を以て誘殺すべし。

毒蛾科 *Lymantridae.*

一、のんぬまいまい *Lymantria monacha* L. (第二百四十八圖)

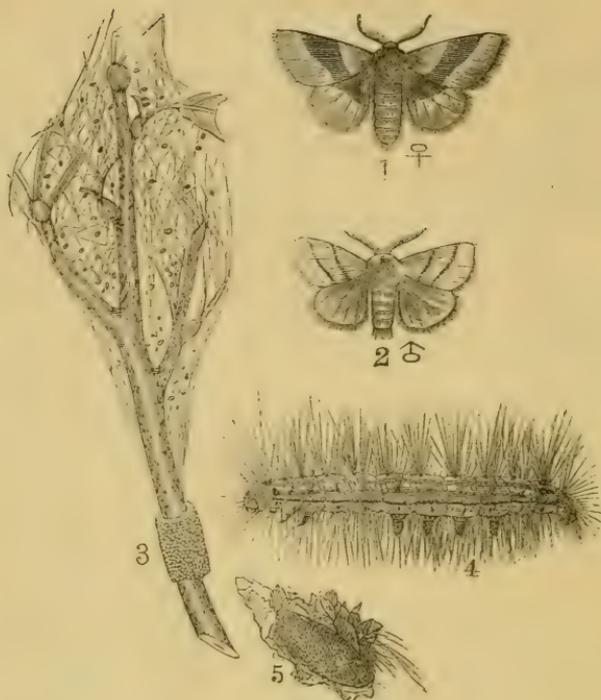
第二百四十七

圖

をびかれは

(うめけむし)

- (1) 成蟲(雌)
- (2) 同(雄)
- (3) 卵子
- (4) 幼蟲
- (5) 繭



は體翅黄色、赤褐の二斜條を裝ふ、縁毛は赤褐、前翅に黄色の部分あり、體長五分乃至八分、開張一寸乃至一寸四分。

幼蟲 背部は藍

色、腹面は暗色、兩

側は赤褐若くは

暗褐、黄赤の二背

線あり、各節黑色

の疣狀突起あり

て之より暗色の

軟毛を簇生す、第

一節及び第十一

節の背上に稍々

大なる黒紋あり

て之より多數の黒毛を出す、頭は黒藍色、二個の黒紋あり、體長一寸六分。

經過 年一回の發生をなす、卵子の有様にて越年す、卵は指環狀をなして樹枝に

静止のときは翅を屋斜狀に疊み、後翅の前縁を出だすを以て枯葉の觀をなす。
體長八分、開張一寸七分。

幼蟲 淡褐にして少しく藍色を帶ぶ、頭黃赤、黒紋を裝ふ、第二及び第三節の背
上に黃赤紋を裝ひ、其兩側に黒紋あり、背上に黃赤の八縱條を走らす、此は時に
點線となることあり、第十節の背上には圓錐形の一突起ありて之れに黒毛を
生ず、體側よりは長さ突起を出し、之れに長毛を裝ふ、體長二寸五分。

經過 卵の有様にて越年す、卵は灰色にして暗綠紋あり、二三個宛樹幹に産下せ
らる、翌春孵化し、六月上旬頃老熟し、黃繭を造りて其内に蛹化す、八月下旬乃至
九月中旬蛾化す。

驅除法 冬季樹幹にある卵子を探索すべし、幼蟲には石油乳劑を用ひ、蛾には燈
火誘殺法を行ふべし。

(五)をびかれば (てんまくけむし) *Malacosoma (Chisocampa) nemuria* L. var. *testacea*.

Motsch. (第二百四十七圖)

被害植物 苹樹、梨、桃、李、梅、杏、柳。

特徴 成蟲 雌の體翅は赤褐、前翅の中央に暗褐の一横帶あり、其兩側は黄色、雄

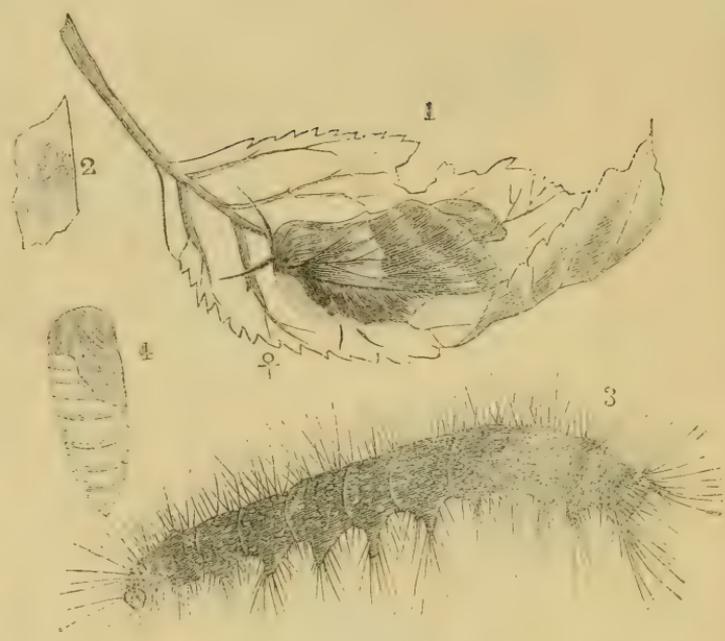
四、ひめかれは *Epicnaptera populifolia* Esp. (第二百四十六圖)

第二百四十六

圖

ひめかれは

- (1) 成蟲
- (2) 卵子
- (3) 幼蟲
- (4) 蛹



呈す、後翅の中央には一個の暗色帯あり、前後兩翅には凹凸ありて、縁毛は白色、

被害植物 萃樹、梨、櫻。
 特徴 成蟲 體翅赤
 褐、灰色を帯ぶ、前翅
 に二條の暗黒線ありて一は波状をな
 して翅の中央を走り、一は短くして其
 内側に位す、此の二
 線間に灰白紋あり、
 後縁より前縁角の
 方向に斜走せる灰
 白の廣帯を裝ひ、外
 縁は少しく灰色を

分、開張二寸四分。

幼蟲 暗灰色、少しく紫色を帯ぶ、各節の背上に疣状突起と二個の赤褐紋あり、尙第二、第三兩節の背上に大なる黒藍色の横隆起ありて之れに藍色毛を裝ひ、前種同様に平時は之を隠せども、物に驚くときは之を現はす、第十一節の背上に短かき尾角あり、腹面は赤褐、黒紋を裝ふ、兩側に黄白毛を密生し、各節の兩側より長き疣状突起を出だし、之に長毛を簇生す、胸脚は黒色、腹脚及び頭は黒褐にして黄條あり、體長三寸乃至三寸五分。

經過 年一回の發生をなし、幼蟲の儘樹皮下若くは其他の蓋下に潜伏越年し、翌春三回の脱皮を終へ、六七月の頃老熟し、黒灰の楕圓繭を造り、其内に蛹化す、蛹期は三四週間、卵は灰白、綠紋あり、一雌の産卵數百四五十、二三個宛樹枝若くは樹幹に産附す、幼蟲は少しく平たく、其皮膚は恰も樹皮の色と同様なれば發見すること難し、甚しき大害をなさず。

驅除法 冬季樹皮其他の潜伏處となるべき個所を撥きて幼蟲を殺すべし、又幼蟲に對しては石油乳劑に二十倍の水を混じり灌注すべし、蛾は燈火に集來するの性あるを以て誘殺すべし。

第二百四十五

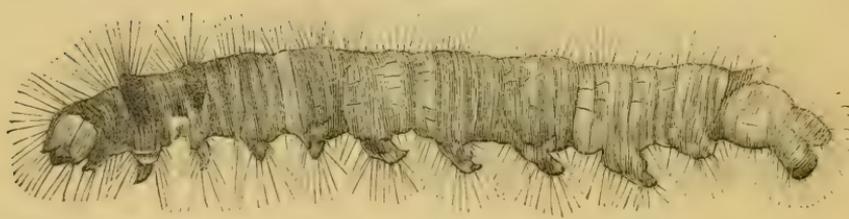
圖

かれはが

- (1) 成蟲
- (2) 卵子
- (3) 幼蟲



3



被害植物 苹樹梨櫻
 特徵 成蟲 體翅赤

褐、翅の外縁に著し
 き犬牙状の切目あり、前翅に二條の黒
 き波状線ありて、一
 は外縁に近く位し
 て太く、他は中央に
 ありて細し、外縁角
 に近く一個の大黒
 紋あり、後翅の中央
 に黒色の一横線を
 走らし、翅を疊むと
 きは恰も枯葉の觀
 を呈す、體長一寸二

第二百四十四

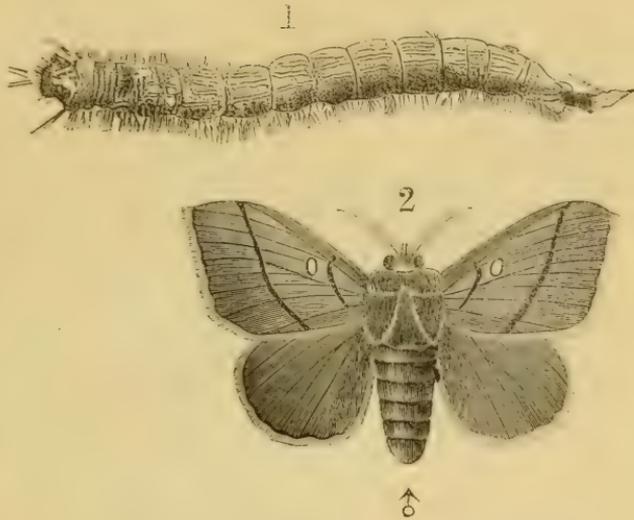
圖

りんごしらほ

し

(1) 幼蟲

(2) 成蟲



經過 年一回の發生をなし、第

一回の脱皮を経たる幼蟲の有様にて越年す、五月下旬乃至六月上旬老熟し、黄白の繭を造り其内に蛹化す、繭は長楕圓にして普通葉を捲き其内にあり、蛹は暗褐、翅鞘の部分は黒色、三四週の後蛹化す、

蛾は卵子を樹幹若くは樹枝に二三個宛産下す、卵は球形にして灰白なり。

驅除法 同前。

三) かれはが *Gastropacha quereifolia* Esp. (第二百四十五圖)

經過 年一回の發生をなす、幼蟲の儘、松樹の皮若くは蘚苔下に潜伏して越年す、翌春六月上旬乃至七月上旬老熟し、淡褐の長形繭を造り其内に蛹化す、繭は食樹にありて常に幼蟲の毛を附着し、手に附着するときは脱離し難し、三四週間の後蛾化す、卵子は黄緑、食樹の葉上若くは幹枝に附着す、八月中旬乃至下旬に孵化し、十月上旬には食を止め、其儘潜伏處を索め越年す、時々群をなし大害を與ふることあり、蛾は夏日燈火に飛來す。

驅除法 冬時松樹の幹若くは根際にあるものを探りて殺すべし、繭は常に樹梢にあるを以て捕殺すべし、甲林より乙林に移り加害する場合には明溝を切るべし、幼蟲の樹幹に登る場合には遮斷法を行ふべし。

(二) りんごしらほし *Odonestis pruni* L. (第二百四十四圖)

被害植物 苹果、梨、櫻。

特徴 成蟲 體、翅濃黄色、翅底と翅端に近く各一條の黄褐波狀線を具へ、中央に近く紫褐の一弓狀線あり、中室の外端に一銀色點を裝ふ、後翅は黄褐、雄の觸角は羽狀をなす、體長雄雌九分乃至一寸一分、開張雄一寸九分、雌二寸六分。
幼蟲 頭は暗灰色、體は灰色にして少しく青味を帯び、黄色の背線及び亞背線

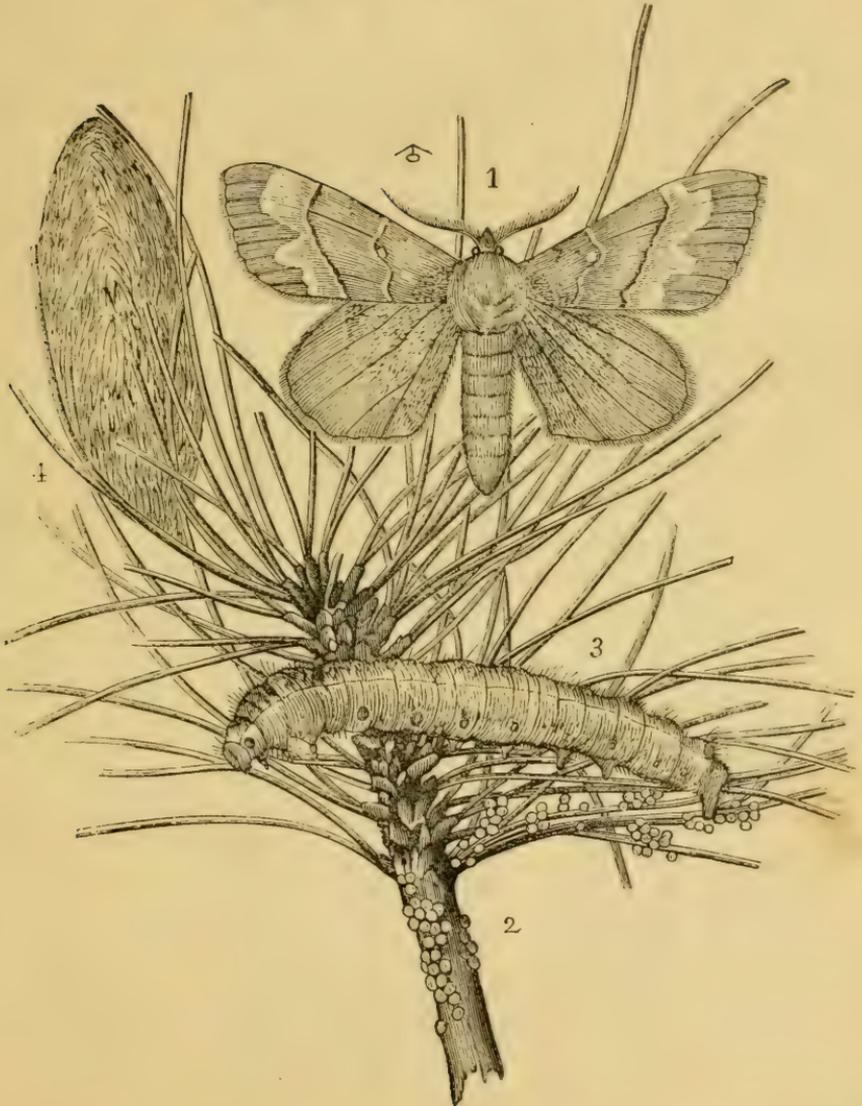
第二百四

十三圖

まつかれ

は

- (1) 成蟲
- (2) 卵子
- (3) 幼蟲
- (4) 繭



被害植物 松。

特徴 成蟲 體色種々にして或は赤褐、或は黄褐を呈するものあり、何れも前翅

の中央より少しく翅底に近く一個の白紋を有す、黒褐の種類にありては灰色の二横線を有し、一は白紋に近く走り、他は波状をなして中央を斜走す、外横線の外側に大なる赤褐紋ありて、更に其外方に灰色部あり、赤褐の種類にありては黒色の三波状線あり、雄は暗緑なる羽状の觸角を有し、其小枝は雌より大なり、體長平均一寸三分、翅の開張二寸四分。

幼蟲 地色は種々なれども、多くは灰褐色にして、第四節より第十節の背上に稜状をなせる褐色若くは黒色をなせる大紋あり、第二・第三節の背中には各一個の黒藍色の横溝ありて、之より長毛を生ず、尙背上に銀光ある灰白の鱗毛を有せるもの多し、又體側には赤褐紋を散在し、灰色及び赤色の長毛多く、氣門は白色にして、其上方に灰色の鱗毛あり、頭は淡褐にして、短毛多し。

Syn. Eubiriche venole Wlk.

” *superans* Bull.

” *spectabilis* Duft.

縁には白色の棉様毛を密生し、前胸背の中央に太き赤褐の横帯あり、雌の觸角は羽狀にして、其小枝短かく、雄にては長し、脛節及び跗節は赤褐なり。

幼蟲 綠色、氣門下線は赤黄、各節に四乃至八個の疣狀突起ありて、第二、第三の兩節に於る背上の四疣及び第十一節に於る一疣は大きく、兩側の疣は小なり、此等の疣狀突起は何れも黄橙色にして、之に褐色の長毛を粗生す、尙背上に白毛あり、第一節の硬皮板は淡綠、尾節の硬皮板は紫褐にして、其上に黄色部あり、氣門は赤黄にして美麗なり、頭は淡紫褐、兩側は濃色にして、灰色の短毛を帯び、胸脚は黄褐なり。

經過 年一回の發生、蛹の有様にて越年す、蛹は黒褐、赤褐の繭中にあり、繭は厚くして葉に蔽はれ、樹梢にあり、翌春六七月頃に蛾化す、蛾は斑に卵子を樹枝に産附す、卵は球形にして少しく平たく、暗褐にして濃色の縦條あり、一雌の産數百内外、蛾は燈火に飛來す、其形大なるを以て食害する事も亦大なり。

枯葉蛾科 *Lasiocampidae.*

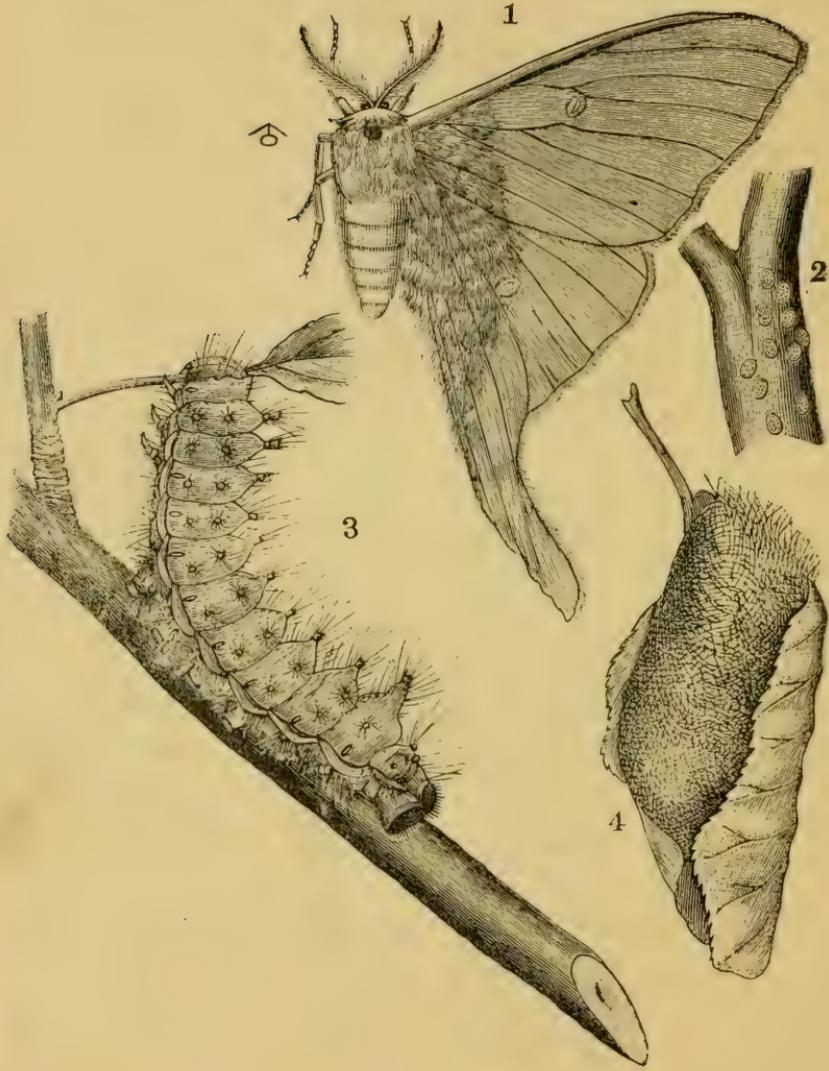
146 つかれば (まつけむし) *Dendrolimus pini* L. (第二百四十三圖)

第二百四

十二圖

ゆうがほ
べうたん

- (1) 成蟲
- (2) 卵子
- (3) 幼蟲
- (4) 繭



2
3

様なれども、桃色を呈する部分なし。

幼蟲 體は暗緑、氣門線は青色にして斷續し、氣門も亦青色にして美麗なり、各節六個の疣狀突起を有し、之より長さ白毛を簇生す、氣門の周圍に黑色の短線ありて、各節其數を異にす、又腹面にも黒點多し、體長三寸。

經過 年一回の發生をなし、卵の有様にて越年す、卵は淡褐色にして黒褐の小紋を散在し、樹皮に産下せらる、其形楕圓なり、一雌の産卵數は三百四十内外、翌春五六月頃孵化す、幼蟲は初め黑色なれども二齡より白色を裝ふ、四十五日内外の口數を経て老熟し、食樹を辭して網目狀の巢を營み、其内に蛹化す、之を俗にすかしだわらと云ふ、九月下旬蛾化す。

驅除法 冬期樹幹にある卵子を採るべし、幼蟲には打落法を行ひ、蛾は燈火を以て誘引すべく、繭は之を索めて摘殺す可し。

二、ゆうがほべうたん (おほみづあを) *Actias artemis* Brem. (第二百四十二圖)

被害植物 萃樹・梨・櫻・赤楊。

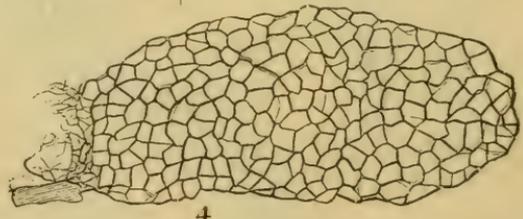
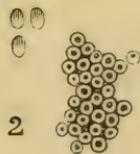
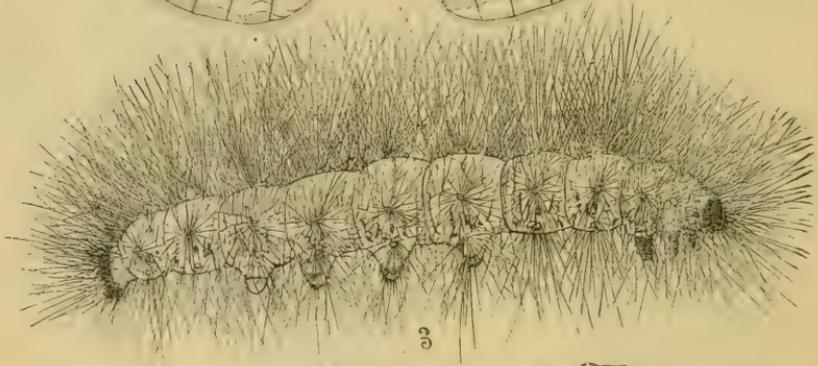
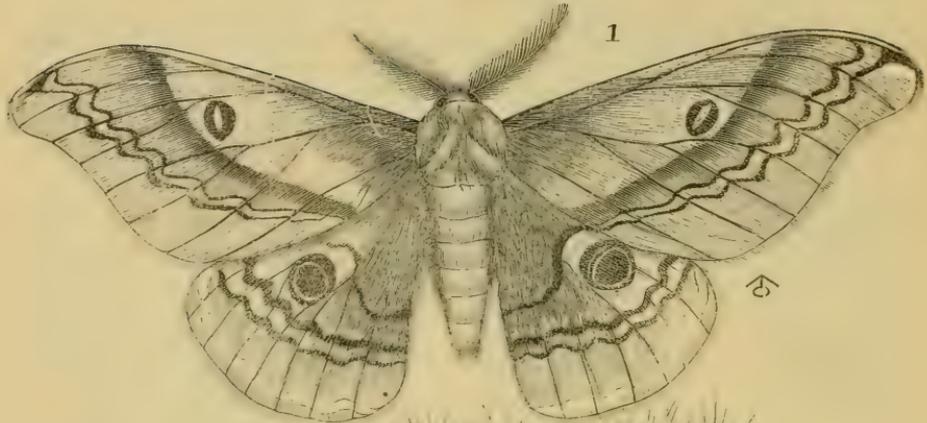
特徴 成蟲 體翅淡青色、翅脈は灰黄、前翅の前縁は桃色、中脈の處に弦月形の黄色紋ありて中央は透明、内側は黒色、後翅にも同様紋あれども遙に大形なり、内

第二百四十一

圖

くすさん

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 卵子
- (4) 繭



驅除法 桑樹に附着せる卵子を搜索して殺すべし、幼蟲の一部は打落法により地上に落つるものなれば之を殺すべし、石油乳劑を用ふる場合は一週間採葉せざるを可とすれども其後に至れば石油分は揮發して毫も其成分を止めざるに至る、不用の家蠶を利用して野蠶の雄を捕殺することを得べし、之を行ふには家蠶の雌を早朝桑園に置くか若くは窓を開放して室内に誘引すべし。

天蠶蛾科 Saturniidae.

(一) くすさん (しらがたらう、てぐすが) *Caligula japonica* Moor. (第114十一圖)

被害植物 栗・辛樹・漆・櫨・樟・胡桃・白楊。

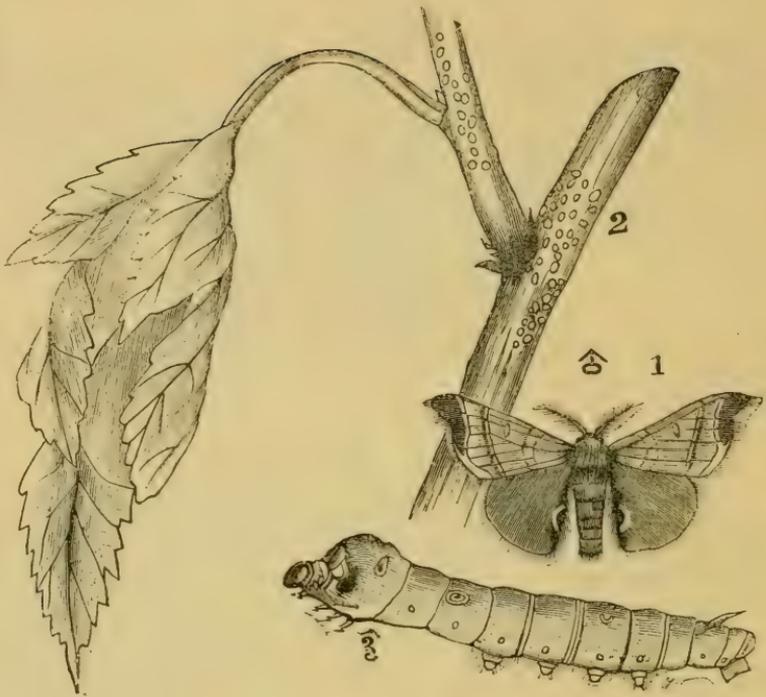
特徴 成蟲 前翅の色に二様ありて、一は暗黄綠色、一は赤褐色、共に濃色の二横

線を有し、一横線は翅底に近く、他は中央を斜走す、此の二線間は灰色にして其中央に半月形の一紋を具へ、其中央は透明、周圍は少しく赤味を帶ぶ、外縁角に桃色の部分ありて、之に白色を混ず、其内側に黒紫紋ありて、之より波状をなして紫褐色の二線を後方に斜走す、後翅は前翅より少しく濃色、中央に黒紫色の眼状紋を有し、其中に弦月形の透明部あり、雌は黄褐色にして紋條の如きは雄と同

第二百四十圖

くはこ

- (1) 成蟲
- (2) 卵子
- (3) 幼蟲



に飛來し、家蠶と交尾して、大害を加ふることあり。

なす、第五節の背
上に馬蹄狀の二
紋あり、體長二寸
内外。

經過 年一回の發
生をなす、卵子の
有様にて越年す、
翌春孵化し、七月
下旬乃至八月上
旬に至りて結繭
す、繭は灰白若く
は灰黄にして薄
し、蛾は甚だ活潑
にして、夏日室内

十一節に生ずる毛は黒紫色、頭は光澤ある黒色、體長一寸余。

經過 年二回の發生をなす、蛹の有様にて越年し、翌春蛾化す。繭は長楕圓形にして灰黄、第二回の蛾は七月中旬に出づ、蛾は卵子を葉下に産附す、之より孵化する幼蟲は九月上旬に老熟し、葉を捲きて營繭し、其内に蛹化す。

驅除法 同前。

家蠶蛾科 *Bombycidae*.

一、くばご *Bombyx mandarina* Moor. (第二百四十圖)

被害植物 桑。

特徴 成蟲 體翅暗褐、前翅底に近く弓状の二横線を具へ、中央には弦月形の一紋あり、又其外側には斜走せる直線を具へ、外縁には彎曲せる細線を裝ふ、前縁角は黒褐、其内側は灰色、後翅の内縁に白色の二紋あり、體長五分乃至六分、開張一寸二分乃至一寸五分。

幼蟲 暗褐、家蠶に酷似す、頭は割合に小にして、第二第三の兩節甚だしく膨大し、恰も頭の如し、第二節の兩側に各一黒紋ありて、其周圍赤色を呈し、眼球の觀を

紋には黒藍色の長毛あり、氣門は黒色、氣門下線は灰白、氣門の上下及び後方に疣狀の黒紋ありて、之より黄白の長毛を生ず、體長二寸五分。

經過 年一回の發生をなす、蛹の有様にて越年す、繭は淡黄にして楕圓形、長さ一寸二三分あり、翌年六月乃至八月に亘りて蛾化す、幼蟲は八月頃より現はれ葉を食害す、九月乃至十月頃に至れば老熟し、木屑を混じたる粗繭を造り、其中に蛹化す。

驅除法 同前。

六あさげんもん (あさのほうぐろ) *Aconicta consanguis* Buhl.

被害植物 大麻。

特徴 成蟲 前翅は暗灰色、少しく褐色を帯び、翅底に黒色の劍狀紋を裝ふ、之れに接して黒色の二波狀線を有す、環狀紋及び腎狀紋は黒色の周縁を有し、外縁に近き波狀線は黒色、其内側は灰白、其後縁に近き處に黒色の劔狀紋あり、體長五分乃至八分、開張一寸二分乃至一寸八分。

幼蟲 體は黒色にして紫色を混じ、氣門下線は太く黄褐、各節に八個の黒色疣狀紋ありて、之より各一本の黒長毛を出だす、但し毛の根元は白色、第四及び第

縁少しく暗色、複眼の後方に黒色あり、體長五分、開張一寸二分。

幼蟲 體は黄色、少しく綠色を混ず、太き褐色の背線を有し、八九の兩節に跨るもの最も太し、背線は黄線によりて二分せられ、之に沿ふて二個乃至四個の光澤ある黒紋を備へ、黒毛を生ず、頭は黒褐、多數の黒紋あり、體長一寸一分。

經過 年一回の發生をなす、蛹の有様にて越年す、繭は薄くして木屑を混ず、樹幹の空隙若くは樹皮下にあり、翌春六月下旬乃至七月上旬に蛾化す。

驅除法 同前。

(毛)おほけんもん *Acanthia major* Brem.

被害植物 桑、李。

特徴 成蟲 前翅は暗灰色、環狀紋及び腎狀紋は判然し、前縁には數個の短き黒條を具へ、翅底に近く黒色の劍狀紋を縦走す、波狀線は黒色にして之に二個の劍狀紋を有す、後翅は白色、外縁は灰色、體長六分乃至八分、開張一寸二分乃至二寸二分。

幼蟲 體は灰黄にして綠色を帶ぶ、頭黒色、各節の背面には大なる黒紋を裝ひ、之に黒色及び黄色の頭毛を簇生し、第四、第六、第七、第八、第九及び第十一節の黒

經過 蛹は常に灰色の粗繭を被る、繭には咀嚼せる木屑を混ず、多くは樹幹の空隙にあり、翌春六月頃蛾化す、蛾は卵子を一個宛葉枝に産下す、卵は黄白にして縦條あり、幼蟲は七月中旬乃至下旬老熟して蛹化し、次で蛾化す、第二回の幼蟲は十月頃に至りて蛹化す、幼蟲はきんけむしに酷似すれども長毛を裝へるを以て容易に識別するを得べし、

驅除法 幼蟲には石油乳劑を用ひ、成蟲發生の時期には糖蜜及び燈火を以て誘殺すべし、晩秋若くは早春樹間の空隙を探りて繭を捕ふべし。

〔天〕 さくらけんもん (さくらほうぐろ) *Aronicta strigosa* F. (第二百三十九圖)

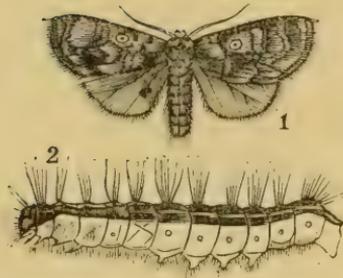
第二百三十九

圖

さくらけんもん

ん

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



被害植物 櫻・梨・萃樹。

特徴 成蟲 前翅灰白、翅底に濃黒の一劍狀

紋あり、其下方は黒色、其外側に黒黄線あり、

環狀紋及び腎狀紋は灰黄、其中央は灰黒、外

縁に近く犬牙狀の黄白線あり、其外側は黒

色、外縁の後方及び後縁に近く之れに平行

して各一個黒色の劍狀紋あり、後翅灰白、外

第二百三十一

八圖

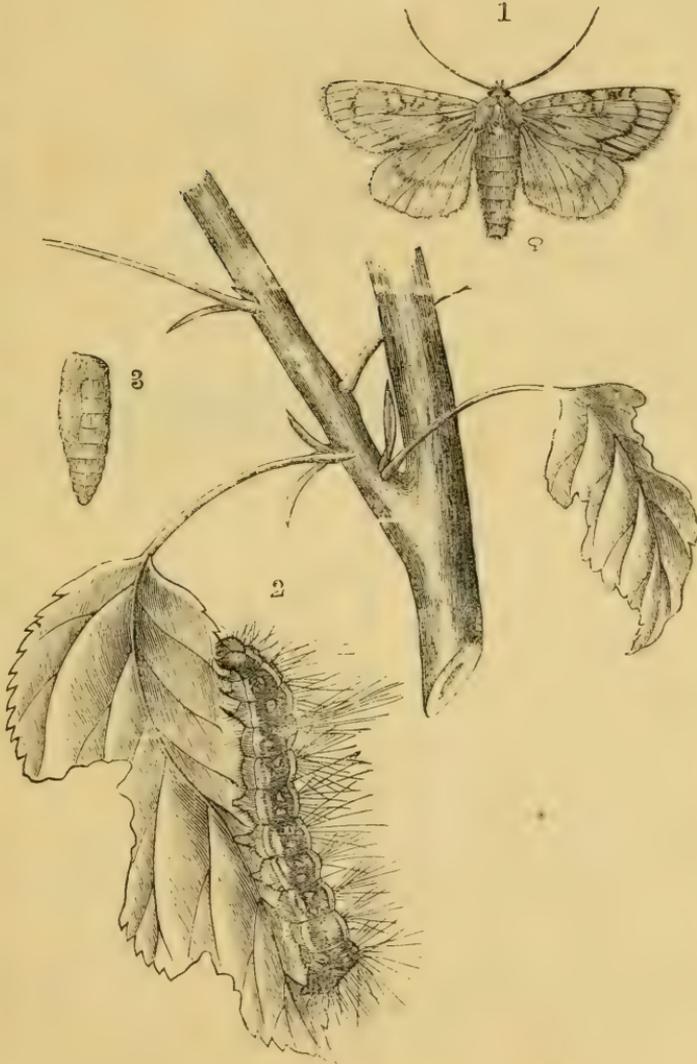
りんごげん

もん

(1) 成蟲

(2) 幼蟲

(3) 蛹



線及び氣門下線は暗黄、腹面及び脚は暗灰色、背面には長黒毛を粗生し、側面には灰黄の長毛多し。

在し二個の白條あり、體長一寸三四分。

經過 年二回の發生をなす、稍々老熟したる幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化する。

第一回の蛾は六月頃、第二回は九月乃至十月頃發生す。

驅除法 同前。

三、りんごげんもん *Aronicta tridens* Schiff. (第二百三十八圖)

被害植物 苹樹、梨、櫻、桃、杏、李、梅、柳。

特徴 成蟲 前翅は灰色、少しく赤味を帶ぶ、斑紋は黑色、翅底に劔狀の太き長紋

を有し、之れに三齒あり、環狀紋及び腎狀紋あれども、此は一線により相接續す、

外縁に波狀線ありて之に二個の劍狀紋あり、尙外縁及び前縁に黒紋あり、後翅

は白色若くは灰黄、外縁は少しく暗色を帶び、中央に暗色線を有するものあり、

體は前翅と同色、體長七分、開張一寸五分。

幼蟲 體は黑色、頭は光澤ある黑色にして、黄條あり、太き赤黄の背線は黒線に

て二分せられ、第四節の背上には黑色の隆起ありて、之より長毛を簇生す、尙第

十一節の背上にも隆起せる黒紋ありて、之れに黄點を裝ふ、此の隆起の後方に

廣き黄帶あり、背線の兩側に各二個の白紋ありて、外側にあるもの大なり、氣門

は好んで燈火に飛來し、糖液に集まる。

驅除法 同前。

三、まへじろやが (てんさいのよとうむし) *Agrotis plecta* L. (第二百三十七圖)

被害植物 甜菜、萵苣、防風。

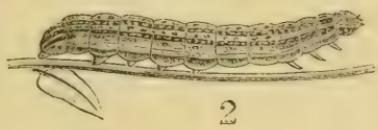
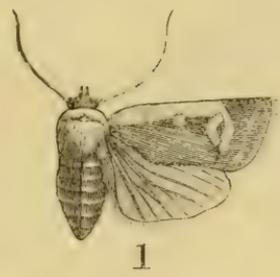
第二百三十七

圖

まへじろやが

(1) 成蟲

(2) 幼蟲



特徴 成蟲 前翅暗赤褐、前縁は

腎狀紋に至る迄灰白、翅底に黒

色の縦線あり、前横線及び後横

線は暗色、波狀線は黄色、何れも

餘り判然せず、環狀紋及び腎狀

紋は灰色にして少しく黄色を

帯ぶ、此の兩者を貫き黒色の太

き線ありて之は内側にて尖る、

後翅は白色、暗黄を混じ、前縁の部分少しく暗色を呈す、體長五分、開張一寸一分。

幼蟲 體は灰黄、背上是少しく暗赤を帯ぶ、各節に四個の褐點あり、背線、亞背線

は褐色、其内に白點を散在す、氣門は赤色、腹面及び脚は灰褐、頭は赤褐、白點を散

被害植物 亞麻・甘藍・豌豆・玉葱。

特徴 成蟲 前翅灰黒、少しく赤紫色を帶ぶ、前縁の中央に三角形の灰白紋を具へ、其附近は黒色、腎狀紋は灰白にして判然す、其外側より淡色の横線を後縁に送る、又外縁角に近く一個の黒紋ありて之より淡色の波狀線を送り外縁と相並行す、後翅は暗色、内縁には暗黄の縁毛多し、前胸背の前縁に灰白の輪環あり、胸背は茶褐、腹背は淡褐、體長六分、開張一寸三四分。

幼蟲 體は灰黄若くは暗褐、少しく赤味を帶び、各節の背上に二個の黒紋ありて八字形をなす、殊に第十一節及び第十二節の紋は大にして著明なり、尙黄白の背線、亞背線を有すれども往々明かならざるものもあり、氣門線は白色にして判然す、氣門は白色、其直上に各一個黒色の斜條あり、頭は褐色、弓形の二黒褐紋あり、體長一寸五分。

経過 年二回發生す、第一回は六月下旬、第二回は八月下旬乃至九月上旬、稍々老熟したる幼蟲の有様にて、倒木其他塵芥下に越冬し、翌春蛹化す、蛾は作物根又は落下せる枯葉下に一個宛産卵す、其總數二百内外、卵期は一二週間、幼蟲は初め黄色にして處々に黒紋を散在す、約一ヶ月を経て蛹化す、蛹期は十日内外、蛾

がやんもろし 圖六十三百二第



(三) たまなやが 殺すべし。

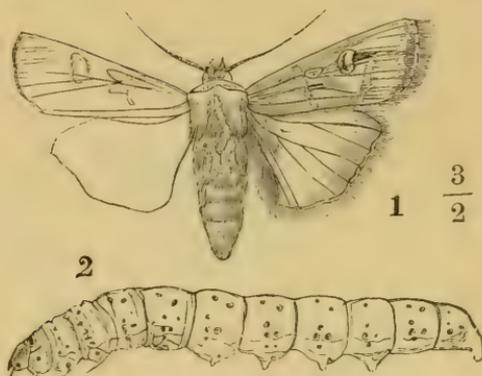
(たまなねきり)

Agrotis ypsilon Rott. (*A. suffusa* Hb.)

(第二百三十五圖)

被害植物 同前。

第二百三十五圖 たまなやが



$\frac{3}{2}$

特徴 成蟲 前翅黒褐、少しく赤味を帶ぶ、腎狀紋判然し、其外側に接して一個外方に尖れる黒紋あり、尙之に對して外縁より二個の黒紋を出す、之れは内方にて尖る、環狀紋は多少不正形にして外方に尖る、栓狀紋は細く、其周縁は黒色、後横線及び前横線は判然す、後翅は光澤ある灰色、外縁は少しく黒色を帶ぶ、體長八分、開張一寸八分。

經過 同然。

驅除法 同然。

(三) しるもんやが (はちのじねきり)

Agrotis enigramma L. (第二百三十六圖)

を列す、後翅は光澤ある灰色、外縁少しく黒色を帯ぶ、體長六分、開張一寸二分乃至一寸五分。

幼蟲 暗黄、頭黒褐、割合に大なり、光澤を帯び、弓形の褐色紋を裝ふ、體は圓柱形にして太く、硬皮板は黒褐、皮肌は半透明にして光澤を帯び、各節に數個の黒點ありて少しく疣狀に隆起し、之れより各一本の短毛を生ず、背線及び亞背線は濃色、體長一寸五分。

經過 年二回發生す、第一回は五六月に亘り、第二回は八九月時に十月頃に出づるものあり、饅頭狀の卵子を一個宛作物の根際若くは落下せる葉上又は直接地上に産附することあり、其總卵數は二百内外、卵は一週間乃至二週間を経て孵化し、秋期大凡三齡に成長し、地中に入りて卵形の穴を掘り、其中に越冬するものと、又は充分老熟して蛹化するものとあり、是れ秋期、耕鋤の必要ある所以なり、晝間は作物根際の地下一二寸の處に潜伏し、夜に至りて地上を匍匐し、作物の根際を噛み切り大害を與ふ、故に俗に之を根切蟲と云ふ、蛾は好んで糖液に集まるを以て糖蛾と云ふ、又燈火にも飛來す。

驅除法 同前、但し晝間は根際の地下一二寸の處に潜伏するを以て搜索して

によるべし、蛹は秋期鋤起して寒暖の變遷に遇はしむべし、亞麻を害する場合には網を以て幼蟲を掬ひ捕ふべし。

三、かぶらやが (かぶらねさり) *Agrotis segetum* Schiff. ((*A. ingrata* Butl.))

(第二百三十四圖)

被害植物 甘藍、薺、薹、蘿蔔、葱、玉葱、蕪菁、甜菜、烟草、馬齡薯、玉蜀黍、麥類等。

特徴 成蟲 前翅は灰黒又灰色にして腎狀紋及び環狀紋の周縁は黒褐、栓狀紋は小にして黒色、半横線及び前横線は明瞭なれども、後横線は時々不明なるこ

第二百三十四

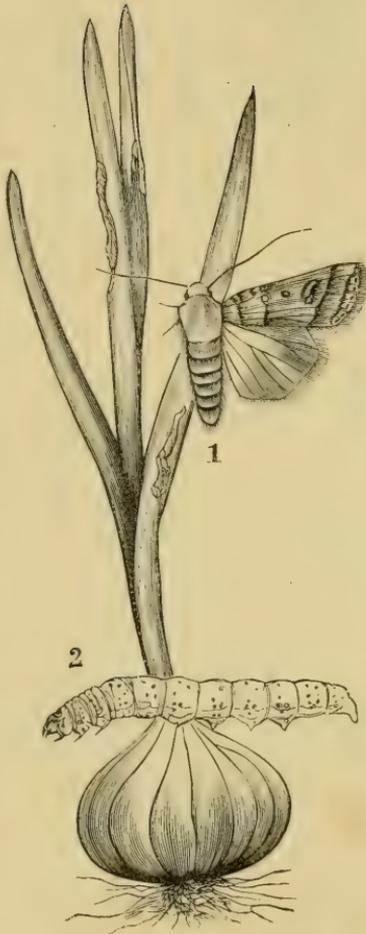
圖

かぶらやが

(根切蟲)

(1) 成蟲

(2) 幼蟲



とあり、外縁にある波狀線は灰色、之れに太きと細きとあり、外縁に七個の黒紋

ひ腎狀、紋は灰白、外縁は波狀の凹凸をなす、後翅は灰黒、翅底は淡色、胸背に毛塊の隆起あり、體長七分乃至八分、開張一寸三四分。

幼蟲 體色に淡褐、暗褐、黒色、綠色等あり、背線及び亞背線は白色、各節の背上に馬蹄狀の斑紋あれども體の前半にある斑紋は判然せず、腹面は黄緑、氣門は白色、周縁は黒色、頭は割合に小さく、黄褐にして少しく綠色を帶ぶ、體長一寸五分。

經過 年二回の發生をなす、第一回は六月乃至七月、第二回は八月乃至九月、蛹の有様にて越年す、蛹は地下の土窩中にあり、黒褐にして少しく赤味を帶ぶ、一葉下に産下する卵數は三十内外、多きは二百余に達す、初めは黄緑、孵化期には紫黒色に變ず、初めは綠色にして尺蠖狀に運行し、次第に固有色を現はす、大凡一ヶ月にて老熟し、地中に入りて蛹化す、第一回の蛾は豌豆の如き軟葉に産卵すれども、第二回の蛾は甘藍、蕎麥等の葉下に産卵す、三齡迄は日中にも拘はらず、食害すれども、四齡に至れば土塊其他塵芥の下に隠れ、日没より出て、食害す、幼蟲、成蟲共に燈火及び糖液に集來す、若し之れに觸るれば環狀をなして地上に落ち死狀を擬す。

驅除法 幼蟲の襲來を遮斷するには明溝を切るべし、蛾は燈火及び糖液誘殺法

幼蟲 軀灰黄、亞背線、氣門上線及び氣門線は褐色、背線を缺く、背上には廣底四角形をなして四個の疣狀紋を並行す、頭及び硬皮板は光澤ある黄色、後者には黒褐紋あり、軀長一寸一分。

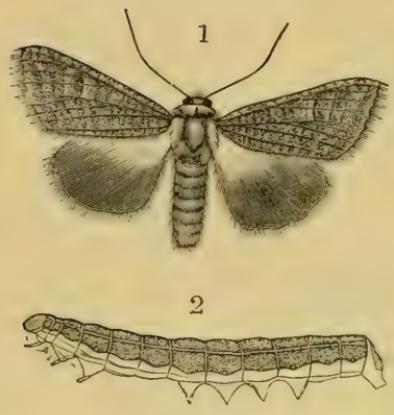
經過 年一回發生す、幼蟲の有様にて根に下り越年す、翌春加害すること甚だし、七月中旬蛹化し、八月下旬蛾化す。

驅除法 黄色に變せる莖は幼蟲を藏せるを以て撥きて之れを殺すべし、八月蛾の出づる時を見計ひ燈火及び糖液を以て誘殺すべし。

第二百三十三

圖 よとうが

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



(三) よとうが (よとうむし、えんどの

さりむし) *Manestra brassicae* L.

(第二百三十三圖)

被害植物 大小豆、豌豆、甘藍、烟草、棉、大麻、亞麻、蘿蔔、蕎麥、薯蕷。

特徵 成蟲 前翅は光澤ある灰

褐、少しく赤味を帶ぶ、横線、環狀紋及び栓狀紋は黒色、波狀線及

第二百三十二

圖

しやうぶやが

(1) 成蟲

(2) 幼蟲



特徴 成蟲 黒、褐なるものと赤褐なるものとあり、前翅の環狀紋及び腎狀紋は美麗なる黄褐、半横線及び前横線は平行して各二條あり、中横線及び後横線は判然す、後横線の内側に波狀線ありて、内側にあるものは犬牙狀をなす、黒褐なる種類にありては腎狀紋白色なり、體長五分乃至五分五厘、開張一寸一分。

淡く、亞背線は暗綠黃、白縁あり、背線は白色にして細し、頭は光澤ある黃褐、少しく綠色を帶ぶ、體長一寸四分乃至一寸七分。

經過 年二回の發生をなす(稀に三回發生す)、蛾若くは蛹の有様にて越年す、蛾は禾本科植物の折合せる葉内若くは袴内に卵子を産下するものにして常に白色の膠質物を以て之れを蓋ふ、一塊の卵數は十個乃至七十個内外なれども、一雌の總産數は七百以上に達す、卵子は黃白、蛾は青草よりも枯草に産卵するの傾あり、産卵後凡三十日間を経て孵化す、四齡迄は普通根切蟲同様に加害す、其數の多きときは一群方向を等しくし甲地より乙地に移り大害を加ふ、晝間は草根、土塊の間に潜み、曇天若くは直接日光を遮る作物間にありては晝夜を分たず加害す。

驅除法 蛾には糖蜜誘殺法を行ひ、幼蟲には明溝を切るべし、晝間は地下一二寸の處に潜伏するを以て撥き殺すべし、又家禽を放ち啗食せしむれば大効あり。

(五) しやうぶよとう (しやうぶずゐむし) *Hydroecia nictans* Bk.

(第二百三十二圖)

被害植物 菖蒲。

なり。

驅除法 同前。

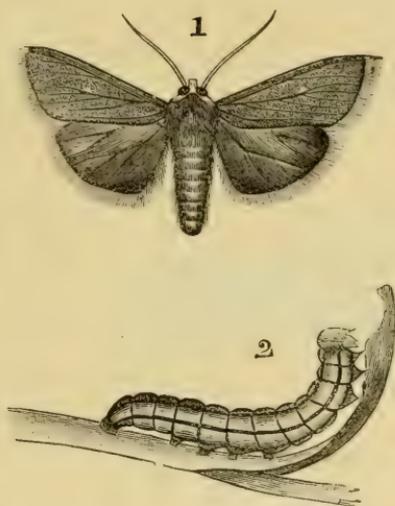
(六)あはのよとら *Leucania unipuncta* Haw. (第二百三十一圖)

被害植物 粟、稗、稻、麥、甘蔗、生薑。

第二百三十一圖

あはのよとら

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



特徴 成蟲 前翅灰黃、中央に

一個の小白紋ありて其周圍

少しく暗色、腎狀紋及び環狀

紋は不明にして單に黃色を

呈す、前縁角より暗色の短斜

線を出し其角を二分す、處々

に小黑點を散在す、後翅灰色、

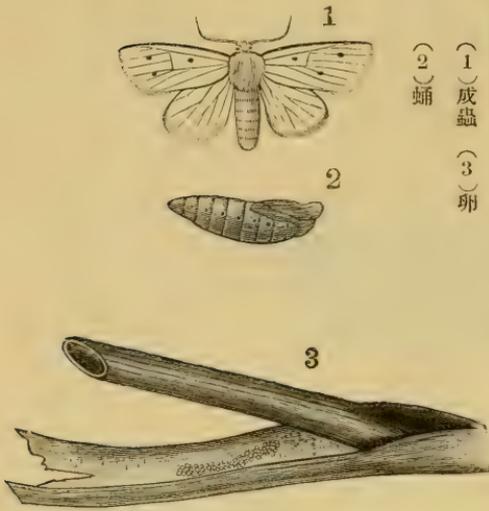
翅脈黑色、體長六分、開張一寸

三分乃至一寸五分。

幼蟲 體色は種々なれども暗緑のもの多し、腹面は淡色、側面に三條の太き縦線

あり、其中氣門下線は淡綠黃にして白線を有し、氣門上線は黑色、其中央少しく

第二百三十三圖



いねよとう

(1) 成蟲 (2) 蛹 (3) 卵

被害植物 稻稗粟麥甘蔗蘆粟。

特徴 成蟲 前翅灰黃、中央に三四個の黒褐紋あり、後翅及び體は灰白、胸背は少しく黄色を帶ぶ、體長四分五厘、開張九分。

幼蟲 淡黃、少しく赤紫色を帶ぶ、背線及び氣門線あれども判然せず、各節には十四個内外の黒褐疣紋ありて之より一本の短毛を生ず、頭及び硬皮板は淡褐

體長一寸。

經過 年三回の發生、第一回の蛾は六

月上旬、第二回は七月、第三回は九月、

幼蟲の有様にて越年し、翌春老熟し

たるものは蛹化す、蛾は卵を稻の葉

鞘の内面に一塊をなして産下する

ものにして、四五十乃至二百餘あり、

常に數行に並列せらる、卵は二週間

前後にして孵化し、莖内に蠹入す、蛾

は甚だ活潑、燈火に飛來すれども稀

は赤褐、翅鞘部は黒色、三四週間の後蛾化す、其害大ならず。

驅除法 幼蟲には石油乳劑を用ひ、成蟲には燈火及び糖液誘殺法を行ふべし。

(六) ひえのしろよとう (ひえのずむし) *Leucania innocens* Butl.

被害植物 粟稗。

特徴 成蟲 體は灰黄、前翅の外縁は少しく暗色を帯び、灰白全面褐色の小點を

散在す、後翅は灰白、體長五分、開張九分五厘。

幼蟲 體は灰白、少しく褐色を帯び、頭及び硬皮板は濃褐、背線は赤褐、各節に約八個の疣狀突起ありて之より短毛を生ず、體長七分。

經過 年二回の發生をなし、幼蟲の有様にて切株内に越冬す、第一回は六七月、第二回は九月上旬乃至下旬粟稗の髓に蝕入して大害を加ふ、此の害に罹りたる莖の根際には小孔ありて褐色の蟲糞を出だす、但し莖の上部を食害することもあり、卵子は一塊をなして葉上に産下せらる。

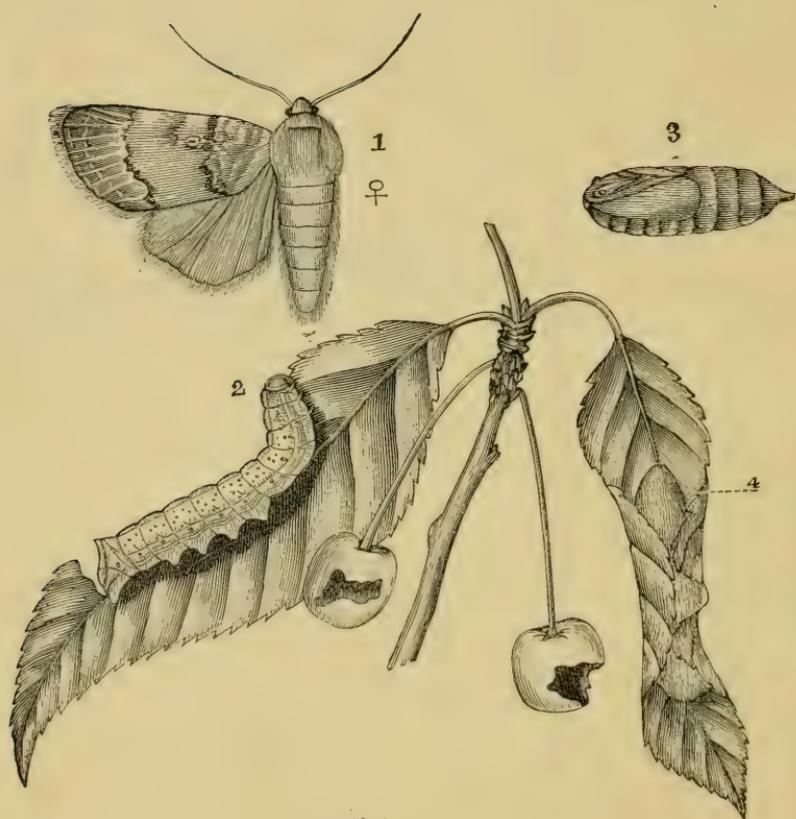
驅除法 幼蟲は常に蟲糞を出だすを以て莖を撥きて殺すべし、夜間糖液を以て誘殺すべく、糖液は幼蟲成蟲共に有効なり、蛾には燈火を用ふ。

(七) いねよとう (おほずむし) *Nonagrja inferens* Wlk. (第二百三十圖)

第二百二十九
圖

しまがらす

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 蛹
- (4) 繭



經過 年一二回の發生をなし、蛾若くは蛹の有様にて越年す、蛹は赤褐、常に地中

にあり、晩秋若くは翌春蛾化し、食草に産卵す、幼蟲は五月より八月に亘りて加害す、常に夜盜蟲と相混じて食害すれども、其害大ならず。

驅除法 蛾は燈火若くは糖蜜液を以て誘殺すべし、亞麻を食害する場合には網を以て幼蟲を捕ふべし。

三、しまがらす (しんざりあをむし) *Amphipyra pyramidea* L. (第二百二十九圖)

被害植物 櫻、苹、樹、梨、桃。

特徴 成蟲 前翅は灰褐環狀紋は白色、其中央に黒紋あり、前横線は半ば黒色、半ば灰色、犬牙狀をなす、翅の中央は多少黒色を帯び、後横線は灰色にして廣し、體長八分乃至九分、開張一寸七分乃至二寸。

幼蟲 體は淡綠、背線白色、氣門線黃白、其周圍黒色、第十一節の背上に三稜形の突起を具へ、其尖端は黄色、之より五條の白線を放出す、尙背線と氣門線との間に白紋多し、體長一寸四五分。

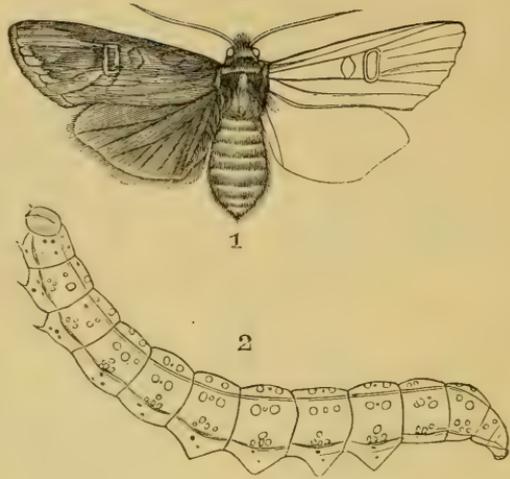
經過 年一回の發生をなす、二回の脱皮を経たる幼蟲の有様にて越年す、翌春新芽を食ひ次で果實をも害す、老熟すれば葉を捲き粗繭を造り、其中に蛹化す、蛹

第二百二十八

圖

あやもくめ

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



被害植物 莖莖、大小豆、亞麻。

特徴 成蟲 前翅灰褐、少しく

紫色を混じ、木目様の濃色紋

多し、環状紋は中央にて少し

く縊れ、其周縁は黒色腎状紋

は大にして其内に黒紋を装

ひ、腎状紋の外側には黒色の

部分あり、後翅は灰白、前胸の

毛塊は三角状をなして前方

に突出し、胸部は、稍々四角形、

黒毛を密生し、前縁に黄褐毛あり、腹部は灰褐、尾端に灰黄毛あり、體長八分、開張二寸。

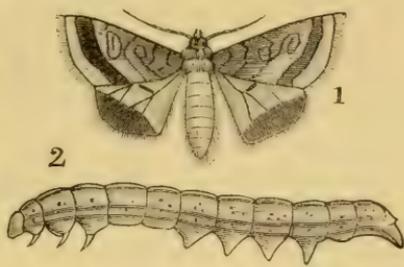
幼蟲 體淡緑、氣門線赤色、種類により此の線連續せず、氣門の上部に各三箇の白紋ありて皆黒輪を有す、尙各節の背上に四箇の同様紋ありて都合一節に十箇の白紋を有す、體長一寸七分乃至二寸。

第二百二十七

圖

きたばこが

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



3/2

ほ之より前縁に斜條を出だすものあり、後横線は黒褐色にして太く、此線より外縁に至る迄は濃色を呈し、其中に更に細き波狀線あり、後翅は灰黄、中央に暗色紋を有し、外縁に暗黒帶あり、體長五分乃至六分、開張一寸乃至一寸三分。

幼蟲 體色は暗緑又赤褐のものあり、背線に沿ふて第四節より第十一節に至る迄各節に褐色紋を裝ふ、氣門上線は太くして暗色、氣門線は白色、更に其中央に赤褐若くは暗色條あり、氣門は黒色、各節十二個乃至十四個の疣狀突起ありて之より短毛を生ず、體長一寸三四分。

經過 年二回の發生をなす、蛹にて越年し、前種きたばこがと同時に發生し、同様の經過をなす、十勝地方にありては夜盜蟲同様に大小豆に大害を加ふ。

驅除法 同前。

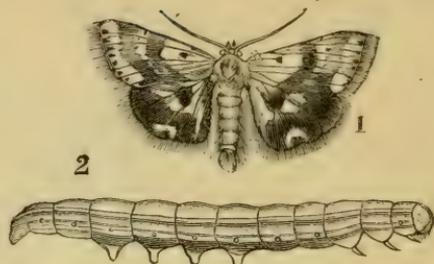
(四) あやもくめ (ごまだらあをむし) *Calocampa exoleta* L. (第二百二十八圖)

第二百二十六

圖

つめくさが

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



3/2

幼蟲 體色には赤褐、綠褐及び黃褐あり、背線は細く白色の二條より成る、亞背線及び氣門線は白色若くは黃白、氣門白色にして黒線を有し、其外圍に更に赤褐部あり、腹面は黒色、頭綠黃、多數の黒點を散在す、體長一寸三分。

經過 年二回發生す、蛹にて越年し、翌春五六月頃蛾化す、第二回の蛾は八月頃に出づ、前種と略同様の經過をなす。

驅除法 同前。

(三) きたはこが (たばこのすぢあをむし) *Pyrthia (Charidea) umbra* Hufn.

(第二百二十七圖)

被害植物 烟草・小豆。

特徴 成蟲 前翅黃褐、紋條は赤褐、半横線は判然し、前横線は三折して後縁に達す、環狀紋は大にして其中心に一點を有するものと其點の判然せざるものもあり、腎狀紋は大にして其中央は黒褐を呈し、之より後縁に中横線を斜走す、尚

節に八個乃至十個の黒色なる疣狀突起ありて之より各一本の黒毛を生ず、頭
綠褐、若くは黃綠、顔に濃褐紋あり、體長一寸二三分。

經過 年普通二回の發生をなす、蛹にて越年す、第一回の蛾は六七月、第二回は八
九月に出づ、卵は一個宛葉下に産下せらる、其孵化せる當時は綠色にして尺蠖
様に運行す、老熟すれば土中に入り蛹化す、葉を食害し大害を加ふることあり。
驅除法 蛾を捕ふるには燈火及び糖蜜を用ふ、幼蟲は晝間根際に隠るゝを以て
地下二寸内外の處を搜索すべし、亞麻の場合には幼蟲を網にて掬ひ捕ふべし、
又夜間石油乳劑を用ふべし、提燈を以て搜索するも亦一法なり。

三、つめくさが *Heliothis dipsacea* L. (第二白二十六圖)

被害植物 亞麻、大小豆、苜蓿。

特徴 成蟲 前翅は暗綠、環狀紋甚だ小にして小黑點となり、四隅に同色の黒點
あり、腎狀紋大にして之を貫き、前縁より後縁に太き暗色條を斜走し、此線と外
縁との中間に同様の太き線あり、外縁に七個の黒紋を並列す、後翅黃白、中央に
黒紋を有し、外縁に黒色の太き帶ありて其中央に一個楕圓形の黃白紋を裝ふ、
體長五分、開張一寸二分。

驅除豫防法 蛾の發生を見計らひ網を以て掬ひ捕ふべし、幼蟲は絲を吐き居るを以て其存在を認むること容易なり、之れには石油乳劑の二十倍液を灌注すべし。

二、たばこが Heliothis amigera Hb. (第二百二十五圖)

被害植物 煙草・大麻・棉・玉蜀黍・南瓜。

特徴 成蟲 前翅は暗黄若くは綠黄、暗色の

縱條あり、半横線及び前横線あれども餘り

判然せず、環狀紋は甚だ小にして唯一點と

なるものと、環狀をなして其内に一點を有

するものとあり、腎狀紋は判然す、之より後

縁に向て中横線を出だす、波狀線は太く、其

内側に細帶を横走し、更に其中央に暗色部

あり、體長四分乃至四分五厘、開張一寸二三分。

幼蟲 體色には綠色、暗綠又褐色なるものあり、腹面は何れも淡色、頭黄褐背線

亞背線及び氣門上線は太くして暗綠、氣門線は黄色若くは淡綠、氣門は黑色、各

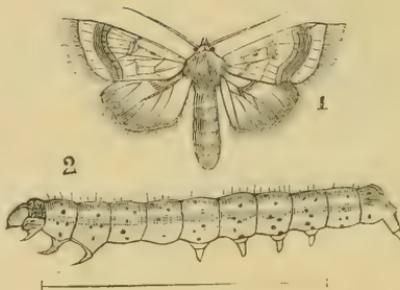
第二百二十五

圖

たばこが

(1) 成蟲

(2) 幼蟲



第二百二十四

圖

うすべにこや

が

1) 成蟲
2) 幼蟲



3/2

3/2

成蟲 翅は黄白、光線の工合にて少しく

紅色を現はす、中央に褐色の二斜條を

走らし、外縁に淡褐なる三角様の大紋

あり、縁毛は褐色、後翅は半透明にして

光澤を帯び、縁毛淡褐、觸角は黄色、頭及

び前胸背は白色、腹背は少しく黄色を

帯ぶ、體下は暗色、脚は白色なり、體長三分五厘、開張九分五厘。

幼蟲 少しく綠色を帯びたる黄色なれども背上は赤味を帯び、美麗なり、頭は

黄色、兩側に各一個の黒紋を有し、背線及び亞背線あれども判然せず、第一節の

兩側には各一個の大黒紋を有し、他節に四個乃至六個の黒色疣狀紋ありて之

れより各一本の黒毛を生ず、氣門線以下に黒紋なし、體長九分。

經過 年二回發生、蛹の有様にて越年し、翌春蛾化し、葉下に産卵す、害虫は葉裏に

ありて食害す、莖臺の場合には種莢をも食害す、幼蟲は活潑にして物に驚くと

きは直ちに絲を吐きて地上に落つ、蛹は細くして兩端稍々尖り紡錘狀をなす、

第一回の蛾は五六月頃、第二回は八九月頃、幼蟲は十月上旬老熟し、次で蛹化す。

に平行して外縁に同色なる一條あり、後翅、頭及び胸背は灰黒、雌の前翅は黄色、中央に少しく紫色を帯びたる二個の暗色紋を有し、前縁角にも同色紋を斜走す。體長二分五厘乃至三分、開張五分五厘乃至八分。

幼蟲 體は淡綠、白色の背線及び亜背線あり、第八及び第九の兩脚最も太く、第六及び第七節に之を缺く、尾脚は後方に突出し、稍退化して細し、其の運行の狀尺蠖に類す。

經過 普通年三回の發生をなし、蛹の有様にて越年す、翌春蛾化し、二三乃至七八十個の卵子を葉上に産す、一雌の總卵數は二百五六十なり、卵は饅頭狀にして放線狀の縦線を具へ、尙ほ細横線を裝ふ、初めは淡黃、孵化前には紫褐色を呈す、幼蟲の成長は春季には遅きも夏期には早く、大凡二週間内外にて老熟し、絹絲を以て葉を二重に屈折し、其の内に繭を造り蛹化す、此の繭は二重に屈折せる處より切斷せられ、其の儘水面に浮游すること屢々あり。

驅除法 同前。

10) すすべにこやが *Rivula subrosea* Bntl. (第二百二十四圖)

被害植物 蘿蔔、蕪菁、莖臺其他十字科植物。

驅除法 石油乳劑を用ふ、亞麻を害する場合には網を以て幼蟲を掬ひ捕ふべし、
 苗代の場合には一反歩に六七合、本田には一升位の石油を平等に灌注し、其内
 に幼蟲を打ち落すか、若くは次第に増水して苗を没する迄に至らしむべし。
 九、ふたをびこやが (いねつとあをむし) *Nannuga diffusa* Wlk. (第二百二十三圖)

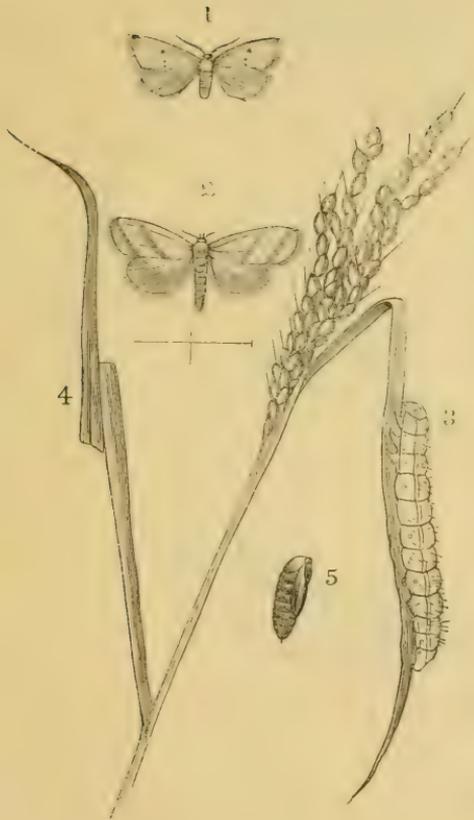
被害植物 稻、牧草。

特徴 成蟲 雄、前翅は濃黄色、中央に赤褐の斜條を具へ、後縁に至りて増大す、之

第二百二十三圖

が
ふたをびこや

- (1) 成蟲(雌)
- (2) 同(雄)
- (3) 幼蟲
(廊大せるもの)
- (4) 繭
- (5) 蛹



第二百二十二圖

いねきんうはば

(1) 成蟲 (2) 幼蟲 (3) 蛹



二週間乃至三週間、其の越冬の状未だ判然せざれども、卵子と成蟲との兩形に於てするものゝ如し、幼蟲は葉を食害す。

乃至下旬孵化す、八月中旬老熟して地上に落ち、落葉を纏めて其中に極めて薄き繭を營み蛹化する、蛹は黒褐色にして少しく平たし。

驅除法 蛾は燈火を以て誘殺すべし、幼蟲には石油乳劑を用ふ。

八、いねきんうはば (いねのあをむしが) *Plusia festucae* L. (第二百二十一圖)

被害植物 稻、亞麻、香蒲、莎草。

特徴 成蟲 前翅は金色を帯びたる褐色、中央に二個の銀色紋ありて少しく金色を混じ、其内方にあるものは大なり、又前縁基部、後縁、及び前縁角の大部は金色を呈す、後翅淡黃褐、縁毛は少しく赤味を帯び、頭及び前胸背は黃赤なり、胸部褐色、腹背は灰黃、體長六分、開張一寸。

幼蟲 體は綠色、頭綠褐、背線は白縁を有する暗綠、亞背線は細く黃色、氣門下線は太く白色、全面に微毛を生ず、腹脚は二双、故に其の運行の狀尺蠖に類す、體長一寸三分乃至一寸八分。

經過 年二回發生す、第一回は六月、第二回は九月、卵子は灰色、少しく綠色を帯び、一個宛葉下に産せらる、卵期は二週間、凡四十日を経て老熟す、老熟すれば葉を纏め、白色の薄繭を造りて其中に蛹化する、蛹は白色若くは綠白、背部黑色、蛹期は

半横線、前横線及び波状線は黒色、環状紋は小にして黒色、腎状紋は大にして更に其中に三箇の黒紋を有し、其内側に黒線あり、半横線の外側及び下方は黒色、之に藍色の鱗毛あり、後縁に接する翅の大半は紫黒色、波状線の外側にある弓状の紫黒線と相連續す、後翅は黒色、三條の藍色帯を有し、外縁にあるものは短し、内縁に長縁毛を簇生す、胸背は甚だ大にして淡褐、腹背は灰黒、尾端の背上一箇黒色の硬皮板ありて、之に平行せる横皺多し、口吻黃褐、體長九分乃至一寸二分、開張二寸三分乃至二寸九分。

幼蟲 體に黄色なるものと黒色なるものとの二様あり、黄色なるものは黒色の氣門線及び氣門上線を有し、第四節以下の氣門周圍は紅色、其上下に各一個の黒點ありて、之より各一本の白毛を生ず、各節の背上には五個乃至六個の黒横條ありて之より各四本の長さ白毛を出だす、第一節及び尾端の硬皮板は黄色、第一節のものは少しく濃色、黒紋を混ず、頭黒褐、腹脚は黃褐、脚に沿ふて各一個の太き黒線あり、又黒色なるものは背上に黄色の横線多く、氣門上下線及び腹面は黄色、頭、第一節及び尾端の硬皮板並に脚は黃褐、體長二寸乃至二寸五分。

經過

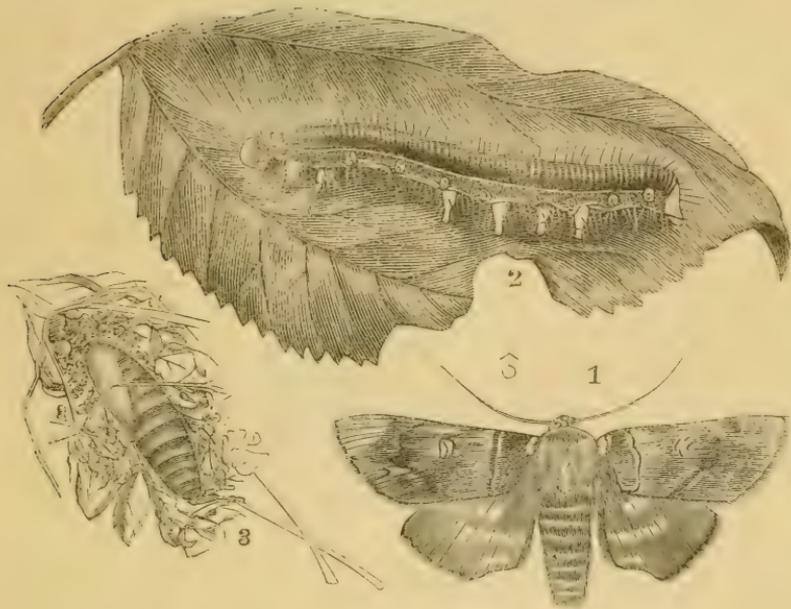
年一回の發生をなす、成蟲の有様にて越年し、翌春葉下に産卵す、七月中旬

第二百二十

一圖

め
ふくらすず

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 蛹



べし、樹は裸となりて
 大害を受く、成蟲は口
 吻を以て果實の液汁
 を吸収す。

驅除法 燈火を以て蛾
 を誘殺すべし、幼蟲に
 は打落法を行ふ、ひよ
 どりは好んで此の幼
 蟲を食ふ。

七、ふくらすずめ (からむ
 しが) *Arctia coerulea* Gn.

(第二百二十一圖)

被害植物 苧麻・楮・黃麻・

ラミ・葎麻。

特徴 成蟲 前翅黒褐、

驅除法 同前。

(五)むくげこのは *Lagoptera juno* Daln. (*Ophideres elegans* V.Hoer.)

被害植物 梨桃、辛樹成蟲は口吻を以て前同様に食害す。

特徴 成蟲 前翅黄褐、半横線、前横線及び波狀線は赤褐、環狀紋は黑色の一點となり、腎狀紋は大にして其下方に一個の黒褐紋あり、波狀線及び外横線の間室は少しく濃色、後翅の外半は紅色、翅底は黑色、其中央に更に帶藍色の白紋あり、體下及び尾端は紅色、體長一寸一分、開張三寸。

(六)きしたあしぶと *Ophiusa coronata* F.

被害植物 たまな樹成蟲は果實を害す。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、後翅黄色、翅底に近き一大紋及び外縁に接せる棍棒狀の大紋は黑色、體下及び腹部は黄色、體長一寸二分、開張二寸八分、幼蟲 體暗褐、頭は黄褐、兩側に各二個の黄白縦條を裝ふ、全體多數の波狀黒線を縦走す、第八及び第九の背上に眼狀の黒褐紋あり、第六節にある腹脚は退化して小、第六節及び次節の腹面には各一個の黒紋あり、體長二寸三分。

經過 未だ充分其經過を知る能はざるも、小笠原島には絶えず其幼蟲を認め得

はのこびけあ 圖十二百二第



特徴 成蟲

前翅は光澤ある灰褐色、少しく綠色を帶ぶ、前縁に微小の白紋を散

在し、中央に綠色の一紋を具へ、遙か其の下方に一白紋を裝ふ、前縁角は尖り、之

より後縁の中央に綠褐の斜條を走らし、其外側は綠色を帶ぶ、後翅は美麗の黃色、巴狀の大黒紋を具へ、前中腿節に銀紋あり、

腹部は黄色、幼蟲はあけびを食害するものに

て果樹に害なし、體長一寸乃至一寸二分、開張

三寸乃至三寸五分。

驅除法 糖液を以て誘殺すべし

四、ひめあけびこのは *Ophideres fullonica* L.

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前翅赤褐、少しく綠色を帶ぶ、前種

に酷似すれども、前縁の中央より少しく外方

の處より内縁の方向に斜走せる横線は判然し、外縁角より來る線と相合す、後

翅の黒紋は大にして外縁は全部黒色、體赤褐、腹部黄色、體長一寸、開張二寸七分

乃至三寸三分。

乃至三寸三分。

第二百十九圖

こがたのきし

たば

(佐々木氏原圖)



1
1

長楕圓の黒環を具へ、腹部には黄毛を密生す、體長九分、開張一寸九分。

幼蟲 暗褐にして少しく綠色を帯ぶ、體の兩端細まり、第四第八及び第十一節に肉狀の突起を裝ひ、不定の暗色縦線及び小黑點を散布す、亞背線は黄綠、各節十個乃至十二個の桃色疣狀突起ありて、之れより各一本の短毛を生ず、體長一寸九分。

經過 未だ判明せず、兎に角幼蟲は五月頃より發生し新芽嫩葉を食害す、六月上旬より老熟し、數葉を纏めて其内に薄繭を營み蛹化す、年二回の發生をなすものゝ如し。

驅除法 幼蟲には石油乳劑を用ひ、成蟲には糖蜜誘殺法を行ふべし。

三 あげびこのは *Ophiderus tyranes* Gn. (第二百二十圖)

被害植物 桃梨柑橘類果汁を吸收す。

一、りんごつままきりあつば *Pangrapta obscurata* Bnfl. (第二百十八圖)

被害植物 苹果樹

特徴 成蟲 體、翅暗色、少しく紫色を帶ぶ、半横線、前横線、中横線は黒褐、後者は前

縁にて甚だ太く、後縁の中央に至り細まりて終る、其前縁には三角形の灰色紋

3/2

あり、波状線は灰色にして細く、判然せず、前縁角は切り去りたるが如き觀をなす、後翅に二條の黒褐帶ありて、其間室は濃色、體長三分五厘、開張八分五厘。

第二百十八圖

りんごつまき

りあつば



此蟲は苹果樹の葉捲蟲中より出たるものにして、未だ其の幼蟲を知る能はずと雖も、兎に角葉を捲きて食害する一種なり、

二、こがたのきしたば (*Atocula obliterata* Mén. (C. esther) (第二百十九圖)

被害植物 梅、杏、桃。

特徴 成蟲 前翅灰黒、中央の横線は黒色、翅底は廣く黒色、腎状紋は稍々三個の

短横線の如し、後横線は腎状紋の外側に當り、犬牙状をなして甚だしく突出す、

波状線は鋸齒状、翅端に七個の黄紋を列ね、後翅は黄色、外縁は廣く黒色、中央に

第二百十七圖

うめえだしや

く



3/2

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前者に酷似すれども、其異なる點

は次の如し、前翅暗黒、五個の大白紋を有す、後

翅は黒色と白色との斑にして、外縁に五個の

大白紋を列ね、翅底の白紋中には黒紋あり、後

胸背は黄色を呈す、體長六分乃至七分、開張一

寸六分乃至一寸八分。

幼蟲 前種に酷似すれども、形細く、黒色にし

て、背線亞背線及び氣門上下の兩線は白色、體長一寸三分乃至一寸六分。

經過 年一回の發生をなす、幼蟲の儘越年す、翌春六月上旬乃至下旬に至れば葉

を纏めて繭を營み、其内に蛹化す、蛹は黄緑にして黒紋及び黒條を裝ふ、六月中

旬乃至七月中旬に亘り蛾化す、蛾は一粒宛産卵す。

驅除法 同前。

夜蛾科 Noctuidae

も亦同様の黒紋あり、雄の腹部は長く、尾節に黒色の長毛を簇生す、體長八分乃至一寸、開張一寸七分乃至一寸九分。

幼蟲 體は灰白、少しく青味を帯び、腹面は黄色なり、第一節の硬皮板は濃黄色、尾節の硬皮板は黒色、背線、亞背線、氣門上線及び氣門線も亦黒色、氣門線は第四節の中程より第九節の中程に至りて終り、其兩端より更に斷片となりて、第十一節若くは第十二節に達す、腹面にも亦背面と同様の縦條あり、氣門及び小瘤起は黒色、體の諸部より短黒毛を粗生す、頭は黄色、其兩側に各三個の黒紋を有す、體長二寸。

經過 年一回の發生をなす、蛹の有様にて土中に越年す、蛹は黒褐、七月中旬乃至下旬蛾化す、卵子は黄緑にして一粒宛枝葉に産附せらる、一雌の産卵數四五十、蛾は晝間飛翔し、其性遲鈍なり。

驅除法 七月蛾の發生する時期を見計ひ網を以て捕獲すべし、幼蟲は黄白にして黒紋を有するを以て發見すること容易なり、小形なるときは、石油乳劑を用ふべし。

七、うめえだしやく

Cistidia (Vibora) conaggaria (Guen.)

第二百十七圖

蛹化するときは樹幹の空隙にありて絲を吐き、木屑を纏ひて粗繭を造る、蛾は卵子を點々枝葉に産下す、卵は長卵形、初めは綠色なるも孵化する頃に至れば赤褐に變ず。

驅除法 同前。

六とんぼえだしやく

Ustidia (Vilora) stratonice Grun. 第二百十六圖

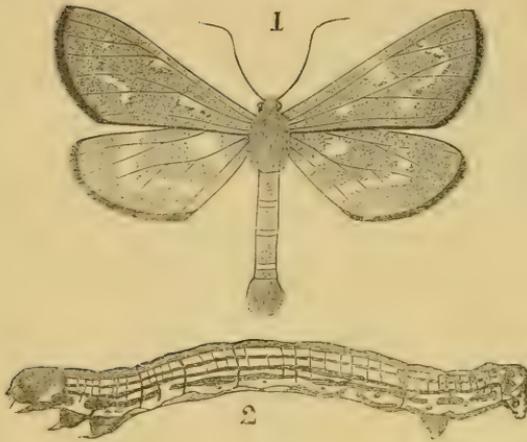
第二百十六圖

とんぼえだし

やく

(1) 成蟲

(2) 幼蟲



被害植物 苹樹・梨・櫻・李・梅・杏。

特徴 成蟲 翅黑色、前翅に四個の

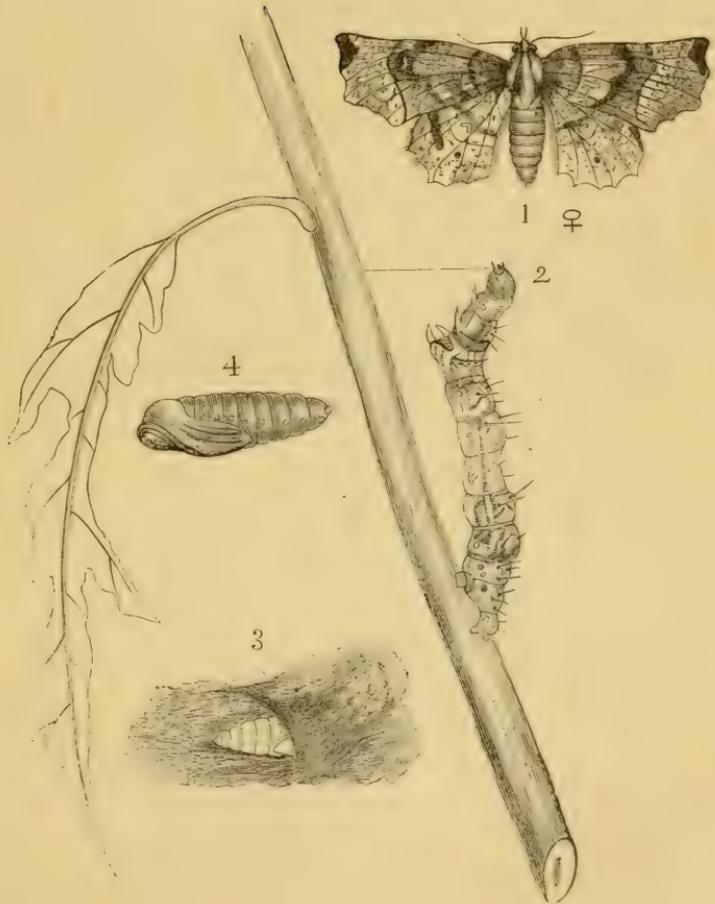
大白紋を有すれども此白紋は往々相連續するとあり、後翅の翅底は白色を呈し、内縁の下方より一個の廣き白條を出だし、外縁の方向に屈折したる後、前縁に達す、胸背は黑色、前縁は黄毛を簇生す、腹部黄色、各節の背上に楕圓形の黒紋を有し、更に其兩側及び腹面に

第二百十五圖

むらさきとだ

しやく

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) (4) 蛹



る黄色の背線は判然たり。

経過 年二回發生す、第一回は六月、第二回は八月、蛹の有様にて越年す、蛹は赤褐

劑を用ふ、但し灌注後一週間は摘葉せざるを可とす、これ一週間後は石油揮發し去り臭氣を留めざるに至るを以てなり、卵子は注意して搜索すべく、尙、早春桑園を視察し蛾の發生せるものを搜索すべし。

(五)むらさきごだしやく *Selenia tetralmaria* Hufn. (第二百十五圖)

被害植物 萃樹・梨・櫻・李。

特徴 成蟲 翅は紫褐色、翅底の大半及び前翅の前縁角は濃色、各翅に一個弦月形の白紋あり、前翅には濃色なる二横線ありて稍々翅面を三等分す、一は翅底を走り他は濃色部を限とし、外縁に近く前横線と並行す、尙前翅の弦月紋より後翅の同様紋を通じて半圓形を書ける濃色部あり、後翅の中央にも濃色の横線ありて、其中程の下方に同色の圓紋あり、其他翅の處々に小斑紋を散在す、體は黃褐、胸背及び頭上は少しく紫色を混ず、體長五分、開張一寸二分。

幼蟲 體色には暗褐なるもの、灰黃にして少しく紫色を帯びたるもの等あり、體の前半は細く尾節に至るに従ひ増大す、第四・第五・第七・第八節に於ける背上には各二個の突起ありて、殊に第七節に於けるもの大なり、體の處々には粗毛あり、頭灰黃、氣門白色、黒環あり、胸脚の前には黒紋あり、第四節より第八節に亘

に従ひ膨大す、外縁は暗黒、凹凸あり、後翅は小、二横線中央を横走し、外方のものは太し、雌の前翅に於ける横線は雄と少しく異なりて、翅底に近きものは波状をなし、殆んど其の外側に、ある横線と相近接す、頭及び體は灰褐にして胸背に黄褐毛を裝ふ。

幼蟲 體色は種々にして綠色なるもの、赤褐なるもの、又黒褐なるものあり、頭及び硬皮板は褐色、終りの四五節の兩側には太き黄白の縦條あり、第四第五第六第七及び第十節には太き棘狀突起ありて、初めの四個は少しく黄白を帶び、第十一節にあるものは全く黄白、尙尾端にも二個の棘狀突起あり、體長一寸五分。

經過 年一回の發生をなし、蛹の有様にて越年す、繭は暗色にして常に土中にあり、根部に附着す、普通數個相集れり、翌春三月中旬乃至四月下旬に蛾化す、蛾は數百の卵子を樹枝に集合して産下す、幼蟲孵化したる當時にありては黒褐にして其形狀の異様なる、恰も鳥糞の葉上にあるが如し、成長するに従ひ固有の綠色を呈し、發見し難し。

驅除法

春秋二期根邊を搜索し、集合せる數個の蛹を捕ふべし、幼蟲には石油乳

くやしだえげとはく 圖四十百二第



2
1



黄褐の瘤状突起あれども前者の如く大ならず、氣門は黄褐、體長二寸四分。
 經過 年一回發生し、蛹の有様にて地中に越年す、七月上旬蛾化し、蛾は四百内外
 の卵子を點々産下す、卵は淡褐、稚木にあらざれば大害をなさず、桑の尺蠖の如
 く 間は枝上に直立す。

驅除法 蛾は燈火を以て誘殺し、幼蟲には石

油乳劑を用ふべし。

四、くはとげえだしやく *Zanenia (Acanthocampa)*

albolinearia Teesh. (第二百十四圖)

被害植物 桑。

特徴 成蟲 翅灰白、暗黒の横線を具へ、赤褐

紋を散在す、雄の前翅は翅底に近く鋭角を

なして曲折する横線を有し、翅の中央に稍

々弓状に近き細形の横線あり、又其兩側に

二條の太き横線ありて内方にあるものは

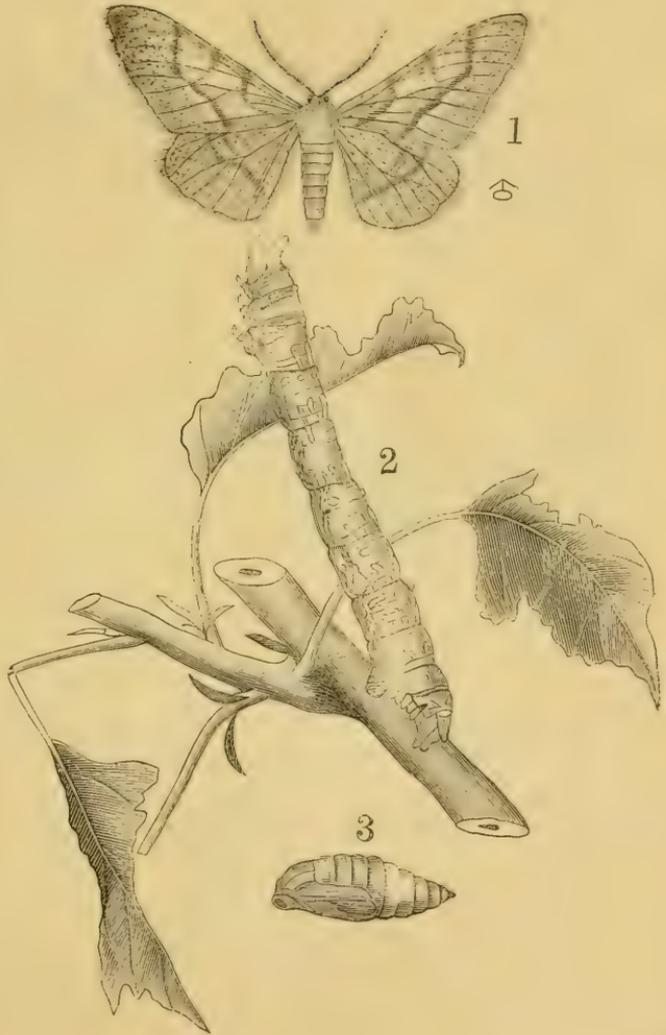
多少波状をなし、外方のもものは前縁に至る

第二百十三圖

りんごえだし

やく

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 蛹



1
♂

2

3

條あり、體長六分五厘乃至七分五厘、開張一寸七分乃至二寸三分。

幼蟲 體は赤褐若くは綠褐、頭黃褐、頭に鬼角様の二突起あり、第一・第三・第七及び第十節の背上に各二個の瘤狀突起を有し、第八節には四個を裝ふ、尙各節に

て暗緑赤褐又暗褐雲形の暗色紋あり、背線亞背線及び氣門上線は暗黄、各節には二双の赤褐隆起を裝ひ、氣門の周圍に赤褐若くは黑色の小點を具へ、之より短毛を生ず、第五節に一雙赤褐の大なる棘狀突起あり、體長一寸八分。

經過 年一回の發生をなし、卵子の有様にて越年す、京都地方にありては四月上旬孵化す、約六週間にて老熟し一寸五分内外の地下に入りて蛹化す、四月上旬新芽を食するを以て、時に大害を加ふることあり、十一月上旬羽化し、次で産卵す、卵は初めは暗緑、後綠褐に變ず、五六十個相集合して産下せらる。

驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混じり灌注すべし、但し茶の採集期には行ふべからず、蛾は燈火を以て誘殺すべく、又夏日其地下に蛹化せるものを鋤起し地上に曝露すべし。

三、りんごえだしやく *Amraica (Biston) tendinosaria* Brem. (第二百十三圖)

被害植物 苹樹 (桑?)。

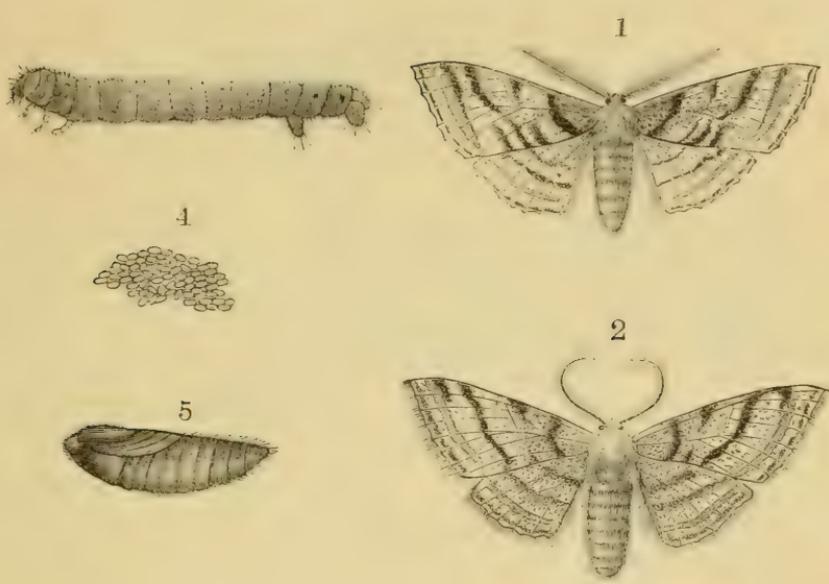
特徴 成蟲 翅灰白、小黒紋を散在す、前翅に二個の黒條を横走し、翅底に近き線は判然せず、外方にあるものは外縁の中央より起り、少しく弓形をなして前縁に達す、尙前縁の中央にも亦黒紋あれども雌にては判然せず、後翅に一個の黒

第二百十二圖

あやえだしや

く

- (1) 成蟲各
- (2) 同 子
- (3) 幼蟲
- (4) 卵子
- (5) 蛹



特徴 成蟲 翅は灰色、

黒褐の小紋を散在す、

前翅の中央に灰白の

横帯を装ひ、其兩側に

黒褐の波状線あり、尙

外縁に沿ひ灰白の太

き横線を走らす、後翅

の中央に黒褐の一波

状線ありて前縁より

内縁に達す、尙外縁に

近く灰白の波状線あ

り、雄の觸角は甚だし

く羽状をなす、體長五

分、開張一寸五分。

幼蟲 體色種々にし

濃色にして少しく褐色を混ず。體長八分乃至一寸、開張一寸六分乃至一寸九分。幼蟲 體は灰色、背部は少しく黄赤を帯び、桑樹の皮膚に酷似す、腹面は灰黒、多數の黒紋を散在す、第二節の兩側は突起狀に膨大し、其中間に一個の黒紋あり、氣門は黄赤、氣門環は黒色、樹枝に靜止するの狀宛然、枯枝に似たり、體長二寸。

經過 年二回の發生をなす、幼蟲は二回の脱皮を終へ、樹隙に入りて越冬す、翌春新芽を食ひ大害を加ふることもあり、更に二回の脱皮を終へ、枯葉を纏めて褐色の粗繭を造り、其中に蛹化す、第一回の蛾は七月上旬、第二回は九月上旬に出づ、枝及び葉に産卵す、卵は初めは青藍色なれども其の孵化期に至れば紫褐色を呈す、蛾は三百内外の卵子を約五回に産下す、其一回の卵數は七十乃至八十個なり、幼蟲は晝間一本の絲を吐き枝狀をなして直立す。

驅除法 晩秋樹幹に藁稈の如きものを纏ひて潜伏場を造り、越年性の幼蟲を誘殺すべし、又蛾の出づる時期を見計らひて燈火誘殺法を行ひ、幼蟲には石油乳劑に二十倍の水を混じり灌注すべし。

(二) **ちやえだしやく** *Borania theae Mats.* (n. sp.) (第二百一十二圖)

被害植物 茶・山茶

第二百一十一圖

くはえだしや

く

- (1) 成蟲(雌)
- (2) 卵子
- (3) 幼蟲
- (4) 蛹



翅の中央には太き暗褐色ありて翅底より外縁に亘る、外縁の上方及び翅底に
 近き内縁の部分は濃色を呈し、全面黒褐色の短横紋を群布す、外縁は波状をなし、
 縁毛は灰褐色、後翅は前翅と同様の紋を装ひ、中央に一個の黒き横紋あり、外縁は

の方向に斜走し、犬牙状をな
 し、屈曲して前縁に出づれど
 も、其終點は判然せず、一つは
 之と略並行して翅底の内縁
 より起り、前縁の中央に向ひ
 中室の中央に於て鋭角をな
 し、前縁に出でずして終る、又

六分内外。

經過 年一回の發生をなし、蛹の儘越年す、翌春六月下旬乃至七月蛾化す、蛾は卵子を綿實に産下し、之より孵化したる幼蟲は實中に入りて其心を食害す、普通萼に接したる處に小孔を穿ち、之れより褐色の蟲糞を出す、充分成熟すれば棉實を辭し、棉莖其他の立木に結繭す、蛹の背面は濃褐、腹面は黄緑、棉實中には普通二三匹の幼蟲を藏す。

驅除法 蛾を捕ふるには燈火を用ふべし、棉實中にある幼蟲を驅除すること困難なれば、其卵子より孵化して實中に蠶入せざる前に、亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし、其の既に實中に入りて食害せるものは蟲糞を出だせるを以て、之を採り他の實蒔に移らざる様防禦すべし。

尺蛾科 Geometridae

(一) くはえだしやく Hemerophila atrilineata Butl. (第二百十一圖)

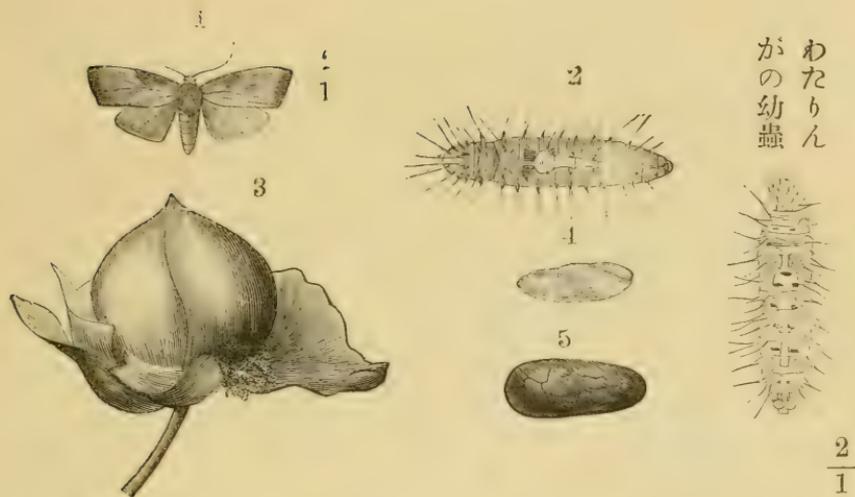
被害植物 桑。

特徴 成蟲 前翅灰黄、二條の黑色波狀線を裝ひ、其一は内縁の中央より前縁角

第二百十圖

わたりんが

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 加害の状況
- (4) 蛹
- (5) 繭



$\frac{2}{1}$

前縁に沿ふて楔状の暗黄紋あり、縁毛は黒褐、後翅は白色、光澤を帯び、縁毛の基部少しく暗褐を呈す、體長三分、開張七分。

幼蟲 體色は種々にして灰紫、暗褐、赤褐又は綠褐なるものあり、頭及び硬皮板は黒褐、背線は青白、亞背線の處には各節一個の黒色疣隆を具へ、第二・第三・第五・第八及び第十一節にある疣隆は濃紫色、第四・第六・第九及び第十節にある疣隆突起は白色、第十二節には白疣起の二列あり、體長

各節十二個内外の疣狀突起ありて、之より黒色若くは灰白の長毛を簇生す、疣狀突起は多く黄色なれども、胸脚の上方にあるもの及び第八、第九の兩節に於ける四個は紫藍色を呈す、體長一寸七分。

經過 年一回發生す、幼蟲は第二回の脱皮を経て、樹の破目若くは樹皮の間隙に入りて越年し、翌春更に二回の脱皮を終へ、暗色の粗繭を造り、葉を捲きて其内に蛹化し、七月下旬蛾化す、蛾は卵子を葉下に集合して産下し、黄色の體毛を以て之を掩ふ、其數三百内外。

驅除法 幼蟲を驅除するには石油乳劑を用ひ、成蟲には燈火を用ゆべし、又卵塊を搜索すべし、晩秋根際に牧草其他藁の如きものを置きて潜伏場を造り、幼蟲を誘引して早春之れを焼き棄つべし。

實蛾科 *Cynbidae*

一 わたりんが (わたりんむしが) *Euis chromataria* Wk. (第二十圖)

被害植物 棉。

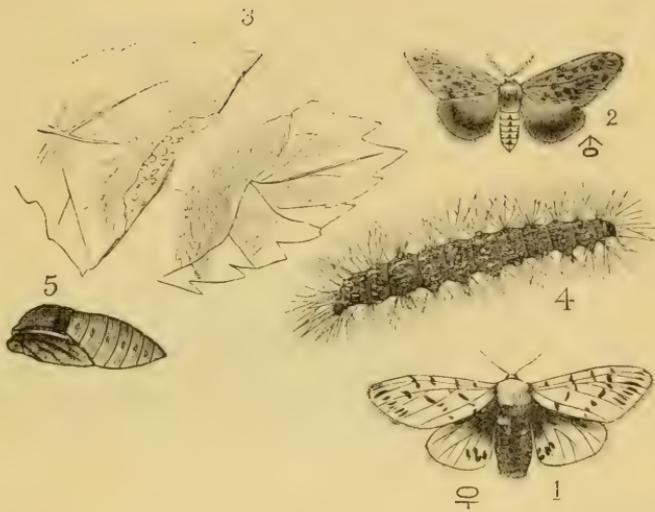
特徴 成蟲 體翅黃綠色、前翅の外縁は黒褐、其内側は黄色、翅底より翅の中央迄

第二百九圖

くばごまたら

ひとり

- (1) 成蟲(雌)
- (2) 同(雄)
- (3) 卵塊
- (4) 幼蟲
- (5) 蛹



被害植物 桑・苹樹・梨・梅・杏・李

桃・櫻・すぐり・ふさすぐり。

特徴 成蟲 雌雄色を異に

す、雌は黄白、腹部黄色、背上に五個の黒紋あり、翅は黄白、前翅には三十餘個の暗色紋を具へ、後翅の内縁角に近く又同様の黒紋あり、體長六分、開張一寸四分、雄は體、翅共に暗黒、腹部及び前胸は橙黄色、腹背に五個の黒紋あり、前翅には雌同様に三十餘個の黒紋を有す、觸角は黑色にして羽状をなす、體長六分、開張一寸八分。

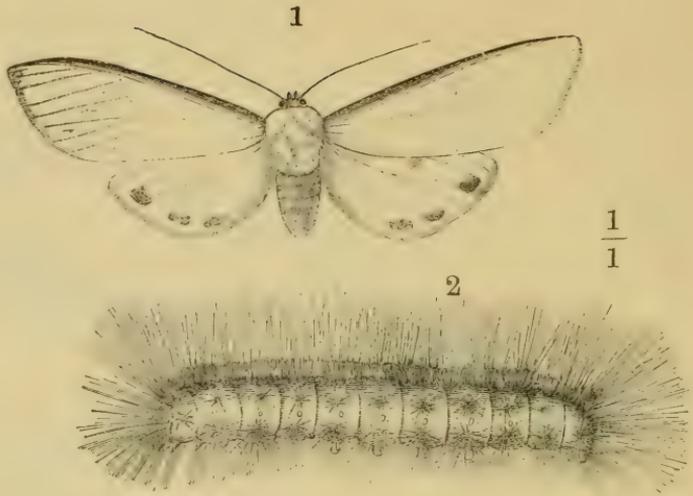
幼蟲 體黒褐、少しく紫色を混じ、黄條及び黄紋を有す、背線は黄色にして太し、

第二百八圖

まへあかひと

り

(1) 成蟲♀
(2) 幼蟲



1/1

の黒紋ありて外縁にあるもの大なり、雄は一個の黒紋を有するのみ、腹背は基部を除き黄色、各節に黒帯あり、體長七分乃至八分、開張一寸九分乃至二寸二分。

經過 年一回の發生をなす、蛹の有様にて越年し、翌春六月頃蛾化す、蛾は食草の稚莖に卵子を産下す、卵子は黄緑にして灰白紋を裝ひ、幼蟲は葉を食ふ。

驅除法 蛾の發生する時期を

見計らひて燈火誘殺法を行ひ、幼蟲には石油乳劑を灌注すべし。

(五) くはごまだらひとり *Spilosoma impavilis* Butl. (第二百九圖)

四分乃至五分、開張一寸乃至一寸四分。

幼蟲 體黑褐、頭赤褐、各節に八個の藍色疣狀紋ありて、之より白色及び黑色の長毛を簇生す、側部及び背部に白紋あり、體長一寸。

經過 年一回發生す、二回脱皮したる幼蟲は根際若くは雨露の當らざる處に巢を張りて其内に越年す、翌春新芽及び蕾を食ひ大害を加ふることあり、六月中旬乃至下旬に至り葉を捲きて繭を造り、其中に蛹化す、繭は薄き暗灰色、常に幼蟲の體毛を附着す、七月中旬蛾化す、蛾は三百内外の卵子を葉下に産附し、尾毛を以て之れを被ふ、其經過ごまだらひとりに酷似す。

驅除法 晩秋根際にある巢を探り、其中に越年せんとする幼蟲を殺すべし、幼蟲の葉上にあるものには石油乳劑を用ひ、其他燈火誘殺法を行ひ、或は卵塊を捕ふべし。

(四) まへあかひとり (きようじやうろう) *Orentonotus (Aloa) lachinens Gram.*

(第二百八圖)

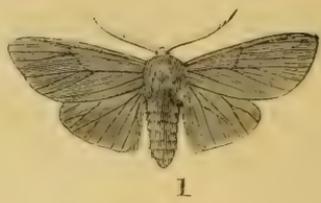
被害植物 玉蜀黍・大豆・千屈菜。

特徴 成蟲 體翅白色、頭頂前胸の一帶及び翅の前縁は紅色、雌の後翅には四個

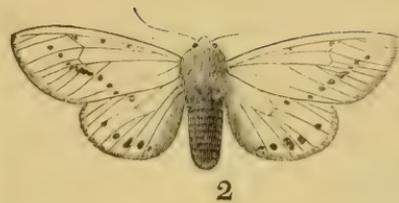
第二百七圖

くろばねひとり

り



(1) 成蟲
(2) 同 子



褐體長一寸。

經過 年一回の發生をなし、幼蟲の儘越年す、翌

春暗褐の繭を營み其中に蛹化す、六月上旬乃

至下旬に亘りて蛾化す、時に亞麻の葉を食す

れども、其害大ならず。

驅除法 幼蟲の亞麻を害する場合には網を以

て掬ひ捕ふべし、蛾には誘蛾燈を用ふべし。

(三) くろばねひとり *Thanaosia infernalis* Bntl.

(第二百七圖)

被害植物 苹樹、梨、梅、杏、李、桃、櫻、すぐり、ふさ、すぐ

り、桑等。

特徴 成蟲 雄は體翅暗黒、腹部紅色、背部及び

腹側に黒紋あり、雌は淡黄色、前翅に點線より

成れる二條の灰色帶ありて相並行し、後翅に

は五個の同色紋あり、腹部は紅色、背部及び腹側に黒點を列ぬ、尾端は黃白、體長

黒紋あり、體長八分乃至一寸一分、開張二寸乃至二寸六分。

幼蟲 頭は黒色、兩側は黄白、氣門は白色、各節に十二乃至十六個の疣狀突起ありて之れより多數の長黒毛を簇生す、側部の毛は赤褐、毛端は灰白、體長約二寸
 經過 年一回の發生をなす、幼蟲の儘越年す、翌春五月乃至六月老熟し、薄繭を造りて其中に蛹化す、繭は常に幼蟲の装へる體毛を附着す、七月より八月に亘りて蛾化す、卵は綠色、球形にして葉下に産付せられ、常に母蟲の體毛を以て被はる、一雌の産卵數は二百餘、之れより孵化したる幼蟲の早さものは三回の脱皮を終り、遅さものは一回の脱皮後越年す、

驅除法 七八月の頃燈火を以て蛾を誘殺すべし、幼蟲には石油乳劑を用ふべし。

(二) あまひとり (あまじやうろう) *Phragmatobia fuliginosa* L.

被害植物 亞麻、其他蒲公英の如き雜草。

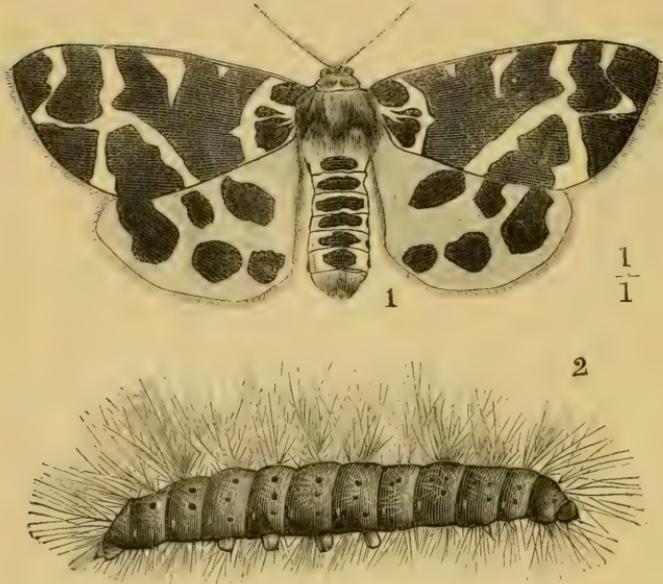
特徴 成蟲 體翅赤褐、前翅の中央に黒褐の一點あり、後翅は紅色、六個の黒褐紋ありて、四個は後縁に位し、二個は中室に近接して大なり、腹背は基部及び中央を除き紅色、側部に黒紋あり、體長四分、開張一寸。

幼蟲 體色は種々にして、灰色、黄褐及び黒褐あり、同色の長毛を簇生す、頭は黒

第二百六圖

ひとりか

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



月に亘りて出で、七八十個の卵子を産下す、蛾は晝間飛翔す。
駆除法 早春亞砒酸の溶液を灌注すべし、蛾出づれば網を以て捕殺すべく、又捲
 葉内に栖息する幼蟲を捕ふべし。

燈蛾科 *Arctidae*

ひとりか (をどりか)

Archin caji L. (第二百六圖)

被害植物 桑、大麻、苧麻、す

ぐり、ふさ、すぐり。

特徴 成蟲 前翅は黒褐、
 白紋及び相連絡せる白條
 は種類により大に變形す、
 後翅は赤色、數個の大黒紋
 あり、頭は赤白色、腹部は赤
 色、各節の背上に各一個の

二、りんごすかしくろは (なしほしけむし) *Illeceps pruni* Dyar. (第二百五圖)

被害植物 苹果、梨。

特徴 成蟲 體翅は暗色、翅は淡色

にして半透明、脈は暗色、觸角は雄

にありては羽狀をなす、體長三分、

開張八分乃至九分。

幼蟲 背部は黄綠、腹部は淡黄色、

充分成長すれば灰黄色となる、頭

は暗黄、背線は暗色、各節の側部に

各一個の黒紋を裝ふ、又亞背線及

2-1 び氣門上下の兩線に各一個の疣狀突起ありて

之れより粗毛を簇生す、體長七分乃至八分。

經過 年一回の發生をなす、半ば成長したる幼蟲

の儘越冬す、翌春新芽を食ひ、其の葉の開綻と共に葉を縦に捲き、其内に在りて

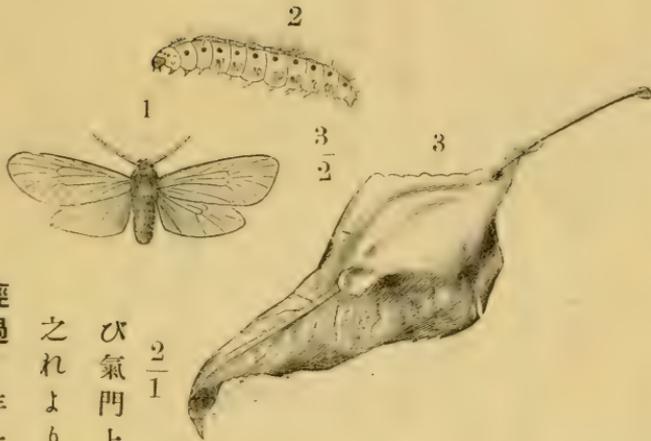
食害す、六月下旬に至れば紙様の暗黄繭を造り、其中に蛹化す、蛾は七月より八

第二百五圖

りんごすかし

くろは

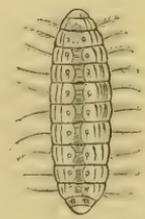
- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 繭



第二百四圖

うすばつばめが

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



3/2

特徴 成蟲 翅は灰白、翅端及び

脈は暗色、稍々半透明、翅底は黄色、其の兩側は暗色、後翅は鳳蝶

3/2

の如く延長す、體

は暗色、體長五分、

開張二寸。

幼蟲 體長橢圓、

頭黒色、常に第一節に蔽はれて見え、體黄色にして第一節には二個の黒紋あり、背線、亞背線及び氣門上線は紅色、但し背線は廣し、各節の側部に一個の長刺ありて之れに黒毛を密生す、體長八分。

經過 年一回發生す、幼蟲の儘越年す、翌春新芽を食ふ、其數多からざるを以て大害を加ふるに至らず、六月中旬半ば葉を捲きて繭を造り、其中に蛹化す、繭は細長く灰白なり、蛾は七月下旬に出づ。

驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混じて灌注すべし、七月下旬網を以て蛾を捕

獲すべし。

第二百三圖

てんごいらが



32

の中室部は濃色、全面に光澤ある灰色鱗を装ふ、縁毛は灰白、腹部の兩側は黄色、脚に灰色の長毛を簇生す、早は體翅灰黄、下唇鬚の末端は球稜狀に膨大し、暗色毛を装ふ、翅の中室部に濃色の長縦紋を具へ、縁毛は白色、腹部は黄色、末端は暗色、體長公♀五

分、開張一寸二分乃至一寸四分。

幼蟲 余は未だ口撃したることなし。

經過 年一回發生す、幼蟲の有様にて前同様に卵形の繭内に越年す、翌春六月乃至七月蛾化す、幼蟲は柿棗其他の果樹を食害すれども其害前種の如く大ならず。

驅除法 同前

斑蛾科 Zygaenidae

一、すはつばめが

Elysiina westwoodi Voll. (第二百四圖)

被害植物 李・桃。

第二百二圖

いらが

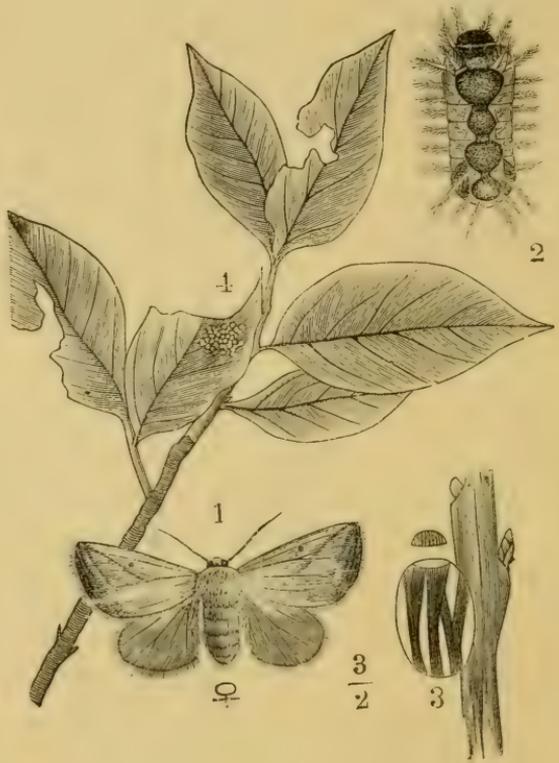
(いらむし)

(1) 成蟲

(2) 幼蟲

(3) 繭

(4) 卵子



驅除法 同前。

四、てんぐいらが *Microleam longipalpis* Butl. (第二百三圖)

被害植物 柿、棗。

特徴 成蟲 凸の體翅暗色、觸角黄色、下唇鬚は長く約頭長の三倍ありて其末端は棍棒狀に膨大し、之れに少しく黄毛を混ぜる部分あり、胸背に白毛を混ず、前翅

ありて其の中程は黄褐、翅底は濃色、後縁に濃黄色の一大紋あり、體長五分、開張一寸。

幼蟲 綠黄、各部に四個の肉様長突起ありて、之より黄毛及び暗色毛を生ず、體長六分。

經過 前種同様に幼蟲の有様にて卵形の繭中に越年し、翌春蛾化す、蛾は七月中旬に出づ。

驅除法 同前。

三、いらが *Monema flavescens* Wlk. (第二百一圖)

被害植物 柿、柑、橘、梨、枇杷、梅、李、苹樹、其他果樹。

成蟲 體翅橙黄色、前翅の外半は褐色、二條の暗褐斜條ありて、翅端にて相合す、後翅は灰黄、腹部は基部を除き暗褐、體長五分、開張一寸。

經過 年一回の發生をなす、幼蟲の儘卵形の繭を造り、其内に越年す、繭は恰も雀の卵の如く白色若くは暗色にして、縦紋を有するものあり、翌春五月より六月に涉りて蛾化す、蛾は卵子を葉裏に産下す、卵は扁平、初めは淡黄、後黑色に變ず、卵數二百内外、鱗狀をなして相集合す。

第二百圖

くろしたあを
いろが



3/2

特徴 成蟲 體翅淡綠、前翅底の一大紋廣き外縁後

翅腹部及び脚は暗褐、觸角は羽狀にして黃褐後肢

甚だ太し、體長三分五厘、開張九分。

幼蟲 綠色、體下は淡色、六個の黒縦條ありて中央

にあるもの最も太し、何れも少しく波狀をなす、第

三節及び第四節並びに尾端の二節に各二個の長さ肉様突起ありて之れより

多數の黒刺を生ず、體長六分。

經過 未だ判然せず、幼蟲の楕卵形の繭中に越年す、蛾は七月上旬より下旬に涉

りて出づ、幼蟲は脚を缺くを以て一見蛭蝻ナメクシの如し。

驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混じ灌注すべし、冬期越年する繭を集め捕ふ

3/2

べし。

二) なしいらが *Mimesa inornata* Wk.

被害植物 梨・柿・楓。

特徴 成蟲 體橙黄色、翅及び腹部は暗褐、翅端

に光澤ある淡紫色を帯べる鉛色様の二横帶

なしいらが

第二百一圖



驅除法 晩秋、落葉後、樹枝より垂下せる囊を捕ふべし、其の小形なるもの、群棲せる場合には亞砒酸鉛の溶液を散布すべし。

二)みのが *Pachytelia* (*Psyche*) *micolor* Hufn.

被害植物 萃樹・茶・梨・櫻・櫛・檜

特徴 成蟲 雄の翅暗黒、觸角羽狀、前翅は短三角形、後翅は稍々卵形、全面細毛を密布す、體長三分、開張六分五厘、雌は蛆狀黃白、頭赤褐、常に赤褐の蛹中にありて出でず、前種同様に巢中にあり。

幼蟲 體は灰黃、頭に黑褐紋あり、第一節より第三節に至る間各六個の黑褐條を縱走す、胸脚殊に第三双は甚だしく發達し、腹脚は退化す、體長五分乃至八分。經過 略々前種に似たり。

驅除法 同前。

刺蛾科 *Cochliinae*

一)くろしたあをいらが *Parasa sinica* Moor. (第11百圖)

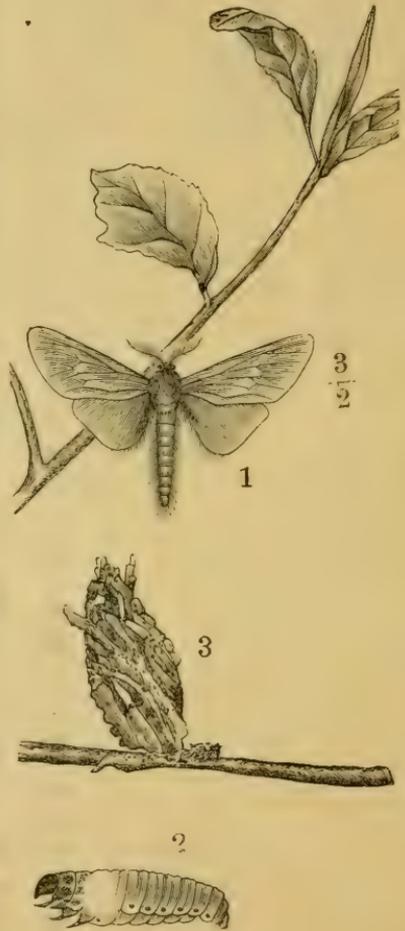
被害植物 萃樹・茶・梨

第百九十九圖

ちやのみのみむ

し(茶葉害虫)

- (1) 成蟲
 (2) 幼蟲
 (3) 莖の外部を示す



長四分五厘、開張九分、雌は蛆狀にして脚翅を缺き、體黃白、頭黃褐、圓柱形にして肥大し、宛然卵子袋の如し、常に巢中に在つて出でず、體長六分。

幼蟲 體暗褐、頭黑色、額片赤褐、初めの三節は發達し、黃白にして褐紋を散在す、尾節の硬皮板は黒し、各節に疣狀の黒紋あり、胸脚長く、腹脚を缺く。

經過 二年に一回の發生をなす、幼蟲の儘莖中に越年す、翌春小なるものは新芽に集まり、既に一ヶ年の星霜を経たるものは巢中に蛹化す、雌は羽化するも巢内に留まりて出でず、雄の來たるを待ちて交尾す、産卵數は五百以上なり。

第一百九十八圖

ぶどうすかし

ば



特徴 成蟲 體は黒色、頭部黄色、胸側に黄紋、腹部

に黄帯あり、前翅は褐色、前縁黄色、後翅稍々透明、

前縁の中央に褐紋あり、體長五分乃至六分、開張

一寸乃至一寸一分。

幼蟲 體淡黄、頭及び硬皮板は褐色、短毛を疎生

す、體長六分。

經過 幼蟲の儘被害樹の材部に越年し、翌春其中

に蛹化する、五月上旬、蛾化する。

驅除法 同前。

避債蛾科 Psychidae

一、ちやのみののが (ちやのみのむし) *Clania (Emmetia) minuscula* Butl. (第一百九十九圖)

被害植物 萃樹・梨・梅・櫻

特徴 成蟲 雄は前翅灰黒、中央の翅脈は黒色にして判然す、後翅は小にして暗

色、觸角羽狀、頭及び胸部に暗褐の長毛あり、腹部細長く、側部にも亦長毛あり、體

少しく藍色を帶ぶ、中央に一黒紋を具へ、外縁及び脈は黒色なり、後翅は透明、體長六分、開張一寸。

幼蟲 體淡褐、頭赤褐、第一節に八字形の赤褐紋あり、背線は赤色、氣門は褐色、疎らに短毛あり、體長七分乃至八分。

經過 年一回の發生をなす、幼蟲の儘越年す、被害樹皮下に越年し、翌春其の材部を食ひ、早きは六月、遅きは八月に至りて蛹化す、蛾は暗黄の扁たき卵を樹皮に産下す、其の棲息する處には常に褐色の蟲糞を混じたる樹脂を出だす、充分成長すれば木屑を綴りて繭を造り其の内に蛹化す、蛹の脱殻は常に蟲孔より半ば露出せり、又蛾は晝間出で時に花上にあることあり。

驅除法 蛾は根際に産卵する性あれば、新聞紙を二三枚に折りて地上一尺位の處まで纏ひ絲にて縛り置くべし、又石灰水を塗り置くもよし、其材部に穿入して害せるものは前の如く鋭刀を以て蟲孔を撥きて殺すべし、或は又石油若くは酢を蟲孔に注入すべし。

二、どうすかしば *Scinapteron regale* Butl (第九十八圖)

被害植物 葡萄。

一、こすかしは *Yosia Inceptor* Puffl. (第九十七圖)

被害植物 櫻・辛樹・梨・梅・桃李。

特徴 成蟲 體黑色、鋼鐵様の青みを帯ぶ、腹部に橙黄色の二環あり、前翅は透明、

第九十七圖

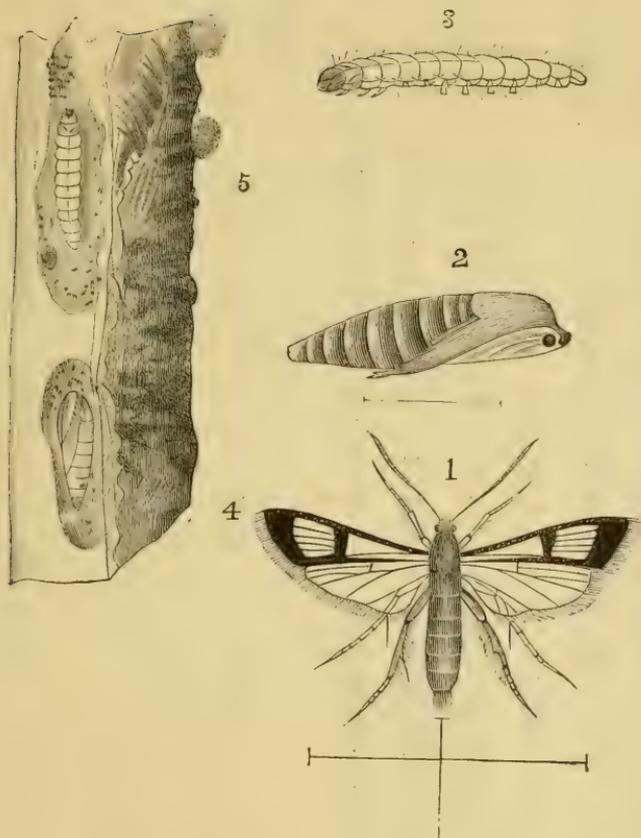
こすかしは

(1) 成蟲

(2) (4) 蛹

(3) 幼蟲

(5) 被害の状
况



第百九十六圖 さまだころもうがり



は淡褐の部分ありて、此處に黒點を散在す、體長八分、
開張一寸五分、

幼蟲、淡褐にして少しく青みを帶ぶ、頭及び硬皮板
は赤褐、各節に九個乃至十個の暗褐紋ありて、背上の
前方にあるものは長楕圓にして横置せらる、體長一
寸二分。

經過 年一回の發生をなす、幼蟲の儘被害樹の樹皮下
に越年し、翌春其の材部を食害す、其住する處には常
に褐色の蟲糞を出だす、八月下旬に至り木屑若くは
蟲糞を交へたる繭を造り其内に蛹化す、九月上旬乃
至中旬に蛾化す、蛾は黄昏空中を旋轉し、其狀恰も蝙蝠に似たり。

驅除法 蟲糞を出だしたる處を鋭刀を以て割き其幼蟲を殺すべし、穴深きとき
は注入器を以て酢若くは石油を注ぎ込むべし、蛾化すれば網を以て捕ふべし。

硝子蛾科

Sesidiace

塊をなして箱内の空隙、破目等に産下せらる。白色卵形にして數日の後孵化し各自臘内に穿入し、茲に筒様の巢を造り其内にありて食害す。幼蟲は三四週間にて老熟し窠内の隅角に至りて白繭を營み其内に蛹化す。蛹期は三四週間の出づる時期は一定せざれども普通八月の上旬なり、又食物及び其住居の地位により大に其成長に遅速あるを以て、往々幼蟲の有様にて越年するものあり。

驅除法 幼蟲の存在を發見したるときは臘框を取り出し檢視して幼蟲を殺すべし。蛾の飛翔するもの若くは靜止するものあれば網にて捕殺すべし。

豫防法 不要になりたる箱の孔を閉塞し蛾の發生するも外氣中に出づること能はざらしむべし。

蝙蝠蛾科 *Lepialidae*

一、きまだらこうもりが *Hepialus signifer* Wk. (第百九十六圖)

被害植物 桃・くさぎ。

特徴 成蟲 前翅は濃褐、三個の淡褐斜條を裝ひ、其兩側に黒點を散在す、内縁に

三) ばちみつが

Galleria mellonella L. (第九十五圖)

を造りて其内に住し、夜間若くは曇天に出て、食害す、八月上旬巢中に蛹化し、後一週間を経て蛾化す、其年内に成長を終りたるものは藁稈雜草間に蛹化す。驅除法、一反歩に付八合乃至一升の石油を滴下すべし、蛾化すれば燈火を以て誘殺し、又晝間は網を以て掬ひ捕ふべし。

第百九十五圖 がつみちは



1 1

被害物 蜂蜜、臘、毛皮、羊毛。

特徴 成蟲 前翅灰褐、黒褐色の鱗毛を散在し、特に後縁に於て多し、翅の中央並に外縁は少しく淡色、翅端に近く四條の短から灰白線を斜走す、後翅は灰白、翅端は少しく暗色を帶ぶ、體は灰褐、觸角の基節下は白色、體長四分五厘。開張一寸乃至一寸二分。

幼蟲 黃白色、頭は赤褐、第一節の中央に二個の淡黃

紋を裝ふ、體は少しく平たく、横皺は割合に深く、頭及び初めの兩節に褐毛を粗生す、體長八分乃至九分。

經過 年一回乃至二回發生し、普通蛹の有様にて越年す、蛾は翌春現はれ、卵は一

三つとが (つとむし、又すむし) *Ancylolomia chrysographella* Koll. (第百九十四圖)

驅除法 同前。

にあれども、翌春之れを辭し、草木の根邊其他落葉下に蛹化するものあり、蛾は燈火に飛來する性あれども、糖液には來たらざるものゝ如し、其飛翔力餘り強からず、晝間は稻莖若くは雜草間に棲止し、夜間飛行す。

被害植物 稻。

第百九十四圖 がつ



特徴 成蟲 形前種に酷似す、前翅外縁の中央は少しく弓狀に列られ、淡黃褐の細鱗を散在す、外縁は殆んど白色、之に二個の褐紋を裝ひ、其内側に褐色の波狀線を横走す、後翅は黃白、下唇鬚は下方に突出す、體長三分乃至四分、開張八分乃至九分。

幼蟲 體黃褐、頭及び硬皮板は黒色、背線亞背線氣門上線及び下線は紫褐色、黃褐毛を粗生す、體長八分乃至九分。

經過 年二回稀れに三回の發生をなす、蛹の有様にて越年す、翌春五月頃蛾化し、次で莖葉に産卵す、幼蟲は根際より二三寸の處に絲を以て葉を綴り、筒様の巢

特徴 成蟲 前翅は畧長方形にして灰黃褐の細鱗を散在す、外縁には縦皺多く

雄にては六個、雌にては七個の黒褐點を横列す、下唇鬚は甚だしく延長して長さ頭に三倍す、體長三分五厘乃至五分、開張八分乃至九分。

幼蟲 體は黃白若くは灰黃背線、亞背線及び氣門線は淡褐、此の中背線最も細く、氣門線は甚だ判然せず、氣門は黒色、中央は白色、頭は黃褐、硬皮板は淡褐、各節に八個乃至三十個の褐小疣あり、體長八分乃至九分。

經過 年二回の發生をなす、幼蟲の儘越年し、翌春蛹化し次で蛾化す、極薄の白繭

を被る、蛹期は十一二日、葉の表面に産卵す、卵塊内の卵數は普通七八十個、一雌の總卵數四五百に達す、卵子は扁平楕圓鱗形に重疊せられ、初めは淡黃なれども次第に黃褐となり、孵化前は殆んど黒色に變ず、卵期は二週間内外、孵化すれば葉腋より蝕入して莖内に入り、髓部を食害す、ために養液の上昇を斷ち、所謂白枯稻を生ず、此の幼蟲下降して水邊の莖部を食す、幼蟲期は大凡五十日内外、老熟すれば莖中に蛹化す、第二回の蛾は九月に涉りて出て、其卵子より成長せる幼蟲には、深く切株に入りて越年するものと、稻莖に残りて傳播せらるゝものとあり、何れも翌春蛹化し次で蛾化すること前述の如し、尤も冬期は切株内

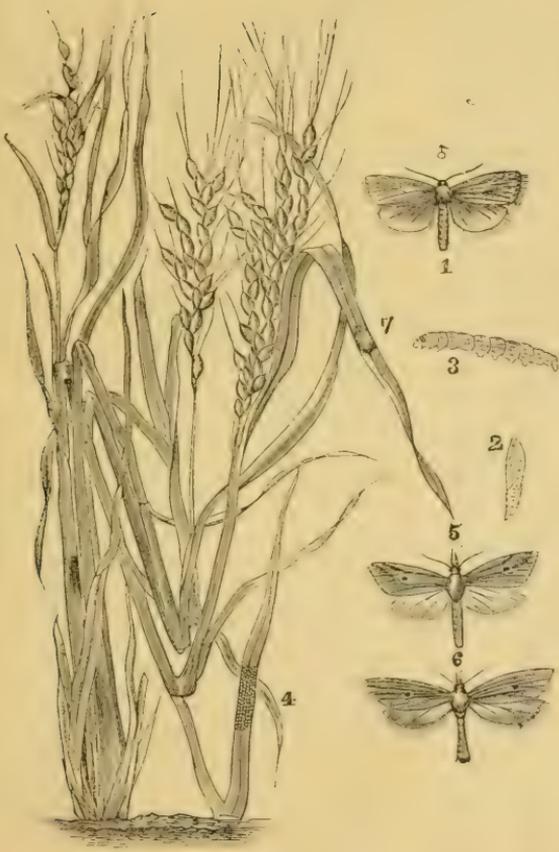
經過 前種に酷似す。

驅除法 同前。

三、めいが (めいちょう、二化螟蟲) *Chilo simplex* Butl. (第百九十三圖 (1)(2)(3))

第百九十三圖

- (1)めいが(雄)
- (2)同蛹
- (3)同雄蟲
- (4)同卵塊
- (5)いつてんおほめいが(雄)
- (6)同雌
- (7)同卵塊



被害植物 稻・甘蔗・蘆粟科。

葉上に産卵する性あれども、第二回殊に第三回に至りては、成るべく嫩軟なる葉を擇みて産卵する性あり、一卵塊は普通三十前後の卵よりなる。

驅除法 蛾發生の時期を見計らひ、晝は網を用ひ、夜は燈火を以て捕ふべし、苗代の時殊に注意して卵塊を搜索すべし、白枯稻は成るべく注意して抜き取り、其の中に蟄居せる幼蟲を殺すべし、幼蟲は冬期間切株内に栖息するを以て株を掘り起して深く土中に埋没するか、若くは隔離して蛾の發生を防ぐべく、且切株を截斷して其の内に蟄伏せるものを殺すべし。

五、ひとすぢおほめいが *Schoenobius lineatus* Butl.

被害植物 稻。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、其の異なる所は、雌の前翅端より後縁の中央に黄褐の一條を斜走し、中央の黒褐點は大にして長橢圓形なり、外縁には七個の黄褐小點を列ね、後翅は全體白色、雄は褐色點を密布し、中央點は小にして圓く、斜條は太く翅端にて判然す、外縁の褐點は判然せり、體長公三三分乃至五分、五厘開張七分三厘、乃至八分五厘。

幼蟲 前種に酷似す。

倍液を灌注すべし。

八、いつてんおほめいが (三化螟蟲、さんくわめいちう) *Schoenobius bipunctifer* Wlk.

第九十三圖(5)(6)(7)

被害植物 稻・甘蔗・蘆粟

特徴 成蟲 體翅淡黃白、前翅三分の一の處に黑褐の一點を裝ひ、外縁は三角形

をなして突出す、雄は暗褐の小點を散在す、體長三分乃至三分五厘、開張七分乃至八分二厘、

幼蟲 體は灰黃、少しく青色を帶び、背線・亞背線及び氣門線は判然せず、頭は灰褐、兩側に各二條の白色縦線を走らす、硬皮板は二双の横紋となり淡褐なり、體長七分乃至八分

經過 年三回の發生をなす、幼蟲の儘越年し、翌春蛹化し、次で蛾化す、蛹は二化螟蟲に酷似すれども少しく厚き白繭を被る、蛹期は二週間内外、葉の表面に産卵す、卵は灰黃、卵塊の形狀は穹狀に隆起せる長楕圓にして、母蟲の體毛を以て被はる、卵期は一週間乃至二週間、幼蟲は二十日前後にて四回の脱皮を終へ次で蛹化す、第二回の蛾は六七月、第三回は八九月、第一回の蛾はなるべく長大なる

四分開張七分乃至九分。

幼蟲 體初めは白色、老熟すれば暗褐、頭及び硬皮板は黒褐、體の處々より淡褐の短毛を生ず、體紡錘狀にして、第六、第七、及び第八環節最も太く、胸脚黒褐、腹脚及び尾脚は疣狀に退化す。

經過 年二回發生す、第一回は七月中旬、第二回は九月下旬乃至十月に跨る、第二回の蛾は扁平楕圓の黒色卵子を樹枝に産し、白色の絹絲を以て之を被包す、其の數二十乃至八十個あり、卵子は越年し、翌春六月上旬に至りて孵化す、幼蟲は稚果を求めて離散し、各一果に蠹入す、果柄は常に絹絲を以て纏絡せらるゝがため落下することなし、約二週間を経て蛹化す、被害の梨果は常に黒褐の蟲糞を出だすを以て容易に其存在を認め得べし、一果より他果に移り、時に數顆を害することあり。

驅除法 冬季若くは早春、樹枝下にある卵塊を採集すべし、注意すれば容易に發見することを得るものなり、蟲糞を出だせる果實は摘棄し健全なるものには紙袋を被ひ置くべし、梨果の櫻桃大となりたる頃、亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし、又孵化したる幼蟲の果實を求めて離散する時期を見計ひ石油乳劑の二十

第九百九十二圖

なしまだらめ

いが(なしの

しんくひ)

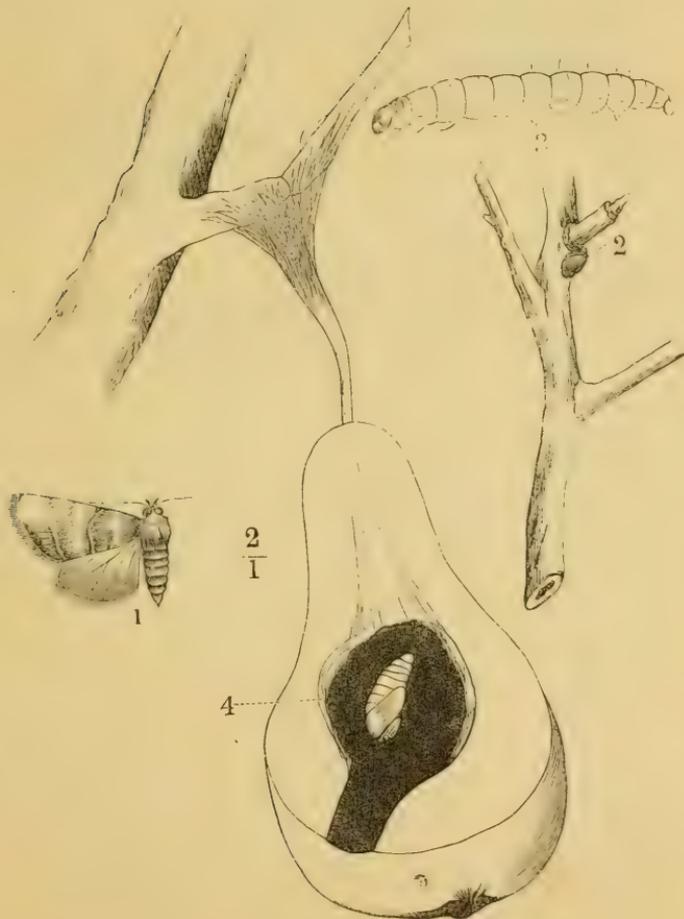
(1)成蟲

(2)卵子

(3)幼蟲

(4)蛹の果中
にあるもの

尙此の二黒線の中間に一個の短黒線あり、之れより往々細線の内側に達することあり、此の外尙内線の中央及び外縁に近く黒色の點線あり、體長三分乃至



の内側は黒く、外縁に數多の小黒點を列ね、縁毛には白色を混ず、翅底は灰白、體長三分、開張七分五厘。

幼蟲 體暗褐若くは暗灰色、頭黑色、硬甲板黑褐、其兩側に黑褐紋あり、各節十二個内外の小黒疣を散在し、第二節の兩側にあるもの大なり、各一本の短毛を生ず、胸脚は黑色、常に蛇様の巢中にあり、體長七分。

經過 年一回の發生をなし、幼蟲の儘越年す、翌春綿様の絹絲を以て稚葉片を纏めて管狀の巢を造り、其中に住す、又暗色の物質にて蛇形様の管巢を造り、之れを小枝に固着し、晝間は其中に住し、夜間出て、食害す、六月下旬乃至七月上旬老熟し、巢中に蛹化す、蛹赤褐、尾端黑褐、蛹期は二週間、蛾は七月中旬乃至下旬出でて、葉下に一個宛産卵す。

驅除法 蛇様の巢を捕ふべし、蛾化したる時は燈火を以て誘殺すべし。

(七) なしまだらめいが *Nephopteryx privorella* Mats. (第百九十二圖)

被害植物 梨果。

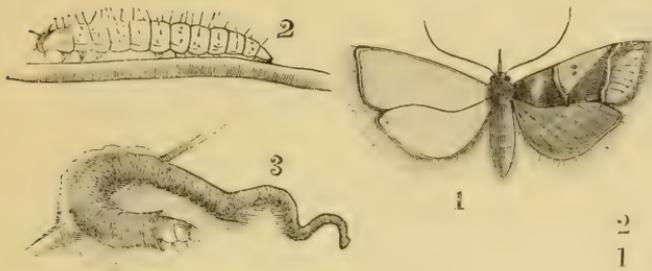
特徴 成蟲 前翅灰褐若くは灰黒、二個の細き黒横線ありて翅を三分す、外縁に近き黒線は其の外側に、翅底に近き黒線は其の内側に各一條の灰色線を有す、

第百九十一圖

つつまだらめ

いが

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- 3. 幼蟲の筒



縞の三角紋ありて其外側は白色、前線の中央に近く三角形の大黒紋あり、中室に近く短き黒横紋を具へ、波状線は判然し、其外側は灰白なり、前種に酷似すれども翅廣く形少しく小なり、體長二分五厘、開張六分。

幼蟲 前種に酷似す。

經過 年一回の發生をなす、前種と異なり

個々葉を捲きて食害す、七月上旬蛹化し、七月中旬乃至下旬蛾化す。

驅除法 同前。

(六) つつまだらめいが *Aerobasis Phycita* Indig-

onella Zell. 第百九十一圖

被害植物 苹樹・梨・櫻・李・桃。

特徴 成蟲 前翅灰黒、中央に三角形をな

せる大灰色紋ありて、其二邊は黒色、翅底に近き一邊の内側は白色、三角紋の中央に更に二個の黒點あり、波状線は白色、其

三分、開張七分。

幼蟲 體は赤褐若くは暗褐にして、少しく紫色を帶ぶ、頭の中央に黄色の縦條ありて割合に長さ黄褐毛を裝ふ、胸脚黒褐、體長七分。

經過 年一回の發生をなす、幼蟲の儘枝上に枯葉を附着し其内に越冬す、翌春新芽に蠹入し、芽の開綻と共に葉を捲きて食害す、稍々成長するに至れば數匹相混じ絲を以て枯葉を纏めて堅牢なる巢を作り、各自其出入孔を有し之れより頭を出して食害す、老熟すれば、巢内に灰白の絹絲を吐き、薄繭を作りて其中に蛹化す、蛹は赤褐、七月上旬蛾化す。

驅除法 冬季枝上に一枚の葉を附着せるものは幼蟲の越冬するものなるを以て除却すべし、枯葉を纏めたるものは其巢なれば之れを採りて摘殺すべし、七月上旬燈火を以て蛾を誘殺すべし。

(三) なしもんくろまだらめいが *Rhodopnea bellulella* Rag.

被害植物 苹樹・梨。

特徴 成蟲 前翅灰白、黒褐の小點を密布す、翅端に黒紋を列ね、翅底の下半は赤褐、其外側に黒横線あり、上半は灰白、暗色の小點を散在す、後縁の中央に近く赤

蟲はこゝろがに同じく二三十の穀粒を絹絲にて綴り、充分成長すれば薄き灰色の繭を造り、其の内に蛹化する、第二回の蛾は八九十月に亘りて出づ。

驅除法 二硫化炭素を被害物の上に灌注し、後毛布を以て之を蔽ひ置くべし、又害虫は穀粒を纏め其中に在るを以て篩にて選び分くべし、蛾發生の時期を見計ひて燈火誘殺法を行ひ、尙硫黄を以て燻殺するも可なり。

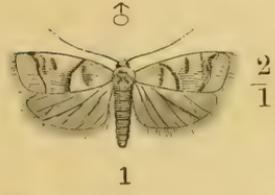
(四)なしはまきまだらめいが (なしはまきが) *Khodophaea hollandella* Racc.

(第九十圖)

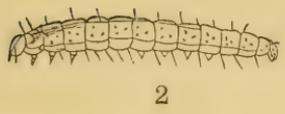
第九十圖

なしはまきま
だらめいが

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 巢中の蛹



2/1



2/1



3

被害植物 梨。

特徴 成蟲 前翅黒

褐、少しく灰色を混

じ、翅底に近く後縁

に接して赤褐の大

紋あり、中央には濃

色の長紋ありて、波

状線は灰白色、體長

速あり。

驅除法 同前。

三) こめのしまめいが (こめのくろむし) *Aglossa dimidiata* Haw. (第百八十九圖)

被害物 同前。

特徴 成蟲 前翅は黄褐前縁には黄色の小紋を連ね、中央には判然せざる濃色紋を具へ、尙外縁に近く犬牙状をなせる濃色の波状線あり、後翅は灰黄、暗色の

第百八十九圖

こめのしまめ

いが

(こめのくろ

むし)

(1) 成蟲

(2) 幼蟲

(3) 被害状況



2/1



1/1



1/1

大き二帯あり、體長三分乃至四分五厘開張八分五厘乃至一寸。

幼蟲 體は黒褐、頭赤褐、硬皮板黄褐、初めの三四節に黄紋ありて之れより一二本の黄毛を出だす、各節に横皺多く長毛を粗生す、體長七分五厘。

經過 年二回の發生をなし、幼蟲の儘越年

す、翌春蛹化し、次で蛾化す、蛾は穀粒其他の食物に産卵し、之れより孵化したる幼

す、後翅は前翅より少しく淡色、灰白色の二横帯あり、體長三分、開張七分。

幼蟲 灰白、頭は赤褐、硬皮板は淡色、粗き二長毛あり、次の種類と略同様なり。

驅除法 穀粉種子等を害する場合には二硫化炭素を用ふべし、之れを豫防するには清潔なる場所に置き、食物以外のものには那不多林若くは樟腦を入れ置くべし。

三、くわしのしまめいが *Pyralis farinalis* L.

被害物 同前。

特徴 成蟲 黄褐、前翅底及び翅端は赤褐、中央は黄褐にして、少しく青みを帯び、其兩側は灰白の横條にて界せらる、但し外側にあるものは中央にて甚だしく彎曲す、後翅灰色、二條の白色帯を具へ、後縁に大なる褐紋を列す、體長二分五厘、開張八分。

幼蟲 體は白色、兩端少しく暗色を帯ぶ、頭は赤褐、短毛を粗生す、體長五分。

經過 年四回の發生なるも、時に五回以上に達することあり、幼蟲は絹絲にて食物片を綴り長き管狀の巢を作りて、之れに住し食害す、老熟すれば巢を離れて、一種の繭を營み其内に蛹化す、蛾の發生期は不定にして食物の如何により遅

體長四分五厘乃至五分。

經過 年二回發生、幼蟲の有様にて越年す、第一回は五月下旬、第二回は七月下旬乃至八月上旬、蛾は稻葉に産卵す、卵は淡黄、半透明、三四個葉面に並列す、卵期は十日内外、幼蟲は稻葉を縦に捲き絲を以て兩側を綴り、其内にありて葉肉を食害し、葉は爲めに白色を呈するに至る、蛹は黄褐、尾端に鈎狀の五小刺あり、常に紙様の薄繭内にあり、長さ二分五厘。

驅除法 蛾は燈火に集來する性あるを以て誘蛾燈を用ふべし、又晝間は掬網を以て稻葉に靜止する蛾を捕ふべし、幼蟲は葉を縦に捲くを以て、指にて素扱き殺すを可とすれども、甚だしく害をなすものにあらず。

213
二ふたすぢしまめいが *Herania chuninalis* Tr.

第一百八十八圖

ふたすぢしま

めいが



被害物 穀物種子、脂肪、乾酪、菓子、其他動植物性の

標本

特徴 成蟲 體翅は淡灰褐、前翅の前縁は赤褐、中

央に黄紋を列す、二個の白横線ありて翅を三分

(第一百八十八圖)

いねのはかじ (たてはまき) *Brachmia admixtalis* Wlk. (第百八十七圖)

21 被害植物 稻。

第百八十七圖

いねのはかじ



特徴 成蟲 前翅は黄白、光線の工合にて少しく紫色を現はす、紋條は黒褐なり、前翅は稍々三角形にして翅底に短き縦線を走らし、其外側に細き横紋あり、之れは中央にて鋭角をなして屈折す、翅の中央には一個の楕圓紋ありて、其下方より判然せざる横線を送

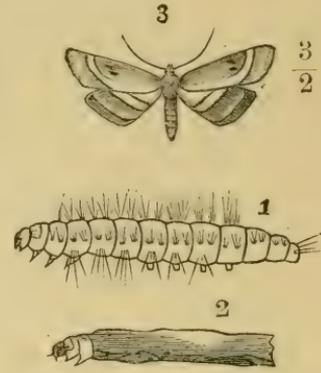
る、外線に近く細き横線を有し、波状線は暗色、之れより外線に至る迄及び前縁は灰黄、外縁線は黒褐、縁毛は二重なり、後翅は小、三條の横線ありて翅底に近き線中には圓紋あり、體は細長にして、觸角は鞭狀、眼は紫色にして大きく、下唇鬚は上方に彎曲し、口吻發達す、脚は細長く、前肢の基節長し、體長二分、翅の開張五分五厘。

幼蟲 黄緑、頭及び硬皮板は黄褐、各節背面の前半には一個、後半には二個の淡黄の楕圓紋ありて、之れより各一本の褐毛を生ず、又氣門の上下にも各一個、腹脚の基部に二個の同様紋を有し、之れより各一二本の短毛を生ず、背線は黒褐、

第百八十六圖

いねこみづめ
いが

- (一) 幼蟲
- (二) 幼蟲の筒
- (三) 成蟲



の横帯各二條あり、翅底及び中央には
 小黒點を散在す、後翅底は白色、中央に
 二條の黒横線を具へ、後縁の半部は黄
 色、其中央に銀色帯を装ひ、外側に細き
 黒色の波狀線あり、體長二分開張五分
 五厘。

幼蟲 體は淡灰色、頭部は淡褐及び黒

褐の小點を密布す、硬皮板は半月形にして之れに濃褐の點紋を散在す、脚は褐色、胸脚に長爪あり、第二節より第十二節に至るの間透明の刺毛あり、是れ一種の氣管支にして水中にある酸素を呼吸するに適す、常に一寸前後の麥穂若くは草莖内に生存す、體長七分。

經過 稻田に棲息し、巢中にありて頭部及び次の數節を出だし、巢を荷ひながら

水底の泥土を匍ひ廻り、或は水面に浮び出て、又は稻根に集りて其軟かき鬚根若くは水中にある白色の部分を食害す、然れども大害をなさざるものゝ如し。

驅除法 水田の水を去り、石油乳劑に二十倍の水を混じて灌注すべし。

散在す、體長四分、開張九分五厘。

幼蟲 初めは白色、頭及び硬皮板は黒色、成長するに従ひ赤黄色となり、頭及び硬皮板は褐色となる、淡褐の疣狀紋を具へ、之れより一二の短毛を生ず、體長七分。

經過 年二回の發生をなす、第一回は六月、幼蟲の儘木の破れ目若しくは地中に越年し、翌春蛹化し次で蛾化す、蛾は桃果に約七八個の卵子を産下す、卵は赤色、被害の桃果は常に褐色の蟲糞を出だすを以て容易に其存在を認め得べし、其害の甚しきときは全果侵害せらるゝことあり。

驅除法 六月及び八月の二期蛾の發生を見計らひ網を以て捕へ同時に燈火誘殺法を行ふべし、又既に卵子を産下せる虞あらば、亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし、蟲糞を出だしたるものは盡く摘棄し、健全なるものには紙袋を蔽ひて其侵入を防ぐべし。

九、いねこみづめいが (ねくひつとむし) *Nymphula vitalis* Brem. (第百八十六圖)

被害植物 稻

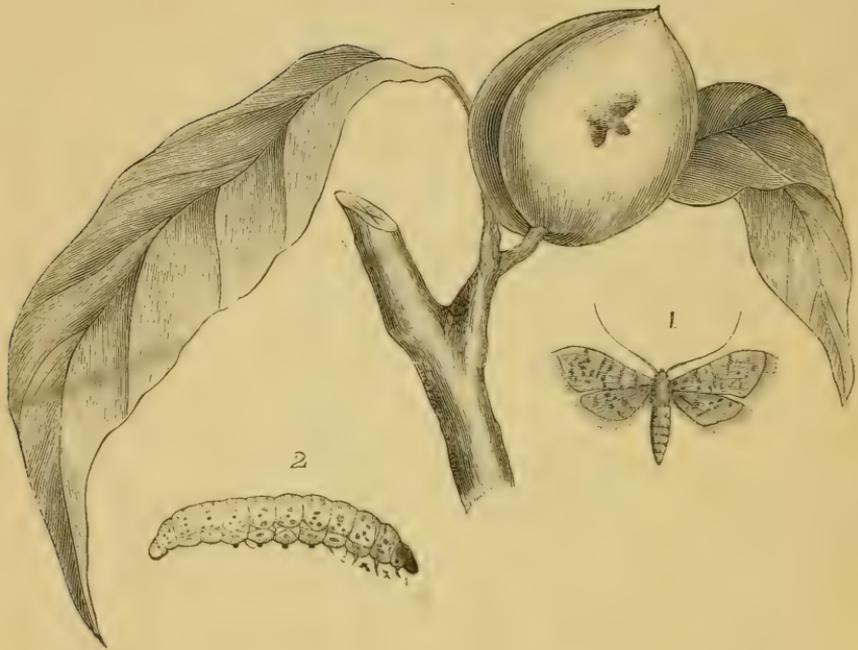
特徴 成蟲 體白色、中央に二黒點を裝ひ、其外側に弓狀をなせる黄色と銀色と

第八十五圖

ごまだらのめ

いが

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



(八)ごまだらのめいが

Diehocrrois (Astura)

punctiferalis Guen.

(第八十五圖)

被害植物 桃・栗柑

橘

特徴 成蟲 體翅

は黄色、前翅に二

十五六個、後翅に

十五個、胸部に五

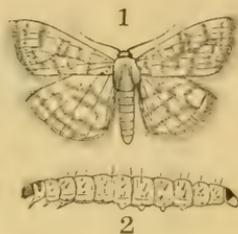
六個、腹部に十四

五個の黒褐紋を

第八十四圖

わたのめいが

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



被害植物 棉・葵・槿・芙蓉。

特徴 成蟲 翅は淡黄白、暗褐の紋條多く、光線

の工合にて紫色を現はす、翅底に三個の黒點

を備へ、半横線、前横線環狀紋及び腎狀紋は判

然す、腎狀紋の外側下方に一個心臟形の大紋

ありて、其上端より太き短線を前縁に走らし、下端よりは同様の短線を後方に送る、後翅には四横線ありて何れも多少屈曲す、體長四分五厘乃至五分、開張九分五厘乃至一寸。

幼蟲 體は黄綠、頭及び硬皮板は褐色、後者の前半は白色を帶ぶ、暗色の背線を皮膚下に透視し得べし、褐色の疣狀突起ありて之れより一二本の短毛を生ず、胸脚黒色、體長八分。

経過 年三回の發生をなし、幼蟲の儘越年す、翌春嫩葉開綻と共に出て、葉を捲きて食害す、五月中旬頃老熟し、捲葉中に蛹化し、五月下旬蛾化す、第二回の蛾は七月上旬、第三回は八月中旬に出づ。

驅除法 蛾發生の時期を見計らひ、棉圃に至り網を以て捕獲すべし、又燈火を以

帶(此れは内側に犬牙状の突起を装ふ等は褐色、後翅は白色半透明、翅底に近く一個の長褐紋あり、外縁後縁は廣く褐色を呈し、其中央に斷續せる白色帶あり、體長三分五厘、開張八分五厘。

幼蟲 前種に酷似す。

經過 前種に酷似す。

驅除法 同前。

六、わたくろへのりのめいが (*Hyphodes (Phaenolha) indica* Saund. 第一百八十三圖)

被害植物 棉、葵、樅。

32

第一百八十三圖
わたくろへのりのめいが



特徴 成蟲 體は暗黒、腹部は白色、第六及び第七節は暗色、尾節は黄色にして雄にては刷毛様の毛塊あり、翅は白色半透明、前翅の前縁外縁並びに後翅の外縁は廣くして暗黒、少しく紫色を帶ぶ、脚は白色、體長四分、開張八分。

幼蟲 半熱帶地方に普通なる種類なれども、余は未だ其幼蟲を知らず。

七、わたのめいが (わたはまさ) *Styloptu (Botys) multinealis* Guen. (第一百八十四圖)

蛹期は長くして二週間に亘る、卵子は葉裏に疎らに産下せられ、幼蟲は絲を以て葉を捲き、其中にありて葉緑層を食ひ唯だ表皮を殘留す、幼蟲期は二週間に外、老熟すれば捲葉中に白色の薄繭を造り、其中に蛹化する、第二回の蛾は七月中旬、第三回は九月上旬、第四回の幼蟲は老熟後桑樹の空隙に入り、薄繭を營みて越年す

驅除法 蛾の發生する時期を見計ひ、燈火を以て誘殺すべし、又桑樹を動搖して、其飛翔するものを網を以て捕獲すべし、捲葉を採り、其中の幼蟲を捕殺すべし、亞砒酸鉛の溶液を散布すべし。

(五) **すかしのめい**が *Glyphodes pyret. Bntl.* (第百八十二圖)

被害植物 桑

第百八十二圖
すかしのめい
が



特徴 成蟲 體灰白、前翅白色、少しく藍色を帶ぶ、

翅底の楕圓紋、其外側にある横帶此れは前縁にて翅底より出て來たる一線と相合す、中央の横紋、此の下に眼狀紋あり、翅端に近き弓狀帶此れは彎曲して中央紋と相合す、及び翅端の太き横

物を集めて焼き棄つべし、蟲糞を出させる豆莢を採りて其中の蟲を捕殺すべし。

(四) くはのめいが (くはのすかしはまさ、くはのすさむし) (Glyphodes pyralis Wk.)

(第百八十一圖)

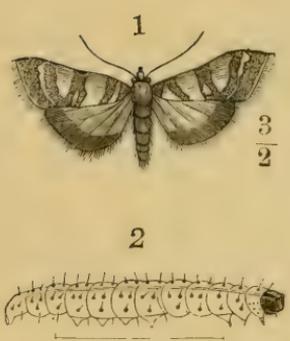
被害植物 桑。

特徴 成蟲 前翅は白色透明、少しく紫色を帯び、前縁後縁、翅底、翅の中央及び外縁は暗褐、後者の内側に銅色の太き横線ありて相平行せり、又中央にある太き横帯の下方に一個の眼状紋あり、後翅の外縁は太く暗褐なり、軀長三分五厘、開張八分。

第百八十一圖

くはのめいが

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



經過 年四回の發生をなす、幼蟲の儘越

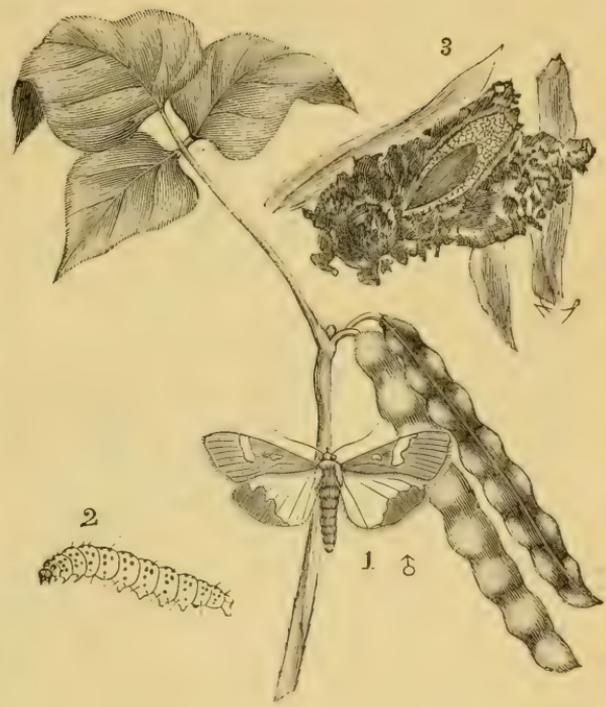
年す、翌春蛹化し次で蛾化す、第一回の

幼蟲 軀は淡綠色、頭及び硬皮板は褐色、後者の背上に二個の黒紋あり、胸脚は褐色、黒色の疣状突起あり、軀長七分五厘。

第百八十圖

まめのめいが

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 蛹



經過 蛹の儘越年

するものと蛾の
 儘越年するもの
 とあり、七月より
 九月に亘りて小
 豆菜豆の莢中に
 蠹入して大害を
 加ふ、之れに侵さ
 れたる豆莢は褐
 色の蟲糞を出だ
 すを以て容易に

其存在を認め得べし、老熟すれば地上に下り、葉片を纏めて粗繭を造り其中に
 蛹化する、八九月頃に蛹化したるものは年内に蛾化すれども、遅く蛹化せるもの
 は其儘越年す、年一回若しくは二回の蛾を生ず。

驅除法 九十月の候蛾の發生するを待ち網を以て捕ふべし、收穫後は豆圃の遺

經過 幼蟲の儘越年し、翌春蛹化す。蛹期は二三週間、蛾は一塊をなせる白色鱗状の卵子を葉裏に産下す。初めは稈の軟かき部分を食害し、成長するに従ひ莖に孔を穿ち、之れより褐色の蟲糞を出だす。八月頃に至りて老熟し、稈中に薄繭を造り、其中に蛹化し、次で蛾化す。蛾は卵子を産むこと前の如し、之れより孵化し來る幼蟲は年内に老熟し、根に下り切株内に在りて越年す。

驅除法 六月頃葉の裏面を注意して其卵塊を採るべし。幼蟲は糖液に集まる性あるを以て誘殺すべし。蟲糞を出せる稈若くは白枯せる莖稈は根より刈り取り、其中に潜伏せる幼蟲を殺すべし。又蛾化せる時を見計ひ網を以て捕ふべし。

三、まめのめいが (まめのさやむし) (*Maruca testulalis* Gev.) 第一百八十圖

被害植物 小豆、菜豆

特徴 成蟲 前翅は暗黒、光線の工合にて紫色を現はす。前縁は暗褐、中央に二個の白色透明紋あり、外方にあるものは大なり。後翅は白色半透明、外縁は暗黒、體長四分五厘、開張一寸。

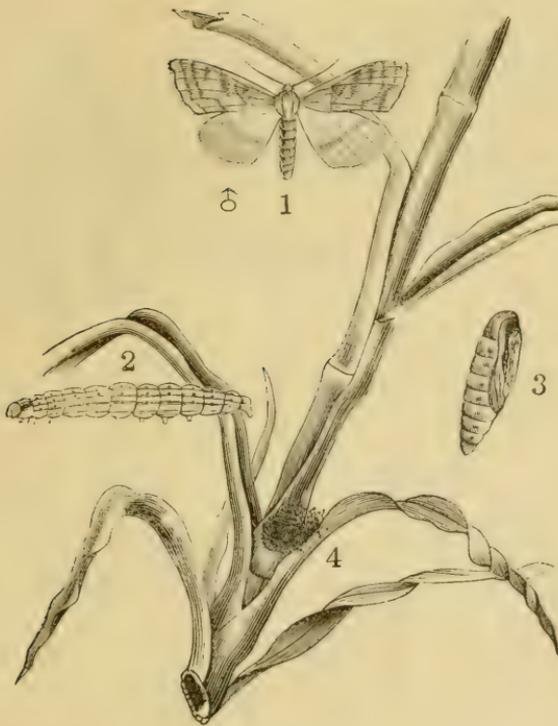
幼蟲 體は淡黃、頭は淡褐、硬皮板は黒褐、疣狀突起多く、之れより一二本の短毛を生ず、體長一寸。

被害植物 粟大麻藍?

特徴 成蟲 前翅黄色、外縁は黄褐、環状紋、腎状紋、前横線及び波状線は判然す、波状線は犬牙状をなして殆んど後縁の中央に至る、中央は黄褐なれども淡黄を帯ぶるものあり、體長五分、開張八分乃至一寸。

第一百七十九圖
あはのめいが

- (1) 成蟲雄
- (2) 幼蟲
- (3) 蛹
- (4) 被害の狀



幼蟲 體は灰黄

乃至淡褐、頭及び硬皮板は褐色、背線は暗色にして明瞭なれども、亞背線及び氣門線は判然せず、淡褐の瘤状突起ありて之れより一本の短毛を生ず、體長九分。

少しく尖り、色は暗黄にして光澤を有し、中央に二條の暗褐横線ありて翅底に近き一線は前縁に出づ、此二線の間は暗黒の一點あり、尙外縁に近く不明の一線を走らすことあり、後翅は光澤ある淡黄、外縁に近く一條の暗褐横線あり、縁毛は長し、翅の裏面は淡黄、前翅に二紋と一横線あり、體は淡黄、眼は黒綠、觸角は淡褐、體長四分、開張九分。

幼蟲 黄綠、頭第一節及び尾節の硬皮板並に胸脚は黒色、背線及び各節に於ける疣狀突起は黒色、各一本の黒毛を生ず、亞背線の部分少しく暗色を呈すれども判然せず、又白線を有するものあり、氣門は白色、體長八分五厘。

經過 年二回發生、幼蟲の儘越年し、翌春蛹化す、蛹は紡錘狀にして黒褐、頭は稜柱狀をなして突出し、各環節の末端は隆起し、腹背には齒列を具へ、尾端に鈎狀の附屬物あり、六七月頃蛾化す、蛾は數多の卵子を葉下に産す、此の總卵數四五百なり、第二回の蛾は八九月頃現はる。

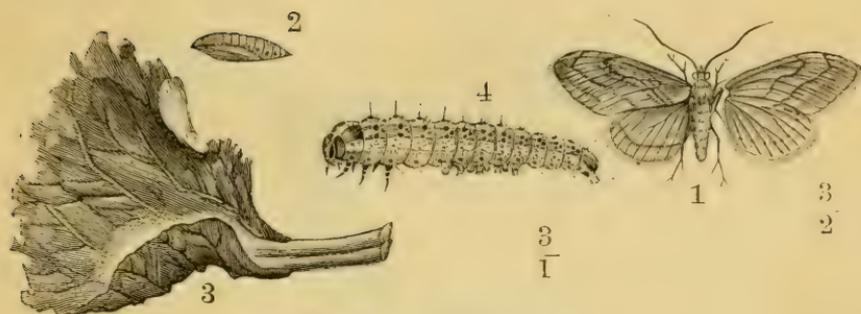
驅除法 幼蟲には二十倍の石油乳劑を用ふ、蛾は晝間は食草の葉下に靜止するものなれば、網柄にて拂ひ、其飛翔するものを捕殺すべし。

(二) あはのめいが (あはのずむむし) *Pyrausta (Botys) nubilalis* Hb. (第百七十九圖)

第一百七十八圖

なのめいが

- (1) 成蟲
- (2) 蛹
- (3) 幼蟲
- (4) 被害の狀



幼蟲 黄綠、頭褐色、瘤狀突起ありて之れより三本の灰毛を生ず、體長三分五厘乃至四分。

經過 幼蟲は五月頃芽及び蒼を食害す、六月上旬蛹化す、蛹は背上に二列の突起を装ひ之れより刺毛を出す、蛾は八月中旬に出づ、其害大ならず。

驅除法 石油乳劑に二十倍の水を加へて灌注すべし。

螟蛾科 *Pyralidae.*

一、なのめいが *Pionea forficulis L.*

(第一百七十八圖)

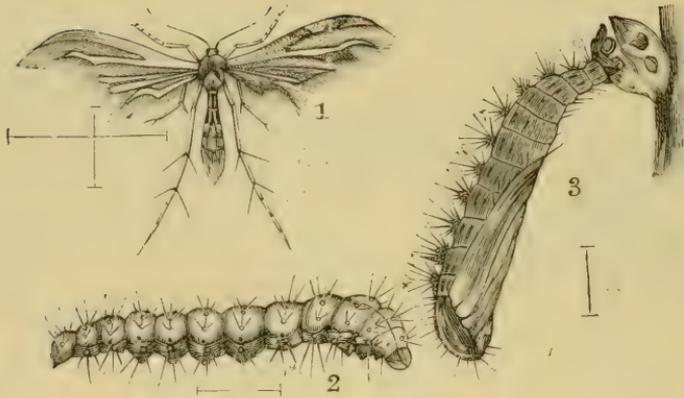
被害植物 蘿蔔、其他十字科植物。

特徴 成蟲 前翅は三角形にして前縁角

狀紋を散在し、之れより一本の灰色毛を生ず、胸下及び腹脚は灰白、腹部黒色、體長七分乃至八分。

第百七十七圖
まだらとりば

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 蛹



經過 同前。
驅除法 同前。

烏羽蛾科 Pterophoridae.

一、まだらとりば *Alucita (Aciphtia) vilis* Pntl.

Alucita (Aciphtia) vilis Pntl.

(第百七十七圖)

被害植物 藕菜豆 フヂヤメ

特徵 成蟲 翅灰黄、前翅は二枚に分れ、前翅の中央に二個の暗褐紋あり、後翅は翅底より三分す、體暗

黄、腹部に褐紋あり、體長二分五厘

乃至三分開張七分乃至七分五厘。

形、前半は黄褐、後縁は黒色、背線は濃色、亞背線は灰黄、體長八分。

經過 幼蟲の儘枝上に越年し、翌春新芽に蠹入し、又蕾を喰ふ、六月下旬蛹化す、蛹は黒褐、蛾は七月上旬に現はる。

驅除法 同前。

三、あときはまき Archips (Cicuceria) asiatica Wals. (第一百七十六圖)

被害植物 萃樹・櫻。

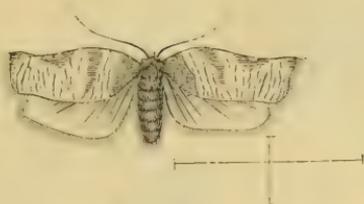
特徴 成蟲 體黒褐、翅黄褐にして網目様の濃色

紋あり、翅底に三個の細き横條を裝ひ、後縁は黒褐、中央に黒褐の太き斜條あれども後縁にては判然せず、前縁の中央に近く大なる三角形の濃色紋ありて、之れより細き二三條の横線を出す、

翅端は突起して少しく曲り、稍々濃色を呈す、雄

第一百七十六圖

あときはまき



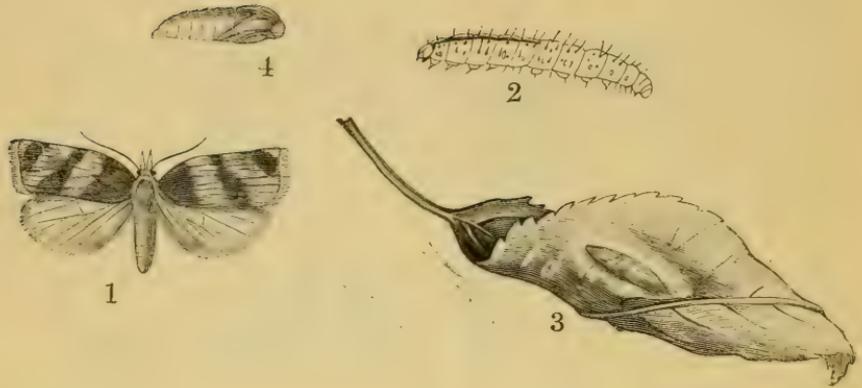
にては中央の斜條細し、後翅の前半は美麗の黄色、後半は暗色、體長二分三厘乃至三分、開張七分乃至八分。

幼蟲 體は暗灰色若くは暗緑、頭及び硬皮板は褐色、背線は暗緑、全面灰色の疣

第七十五圖

りんごばまき

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 繭
- (4) 蛹



りんごばまき Archips (*Cacaeia*) *rosana* Harr.

(第百七十五圖)

被害植物 苹樹・梨。

特徴 成蟲 黄褐なるものと、灰褐

なるものとあり、前翅の中央にあ

る濃色の斜條は太く、後縁に至つ

て稍々四角形に増大す、此斜條の

兩側は一層濃色なり、翅底は濃色、

其外側は波狀線にて界せらる、外

縁に近く細き横條ありて、前縁に

て三角形の斑紋と相接續す、此等

紋條の判然せざるものあり、體長

三分、開張八分乃至九分。

幼蟲 褐色、黄褐、黄綠等の諸色あ

り、頭褐色、黒紋あり、硬皮板は半圓

110. くはいとひきはまき

Archips (Cacaecia) orthaegma Hb. (第一百七十四圖)

驅除法 同前。

被害植物 桑。

第一百七十四圖

いとひきはまき



特徴 成蟲 體翅褐色、前翅に二條の太き濃色帯あり

て、一は中央を斜走し、後縁に至りて廣まる、一は外縁にありて稍々三角形をなし大なり、雄にては此の二

條は後縁にて相合し、翅底は濃褐なり、體長二分乃至三分五厘、開張六分乃至八分。

幼蟲 暗黄にして少しく青みを帶ぶ、頭及び硬皮板は黒褐、各節に黒色の疣狀紋を散在し、之れより各一毛を生ず、體長八分。

經過 年一回の發生、卵子の有様にて越年す、翌春孵化し、新芽に蠹入して大害をなす、卵は一塊をなして枝下に鱗狀に産下せられ、其數九十内外あり、初めは白色なれども後黒色となる、常に膠質物を以て蔽はる、蛾は六七月頃現はる、蛹は黒褐、葉を捲き其内にあり。

驅除法 同前。

四個の細き斜條あり、一は翅底に近く、中央にある二個は相接近し、其内方にあるものは前縁に近く、外方にあるものは中央にて屈折す、此の二條の間室は地色より遙かに濃色なり、外縁にある一條は弓形をなし、其前縁の外側は少しく濃色、體長四分、開張一寸乃至一寸二分。

幼蟲 體は暗灰色、頭及び胸脚は黒色、第一節及び腹脚は黃褐、全面灰白の斑紋を散在す、體長八分。

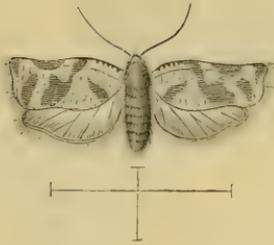
驅除法 同前。

九、かくもんばまき Archips (Macaein) xyrosteama L. 第七十三圖

被害植物 苹樹櫻。

第七十三圖

かくもんばまき



特徴 成蟲 前翅黃褐、褐紋あり、翅を疊むと

きは四角様の斑紋を現はす、故に此名あり、

翅の中央に判然せる褐色の一横帯を裝ひ、

此帯は後縁角の方向に斜走す、翅底の前縁、

内縁の一紋及び外縁の三角紋は褐色なり。

經過 同前。

特 徴 成 蟲 頭 及 び 前 翅 は 帶 褐 橙 黃 色、前 翅 に 三 個 の 鉛 色 横 紋 ありて、翅 端 に 近

きものは弓狀に曲り、時に中條と相合することあり、外縁は鉛色、體及び後翅は暗色、體長三分乃至三分五厘、開張七分五厘乃至八分五厘。

驅除法 同前。

(モ) りんごひめはまき Archips (Cacaecia) Iritana Christ.

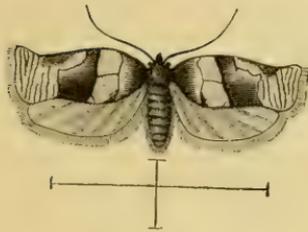
被 害 植 物、 苹 樹。

特 徴 成 蟲 前 翅 は 黃 褐、中 央 の 太 き 斜 横 條 及 び 前 縁 の 一 紋 は 濃 褐、翅 に 此 他 判 然 せ ざる 五 六 個 の 濃 色 横 條 を 裝 ひ、翅 端 に は 同 色 の 二 紋 ありて 細 線 を 前 縁 に

送る、後翅灰色、頭及び前胸は黃褐、腹部暗灰色、體長二分五厘、開張五分。

第 百 七 十 二 圖

りんごおほはまき



驅除法 同前。

(ス) りんごおほはまき Archips cucuacina sorbiana Hb.

被 害 植 物 苹 樹・櫻。

成 蟲 體 翅 黃 褐、腹 部 及 び 後 翅 は 暗 褐、前 翅 に

(第 百 七 十 二 圖)

特徴 成蟲 前翅は褐色、中央に判然せざる細き濃色の斜横線あり、雄にありて

は前縁に一個の濃褐紋あり、體長二分乃至二分五厘、開張六分乃至七分。

幼蟲 全體綠色、背上は内容のために暗緑を呈す、疣狀突起は甚だ小にして黒色、頭及び硬皮板は黒褐、體長六分乃至七分。

驅除法 同前。

(五) おほぎんすぢばまき Archips (Cucuecin) 5-fasciata Mats.

被害植物 萃樹・櫻。

特徴 成蟲 前翅底の三分の二は黒褐、帶褐橙黄色の鱗毛を散在す、末端は帶褐

橙黄色、約五個の鉛色横紋あり、其中三個は短くして前縁にあり、尙黒褐の部分

に鉛色紋あれども判然せず、體長二分五厘乃至三分、開張七分五厘乃至八分。

驅除法 同前。

第百七十一圖
おほぎんすぢ
ばまき



(六) おほぎんすぢばまき Archips (Cucuecin) circumclisana

Christ. (第百七十一圖)

被害植物 櫻・桃・萃樹・梨。

第七百七十圖

とびばまき

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



〔圖〕 さくらとびばまき *Prunella ribesna* Hb.

被害植物 櫻桃。

三) いしだばまき *Tortrix Ishidai* Mats.

被害植物 桑・苹樹。

特徴 成蟲 前翅黃褐、翅底の中央にある太き斜横線及び外縁の長三角紋は褐色、後翅は暗色、軀長二分、開張四分五厘乃至五分。

驅除法 同前。

三) とびばまき *Pandemis heparana* Schiff. (第七十八圖)

被害植物 苹樹・櫻。

特徴 成蟲 前翅褐色、翅底中央の太き斜横條及び前縁角に近き一紋は濃褐、翅底紋及び中央紋は黃褐の細線により境せらる外縁には濃褐の網狀紋あり、後翅灰色、體長三分、開張六分乃至七分。

幼蟲 淡綠、背線は灰色、灰白の疣狀突起ありて之より同色の一毛を生ず、頭及び硬皮板は光澤ある綠色、體長五分乃至六分。

經過 前種に同じく幼蟲の儘越年し、葉を捲きて食害す、蛹は細くして褐色、年一回の發生をなし、成蟲は六月下旬に出づ。

驅除法 同前。

線を斜走し、翅面を三分す、黄褐の網状紋多し、軀長三分、開張八分乃至九分。

幼蟲 全體綠色、各節の接合部は淡色、體に小疣狀突起ありて之れより一本の短毛を生ず、體長八分。

經過 幼蟲の儘、新芽に近く巢を造りて越年し、初めは芽に蠹入して食害すれども、芽の開綻と共に糸を吐きて葉の一部を捲き、其内にありて食害す、蛹は灰黄、蛾は七月中旬に出づ。

驅除法 くばはまきに同じく早春亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし。

二すもゝばまき *Tortrix diversana* Hb.

被害植物 李、萃樹。

特徴 成蟲 軀翅黄褐、腹部暗色、雄は尾端に光澤ある淡き黄褐毛を簇生す、前翅中央に二個の太き褐色斜條を走らし、外縁には網状紋あり、後縁の翅底に近き處に一褐紋あり、後翅は灰色、軀長二分、開張六分。

幼蟲 軀綠色若くは灰綠、暗色の背線を有するものと有せざるものとあり、頭及び硬皮板は暗褐、體長五分乃至六分。

驅除法 桑、萃樹。

に大なる灰黒紋あり、前縁に不明なる四個の黒紋を縦列し、外縁に二個灰色の横線を有し、内方のものは波状をなし、外方のものは短くして中央に位す、體長二分開張五分。

幼蟲 淡黄、老熟すれば少しく赤みを帶ぶ、頭黄色、硬皮板及び各節の疣狀突起は褐色、體長五分。

經過 幼蟲の儘越年す、但し灰色の繭を造りて地中にあり、翌年蛹化す、年二回の發生をなす、第一回は六七月、第二回は八月。

驅除法 根邊の土を鋤き起して越年せる幼蟲を寒氣に曝らすべし、同時に鶏を

放ちて之を食はしむべし。又果實の豆大となりたる頃、亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし。

りんごきまたらばまき Tortrix sin-

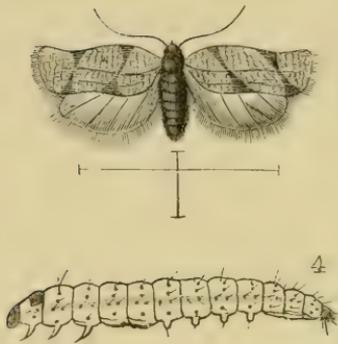
apina Butl. (第百六十九圖)

被害植物 萃樹・櫻桃・梨・李。

特徴 成蟲 前翅黄橙色、赤褐の二

第百六十九圖

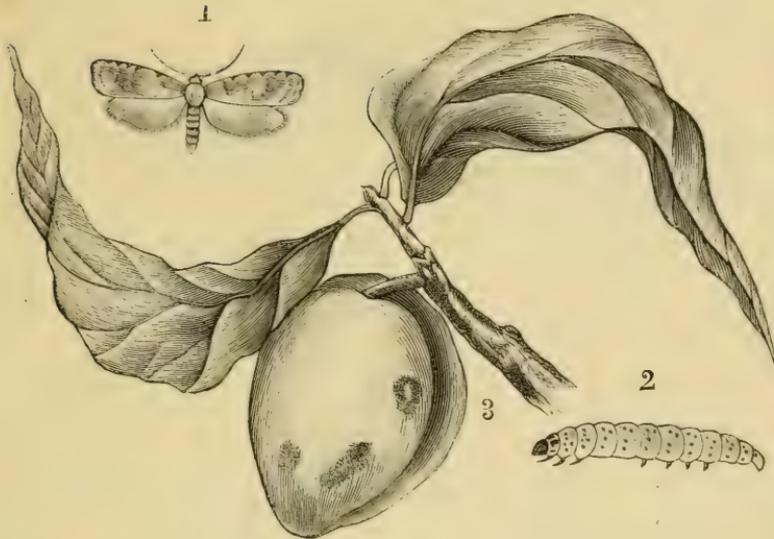
りんごきまた
らばまき



第百六十八圖

が
もゝしんくひ

- (1) 成蟲 3/2
- (2) 幼蟲 3/2
- (3) 被害の状況



にして、翅底は灰黒、中央に鶯色の大紋あり、其の前縁は灰黒、外縁及び内縁に灰

白紋を装ひ、其外縁は淡
き鶯色、前縁に五對の灰
白短線あり、軀長二分五
厘、開張六分乃至六分五
厘。

幼蟲 黃綠、頭は光澤あ
る黒色、硬皮板及び疣狀
突起なし、體長七分。

驅除法 同前。

(九) もゝしんくひが *Curposima*

sasakii Mats.

(第百六十八圖)

被害植物 桃(果實)

特徴 成蟲 前翅灰色、中

幼蟲 暗緑頭及び硬皮板は黒色、暗色の疣狀突起を散在す、體長四分。

經過 幼蟲の儘新芽に近く巢を造り

其中に越年し、翌春新芽に入りて食害す、成長すると共に葉の一端を捲き、又其内にありて食害す、年一回の發生をなす、蛾は六月下旬乃至七月上旬に出づ。

驅除法 早春害蟲の未だ新芽に蠹入せざる前、亞砒酸鉛の溶液を灌注せば幼蟲を毒殺し得べし、一度新芽に入りたるものは驅除し難し。

(八) くははまきくはのあをめむし

Exartema mori Mats. (第百六十七圖)

被害植物 桑

特徴 成蟲 前翅の斑紋は甚だ複雑

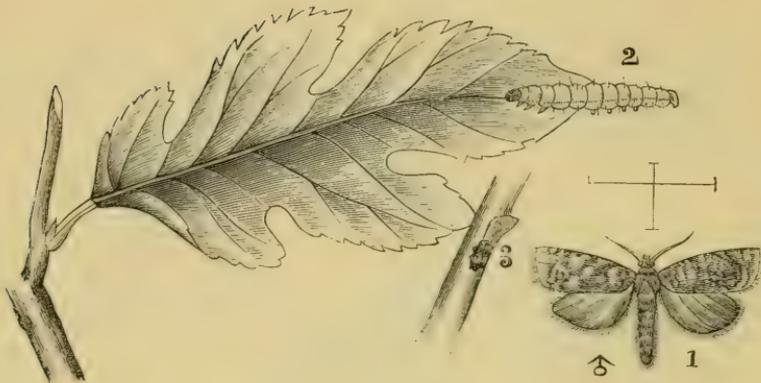
第百六十七圖

くははまき

(1) 成蟲

(2) 幼蟲

(3) 幼蟲越年所



被害植物 萃樹・櫻・梨。

特徴 成蟲 前翅暗褐、翅端に近き前縁に三角形の大黄白紋を備へ、其側邊は赤黄なり、翅端に近く赤褐の横條あり、體及び後翅は暗色、體長二分、開張六分。
幼蟲 體黄白、頭淡褐、體長七分。

經過 年一回の發生をなし、幼蟲の儘樹枝に越年す、翌春新芽に蠹入し、次て葉を捲き其の中において食害す、六月下旬蛹化し、七月上旬蛾化す。蛹は黒褐色。
驅除法 早春亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし。

(七) くはひめばまき (くはしんむし) *Exartema (Seiricoris) morivora* Mnts.

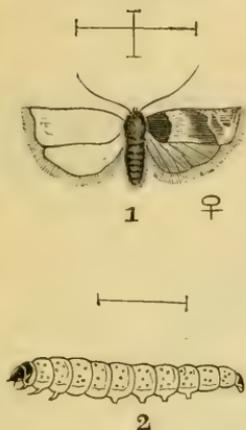
(第百六十六圖)

第百六十六圖

くはひめばま

き

(1) 成蟲
(2) 幼蟲



被害植物 桑。

特徴 成蟲 前翅黄色、翅底は黒褐、

少しく銀色を呈し、中央は黒褐、其

の外側に鉛色の横紋あり、前縁に

黒色と黄色との交互紋あり、頭及

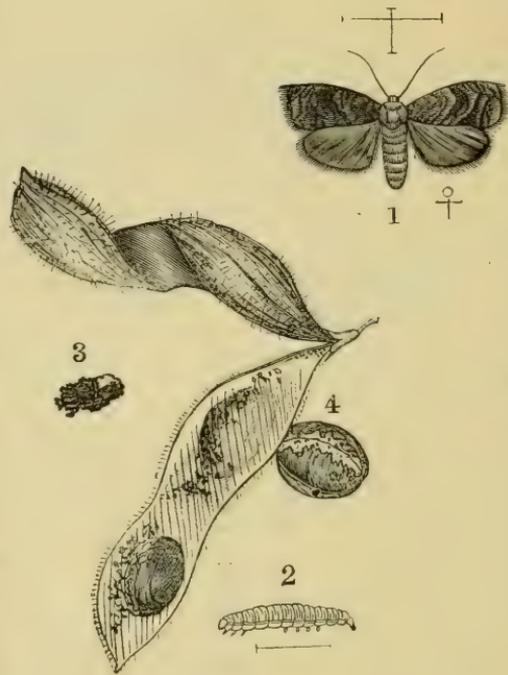
び胸部は黒褐、小腮鬚は黄色、體長一分六厘、開張六分。

第六十五圖

まめのしんく

ひが

- (1) 成 蟲
- (2) 幼 蟲
- (3) 繭
- (4) 被害の 状況



幼蟲 初め白色、老熟すれば肉様の赤色となる、頭及び硬皮板は褐色、體長三分。

經過 蛾は八月頃出でて大豆の莢に産卵す、幼蟲は内部の種實を食害し、九月乃至十月に至り老

熟して地上若くは地中に白繭を營み、其中に越冬し、翌春蛹化す、年一回の發生をなす。

豫防法 秋耕を行ひ、越冬する幼蟲を寒氣に曝露すべし、落花期(札幌地方にては八月頃)に際し黄昏圃場に到り網を以て蛾を捕殺すべし、又輪作を行ふべし。

六、しろもんばまき *Argyroloce dimidiana* L.

の莢中に蠶入し其種實及び莢を食ふ。

驅除法

(四) まめひめさやむしが *Thiodia phaseoli* Mats.

被害植物 菜豆・小豆莢

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、其異なる點は、外縁に黒點の列なく、前翅の中部は黒褐にして三双の短かき灰色線あり、翅底の三分の一及び中央紋は暗褐、體長二分、開張六分乃至六分二厘

幼蟲 前種に似たり。

經過 前種に同じ。

驅除法

(五) まめのしんくひが *Eucosma glycinivorella* Mats. (第百六十五圖)

被害植物 大豆種實

特徴 成蟲 前翅灰黒、黒紋及び黄紋を散在し、少しく藍色を帶ぶ、前縁に黄色と黑色との短線ありて斑をなし、後縁角に黄紋ありて之に三個の黒點を横列す、體長二分、開張四分乃至五分。

經過 りんごひめしんくひに同じ。

驅除法 ひめしんくひに同じく、亞砒酸鉛の溶液を櫻桃大となりたる苹果に灌
注すれば、卵より孵化したる幼蟲は、果肉に蝨入せんとするとき其毒を食ひて
死すべし。

(三) あづきさやむしが *Thiodia azukiyora* Mats. (第百六十四圖)

被害植物 小豆(種實莖)。

特徴 成蟲 前翅灰白、外縁の四分の一は更



第百六十四圖
あづきさやむ

しが

(1) 成蟲
(2) 幼蟲

分、開張六分。

幼蟲 幼時白色にして後淡黄となる、頭及び硬皮板は褐色、各節の疣狀突起は
黄褐にして、餘り判然せず、體長六分。

經過 年一回若くは二回の發生をなし、蛹の儘越年す、八月より九月に亘り、小豆

第百六十三圖

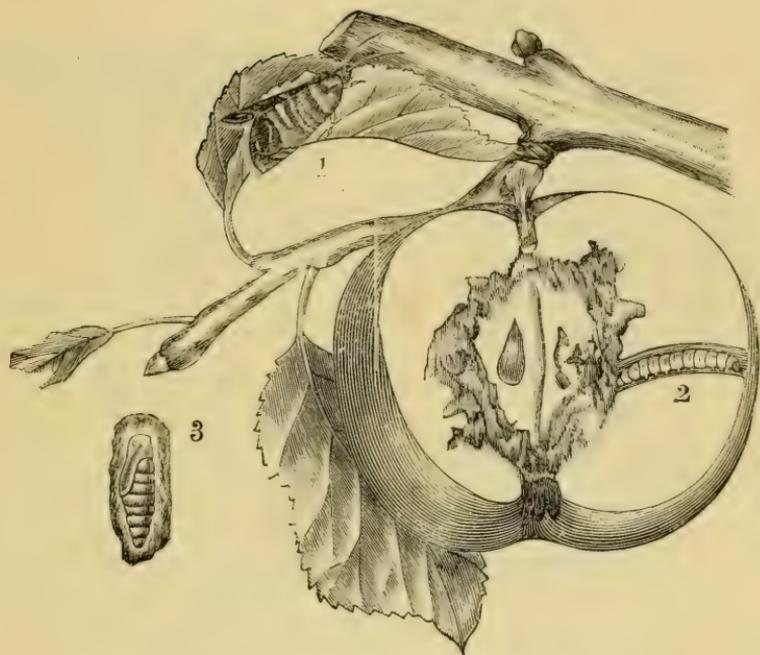
りんごおほし

んくひが

(1) 成蟲

(2) 幼蟲

(3) 蛹



被害植物 苹果。

特徴 成蟲 前翅暗

灰色、翅端に大なる

楕圓形の銅褐紋あ

りて其中央は光澤

なし、中央には約三

對の細き灰白横線

あり、體及び後翅は

暗黄褐、體長三分、開

張七分。

幼蟲 初めは白色

なれども次第に淡

赤を帯ぶるに至る、

頭部褐色、硬皮板、淡

褐各節には小隆起散在し、之れより一本の灰色を生ず、體長四分。

一、りんごしろはまき

Tmetocera ocellana F. (第百六十二圖)

被害植物 苹果、梨、李

特徴 成蟲 體及び後翅は暗黒、前翅の大部灰白

色、翅底、後縁の三角紋及び外縁の一紋は灰黒、白

色の部分には判然せざる灰色の數紋あり、體長

二分、開張四分五厘乃至五分。

經過 新芽の間に暗褐の絹絲を以て被蓋を作り、

幼蟲の儘其中に越年し、翌春新芽に蠹入して食

害す、葉の開展するに従ひ葉屑と蟲糞とを纏め

て管狀の巢を作り、其中に住す、六月下旬乃至七

月上旬に至りて蛹化する。

驅除法 七月中旬燈火を以て誘殺すべし、石油乳

劑は効なきが故に、亞砒酸鉛の溶液を灌注すべ

し。

第百六十二圖

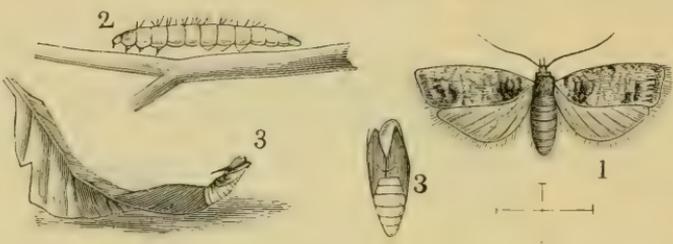
りんごしろは

まき

(1) 成蟲

(2) 幼蟲

(3) 蛹



(二) りんごおほしんくひが

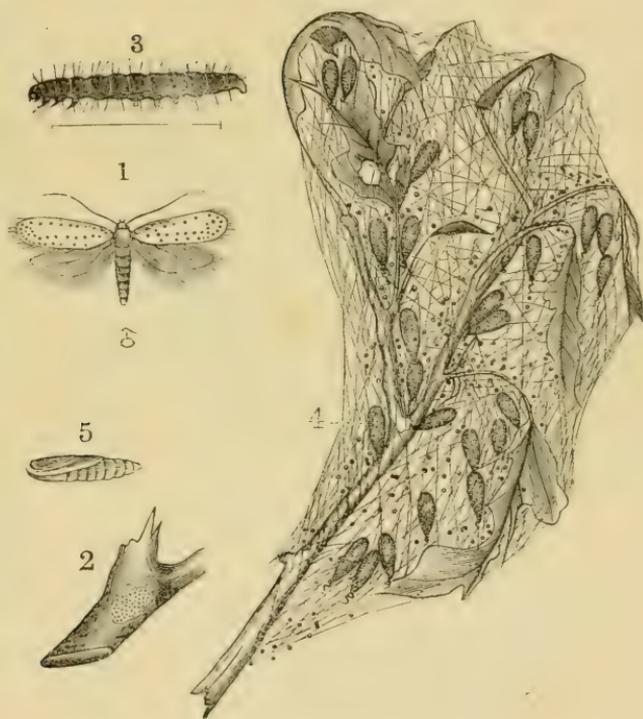
Cyda (*Carpocapsa*) *pomonella* L. (第百六十三圖)

第六十一圖

りんごすが

- (1) 成蟲 (雄)
- (2) 卵子
- (3) 幼蟲
- (4) 繭
- (5) 蛹

卵を搜索すべし。



葉捲蛾科

Tortricidae.

とを得べし、七
月中旬乃至下
旬蛾化する。

驅除法 六月上
旬巢を營みて
集合せるもの
を柄付鋏を以
て切り、其落ち
たるを足にて
踏み殺すべし、
又注意して樹
間に附着せる

べし(石油乳劑は効少なし)此時期に當り新聞紙又は半紙にて作りたる袋を以て之れを被覆し、其の産卵を防ぐも亦有効なり、但し時期を誤るときは効を奏せざるを以て注意を要す、又晩秋萃樹下の根邊を二三寸程犂き起して幼蟲を曝露し、以て寒暖の變遷にあはしむべし、此際家禽を放ちて之れを食はしむれば最も可なり、

(二)りんごすが(くろこ又すむし) *Y. pomonenta malinella* Zell. (第百六十一圖)

被害植物 萃樹・梨・櫻桃・楡・柞・杏。

特徴 成蟲 前翅雪白、二十五乃至三十個の黒紋を散在す、後翅暗色、頭、觸角及び

脚は白色、體長二分五厘、開張六分五厘乃至七分。

幼蟲 暗黒、頭及び硬皮板黒色、各節の背上に二個の大なる黒紋を有し、更に小なる十四個の疣狀黒紋あり、體長六分。

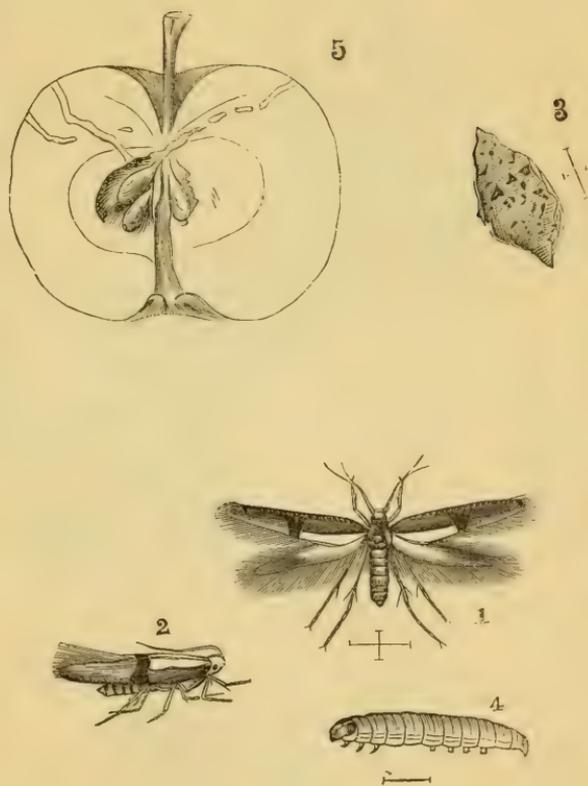
経過 幼蟲の儘卵塊内にありて越年す、卵塊は樹間に在りて灰白色の護膜質物を以て蓋はれ、其中に約百二十餘の卵あり、初めは黄色にして少しく綠色を帯ぶ、芽及び花に巢を張りて其中に群居す、初めは小なるため其巢を認め難しと雖ども、六月下旬乃至七月上旬に至り蛹化せんとする頃には、明かに認むること

第一百六十圖

りんごひめし

んごひが

- (1) 成蟲
- (2) 同上
- (3) 繭
- (4) 幼蟲
- (5) 被害の苹果



入して食害す、其果肉内に隧道を作るものを俗にエカキと云ふ、又種子を食害するものあり、早く成長したるものは土中に入りて越年すれども、遅く發生せるものは貯藏せられたる苹果中に成長し、後出でて、結繭越年す。

驅除法 七月上旬果實の櫻桃大となりたる頃、亞砒酸鉛の溶液を一面に灌注す

幼蟲 體綠色、頭白色、數個の褐色紋あり、各節には數十個内外の綠色疣狀紋ありて之れより黒毛を生ず、體長三分。

經過 年二回の發生をなす、蛹の儘越年し、翌春蛾化す、第二回の蛾は七月中旬に出づ、老熟すれば、葉裏に網狀の繭を造り其中に蛹化す。

驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混じり灌注すべし。

巢蛾科 Yponomeutidae.

一) りんごひめしんくひが *Argyroshia conjugella* Zell. (第六十圖)

被害植物 苹果など。

特徴 成蟲 體翅暗灰色、頭、前胸及び前翅の内半は銀白色、尙翅端の前縁にも白點を裝ふ、觸角白色にして黒輪あり、體長一分三厘、開張三分五厘。

幼蟲 初めは乳白色、頭及び硬皮板は黒色、翌春蛹化し成長するに従ひ體少しく赤みを帯び、黒色の部分は褐色となる。

經過 幼蟲の儘白繭を造り地下に越年す、七月中旬蛾化す、苹果に一二個の卵子を附着す、雌の總卵數二十七個、卵期は約一週間、孵化したる幼蟲は果肉に蠹

「こなが」 *Plutella maculipennis* (Curt.) (第一百五十九圖)

第一百五十九圖

こなが

(1) 幼蟲

(2) 蛹

(3) 成蟲

被害植物 蔬菜・莖莖

特徴 成蟲 體翅暗色、頭及び胸背は白色、前翅の後縁にある太き波状の縦線は

少しく黄色を帯びたる白色を呈す、觸角淡黄、體長一分五厘、開張四分。



(三) ぼくが *Sitotrogus cerealella* Oliv. (第一百五十八圖)

第一百五十八圖

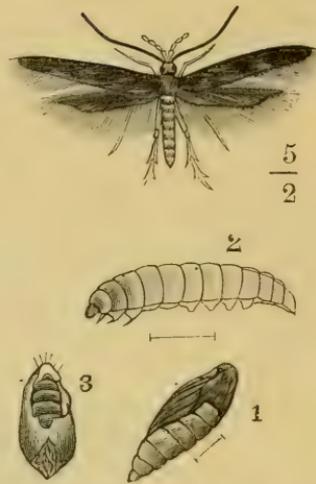
ぼくが

成蟲

(1) 蛹

(2) 幼蟲

(3) 被害の状



被害植物 麥・米・玉蜀黍・粟・稗。

特徴 成蟲 體及び翅黃褐、前翅の外縁に近く暗褐紋を裝ひ、翅底にも同色の縦條あり、後翅暗色、光澤あり、體長二分五厘乃至三分、開張五分。

幼蟲 白色、頭黃褐、體長三分。

經過 幼蟲の儘越年す、年二回出づ、蛾は二三十の卵子を麥粒の溝に産下す、秋期は倉庫に産卵し、夏日は麥田に産下す、幼蟲期は三四週間。

驅除法 二硫化炭素を被害物の上に撒布し、蓆を覆ひ置くべし、又硫黄を燻蒸するもよし。(こくがの條を見よ)

小菜蛾科 *Plutellidae.*

經過 幼蟲の儘棉實中に越年し、翌春蛹化し、六月中旬蛾化す、幼蟲は棉實中に棲息し其内容を食害す。

驅除法 燈火を以て蛾を誘殺し、且被害せられつゝある棉實は除去すべし、然らざれば他の健全なる棉實にも移りて加害すべし。

二) いもこが *Brachmia triannella* H. S. (第百五十七圖)

被害植物 甘藷。

特徴 成蟲 胸背及び前翅は黒褐、前翅の中央に黄褐の圓紋

を装ひ、其中央は黒褐、尙其内方にも同様の一紋あり、外縁に五個の黒點を横列す、後翅は灰色、頭に黄褐紋あり、小腮鬚頗る長く上方に彎曲す、體長二分、開張五分五厘。

第百五十七圖 がいもこが



$\frac{2}{1}$

部は淡黄、亞背線は褐色、第六節より第八節の兩側に各一個褐色の斜紋あり、體長四分。

經過 年二回發生す、蛹の儘枯葉を捲きたる巢中に越年し、翌春蛾化す。

驅除法 冬期枯葉を集めて燒き拂ひ、蛾の出でたるときは、燈火を以て誘殺すべし。

第百五十六圖 わたみが



3
1

(一) わたみが

Oecophora inopisema Butl. (第百五十六圖)

被害植物 草棉。

特徴 成蟲 胸脊及び翅は黄褐にして金色を放つ、前頭・觸角及

び前翅の三横條は白色、觸角に黒輪あり、前翅横條の兩側は黒

色、後翅は暗色、體下及び脚は灰黄、體長一分五厘、開張四分。

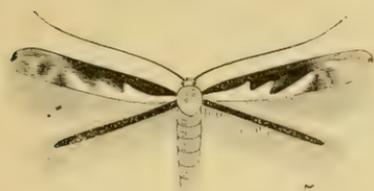
幼蟲 體淡黄、頭赤褐、硬皮板暗褐、各節に褐色の二横帶あり、體

長四分八厘。

縁白色にして之れに三個の黒横條あり、體長一分五厘、開張三分五厘。
 幼蟲 前同様なれども少しく大なり。
 經過 年二回發生す、秋期葉と共に地上に落ち、蛹の有様にて越年し、翌春蛾化す、
 蛾は葉裏に一二個宛卵子を産下す、第二回の蛾は八月中旬に出づ、此の幼蟲は
 十月上旬若くは十月下旬に至り老熟し次で蛹化す。
 驅除法 同前。

麥蛾科 *Gelechiidae*

がそほんもんぎ 圖五十五百第



51

二ぎんもんほそが

Lithocollis multivorella Mats.

の蟲糞を其中に残留す。

驅除法 燈火を以て蛾を誘殺すべし。

被害植物 萃樹・櫻桃。

特徴 成蟲 體銀白色、觸角脚及び前翅の内縁に弓状の

銀白紋ありて、其中央は少しく突出す、尙外縁に近く同色の一斜條あり、翅端に黒色の一紋を有し、其内方の前

經過 蛹の儘越年し、翌春蛾化す、幼蟲は葉の下面の葉緑層を食ひ、葉脈を網状に残し、自己は葉皮にて蓋を造り其内にありて食害するも害大ならず、其性甚だ敏捷、驚怖する時は絲を吐きて地上に落下す、老熟すれば葉皮下に蛹化す、蛹は細き紡錘形にして暗褐、頭の上半部は暗黄、葉の一部をく字状に折り、常に黒色の前縁は少しく褐色を帶ぶ、體長一分八厘。

驅除法 亞砒酸鉛の溶液を灌注すべし

(二) びすとるみのむしが *Coleophora multivorella* Riley. (第一百五十四圖)

被害植物 萃樹李。

特徴 成蟲 體翅白色、後翅灰白、觸角少しく黄色を帶ぶ、體長一分五厘、翅の開張四分五厘。

幼蟲 體黄色、初めの三節少しく暗色、黒紋あり、頭及び硬皮板は黒色、常にピストル様の黒筒を造り、其中に住す。

經過 幼蟲の儘越年し、翌春芽及び花を食害す、七月下旬蛾化す。

驅除法 同前。

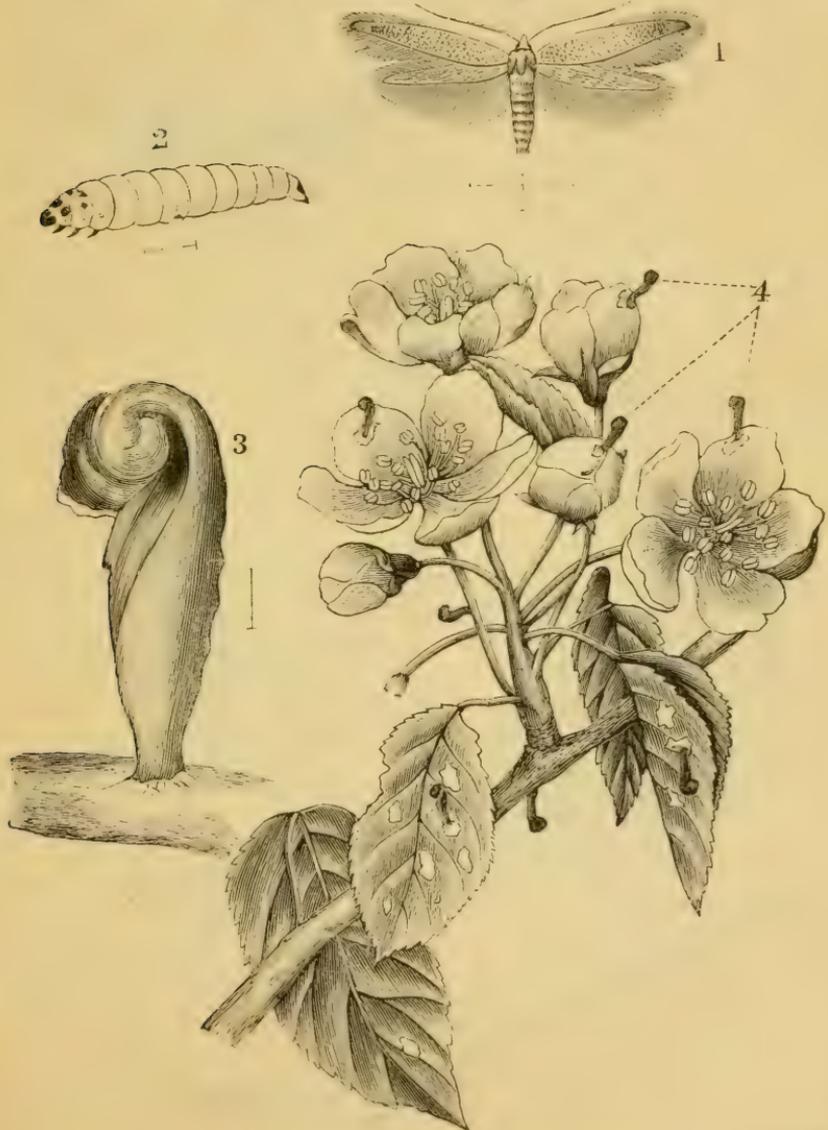
細蛾科 *Gracillariidae.*

(一) ぎんもんほそが *Lithocolletis triforella* Payer.

被害植物、萃樹梨、櫻、李、桃。

特徴 成蟲 前翅金色、翅底に銀色の二縱條を有し、中央に同色の二斜條を横走す、其内側は黒褐、前縁の中央にも同色の短かき斜條あり、胸背金色、其中央に濃

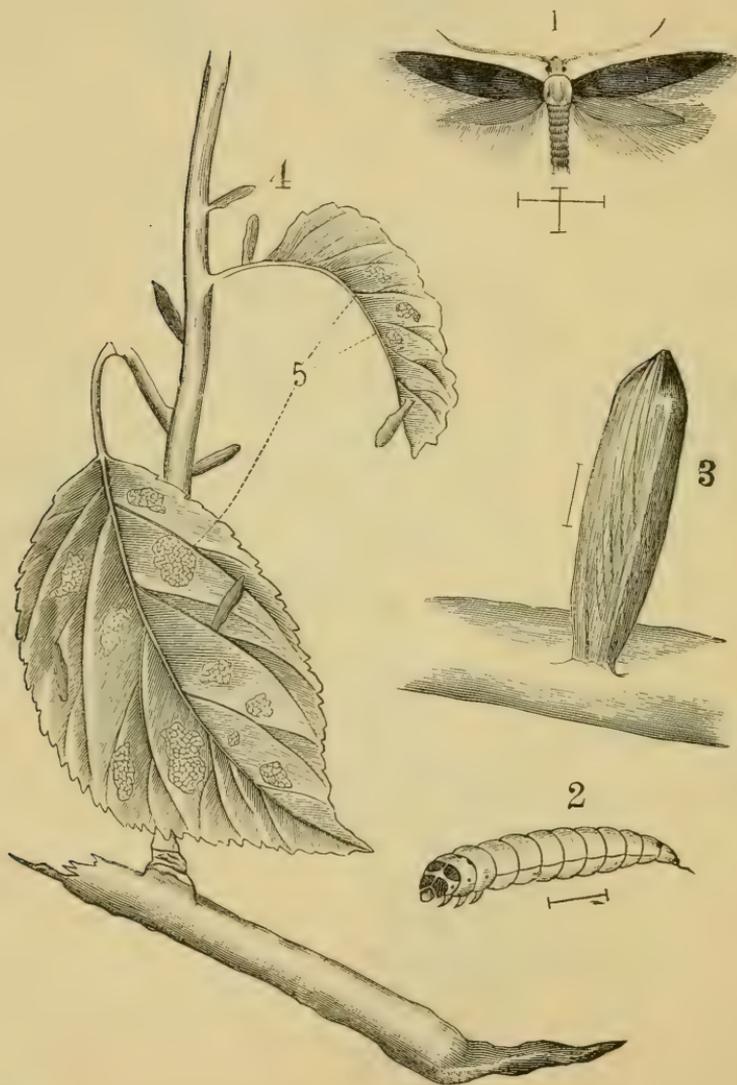
第一百五十四圖
びすとの
みのむし
が
(1) 成蟲
(2) 幼蟲
(3) 巢筒
(4) 食害の
状



しむのみつ

圖三十五百第

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 葉筒
- (4) 葉筒の
状態
- (5) 食害の
状況



幼蟲 光澤ある白色、頭褐色、硬皮板淡褐、いがに同じく平たき筒様の巢を營む、筒には長楕圓の淡褐紋あり。

経過 年二回の發生をなす、第一回は五六月、第二回は八九月、幼蟲老熟すれば筒を他物に固着せしめて垂下し、其中に在りて蛹化す、蛹期は三週間。

驅除法 同前。

筒蛾科 Elachistidae.

(1) つゝみのむし (*Oleophora nigricella* Steph. (第一百五十三圖))

被害植物 萃樹・櫻・桃。

特徴 成蟲 體暗色、觸角白色、末端に至る迄暗色の輪紋あり、體長一分五厘、翅の開張四分。

幼蟲 暗褐、頭及び硬皮板は黒褐、黄褐なる長楕圓の筒を造り、其中に住す、體長二分五厘。

経過 幼蟲の儘枝上に越年す、翌春新芽を食害し、大害を加ふることあり、年一回發生し、七月下旬蛾化す。

ずる方有効なり。

三) もうせんが *Tineola bisetiella* Hump.

被害物 衣類・毛氈・動物標本。

特徴 成蟲 前翅は光澤ある黄褐、斑紋なし、體長二分、翅の開張四分乃至四分五厘。

幼蟲 白色、背線及び頭は褐色、前種の如く巢を造らず、蜘蛛の巢様のものを以て自體を被ひ、其中にありて食害す、體長三分。

經過 年二回の發生をなす、第一回は五六月、第二回は八九月頃、幼蟲の儘越年す。
驅除法 同前。

四) もうせんが *Trichophaga tapezella* L. (第五百五十二圖)

被害物 同前。

第五百五十二圖

もうせんが



3.2

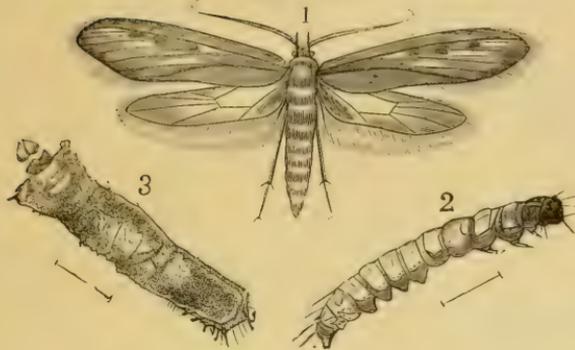
特徴 成蟲 前翅底の三分の一は褐色、暗色の斑紋あり、

外縁の三分の二は白色、少しく青みを帶ぶ、胸背に黑白の兩毛あり、脚灰褐、白鱗を裝ふ、體長三分、開張五分乃至

六分。

第一百五十一圖

いが
(1) 成蟲
(2) 幼蟲
(3) 筒



經過 年二三回の發生をなす、幼蟲の儘越冬し、翌春蛹となり、次で蛾化す、穀粒を纏めて繭を作る、蛹期は二三週間、一蛾の産卵数は約三十内外。

驅除法 硫黄に一割の硝石を加へて燻殺すべし、八疊間なれば二百九十枚位、又は二硫化炭素を散布し其上を蓆にて蔽ひ置くべし。

(二) いが *Tinea pellionella* L. (第百五十一圖)

被害物 衣類、毛皮、毛氈、動物標本。

特徴 成蟲 前翅灰黄、外方の三分の二の處に暗褐紋を散在し、翅底に同色の二紋あり、頭に黄褐毛を密生す、胸部は灰色、體長二分、翅の開張四分。

幼蟲 白色、頭及び硬皮板は淡褐、體毛なし、筒様の巢を造り、其中に住す、體長三分。

經過 年一二回の發生をなす、幼蟲の儘越冬し、翌春筒中に蛹化す、蛹期は約三週間。

驅除法 同前、但し青酸加里瓦斯を以て燻

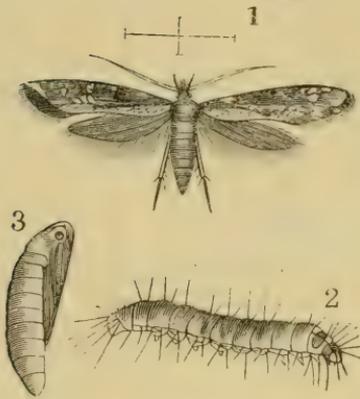
特徴 體暗黃觸角白色、黒輪あり、前翅には約二十一個の銀紋あり、翅細長、體長一分六厘。

驅除法 一反歩に付一舛内外の石油を流し、稻株中の泥筒にある幼蟲を其中に落すべし、成蟲は六月下旬より八月上旬發生するを以て、時期を過らず網を以て捕ふべし。

鱗翅目 Lepidoptera.

穀蛾科 Tineidae.

第百五十圖
こくが
(1)成蟲
(2)幼蟲
(3)蛹



(1)こくが *Tinea granelle* L. (第百五十圖)

被害植物 穀物類。

特徴 成蟲 體は灰白、前翅に暗褐若くは黒色の斑点多し、頭に黄褐毛を密生す、翅の開張四分餘。

幼蟲 黄白、頭及び第一節の硬皮板は淡褐、長毛あり、體長二分。

特徴 體黃褐乃至黑褐、黑點を密布す、觸角は黄色、稜狀部は腹部を被ひ稍々四角形をなす、脚黄色、體長一分三厘乃至一分七厘。

驅除法 稻の場合には網大小豆の場合には石油乳劑を用ふべし。

毛翅目 Trichoptera.

筒石蠶科 Hydropsychidae.

「ぎんほしつつとびげら (どろつとむし) *Setodes argentata* M.T. (第四百十九圖)

被害植物 稻。

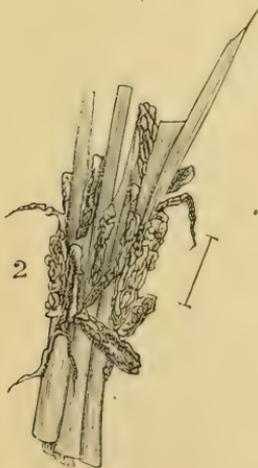
第四百十九圖

ぎんほしつつ

とびげら

(1) 成蟲

(2) 幼蟲の泥筒



注すべし。

10. ころかめむし *Scotinophora lurida* Brnn. (第四百十七圖)

被害植物 稻其他の禾本科植物。

第四百十七圖

ころかめむし



特徴 體黑色、少しく藍色を帶ぶ、前胸は其前縁及び中央の兩側に各一個棘狀の附屬物あり、脛節及び跗節は赤褐、體長三分五厘。

驅除法 網を以て掬ひ捕ふべし。

11. ひめまるかめむし *Coptosoma biguttula* Motsch.

被害植物 大小豆、其他荳科植物。

特徴 體は光澤ある黑色、稍々球形に近し、觸角黄色、末端の二節は黒褐、稜狀部の基部に二個の黄紋あり、體長八厘。

驅除法 石油乳劑に十五倍の水を混じ灌注すべし。

11. ひめまるかめむし *Coptosoma punctissimum* Mont.

第四百十八圖

まるかめむし

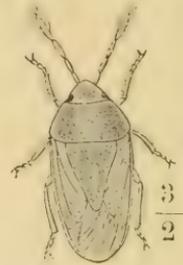


被害植物 大小豆、稻。

(第四百十八圖)

第一百四十五圖

いねかめむし



分あり、前胸背の前方に二黒紋を具へ、稜状部の基部に四黒紋を装ふ、前胸背及び稜状部に黄色の一線を縦走し、半翅鞘の兩側黄白跗節は褐色、體長四分乃至四分五厘。

經過 一年一回の發生をなし、成蟲の有様にて越年す、翌春禾本科植物の雜草間

に棲息すれども、八月頃より稻に移り來り其液汁を吸収す、成蟲の壽命割合に

長さを以て、八月上旬より晩秋に至る迄、常に此害虫を認め得べし、幼蟲時代は

普通七月より八月上旬なり。

驅除法 同前

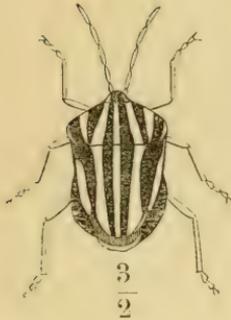
(九)あかすぢかめむし

Graphosoma rubrolineatum West. (第一百四十六圖)

被害植物 葱、玉葱、胡蘿蔔、防風。

特徴 體赤色、頭に二個、前胸に六個、稜状部に四個の黒縦條あり、體長三分五厘乃至

第一百四十六圖
あかすぢかめむし



四分五厘。

驅除法 石油乳劑に十五倍の水を混じ灌

驅除法 同前。

(六) あをかめむし *Nezara viridula* L.

被害植物 粟・蘆粟・甘蔗・其他の禾本科植物、

特徴 體は綠色、觸角に黑色の部分あり、種類により前胸に灰白の斑紋を裝ふも

のあり、體長四分乃至四分五厘。

驅除法 網を以て掬ひ捕ふべし。

(七) うづらかめむし *Aelia fieberii* Scott. (第四百四十四圖)

被害植物 稻・麥・其他の禾本科植物。

第四百四十四圖

うづらかめむし

し



特徴 體黃色、頭長く、象鼻狀をなして少しく下方

に曲る、頭頂に於て最も幅廣となり、稜狀部の末

端に接續す、體長三分乃至三分三厘。

驅除法 同前。

(八) いねかめむし *Aenurin scotti* Dist. (第四百四十五圖)

被害植物 稻。

特徴 體、長橢圓形、灰黃乃至黃褐、褐色の點刻を密布す、觸角黃赤、末端に暗黒の部

特徴 體灰黄若しくは灰褐、黄色の綾様紋あり、觸角赤黄、第三節の末端、第四節の

中央及び第五節の大部は黒褐、前胸背の前縁に四個の黄點を横列す、體長五分乃至六分。

驅除法 同前。

(四) むらさきかめむし *Carpocoris nigricornis* L. (第四百十三圖)

被害植物 葱、玉葱、胡蘿蔔。

第四百十三圖

むらさきかめ

むし



特徴 體は黄褐乃至赤黄、少しく紫色を帶ぶ、觸

角黒色、第一節赤黄、前胸の前縁に短き四個の黒縦條あり、之れは後方に至りて判然せず、稜状部の末端は黄色、體長四分五厘乃至五分。

驅除法 同前。

(五) ぶちひげかめむし *Dolycoris baccarum* L.

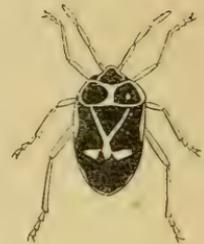
被害植物 葱、玉葱、胡麻。

特徴 體灰褐少しく紫色を帶ぶ、觸角黒色、各節の基部及び第一節は黄色、腹部の

兩側は黒色と黄色の斑をなす、體長四分五厘。

第四百十圖

ながめ



$\frac{2}{1}$

驅除法 同前。

(二) なしかめむし *Trocheta luteoviridis* Dist. (第四百十一圖)

被害植物 梨・苹樹。

第四百十一圖

なしかめむし



X2

特徴 體灰褐、觸角黒色、黄色の部分

あり、前翅に二個の黄紋を装ふ、脚

黄色、體長四分。

驅除法 同前。

(三) くさぎかめむし *Halysmorpha*

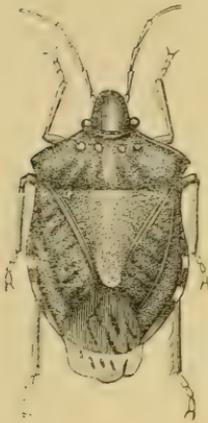
picea F. (第四百十二圖)

被害植物 桃果實及び樹枝、くさ

ぎ、こばら。

第四百十二圖

くさぎかめむし



植物。

特徴 體赤褐、前胸の兩側に各二個の棘狀突起あり、後腿節甚だしく膨れ、其内側に五六の棘刺あり、體長五分五厘。

驅除法 同前。

七、ほほづきかめむし *Acanthocoris sordidus* Emmb. (第三百二十九圖)

被害植物 茄子、蕃茄、酸漿、桑、其他蝽科植物。

特徴 體は暗褐、顆粒を密布す、觸角に剛毛

多し、前胸の兩縁に棘狀突起あり、前翅の

膜質部は黒色、後腿節は棍棒狀、體長三分

五厘乃至四分。

第三百二十九圖

ほほづきかめ

むし



21

驅除法 同前。

椿象科 Pentatomidae.

一、ながめ *Eurydema rugosa* Motsch. (第四百十圖)

被害植物 蘿蔔、燕苔、芸苔、其他の十字科植物。

五厘。

驅除法 同前。

(四)あづきかめむし *Homocerus concoloratus* Uhl.

被害植物 大小豆其他の荳科植物。

特徴 體は暗褐、少しく綠色を帶ぶ、體下は淡色、觸角赤色、第二節の末端は黑色、前

翅後縁の中央に黒點あり、體長四分五厘乃至五分。

驅除法 石油乳劑を灌注すべし、又網を以て捕ふるも可なり。

(五)ばらびろかめむし *Homocerus dilatatus* Horv.

被害植物 大小豆、菽、其他の荳科植物。

特徴 體は黃褐、體下黄色、黒點を散在す、觸角赤褐、前翅中央の脈上に一黒點あり。

腹部の兩側は著しく脹大す、體長四分六厘乃至五分。

驅除法 同前。

(六)ほそへりかめむし (一名へぶう)

Riptortus clavatus Thunb. (第百三十八圖)

被害植物 大小豆、其他荳科及び禾本科

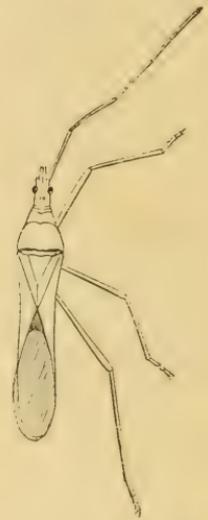
第百三十八圖
ほそへりかめむし



3/2

第三百三十六圖

くもかめむし



21

被害植物 稻・麥・其他の禾本科植物。

特徴 體黃綠、細形にして

長脚を有し、蜘蛛の觀あ

るを以て此名あり、觸角は體より長く、黑色の部分あり、體長五分乃至五分五厘。
驅除法 網を以て掬ひ捕ふべし。

(二) ほそばりかめむし (Metus trigonus Thunb. (第三百三十七圖))

被害植物 稻・麥・其他の禾本科植物。

第三百三十七圖

ほそばりかめむし



21

21

特徴 體上は暗褐、體下は黄色、黒點を散在す、

前胸兩側の菱狀突起は尖銳にして黒褐な

り、體長三分。

驅除法 同前。

(三) ばりかめむし (Metus bipunctatus H. S.)

被害植物 稻・麥・其他の禾本科植物。

特徴 前種に酷似すれども、形大にして第一觸角節には棘狀尖起あり、體長三分

一、めだかかめむし *Chantlops fallax* Scott. (第三百三十四圖)
 被害植物 大小豆。



21

特徴 體は灰褐、少しく綠色を帶ぶ、眼甚だしく突起し、恰も蟹の眼の如し、觸角黄色、第四節は赤褐、體長八厘乃至一分。

驅除法 同前。

二、いちごかめむし *Plectomeria japonica* Dist. (第三百三十五圖)
 被害植物 西洋莓。

第三百三十五圖

いちごかめむし

し



44

特徴

體暗褐、觸角及び脚は黄色、但し前者の末端節は黒褐、前翅の後半及び翅鞘は暗黄、膜質部灰白、體長一分五厘。

驅除法 同前。

縁椿象科 *Coreidae*.

一、くもかめむし *Leptocoris varicornis* F. (第三百三十六圖)

特徴 體は光澤ある黒褐、觸角及び脚は黄色、但し前者末端の二節は黄褐、翅は黄

白、膜質部は灰白半透明、體長七厘。

九州地方に於て有名なる桑の大害蟲にして、此害を被りたるるとききは桑芽は恰も霜害に罹りたるが如く枯死す。

驅除法 同前。

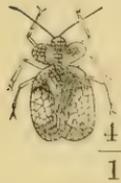
軍配蟲科 Tingidae.

一、どんばいむし *Tingis pyri* L. (第三百三十三圖)

被害植物 梨、苹果樹

第三百三十三圖

どんばいむし



特徴 體黒褐、觸角、口吻及び脚は黄色、前胸背及び前

翅には網狀の隆起多し、前胸の中央には鳥打帽子様の黄白突起あり、體長一分。

驅除法 同前。

長椿象科 Lygaeidae.

六、あかすぢめくらがめ *Stenodema rubriventre* Horv.

被害植物 稻、其他の禾本科植物。

特徴 體暗褐、頭頂の兩側に暗色の一條あり、周縁は淡色、脈は赤色、體長三分。

驅除法 同前。

七、りんごくろめくらがめ *Heterocerdylnus flavipes* Mats. (第三百三十一圖)

被害植物 苹、樹(桑?)、梨。

第三百三十一圖

りんごくろめ

くらがめ



5 I

特徴 體黒褐、體下赤褐、脚は全體黄色、觸角暗黄、

末端は濃色、體長一分。

青森縣下に於て有名なる害蟲にして、被害の

苹果は變形して一種異様の形をなし、果肉亦食用に適せず、其被害の最も甚だ

しき時季は苹果の豆大となれる時なり。

驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混じ灌注すべし。

第三百三十二圖

くはひめめくら

らがめ



7 I

八、くはひめめくらがめ *Anthrenocoris morivorella*

Mats. (第三百三十二圖)

被害植物 桑。

被害植物 苜、甜菜其他種々の植物。

特徴 體暗黄、頭頂の中央に黒縦條あり、前胸前縁の兩側は黒色、其中央及び稜状部の中央を縦走せる一條は黄色、楔状片は白色、其末端は黒色、脚黄色、體長一分六厘。

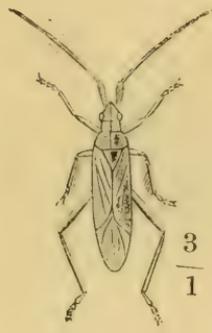
驅除法 同前

(四) あかひげめくらがめ *Trigonotylus ruficornis* Geoffr. (第三百三十圖)

被害植物 稻、麥其他の禾本科植物。

第三百三十圖

あかひげめくらがめ



3
1

特徴 體綠色、觸角、跗節並に後肢の脛節

端は赤血色、體長一分八厘乃至二分。

驅除法 同前。

(五) むぎのめくらがめ

Stenodema (Carpus) calcitratum Fall.

被害植物 稻、麥其他の禾本科植物。

特徴 體黄緑、頭及び前胸背の兩側に暗色の縦條あり、體長二分五厘。

驅除法 同前。

臭ヨードフォームを塗抹すべし。

盲椿象科 Capsidae.

(一) あをめぐらがめ *Lygus lineorum* Mayr. (第二百二十九圖)

第二百廿九圖

あをめぐらがめ



3 1

被害植物 稻、麥其他の禾本科植物。

特徴 體暗綠、觸角暗褐、第一及び第三節は前端を除き黄色、稜狀部黄色、中央は黒褐、體長二分。

驅除法 網を以て掬ひ捕ふべし。

(二) まきばめぐらがめ *Lygus Kalmi* L.

被害植物 稻、麥、甜菜。

特徴 體淡綠、觸角黄色、末端の二節は暗色、前翅の楔狀片は黄色、末端は黒褐、體長二分。

驅除法 同前。

(三) まだらめぐらがめ *Lygus Saundersi* Reut.

三、ひめみづかまきり *Ranatra brachyura* Horw.

被害動物 幼魚

特徴 前種に酷似すれども形小さく、尾端の呼吸絲は腹部より短かし、體長九分。

床蝨科 *Cimicidae.*

一、とこじらみ *Cimex lectularius* L. (第二百二十八圖)

被害動物 人類。

特徴 體赤褐、點刻多し、觸角脚及び口吻は

暗黄、體長一分六厘乃至二分。

現今本邦に輸入せられ、加害甚だしき

至れり。



14

第二百廿八圖

とこじらみ

經過 年四回の發生をなす、成蟲の儘越年し、翌春約五十粒の白色卵子を柱・壁・板

等の間隙に産下し、大凡七八十日を経て老熟す。

驅除法 戸締りのよき西洋風の家にありては青酸瓦斯を以て薰殺すべし、

豫防法 除蟲菊の粉末(即ち蚤取粉)を散布すべし、又之れに蝨されたる場合は無

紅娘華科 Nepidae.

(一) ゆりはなすひ(たいこうち) *Laccotrephes flavovenosa* Dolm. (第二百二十七圖)

被害動物 幼魚

特徴 體黃褐乃至暗褐

扁平、前肢は甚だしく

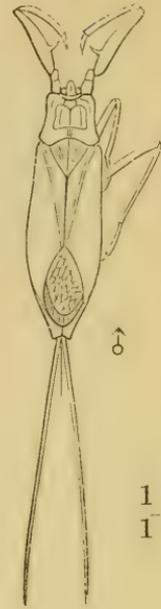
發達し、鎌狀をなす、尾

端に長さ二呼吸絲あり

第二百二十七圖

ゆりはなす

ひ



り、體長一寸乃至一寸二分。

驅除法 同前

(二) みづかまきり *Ranatra chinensis* Mayr.

被害動物 幼魚

特徴 體暗黃、長さ圓柱形をなす、兩端細し、前肢は蟻螂に同じく鎌狀に發達す、尾

端に二個の長さ呼吸絲あり、體長一寸四分。

驅除法 同前。

田鼈科 Belostomidae.

一 たがめ 河伯蝨) Belostoma Devrolii Vuill. (第百二十六圖)

被害動物 稚魚

2/3

特徴 體は暗褐、長楕圓、前腿節は發

達して頗る太し、前跗節に一爪あ

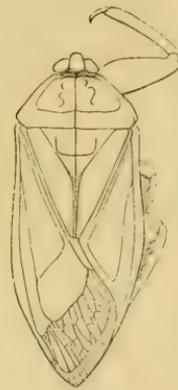
り、體長一寸八分乃至二寸二分

驅除法 網にて掬ひ捕ふべし。又燈

火を以て誘殺すべし。

第百廿六圖

たがめ



二 こおひむし Appassus japonicus Vuill.

被害動物 稚魚

特徴 體は黄褐、前跗節に爪なし、雄は卵子を其背上に附着す、稀れに雌の卵子を

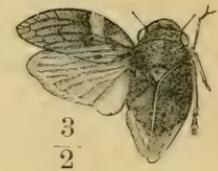
負ふものあり、體長八分内外。

驅除法 同前。

第百廿四圖

しろをびあ

わふき



$\frac{3}{2}$

特徴 體灰黄色、前翅黒褐、中央より少しく翅底に近

き處に太き黄白の一斜條あり、體長四分。

驅除法 同前。

(二) むんきあわふき *Aphrophora flavomaculata* Mats.

被害植物 苹樹・梨・柳。

特徴 體暗黄色、稜狀部黄色、翅の中央に近く位せる低き突起は黄色、内片脈の中

央に黒褐紋あり、體長四分。

驅除法 同前。

(三) まるあわふき *Itepyronia coleopterata* L. var. *grossa* Uhl. (第百二十五圖)

被害植物 稻、其他の禾本科植物。

第百廿五圖

まるあわふ

き



$\frac{3}{1}$

特徴 體は卵形、黄褐乃至黒褐、灰白の短毛を密

生す、翅は灰白色、翅底の大紋及び中央にある

『く』字形の大紋は黒褐、體長♂♀二分五厘乃

至三分。

驅除法 同前。

驅除法 禾本科植物を害する場合には網を用ひ、桑の場合には石油乳劑を用ふ。
三 くはきよこばひ *Tettigonia antitigera* Uh. (第二百二十三圖)

第二百廿三圖

くはきよこ

ばひ



被害植物 桑

特徴 體黄色、頭は三角形に突出す、四個の
黒紋あり、體長一分五厘乃至二分、之れに
變種ありて其翅の大部は暗褐色なり。

驅除法 石油乳劑を用ふべし。

三 おほつまぐろよこばひ

Tettigonia fuscigena F. var. *apicalis* Wk.

被害植物 茶・桑

特徴 體橙黄色、生時黄綠、頭頂に卵形の一黒紋あり、翅端、胸下、腹部及び脚は黒色、

體長四分。

沫吹蟲科

Cercopidae.

一 しろをびあわふき

Phnophora intermedia Uh. (第二百二十四圖)

被害植物 萃樹・梨・柳

七かすりよこばひ *Grathodius punctatus* Fall.

被害植物 稻・麥。

特徴 體は淡綠又は淡褐、稀に赤色を帯びたるものあり、翅に五六個の小黒紋を散在す、體長公(♀)七厘乃至一分。

驅除法 同前。

(八)もんきひろづよこばひ *Bythoscopus mali* Mats.

被害植物 苹樹梨。

特徴 體黃褐、前翅内緣角に大なる橙黄色の一紋あり、脚は黄色、體長一分六厘乃至二分。

驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混じり灌注すべし。

(九)おほよこばひ *Pettigonia viridis* L. 第百廿二圖

被害植物 稻・麥・桑。

特徴 體綠色、頭頂に五角形の二黒紋あり、單眼は二

第百廿二圖 おほよこばひ



個ありて頭頂に位す、腹部及び脚は黄色、體長二分五厘乃至三分。

被害植物 稻・麥其他禾本科植物。

特徴 體は黄綠、頭頂に四個の大黒紋ありて正方形に配列す、體長八厘二毛乃至

一分。

驅除法 同前。

(三) ふたてんよこばひ

Ctenichus fasciatus Stål. 第二百一十一圖

被害植物 稻・麥其他禾本科植物。

第二百一十一圖

ふたてんよ

こばひ



特徴 前種に酷似すれども、頭頂に二個の黒點を有し、顔に八双の黒横線あり、體長九厘乃至

一分。

驅除法 同前。

(六) むつてんよこばひ

Ctenichus 6-notata Fall.

被害植物 稻・麥・燕麥。

特徴 前種に酷似す、頭頂に二個、前頭に四個の黒紋あり、顔に四双の黒横線あり、

體長九厘乃至一分三厘。

驅除法 同前。

特徴 體は黄緑、前縁に黑色の一横線あり、雄の顔は黑色、翅は綠色、雄の翅端は黒

色、體長(♂)一分五厘、(♀)一分七厘。

經過 年四回の發生をなす、成蟲の儘紫雲英其他雜草間に越年し、翌年五月頃苗代に來集し、稻の袴其他稻莖に沿ひ縱孔を穿ち、之れに十四乃至二十六個の卵子を産下す、卵は長楕圓にして白色なり、十日内外にて孵化す、幼蟲は甚だしく跳躍し、甲莖より乙莖に轉移して加害す、第一回は苗代に棲息し、他の三回は本田にありて加害す。

驅除法 網を以て掬ひ捕ふべし。

三) とよよこばひ *Thannotettix tobue* Mats.

被害植物 稻其他禾本科植物。

特徴 體は暗黄、少しく綠色を帯びたるもの多し、頭頂に二個の黒横紋ありて一列に位し、其内端は少しく太し、前翅は半透明、脈白色、其兩側に褐色線を並走す、體長一厘二毛乃至一分。

驅除法 同前。

四) よつてんよこばひ *Cicadula ishidae* Mats.

特徴 體は黒色、時に黄色のものあり、頭、前胸及び稜狀部は黄色、黒褐紋あり、頭頂に六個の黒紋を裝ひ、其中四個は前縁、二個は中央にあり、前翅は淡褐、大なる電光様の黒褐紋を裝ふ、體長一分乃至一分六厘。

驅除法 同前。

りんごまだらよこばひ

Phlepsius

ishidae Mats.



被害植物 苹果・梨・櫻

特徴 體は暗黄、翅に黒紋を散在す、體

長一分五厘乃至一分七厘。

驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混

じ灌注すべし。

三つおごろよこばひ *Nephotetix apicalis*

Motsch.

(第二百二十八圖)

被害植物 稻・麥・甘蔗・蘆粟・稗・粟・其他禾

本科植物。

第二百二十圖

つまごころよ

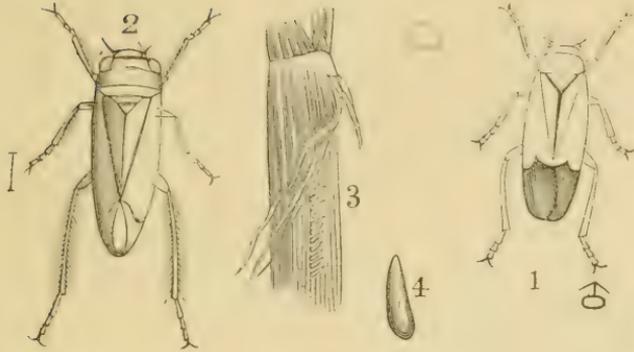
こばひ

1 成蟲(雄)

(2) 同(雌)

3 卵子所在

(4) 同(卵)



特徴 前種に酷似すれども頭廣く、前頭に四個の暗褐紋を横列す、體長一分五厘。

驅除法 同前。

八むぎよこほひ *Deltocephalus tritici* Mats.

被害植物 麥其他禾本科植物。

特徴 體暗黄少しく、綠色を帶ぶ、頭長く三角形をなして突出す、前頭に八字形の

黒紋あり、前翅の翅端脈は其兩側に黒條を並走す、體長一分五厘。

驅除法 同前。

九いなづまよこほひ *Deltocephalus dorsalis* Motsch. (第百十九圖)

被害植物、稻・麥・甘蔗其他禾本科植物。

特徴 體は暗黄、頭頂に二個の弓狀紋を

裝ひ、前翅は黄白、電光様の褐紋あり、體

長九厘。

驅除法 同前。



第百十九圖

いなづまよ

こほひ

一〇おほいなづまよこほひ *Paralimnus formosus* Bohem.

被害植物 稻・麥・葦・莎草

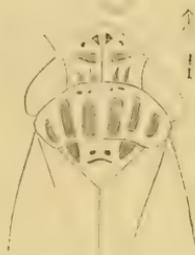
に菱状の大なる黄白紋を現はし、尙前縁に二箇の黄紋あり、體長(翅端迄)一分。

驅除法 同前。

五、まだらよこほひ *Deltocephalus striatus* L. (第百十八圖)

第百十八圖

まだらよこほひ



被害植物 稻・麥・甘蔗・燕麥・馬鈴薯・甜菜。

特徴 體黄褐、多數の褐色紋を散在す、前頭に八字

形の黒紋を装ひ、脚は黄色、褐紋あり、體長一分乃

至一分三厘。

驅除法 同前。

六、いねのまだらよこほひ *Deltocephalus oryzae* Mats.

被害植物 稻・麥・燕麥。

特徴 前種に酷似すれども前頭に二箇の白紋あり、黒色なる單眼の周圍も亦白

色なり、體長八厘五毛乃至一分三厘。

驅除法 同前。

七、ひろづいねまだらよこほひ *Deltocephalus laticeps* Mats.

被害植物 稻・麥。

二、うすばひめよこばひ *Typhlocyba (Chlorita) flavescens* F. (第十七圖)

第十七圖

うすばひめ
よこばひ



10
1

被害植物 苹樹・梨・茶・苺・馬鈴薯・甜菜・麥・稻

特徴 體は綠色、少しく黄色を帶ぶ、翅は
稍々透明、脈少なく綠色を帶ぶ、體長七
厘。

驅除法 同前。

三、ちまだらひめよこばひ *Typhlocyba (Zygina) mori* Mats.

被害植物 桑。

特徴 體は淡黄、體及び翅に血赤色の斑紋を散在す、小形にして前胸背に四紋あり、體長(翅端迄)八厘。

驅除法 同前。

四、みかんひめよこばひ *Conometopius citri* Mats.

被害植物 柑橘類。

特徴 體は黄白、頭は三菱形をなして突出し、兩側に黒點あり、前胸背に黒色の二
横帶を裝ひ、稜狀部の後方にも黒色の横帶あり、前翅暗色、翅を疊むときは中央

① 回ほそみどりうんか

Oxyeranus procerus Mats.

被害植物 稻コメ・菰コモ

特徴 體は全體綠色、細長、頭は細き圓錐形をなして突出す、翅長し、體長翅端迄一

分九厘乃至二分三厘。

浮塵子科 *Jassidae.*

② 一よつもんひめよこばひ *Typhlocyba (Zygina) limbata* Mats. (第一百十六圖)

被害植物、稻・麥・甘蔗其他禾本科

植物。

特徴 體は黃綠、頭頂に淡褐の一

大紋を具へ、前胸に一個、中胸に

二個の判然せざる褐紋あり、翅

脈少なく且つ判然せず、體長七

第一百十六圖

よつもんひ

めよこばひ



厘。

驅除法 爾前。

特徴 體黒褐、前翅は透明、少しく黄色を帯ぶ、周縁黒褐色、前縁の中央に黄紋あり。

體長二分。

驅除法 同前。

三、あかはねながうんか *Distrombus politus* Th. (第百十五圖)

被害植物 種蘆粟、稻、甘蔗、粟等

特徴 體稍々卵形、黄赤色、前翅頗る長く、體

の約二倍あり、體長一分三厘。

驅除法 網を以て掬ひ捕ふべし。

三、しまうんか *こなふさうんか*

Nisia atrovirensa Leth.

被害植物 稻、甘蔗、蘆粟、莎草。

特徴 體は黄褐、顔の兩側に高さ縦隆あり、

翅脈太く、接合脈に小顆粒を連ね、白粉を

装ふ、體長八厘乃至一分。

驅除法 同前。



第百十五圖

あかはねな

がうんか

驅除法 同前。

九、あをばはごろも

Gelsia distinctissima Wk. (第百十三圖)

被害植物 桑・柿・茶・梅等。

特徴 體は黄緑、翅大にして網狀脈多く、翅底に顆

粒突起あり、體長二分乃至二分二厘。

驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混じり灌注すべ

し。

第百十三圖

あをばはごろも



2
1

第百十四圖

べつこうはごろも



3
1

10、べつこうはごろも

Ricania japonica Melich.

(第百十四圖)

被害植物 桑・茶・辛樹。

特徴 體褐色、前翅に白色の二斜條あり、體長二分五厘

乃至三分。

驅除法 同前。

二、すけははごろも

Ricania fascialis Wk.

被害植物 桑。

驅除法 網を以て捕獲すべし。

六つまぐるすけは *Anagria splendens* Germ.

被害植物 稻其他の禾本科植物。

特徴 體は暗黄、頭は前胸及び中胸を合したるものより短し、前翅透明、翅端に黒褐紋あり、脚黄色、褐色の輪紋あり、體長三分。

驅除法 同前。

七てんどすけは *Dietyophora sinica* Wlk. (第一百十二圖)

被害植物 稻、麥其他禾本科類植物。

特徴 體は黄綠、顔は橙黄色、縦隆は綠色、額は細長くして甚しく延長す、體長三分五厘。

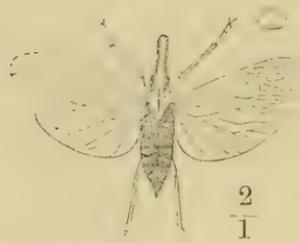
驅除法 同前。

八ひめてんどすけは *Dietyophora tengi* Mats.

被害植物 稻、麥其他の禾本科植物。

特徴 前種に酷似すれども、頭は短形、末端細し、體長三分内外。

第一百十二圖
てんどすけ
は



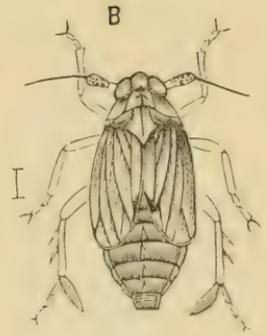
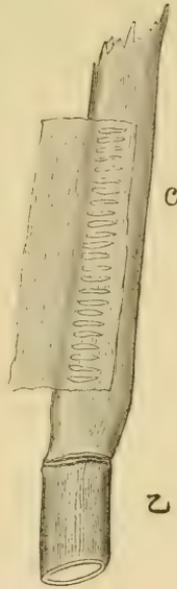
(五) 五、ぐんばいろうんか

Epora onukii Mats.

被害植物 柑、橘類、無花果。

特徴 體綠色、頭は半圓形に突出す、翅淡綠色、半透明、外縁に網狀脈あり、體長一分五厘。

驅除法 同前。
體長 一寸三分乃至一寸五分。



(四) 四、ひしろうんか

Oliarus apicalis Uhl.

被害植物 稻、麥。

特徴 體は黒褐、中胸背に五個の縦隆あり、翅淡黄褐色、雄の翅は暗色。

驅除法 同前。

經過 同前。

一分三厘。

灰白、前翅後縁の中央に黒紋あり、雌は淡色、短翅形あり、體長翅端迄

方によりて大に其趣を異にし、東京地方にありては四回、北海道は三回、臺灣に
ては七八回に達す、卵子は灰白、一頭の産卵數百二三十、四五ヶ所に産卵せらる、
常に稻莖にあり、形は紡錘狀なれども少しく曲り、頭部の方少しく尖る。

驅除法 網にて掬ひ捕ふべし、但し幼蟲の場合には一反歩に付一升内外の石油
を平等に流し、其上に害虫を打ち落すべし、又燈火誘殺法を行ふべし。

(二) とびいろんか *Delphax oryzae* Mats.

被害植物 稻、麥。

特徴 體赤褐、翅透明、後翅に於ける一紋は黒色、體長翅端迄(♂)一分四厘、(♀)一分七

厘

經過 同前

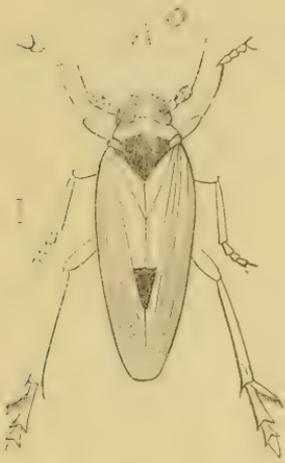
第百十一圖

ひめとびろんか

A 成蟲(長翅形)

B 同(短翅形)

C 卵子



驅除法 同前

(三) ひめとびろんか *Delphax stri-*

atella Fall. (第百十一圖)

被害植物 稻、麥。

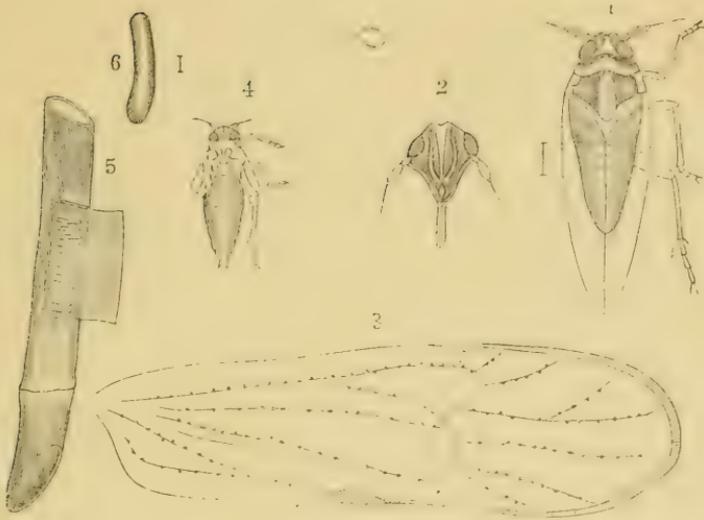
特徴 體、雄は黒褐、前胸背は

蠶兒に供する能はざるに至る、

第一百十圖
せじろうん

か

- 1) 成蟲
- 2) 顔
- 3) 前翅
- 4) 幼蟲
- 5) 卵子
- 6) 同卵大せるもの



驅除法 同前

白蠟蟲科 Fulgoridae.

1) せじろうんか Delphax furci-fera Horv. (第一百十圖)

被害植物 稻、麥、甘蔗、蘆粟、其

他禾本科植物。

特徴 體黑褐、中胸背の中央

に黄白の長紋あり、體長

一分三厘(♀)一分六厘(但し

雌に短翅形ありて淡色なり。

經過 普通幼蟲の有様にて

越年す、年發生の回数地

- (1) 成蟲
 - (2) 卵子
 - (3) 幼蟲
- (廓大圖)

第百九圖
くばきしら
み



灌注すべし。

(二) くばきしらみ

Amononeura mori Schwarz.

(第百九圖)

被害植物 桑。

特徴 體黄色或は黄綠、胸背に濃色紋あり、翅白色半透明、黒褐の點紋を散在す。

體長一分。

經過 年數回發生するものゝ如し、普通

成蟲の有様にて越年す、翌春數十の卵

子を葉に産下す、幼蟲は尾端に二束の

長さ白蠟絲を裝ひ、其性輕さを以て空

中に飛散す、甚だしく蕃殖すれば葉下

に白綿を横へたるの觀を呈す、五月下

旬乃至六月上旬に至り老熟して成蟲となる、常に群棲して外敵を瞞着す、此の害を被りたる桑葉は萎縮して其發達を妨げられ、且つ白蠟を附着するを以て

半は赤褐、體長五厘餘、有翅のものは暗褐、腹部は橙黄色、體長七厘。

經過 未だ判然せざるも、兎に角幼蟲は七月上旬より發生し、陸稻の根部にありて其葉液を吸収し、胎生蕃殖をなす、八月上旬に至れば有翅の雌を生ず、胎生兒を産すること前の如し。

驅除法 同前。

木蝨科 Psyllidae.

一、なしきじらみ *Psylla pirisuga* Först. (第百八圖)

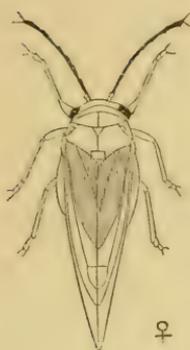
被害植物 梨、苹樹。

特徴 體赤褐或は暗褐、濃色紋あり、翅は稍々透明、體長八厘乃至一分二厘。

經過 成蟲の有様にて越年す、翌春枝に六七十の黄色卵子を産下す、之れより孵化する幼蟲は短楕圓にして成長すれば兩側に相重疊せる二個の翅痕を有す、暗褐にして白色の背線を装ふ。

第百八圖

なしきじらみ (1)

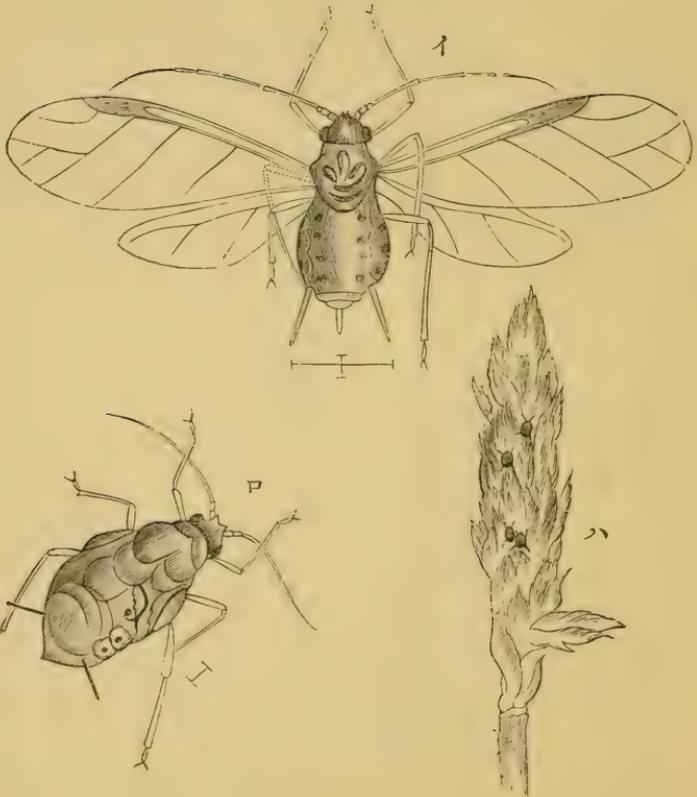


驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混じ、

第七百七圖

むぎのあぶらむし

- (イ) 成蟲
- (ロ) 幼蟲
- (ハ) 加害の状況



被害植物 陸稻。

特徴 無翅のものは黄緑若くは綠色にして少しく藍色を帯ぶ、頭及び腹部の後

色帯あり、體長五厘五毛。

驅除法 同前。

(八) まめのこなあぶらむし *Aphis papaveris* F.

被害植物 大小豆・甘藍・甜菜・牛蒡等。

特徴 無翅のものは體暗黒、觸角は暗褐と白色、蜜管は中長にして基部太し、有翅のものは光澤ある黒色にして、腹部は暗緑、體長六厘乃至七厘。

驅除法 同前。

(九) むぎのあぶらむし *Siphonophora cerealis* Kalt. (第百七圖)

被害植物 小麥・大麥・燕麥・稻。

特徴 無翅のものは綠色若しくは赤褐、觸角、蜜管及び脚は黒色、體長八厘、有翅のものは赤褐、腹部綠色、腹側に黒點あり。

經過 卵子の有様にて越年す、卵は黒色、常に切株若しくは秋播小麥の根邊に附着す、翌春孵化し、初めは禾本科植物殊に大小麥の幼芽、稚莖にあれども、麥の成長と共に穗液をも吸収するを以て大害あり。

(10) いねのあぶらむし *Toxoptera rufiabdominalis* Sasaki.

八厘、開張三分。

經過 卵子の有様にて越年す、卵は光澤ある黒色、常に枝端に於ける新芽と枝との間に位し、普通一二個宛あり、翌春孵化して稚葉の液汁を吸収す、幼蟲は綠色、其初めに出づるものは皆雌蟲にして、十日乃至十二日を経て四回の脱皮を終へ成蟲となる、其後毎日凡二疋の胎生兒を生じて單性生殖をなし、二週間乃至

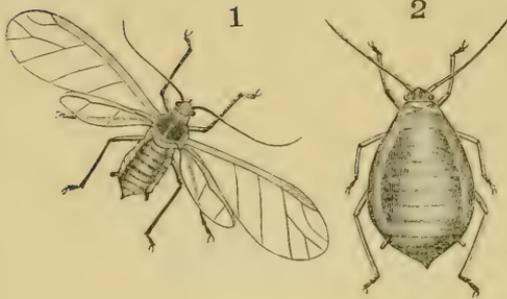
10
1

三週間にして漸次死し去り、食物の缺乏を告ぐるに至れば或ものは翅を生じて他樹に移轉し、復た單性生殖をなす。

第百六圖

だいこんの
あぶらむし

(1)成蟲(有翅)
(2)成蟲(無翅)



(七)だいこんのあぶらむし *Aphis brassicae*

U. (第百六圖)

被害植物 蘿蔔、蕪菁、雲臺藍。

特徴 無翅のものは體灰綠、少しく藍色

を帯び、白粉を裝ふ、腹部に黒點あり、體

長六厘、有翅のものは褐色、腹部綠色、褐

第一百五圖

まめのあぶらむし

(1)成蟲(有翅)
(2)同(無翅)



の如く母蟲を生ずること數回にして有翅有性の蚜蟲を生ず、此のもの交互に交尾して野生の荳科植物に卵子を産下し、翌春之れより生ずる蚜蟲の中或ものは翅を生じて大豆其他食草に移轉蕃殖す。

驅除法 石油乳劑に三十倍の水を混ぜて灌注すべし。

(六)りんごのあぶらむし *Aphis mali* F.

被害植物 苹果樹。

特徴 卵子を産する無翅のものは緑褐色、胎生兒を産する無翅のものは帶黄綠色、濃色の條紋あり、體長七八厘、胎生兒を産する有翅のものは胸部黑色、腹部綠色、兩側に黒紋あり、體長

經過 歐洲に於て有名の害蟲なれども本邦にては未だ其害大ならず、卵子の儘

越年するものと幼蟲の儘越年するものとの二種あり、八月乃至十月頃有翅の雌雄ありて、成長後交尾して一個の卵子を莖隙に藏む、其卵子は普通翌春四月頃孵化し、或ものは上昇して葉に至り、茲に綠赤若しくは黄色の蟲癭を生じ、充分老熟すれば其内に五十乃至四百の卵子を産下す、或るものは下行して根に至り三十乃至四十個の卵子を産下す、卵は約八日間にて孵化し、大凡二十日間にて成熟し、次で産卵すること前の如し、斯の如くして年六回乃至八回の成蟲を生ず。

(五) まめのあぶらむし *Aphis rumicis* L. (第百五圖)

被害植物 大小豆、蠶豆、豌豆、菜豆。

特徴 無翅の雌は卵形、黒色、觸角暗褐、中央白色、脚黄色、體長五厘乃至七厘。

有翅のものは光澤ある黒色にして、觸角及び蜜管長く、腹部少しく綠色を帶ぶ、體長八厘。

經過 卵子の有様にて越年し、翌春之れより生ずる蚜蟲は單性蕃殖をなし、前種

三 いねのきばらあぶらむし

Selyzonema flaviabdominalis Sasaki.

被害植物 陸稻。

特徴 無翅の雌は黄褐、楕圓、觸角灰黄、末端濃色、體長八厘、有翅のものは暗褐、初めの三腹節に淡黄褐

第四百四圖

ぶどうあぶらむし



(1) 成蟲

(2) 幼蟲の根に寄生せるもの

の

(3) 幼蟲

(4) 成蟲の産卵せるもの

(5) 根の蟲癭

(麻大圖)



あり、體長三厘弱、有翅のものは赤褐、觸角細長、體長三分三厘。

四 ぶどうあぶらむし

Phylloxera vastatrix

Plan. (第四百四圖)

被害植物 葡萄。

特徴 無翅のもの

は黄色乃至褐色

にして、少しく緑

色を混ざること

こと前の如し、秋季に至れば有翅の雌を生ず、此雌は六七粒の卵を産下し、之れより孵化し来るものには雌雄ありて、大なる黄色のものは雌、小なる緑色のものは雄なり、一週間内外にて翅を生じ、後交尾して一卵子を産下す、此の卵子より孵化したるものは二回の脱皮をなし、其儘越年す。

驅除法 被害部に十倍乃至二十倍の水を混じたる石油乳劑を灌注すべし、之れを根絶せんと欲せば粗布を石油乳劑に浸し、之れを抹殺し、根を害する場合に二硫化炭素を注入すべし、而して蔓延せざる以前に驅除せざれば如何なる藥劑を用ふるも効なし。

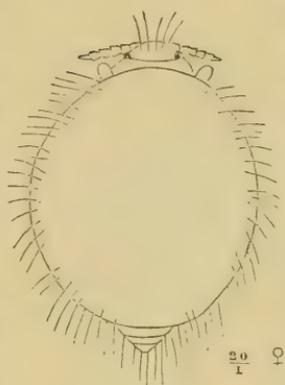
(二) いねのくろあぶらむし *Selyzoumema nigritubdominalis* Sasaki. (第百三圖)

第百三圖

いねのくろあぶらむし

(無翅成蟲)

(佐々木氏原圖)



被害植物 陸稻

特徴 無翅の雌は黒褐色、觸角灰褐色、脚黒褐色なり、體長七厘。

有翅の雌は黒褐、觸角黒色、脚黒色、黄色の部分あり、第一腹節は黄色、體長六厘

驅除法 二硫化炭素に二十倍の水を混じ灌注すべし。

第一百二圖

わたむし

(綿蟲)

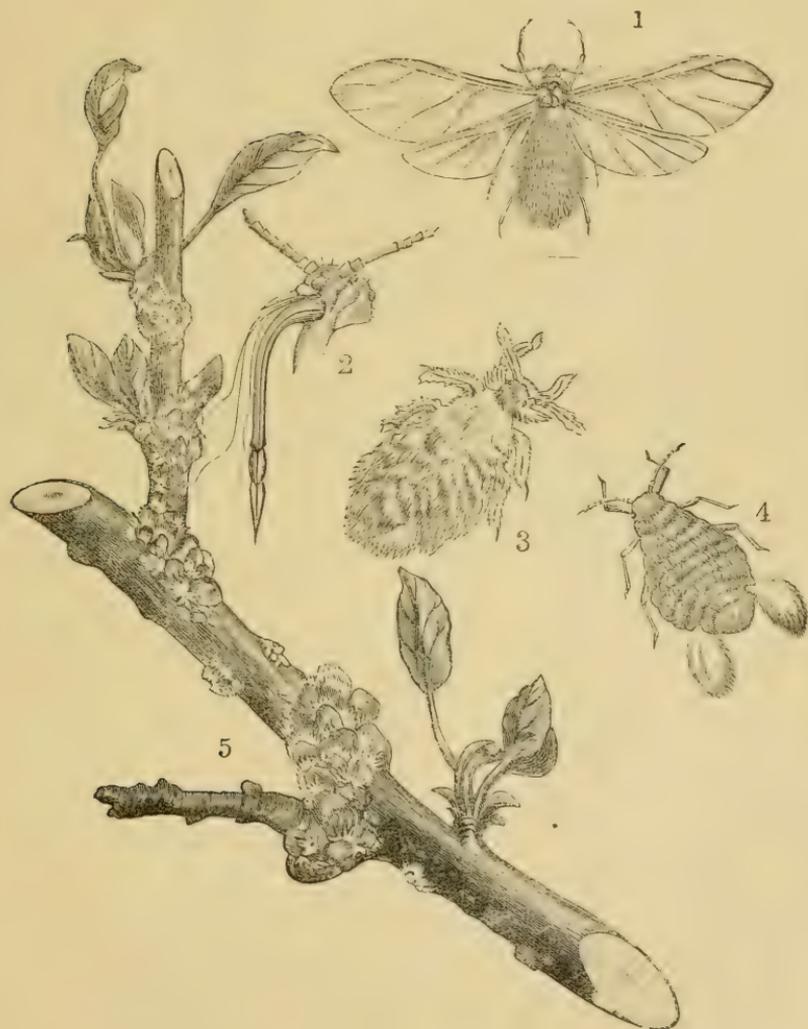
(1) 成蟲

(2) 幼蟲の頭部

(3) 幼蟲の綿毛を被るもの

(4) 幼蟲の稍や若きもの

(5) 被害の状



(三)ふうらんかひがらむし Parlatoria proteus Curt.

被害植物 柑橘・椿・ふうらん。

(三)ひめながかひがらむし Mytilaspis citricola Pack.

被害植物 柑橘・桂。

(四)ちやのながかひがらむし Mytilaspis newsteadi Sule.

被害植物 茶。

蚜蟲科 Aphidae.

(一)わたむし Schyzenemra lanigera Hans. (第一百二圖)

被害植物 萃樹・小梅・楡・椴(枝及根)。

特徴 無翅のものは黄褐、幼時は白粉を装ひ、老熟すれば綿狀の白蠟を附す、體長

五厘、有翅のものは光澤ある黒色、腹部黒褐、體長六厘。

經過 本邦有名なる害虫にして、一年七八回の成蟲を生ず、二回の脱皮を終へた

るものは越年し、翌春更に二回の脱皮を終へて成蟲となり、交尾して三四十の

胎生兒を産す、此幼蟲は十日内外にて四回の脱皮を終へ、又胎生兒を産下する

被害植物 茶。

(五) さくらのこなかひがらむし Sphaerococcus parvus Mask.

被害植物 櫻。

(六) みかんのこなかひがらむし Pylimaria auranti Ckll.

被害植物 柑橘類。

(七) かきのこなかひがらむし Pylimaria psidii Mask.

被害植物 茶。

(八) くりのまるかひがらむし Lencanium takachioi Kw.

被害植物 栗。

(九) びばまるかひがらむし Lencanium hesperidum L.

被害植物 枇杷・桑・苹果・蘭・柑橘。

(一〇) りんごのしろかひがらむし Leucaspis japonica Ckll.

被害植物 苹樹・牡丹。

(一一) みかんのしろかひがらむし Hemichionaspis minor Mask.

被害植物 柑橘類。

狀の卵囊を出す、雄は黄色、四本の尾毛ありて中央の二個は長し、體長♀二分(合)

七厘。

(二) ひもわたかひがらむし、 *Tukuhshia japonica* Olliv.

被害植物 桑・萩・合歡。

特徴 雌楕圓形、暗黄、黄色の斑紋あり、老熟すれば白色の長さ卵囊を出す、體長(♀)二分、卵囊一寸五分。

驅除法 同前。

(三) くばのわたかひがらむし *Dactylopius constocki* Karnw.

被害植物 桑。

特徴 雌楕圓形、暗紫色、觸角及び脚は褐色、體に白粉を裝ふ、體長一分三厘。

驅除法 同前。

尙此の外重要植物を害する介殼蟲は下の如し。

(三) つのろうむし *Ceroplastes ceifanus* And.

被害植物 茶・桑・柑・橘・椿。

(四) ちやのろうむし *Ceroplastes floridensis* Coms.

第一百圖

(廓大圖)

くはのこな
かひがらむ
し

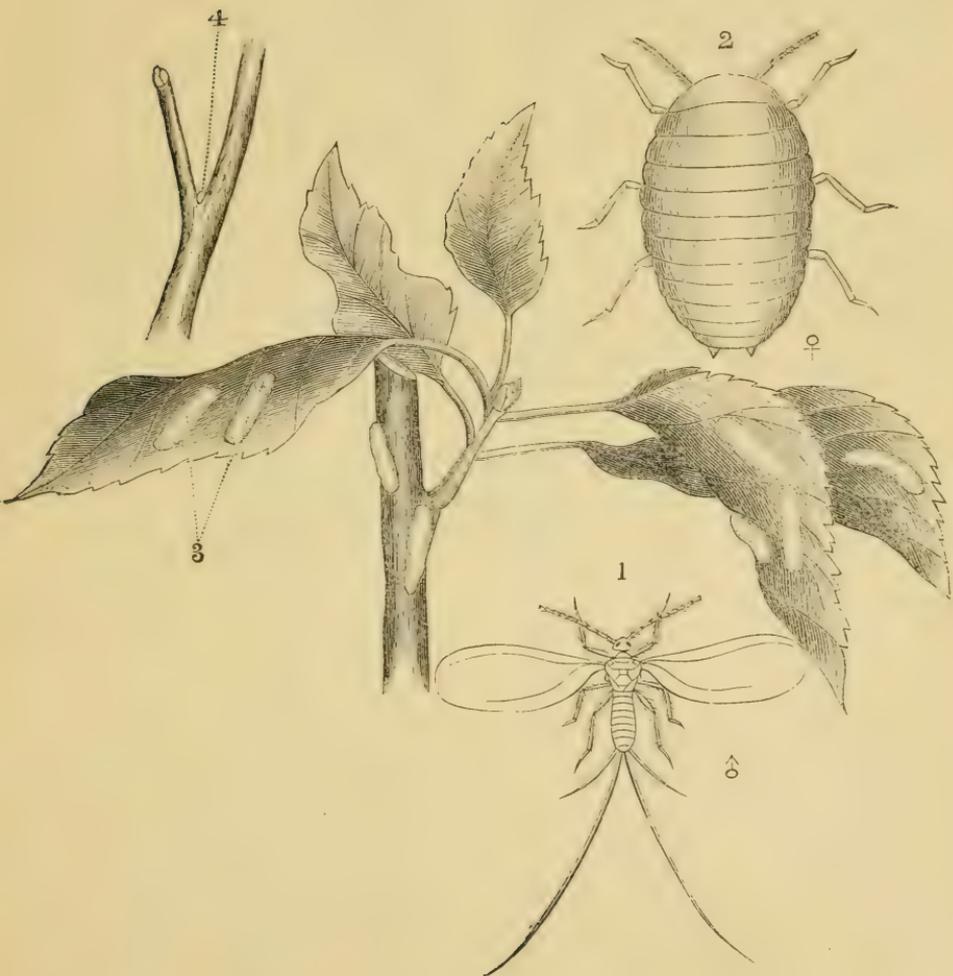
(1) 成蟲♂

(2) 幼蟲

(3) 雌の卵囊

(4) 幼蟲の越冬せるも

の



有

吻

目

成蟲 雌は短楕圓、黄色、尾節は橙黄色にして、三角形の硬板を裝ひ、之れに棘狀突起あり、雄は赤黄、體長(♀)四厘、(♂)一厘七毛。

經過 年三回の發生をなす、第一回は五月、第二回は七月、第三回は九月、成蟲の有様にて越年す、翌春卵子を介殼下に産し其儘死去す、幼蟲は初めは活潑にして固着すべき場所を求めて樹幹を上下し、固着後第一回の脱皮を終れば觸角脚等を失し、口吻大に發達するに至る。

驅除法 同前。

(九)ちやのかひがらむし *Prulatoria pergande* Coms. var. *Thene* Okl.

被害植物 茶・山茶・柿・薔薇・木犀楓。

特徴 介殼 雌圓形、暗綠色、粗糙にして殼點一側に偏し梨形をなす、長さ(♀)五厘、

成蟲 雌淡緑にして紫色を帯ぶ。

驅除法 同前。

(10)くはのこなかひがらむし *Phenacoccus pergandei* Okl. (第一圖)

被害植物 桑・萃樹・柿。

特徴 雌は赤褐、背部は少しく黒色を帯び白粉を裝ふ、老熟すれば尾端より白綿

被害植物 柑橘類

特徴 介殼 雌は暗灰色、橢圓、殼點白色、其周圍は黑色、雄は暗黃殼點は大にして黄色、長さ(♀)三厘三毛、(♂)不明。

成蟲 雌は淡黃圓形、尾節の四突起中、中央にある二個は大にして相接近す、尙此の兩側に三個の棘狀突起あり。

第百圖

くはのかひ
がらむし

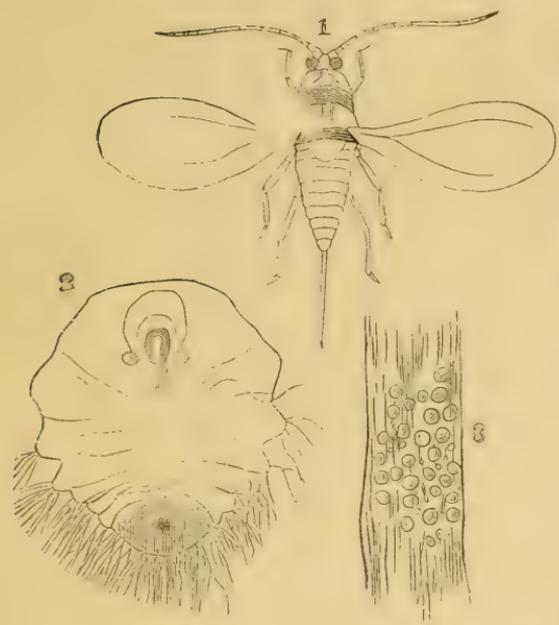
(佐々木氏原圖)

(1) 成蟲(雄)

(2) 同(雌)

(3) 雌蟲群付
の狀

(廓大圖)



驅除法 同前。

(八) くはのかひがらむし、

Diaspis pentagona Targ.

(第百圖)

被害植物 桑、梨、桃、梅。

杏、櫻、李、半夏。

特徴 介殼 圓形或

は短橢圓形、灰色、殼

點は黄色、徑(♀)六厘

(♂)二厘。

驅除法 同前。

(五) きまるかひがらむし *Aspidiotus coccineus* Genn.

被害植物 茶・柑橘類。

特徴 介殻 灰白なるも蟲體の爲め黄褐を呈す、(♀)は圓形にして徑八厘、(♂)楕圓にして長さ五厘。

成蟲 雌體は圓形、褐色、尾端は著しく凹陥し、後縁に六突起ありて中央の二個は大なり、雄は黄色乃至褐色、體長(♀)六厘(♂)二厘。

驅除法 同前。

(六) くるかひがらむし *Aspidiotus duplex* Kll.

被害植物 柑橘・茶・木犀・牡丹。

特徴 介殻 圓形、黑色、殻點は一方に偏し、黄色なり、長さ九厘。

成蟲 雌黄色、短楕圓、尾節に四個の突起を有す、中央にあるものは大にして褐色なり、雄は不明。

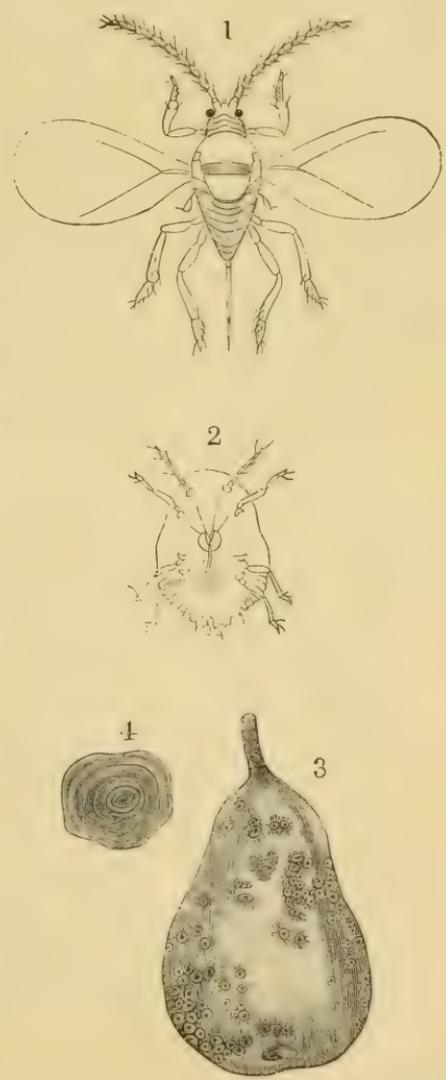
驅除法 同前。

(七) しろてんかひがらむし *Aspidiotus albopunctatus* Kll.

第九十九圖

さのーぜか
ひがらむし

- (1) 成蟲(雄)
- (2) 幼蟲
- (3) 介殼の梨に附着せるもの
- (4) 介殼を廓大せるもの



驅除法 冬期青酸加里の瓦斯を以て燻殺し、他の時期にありては、松脂合劑を刷毛にて塗抹すべし、幼蟲の未だ固着せざる前は、石油乳劑大効あるも、固着したる後は比較的有効ならず。

(四) まるかひがらむし *Aspidiotus ficus* Ash. et Kiley.

被害植物 無花果、柑橘類。

特徴 介殼 略圓形、黃褐、周縁は灰色、中央は暗黃、徑♀六厘乃至八厘、♂二厘。

成蟲 雌は暗赤、短楕圓形、雄は灰色、體長♀四厘、♂一厘。

を以て塗抹すべし、又冬期青酸加里の瓦斯を以て煙蒸すべし、但し大木にあ
りては困難なるが故に矮性の樹を仕立つべし。

二、ながかひがらむし *Mytilaspis gloverii* Pack.

被害植物 柑橘類。

特徴 介殻 黄色若くは黒褐、前種より遙かに細し、長さ(♀)一分、(♂)五厘。

成蟲 雌は黄褐若くは紫色を混じたる黄褐、尾端は黄色、雄は前種と同様なり。

體長、♀五厘、♂二厘。

驅除法 幼蟲の卵子より孵化する時、前同様に石油乳劑を灌注すべし。

三、さのーぜかひがらむし (なしのかひがらむし) *Aspidiotus perniciosus* Comst.

(第九十九圖)

被害植物 梨、苹樹、杏、李等。

特徴 介殻 牡蠣殻状を呈し、灰色にして少しく藍色を帶ぶ、多くは暗色の黴菌
を以て被はる、長さ雌六厘半、雄は楕圓にして長さ三厘七毛。

經過 年四五回の發生をなす、幼蟲の有様にて越年し、翌春五月頃に至り成熟し、
卵子を生ぜずして胎生兒を産す。

被害植物 苹果、梨、梅、桃、李、柑、橘類。

特徴 介殼 黒褐色、長形にして、莖葉介狀をなす、長さ♀一分二厘(♂)三厘。

成蟲 灰黄楕圓形、體の兩側に剛毛あり、雌は常に介殼下に住す、雄は一双の翅を有し灰白なり、體長♀四厘、♂二厘。

經過 本邦に有名なる害虫にして、年一回の發生をなす、越年は卵の有様なり、卵は白色長楕圓、割合に大なり、一介殼下にある卵數は七十内外、八月中旬頃雄は其針狀の輸精管を雌介殼の下に挿入して交尾す、産卵後母蟲は介殼の細き一端に至りて死す、越年せし卵は翌春六月上旬頃孵化す、幼蟲は灰白、楕圓形、觸角大、尾端に二毛あり、活潑にして樹幹を昇降す、間もなく一定の處に固着して脚・觸角・尾毛等を失ひ、蠟性の白絲を體の處々より出だす、その物質初めは白色圓形なれども、充分成長すれば前述の介殼となる。

驅除法 六月上旬幼蟲の出でたる時を見計ひ、石油乳劑に二十倍の水を混じて灌注すべし、但し幼蟲は六月下旬に至るまで絶えず孵化するを以て、其間少くも五六回の灌注を行ふを可とす。

苗木の場合又は餘り大木にあらざるときは、松脂合劑に二倍半の水を混じ、刷

圖八十九第

- りんごのか
ひがらむし
- (1) 成蟲(雄)
 - (2) 介殼(雌)
 - (3) 卵子
 - (4) 介殼(雄)
 - (5) 被害の状

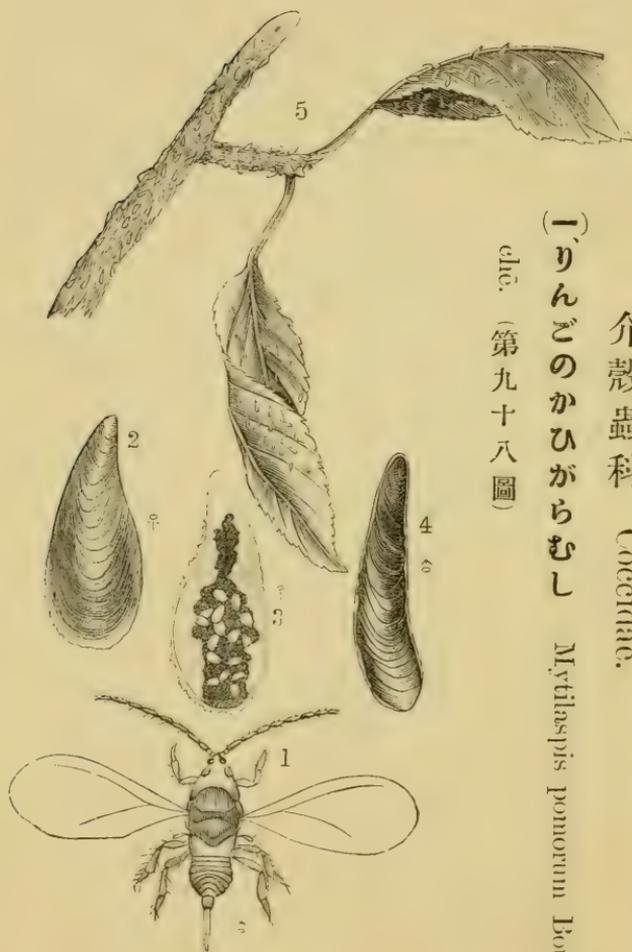
(廓大圖)

特徴 體は灰白若くは灰黄、形圓形に近く、頭小なり、腹部の中央に赤色の胃を透視するを得べし、體長四厘内外。
驅除法 水銀軟膏を被害部に塗擦すべし。

介殼蟲科 Coccidae.

(一)りんごのかひがらむし *Mytilaspis pomorum* Bon-

sho. (第九十八圖)



驅除法 同前。

六、いぬじらみ

Haematopinus piliferus Burm.

被害動物 犬。

特徴 體は黄色乃至黄褐色、腹部は淡色、下部に短毛多し、體長六厘五毛。

驅除法 同前。

七、ひめうしじらみ

Haematopinus eurysternus Steph.

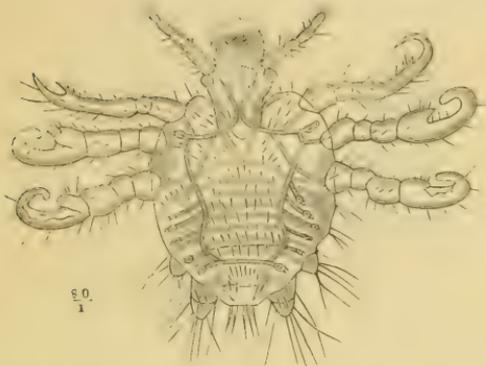
被害動物 牛。

特徴 體は光澤ある褐色、腹部は灰色にして卵形なり、體長五厘。

驅除法 同前。

第九十七圖

けじらみ



90
1

毛蝨科 *Phthiridae*.

一、げじらみ

Phthirus pubis L.

(第九十七圖)

被害動物 人毛のある處。

ならず、體長九厘内外。

驅除法 しらみの附着せる着物を密閉せる一室に入れ、青酸瓦斯にて薰殺すべし、又熱湯に浸して殺すも可なり。

三、うまじらみ *Haematopinus macrocephalus* Burm.

被害動物 馬、驢、馬。

特徴 體黄色若くは赤黄、胸部は腹部より遙に細し、體長六厘五毛乃至一分一厘、驅除法 濃厚の鹽水に除蟲菊、煙草其他苦木の浸汁を混じて洗ふべし。

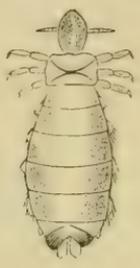
四、うしじらみ *Haematopinus vituli* L. (第九十六圖)

14 1

被害動物 牛。

第九十六圖

うしじらみ



特徴 體は褐色、腹部は長くして灰色、體長七厘内外。

驅除法 同前。

五、ふたじらみ *Haematopinus suis* L.

被害動物 豚。

特徴 體暗褐、腹部は灰色、爪黒褐、體長一分乃至一分四厘。

驅除法 石油乳劑を、幼蟲なれば三十倍、成蟲なれば二十倍の水に混じり灌注すべし。又網を以て掬ひ捕ふるも可なり。

有吻目 Rhynchotha.

蝨科 Pediculidae.

一、あたまじらみ

Pediculus capitis Deg. (第九十五圖)

被害動物 人・猿。

第九十五圖

あたまじらみ



10 1

特徴 體は灰褐色、腹部は卵形、各環節の

周縁は褐色、爪大なり、體長九厘内外。

驅除法 除蟲菊・煙草若しくは苦木の浸

汁にアルボース石鹼を溶解し、刷毛にて洗淨すべし、但しアルボース石鹼は溶解後直ちに用ゐざれば揮發して其効力を失するに至るを以て注意すべし。

二、こゝろもじらみ

Pediculus vestimenti Burm.

被害動物 人。

特徴 前種より長形にして白く、後頭は縊れて頸狀を呈し、前種の如く腹側褐色

總翅目 Physanoptera.

管蘆馬科 Phloeothripidae.

一、いねのくだあざみうま Phloeothrips oryzae Mats. (第九十四圖)

第九十四圖

いねのくだ
あざみうま



被害作物 稻・麥其他禾本科植物。

特徴 體光澤ある黑色觸角暗黄色、翅に細長の縁

毛あり、幼蟲は赤黄、體長四厘乃至五厘。

經過 一年二回發生をなすもの、如し、越年の狀

未だ判然せず、兎に角第一回のもの、は六月頃よ

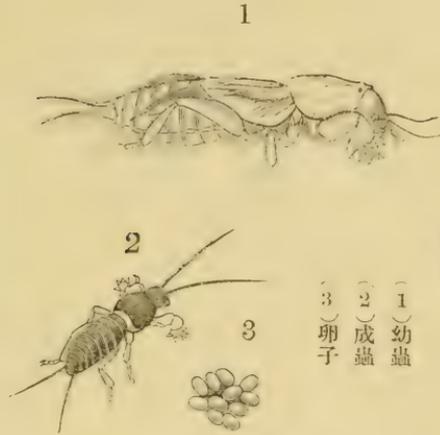
り發生し、稻葉を捲き其中にありて養液を吸收

す、多きときは一葉中往々數百を見ることあり、

其被害葉は初め黄斑を生じ、全部次第に黄色となり、次で枯死す、第二回の發生は八月頃にして、恰も稻の抽穂の頃なり、この際害蟲は深く穂中に入り、其の液汁を吸收す、爲めに籾は褐色となり、枇に變ず、其性甚だ活潑にして物に驚くときは飛散し、尾端を舉げて歩行するの性あり。

第九十三圖

げら 1-1



(1) 幼蟲
(2) 成蟲
(3) 卵子

に至る、母蟲は一時巢を離ると雖ども、幼蟲の孵化する頃再び歸り來りて之れを擁護し、幼蟲の増大すると共に其巢を擴む、孵化後三四週間の後第一回の脱皮を終へ、八月の末に至り第二回の脱皮をなす、其後は母蟲の擁護を脱し、獨立して食を求め、九月下旬乃至十月上旬に至りて第三回の脱皮を終へ、其儘深く土中に入りて越冬す、元來蠖蛄は濕地を好み田圃の地下を縦横に運行して根を食ひ、時に大害を加ふることあり、

晝間は土中に潜伏し夜間出で、甲地より乙地

に移り、時に燈火を慕ふて家屋に入り來ることあり、其害を被りたる田圃は土の縦横に隆起せるを以て識別し得べし、人之れに觸るゝときは惡臭を發す。

驅除法 晩秋、馬糞を堆積し、早春之れに潜伏するものを殺すべし、燈火誘殺法を行ふも効あり。

豫防法 石炭酸、テレピン油等を鋸屑に浸し、これを被害田圃に散布し置くべし。

卵子を産下す、卵は三週間内外にて孵化し、幼蟲は一二回の脱皮を終へ越年す。
 驅除法 飛蝗と同じく、一方に溝を掘りて其内に逐ひ込むべし、晝間は莖若しく

は藁を敷き、其下に集るものを殺すべし。

二、みつかどころほろぎ *Loxoblemmus Hamii* Sauss.

被害作物 同前。

特徴 體は黒褐、黄色紋あり、顔は平坦菱形、複眼下に三角形の突起あり、前額は球

形をなし突起なし、體長六分五厘。

驅除法 同前。

三、げら *Gryllotalpa aliciana* Palisot. (第九十三圖)

被害作物 麥、稻、玉葱、葡萄。

特徴 體暗褐、前肢は短大、開掘肢をなす、體長八分乃至一寸。

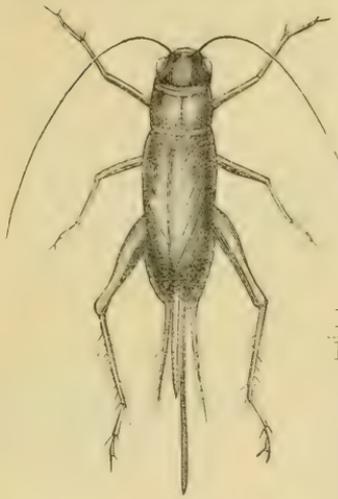
經過 年一回の發生をなす、幼蟲の儘、越年し、翌春四五月頃第四回の脱皮を終へ

て不完蛹となり、第五回の脱皮を終へて成蟲となる、七月頃に至れば、地下三四

寸の處に土窩を作り、其内に二百乃至二百五十粒の卵子を産下す、卵期は約一

ヶ月、幼蟲は初め白色なれども背上は直ちに暗褐を呈し、腹面は暗黄を帯ぶる

第九十二圖 蛾 蟋 科



1/1

一 えんまこほろぎ

(*Gryllus nitribatus* Burm. (第九十二圖))

被害植物 同前。

特徴 體黃褐、前胸の中央縊れ、兩側に一黒條あり、體長一寸七分。

驅除法 同前。

蟋 蟀 科 Gryllidae.

被害植物 豌豆、大小豆、棉、煙草、粟、稗、蕎麥

等。

特徴 體は光澤ある黒色、顔の大部は黄

色、頭に突起なし、體長八分乃至九分。

經過 年一回の發生をなす、幼蟲の儘越

年す、翌春更に三四回の脱皮を終へ成

蟲となる、晩秋雄は蟲孔にありて前翅

を摩擦し、一種固有の朗聲を放ち雌の集來を待つ、八月上旬より十月に亘りて

加害すること甚だし、晝間は石下・塵埃若しくは地中に孔を穿ち、其内に數十の

様の光澤あり、前翅に黒褐の大紋を散在す、後脛節は生時赤血色、體長一寸六分
乃至二寸二分。

經過 年一回の發生をなし、卵子の有様にて越年す、卵は黄色、楕圓形、地下三四分
乃至一寸の處にありて數列に産下せられ、更に褐色の粘液にて掩はる、其一卵
塊の數は三十乃至七八十にして一雌の産卵數は百五十内外なり、翌春孵化し
一週乃至十日間は發生の地に彷徨し、甲地を食ひ盡くせば乙地に轉じ、羽化後
食盡くれば一群方向を等しくして、日に平均三十哩の速度を以て飛翔し、風の
強き場合には二三百哩外に達することあり、其飛行するや大空を蔽ひ、天日た
めに暗く、翅音人をして悚然たらしむ、其地上に下るや綠波忽ち焦土と化し、食
盡くれば又順風に乗じ其方向を轉ず、稀れに年二回の發生をなすことあり、幼
蟲より成蟲に達するまで約七八週間なり。

驅除法 溝を堀り、其内に逐ひ込みて殺すべし。

豫防法 飛蝗の降下せんとするときは、空砲を放つか若しくは石油罐等を鳴ら
して之れを威嚇すべし。

七、たいわんはつた

Paelytylus migratoroides Reich.

第九十圖

ひしばつた

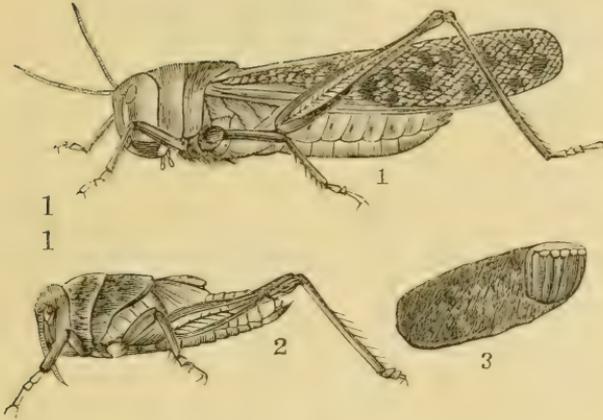


3 2

第九十一圖

たいめうば
つた

- 1 成蟲
- 2 幼蟲
- 3 卵子



のあり、體長二分五厘乃至三分五厘。經過 年一二回の發生をなす、幼蟲の

有様にて土塊又は塵芥の下に越冬し、翌春出で、稚苗を食害す、成蟲はいなど同様に卵子を地中に産下し、數列をなして膠質中にあり、其性遲鈍なるを以て捕獲すること難からず。

驅除法 蠅擲にて打ち殺すべし。

(六) たいめうばつた(飛蝗) *Pachytelus dan-*

iansi L. (第九十一圖)

(一名とのさまばつた *Syn. P. chinensis* F.)

被害植物 稻、麥、甘蔗、蘆粟、粟、其他禾本

科植物。

特徴 黄褐若くは綠色、多少天鵝絨

ごないねばこ 圖九十八第



1/1

特徴 前種に酷似すれども、翅は短かくして、纒かに尾端に達するに過ぎず、體長一寸乃至一寸三分。

驅除法 同前。

(三) ごいなご *Oxya intricata* Stål.

被害作物 同前。

特徴 はねながいなごに酷似すれども、形細小なり、體長八分。

驅除法 同前。

(四) ごぞいなご *Oxya jezoensis* Mats.

被害作物 同前。

特徴 體綠色、翅短く、纒かに腹部の中央に達す、體長五分。

驅除法 同前。

(五) ひしばつた *Tettix japonicus* D. H. (第九十圖)

被害作物 茄子、胡瓜、其他溫床の種苗。

特徴 體灰色若しくは黒褐、小顆粒を散存す、前胸菱形、之れに四黒紋を有するも

一、ばねながいなこ

Oxya velox H. (第八十八圖)

被害作物 稻・麥・其他禾本科植物。

特徴 體黃綠、前胸の兩側に褐色の縦條を裝ひ、前翅の縁は深く刻らる、體長一寸乃至一寸五分。

經過 東京地方にありては年一回の發生をなし、卵子の有様にて越年す、卵は地下一二寸の處にあり、數列をなして膠質物の圍中に藏せらる、一雌の産する卵數は約百内外、翌春五六月頃に發生し、禾本科植物殊に稻葉を嗜み大害を加ふ、其最も恐るべきは幼蟲時代にして、恰も苗が數個の軟葉を生ぜる時にあり、八月頃に至り第五回の脱皮を終へ、次て翅を生ず、秋季交尾し、降霜の頃畦畔若くは堤防の土中に産卵す。

驅除法 網を以て掬ひ捕ふべし。

二、こばねいなこ *Oxya vicina* Brunn. (第八十九圖)

害作物 同前。

三 こまぶり *Stylopyga concinna* Hagb.

被害物 同前。

特徴 體黒褐前胸に不正形の縮刻あり、雄の翅は長く雌にありては短かし、脚は

側扁にして赤褐の長刺を装ふ、體長(翅端迄)五分—六分、(♂)一寸。

驅除法 同前。

四 こまぶり *Stylopyga orientalis* L.

被害物 同前。

特徴 體赤褐、雌雄共に翅短かくして尾端に達せず、體長七分乃至八分。

驅除法 同前。

五 ちやばねこまぶり *Phyllodromia germanica* Steph. (第八十七圖)

1/1

被害物 同前。

特徴 體黃褐、前胸に二黒條を縦走す、體長五分。

驅除法 同前。

第八十七圖
ちやばねこ
まぶり



蝗蟲科 *Acrididae*.

一 わもんどぎぶり *Periplaneta americana* L. (第八十六圖)

被害物 厨房の貯藏品・毛皮及び動物性標本。

物性標本。

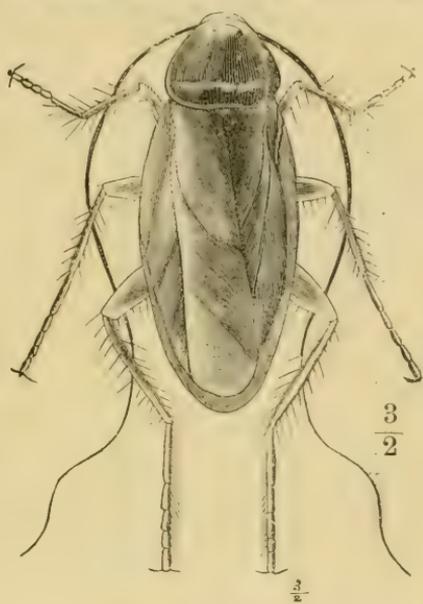
特徴 軀赤褐、前胸下に大なる黄褐の輪狀紋あり、軀長一寸乃至一寸三分。

驅除法 食物外の物品には、青酸加里の一片を綿に包みて入れ置くべし、厨房に蕃殖したる場合には、

青酸瓦斯を薰蒸するか若くは硫黄に一割の硝石を加へ薰殺すべし、其發生の

小數なる場合には蠅擲様のものを造りて打ち殺すべし。

第八十六圖 わもんどぎぶり



二 こわもんどぎぶり *Periplaneta australasiae* L.

被害物 同前。

特徴 軀黒褐、前胸背に黄褐の輪紋あり、軀長八分乃至一寸。

驅除法 同前。

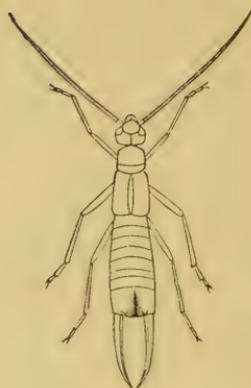
(二) おほはさみむし *Labidura riparia* Pall. (第八十五圖)

1/1

第八十五圖

をほはさみ

むし



被害物 同前。

特徴 軀黒褐色、雄の尾端に小齒を列ねた

る鋏子あり、軀長七分乃至八分五厘。

驅除法 同前。

(三) こぶはさみむし *Apterygida japonica*

Borm.

被害物 同前。

特徴 軀黒褐、雄は腹部末端の兩側に瘤狀の隆起を裝ひ、鋏子の基部に二齒あり、

軀長四分乃至五分。

驅除法 晝間は家具及び疊の隙間、養蠶室にては蓆其他堆積せる桑枝下に隠る

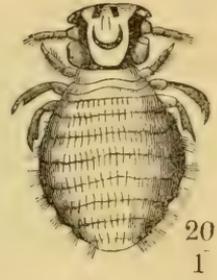
ゝを以て之れを捕殺すべし、又寒冷紗にて障子を張り其侵入を防ぐべし。

直翅目 Orthoptera,

蜉蝣科 Blattidae.

第八十四圖

いぬけじら
み



201

五毛

驅除法 濃厚なる鹽水にて被害部を洗ふべし。

二、ひつじけじらみ *Trichodectes spharerocephalus*

Nitz.

被害動物 羊。

特徴 軀淡黄、頭圓形、腹部に暗色の横帯あり、軀長五厘乃至六厘、

驅除法 同前、但し煙草の浸汁も同様の効能あり、又除蟲菊浸汁にあるほゝす石鹼を加へ塗抹するも可なり。

疊翅目 *Euplexoptera.*

蠃蝮科 *Forficulidae.*

一、くぎぬまばさみむし *Forficula tomis* Kolen.

被害物 蠶兒、新しき昆蟲標本。

特徴 軀褐色、雄は尾端に釘拔様の缺子あり、軀長六分乃至九分五厘。

驅除法 第三を見よ。

特徴 體は灰白、側縁は黒色、頭の兩側に黒紋あり、體長五厘乃至六厘半。
驅除法 同前、

(二) ひめにはとりはじらみ *Goniocotes hologaster* Burm.

被害動物 鶏

特徴 躰淡黄、暗色毛を装ひ、腹部の兩側に暗色の斜條あり、躰長三厘餘。

驅除法 同前。

(三) ばとのながはしらみ *Goniocotes compar* Burm.

被害動物 鳩。

特徴 躰光澤ある黄色、兩側は赤色、胸部暗黄、腹部白色、躰長三厘乃至六厘。

驅除法 同前。

獸蝨科 *Trichodectidae.*

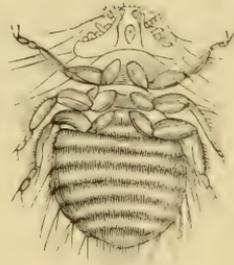
(一) いぬけじらみ *Trichodectes canis* Deg. (第八十四圖)

被害動物 犬。

特徴 頭稍々四角形、觸角に近く、褐紋あり、胸部暗色、腹部白色、躰長三厘乃至六厘

第八十三圖

にはとりは
じらみ



20
I

被害動物

ガウヘンテラ
鴉鵒

特徴 體は淡黄、褐紋を裝ひ、腹部に廣き暗色の横帶あり、體長一分三厘乃至一分六厘。

驅除法 蒟蒻玉若しくは亞麻仁油を塗りたる布を以て頸に達する袋を作り、其内に足を縛りたる被害鳥を入れ、之れに青酸加里の二三片を投じ、二三時間其儘放置すべし。

長羽蝨科 Philopteriidae.

一、にはとりながはじらみ *Iripentus variabilis* Nitz.

被害動物 鶏。

(二) がてらばじらみ *Liotheus conspurcatus* Nitz.

特徴 體赤黄、頭の兩側に黒紋あり、觸角隠れて見へず、體長五厘。
驅除法 夜間二硫化炭素を入れたる罎を口を開きたる儘栖木の下に吊るすべし。

と雖ども猶昆蟲標本箱内にありて加害することあり、標本は爲めに粉末となり、終に其形を失ふに至る。

驅除法 青酸加里の一片を綿に包み、其發生せる箱中に數時間入れ置くべし、但し青酸加里を長時箱内に入れ置けば、針に銹を生じ、且つ水氣を含むを以て注意すべし。

(二) しろこなちやたてむし *Atropos pulsatorius* L.

被害物 動植物標本。

特徴 前種に酷似すれども、白色にして、眼は黄色、觸角に二十九節あり、體長六厘。

經過 同前。

驅除法 同前。

食毛目 *Mallophaga*.

羽虱科 *Liotheidae*.

(一) はとりはじらみ *Liotheus pallidum* Nitz. (第八十二圖)

被害動物 鶏。

間に平均二十餘の卵子を産むことあり、朽木、石下其他倒木の下に營巢し、塔を造ることなし。

驅除法 茶樹の根邊に巢を造りたるものには二硫化炭素を灌注すべし、分量は巢の大小によりて異なれども、大なるものは五勺程の同液に五倍の水を加へ用ふべし、又木材其他柱等を食害する場合には昇汞水百倍位の水に溶解したるものを塗り、其上より更に石灰を塗り置くべし。

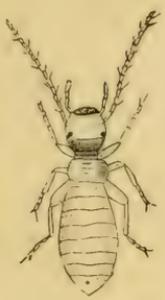
啗蟲目 Corrodentia.

茶柱蟲科 Psocidae.

(一) こなちやたてむし Troctes divinatorius Mill. (第八十二圖)

16
1

第八十二圖
こなちやたてむし



被害物 動植物標本

特徴 體は灰白、眼黒色、額及び口部は赤褐、觸角は十九節より成り、約體と同長、尾節に黒點あり、翅及び單眼を缺く、體長(♀)五厘。

經過 年發生の回數は判然せざるも、少くも三回の發生をなすものゝ如し、寒中

豫防法 被害の患ある物には、樟腦・那不多林、固形フォーマリン若しくは麝香を
入れ置くべし。

白蟻目 Isoptera.

白蟻科 Termitidae.

(一) しろあり(白蟻) *Terms speratus* Kolbe. (第八十一圖)

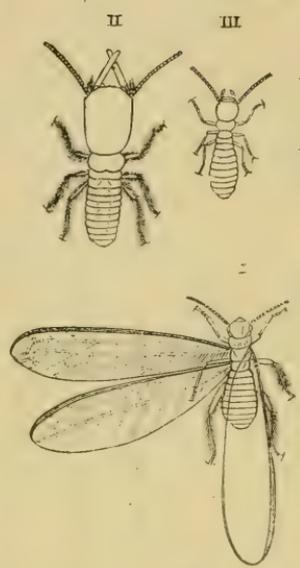
第八十一圖

しろあり

I 成蟲♂

II 兵蟻

III 職蟻



21

被害植物 茶木材及び家柱を食

害することあり。

特徴 體黑褐色、脚黄色、翅不透明

にして灰白色、職蟻及び兵蟻は

白色、體長♂一分二厘、職蟻一分

三厘、兵蟻一分五厘。

經過 東京地方にありては、五六月に至れば雌雄翅を生じて空中を飛翔し、交尾

を遂げたるものは地上に降り、其周圍を歩行せる職蟻及び兵蟻に發見せられ、

彼等に擁せられて茲に女王となり新社會を經營す、其受精せる女王は一分時

(二) きまるとびむし *Smythurus viridis* L. var. *annulatus* Folsom.

被害植物 同前。

特徴 體黄色、黒紫色の小紋を散在す、體長六厘。

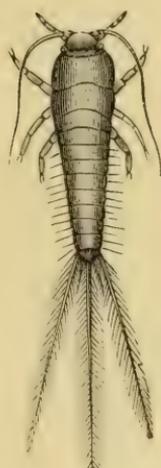
經過 同前。

驅除法 同前。

衣魚科 *Lepismidae.*

(一) しみ(衣魚) *Lepisma villosa* F. (第八十圖)

21



第八十圖

しみ(衣魚)

被害物 衣服、書籍、其他食物類。

特徴 體銀白色、三本の長毛あり、體長

四分乃至五分。

經過 年發生の回數は少くも三四回

ならん、越年するものに幼蟲あり成蟲ありて一定せず、其性跳躍するを以て捕獲困難なり、此害を被るときは衣服は所謂汚染を生ずるに至る。

驅除法 室内を密閉し、青酸瓦斯にて之れを薰殺すべし。

各論

彈尾目 *Thysanura.*

圓跳蟲科 *Sminthuridae.*

(一) まるとびむし *Sminthurus hortensis* Fitch. (第七十九圖)

被害植物 茄科、蕨科、其他の雜葉。

特徴 躰暗紫色、黄色紋を散在す、躰長三厘乃至四厘。

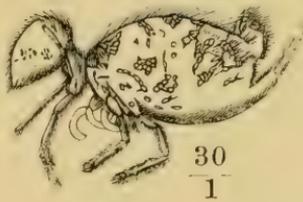
經過 一年少くも六七回發生す、成蟲の有様にて越

年し、翌春殆んど凡ての植物雜葉に集まり加害す、

其性甚だしく跳躍するを以て驅除に困難なり、之

れが爲め植物の枯死を見ること稀なりとせず。

第七十九圖、
まるとびむし



驅除法 石油乳劑に二十倍の水を混じ散霧器にて灌注すべし、又鳥黏を以て其

の跳躍するものを捕ふべし。除蟲菊に四十倍の木灰を混加散布するも大効あり。

すゞめはちみつはち等之れに屬す。

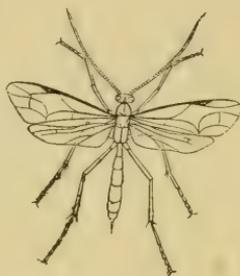
ちばきほお 圖七十七第

す、幼蟲は巨頭にして三双乃至十一双の脚あり、おほきばち(第七十七圖)はばち等之れに屬す。

(2) 食蟲類 腹柄細く、産卵管は針狀にして普通尾節より突出し、二條の膜

第七十八圖

あめばち



瓣は左右より之れを包擁す、而して其長さ軀に數倍するものあり、幼蟲は無脚にして單眼を缺き、口部あれども肛門を具備せず、多くは他蟲の體內に寄生し、農家に有益なるもの多し、

ふしばちこまゆばちひめばちばびほうたまごばちこばちあめばち(第七十八圖)等之れに屬す。

(口) 有劔亞目 轉節に異狀なく、雌の尾節には毒刺を具ふ、胸腹の間は甚だしく緊縊す、幼蟲は蛆狀にして雌蟲若しくは職蜂に飼育せらる、多くは有益なれども時に果實を害するものあり、ありつちばちべつかうばちこしほそばち

す。

二五節類 三双の脚共に普通五節あり、へうほんむしほたるこめつきたまむしこがねむしこはがたむしがむしげんごろうをさむしはんめうまいまいかぶり第七十六圖等之れに屬す。

六膜翅目 口は咀嚼及び舐喰に適し、前胸は癒着して動くことなし、四翅は膜質にして翅脈少なく、且つ前翅は後翅より大なるを常とすれども、又往々全く翅を缺くものあり、頭は自在に動き、普通複眼の外更に單眼あり、雌の尾節には産卵管若しくは伸縮し得べき毒刺を有す、變態は完全なり、後翅前縁には小鉤を連ね爲めに兩翅相連りて飛翔に便なり、皆一種固有の彩色を有す、多くは農家に有益なり、其有害なるものに至りては少なし、之れを分つて下の二亞目とす。

(イ) 有錐亞目 脚に二節あり、轉節を有し、雌の尾節には錐狀若しくは鋸狀の産卵管ありて之れを植物若しくは他蟲の組織内に挿入して産卵す、更に此亞目を分つて左の二類となす。

(1) 食葉類 産卵管は鋸齒狀若しくは錐狀を呈し、腹柄なく、前翅には食蟲類と異なりて劍狀室と稱する一室あり、中後の二胸環は互に動き、全躰肥滿

第七十三圖

おほにじゆ
うやほし



節甚だ小形なり、てんとうむしおほにじゆうや

ほし(第七十三圖)等之れに屬す。

(口) 隱五節亞目 脚は盡く四跗節の如くなれども、

其實五節より成り第四節甚だ小形にして判然
せず、而して前跗節の往々三節なることあり、お

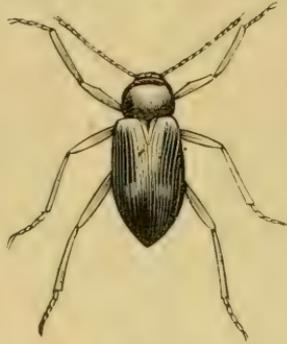
ほきのこむしるりはむしかみきりこしんくひざうむしきくすひ第七十四

第七十四圖

きくすひ



第七十七圖 きはまき



第七十六圖

まいまいか

ぶり

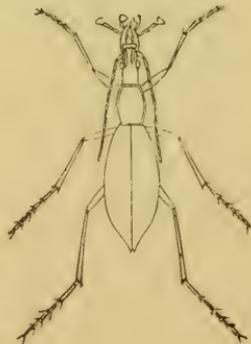
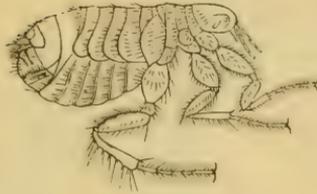


圖)等之れに屬す。

(ハ) 異節類 後肢は四跗節より成り、前中の跗節には五節あり、かみきりだまし、

はなのみつちはんめうごみむしだましきまはり(第七十五圖)等之れに屬

第七十七圖のみの



す。

(ハ) 長角亞目 觸角は六節乃至數十節より成り、普通連鎖狀をなして細長く、雄には往々兩櫛齒狀を呈するものあり、腹部は細長にして七節乃至九節あり、蛹は被蛹なり、**ぶゆかがべんぼ**等之れに屬す。

(六) 微翅目 口は吸收及び顎螯に適す、上唇を缺けども大腮は細長にして銳齒を具ふ、下唇は關節をなす、觸角は甚だ短かく、三胸環は互に

相分離す、四翅を缺き、板狀の附屬物其地位を占む、變態は完全なり、**のみ**(第七十二圖)、**いぬのみ**等之れに屬す。

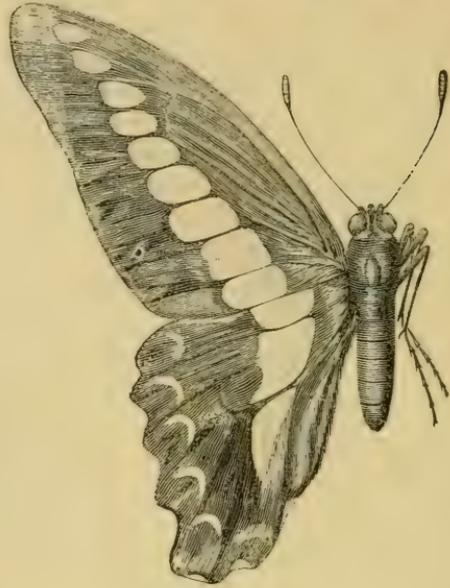
(七) 鞘翅目 口は咀嚼に適す、頭及び前胸は革質の硬皮を以て蔽はれ、自在に運動す、觸角は種類によりて其形を異にす、單眼を有するものは稀なり、前翅は長方形にして中後の兩胸腹部及び後翅を蔽ひ、後翅は膜質にして獨り飛翔を掌る、脚は歩行若しくは游泳に適す、腹部肥大し、變態は完全なり、之れを分つて左の四亞目となす、

(イ) 隱四節亞目 後肢には三跗節ある如く見ゆれども、其實四跗節ありて第三

ぶあやほし 圖一十七第



いまたろく 圖十七第



生するもの之れに屬す。

(ロ) 短角亞目 觸角は三節にして普通頭より短か

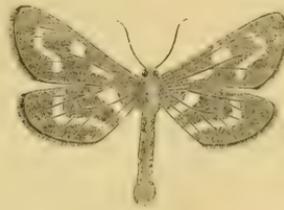
く、末端に端刺若しくは角片を具ふ、鱗狀瓣を以て球桿状の後翅を蔽ふもの多し、蛹は多く圍蛹なり、いへはいしまはいひらたあぶむしひきあぶみづあぶしほやあぶ第七十一圖等之れに屬す。

のとあり、分つて左の三亞目となす。

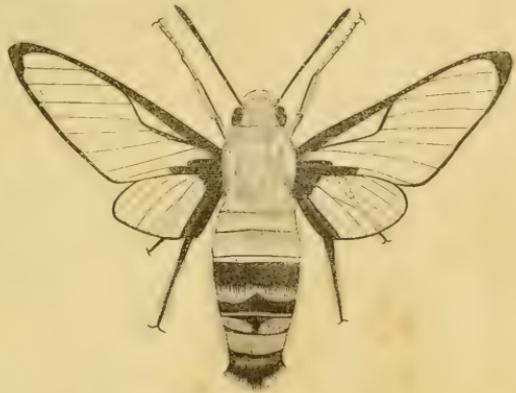
(イ) 蝨蠅亞目 觸角は短かくして二節より成るもの多し、大腮は鞘状の小腮に圍繞せられ、下唇は關節をなさず、翅を缺くもの多し、皆胎生にして産出後幼蟲は蛹化す、いぬしらみはいうましらみはい等の如く禽獸に寄

第六十八圖

とんぼしやく



第六十九圖 おほほかすは



蟲は普通食草性なれども時に動物性の標本を食害し、又稀に食肉性のものあり、**ばまきめい** **ちうみのむししやくとりよと** **うむしかひこ**等は皆此類の幼蟲なり。

〔口〕 蝶亞目 觸角は絲狀杓子狀若

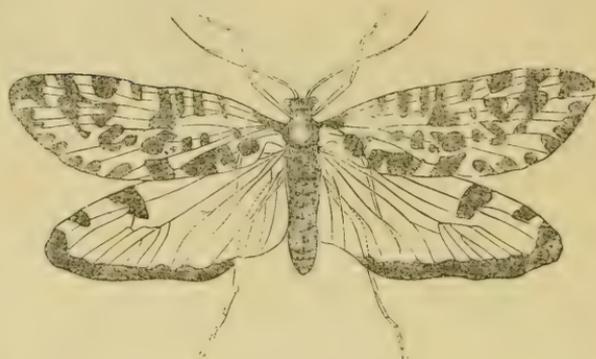
しくは棍棒狀にして、晝間飛翔し、靜止のときは翅を直立せし

む、幼蟲は食草性なれども稀にごいししじみの如く蚜蟲を食するものあり、**せりひ**をどしてふきてふあげはてふくろたいまい(第七十圖等之れに屬す。

〔五〕 双翅目 口は口吻狀に延長して吸收及び咀嚼に適し關節をなさず、前胸は癒

着して動くことなし、翅は一双あり、後翅は退化して球桿狀を呈し時に全く之れを缺く、變態は完全なり、之れに屬する昆蟲には有益なるものと有害なるも

らげびとらだまご 圖七十六第



るを以て一名ぢむきかげろふと云ふ、幼蟲は水中に棲み常に草木片若しくは砂石等を以て管状の巢を造り其内に住す、食草性にして農家に有害なるものは唯だぎんほしつゝとびけら(どろつとむし)の一種なるのみ、むらさきとびけらごまだらとびけら(第六十七圖等之れに屬す)。

(四) 鱗翅目 口は吸收に適する管状の長吻にして平時は螺旋状に廻旋す、二双の翅は膜質同形にして細鱗を密生し、之れによりて美麗の彩色を現はす、前胸は癒着して動かず、變態完全なり、幼蟲は五双乃至八双の脚を具ふ、稀に九双の脚を

有するものあり、之れを分つて蛾及び蝶の二亞目となす。

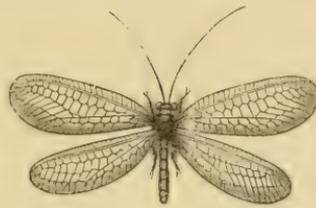
(イ) 蛾亞目 觸角は鞭狀羽狀若しくは紡錘狀をなし、後翅の基部には普通抱刺を有し以て飛翔に便ならしむ、多くは夜間飛翔し靜止のときは翅を屋斜狀に置く、とんぼしやく(第六十八圖)おほすかしは(第六十九圖)等之れに屬す、幼

こじらみさしがめあめんぼへりかめむしいねかめむし等之れに屬す。

(二) 脈翅目 口は咀嚼に適す、二双の翅は膜質同形にして網狀脈を有す、變態完全、多くは食肉性にして農家に有益なり、くさかばろふ(第六十五圖)うすばかばろふ(第六十六圖)ながとんぼ等之れに屬す。

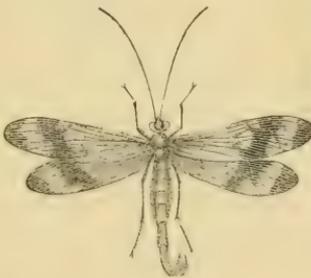
第六十五圖

くさかばろふ



第六十六圖

しりあびむし



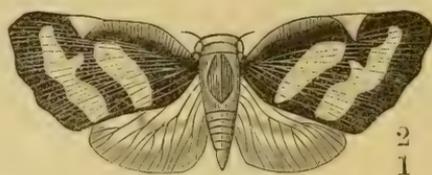
(三) 蝸蟲目 口は垂直

に延長して口吻狀をなし咀嚼に適す、頭は小さく、二双の翅は膜質同形にして横脈少なく、靜止

のときは之れを水平に半開す、幼蟲は成蟲同様に食肉性にして小蟲を捕食し農家に有益なり、しりあびむし(第六十六圖)がらんぼもどき等之れに屬す。

(三) 毛翅目 口は延長して口吻狀をなせども退化せり、二双の翅は其形を異にし、前翅は細毛若しくは細鱗を裝ひ、後翅は廣くして縱疊し得べし、靜止のときは屋斜狀に置く、變態は完全なり、成蟲の靜止するときは頭を下方に向く

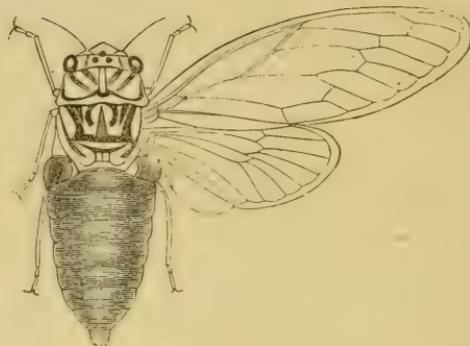
もろごほうこつべ 圖二十六第



たがめ 第六十四圖



しらぐひ 圖三十六第



こうはごろも(第六十二圖)せみ(第六十三圖)等之れに屬す。

(ハ) 異翅亞目 二双の翅は其形を異にし、前翅基部の大半は革質不透明にして外縁に膜質部を有し、静止のときは之れを水平に置く、口吻は頭の前端より起り前方に動かし得べし、之れを分つて左の二類となす。

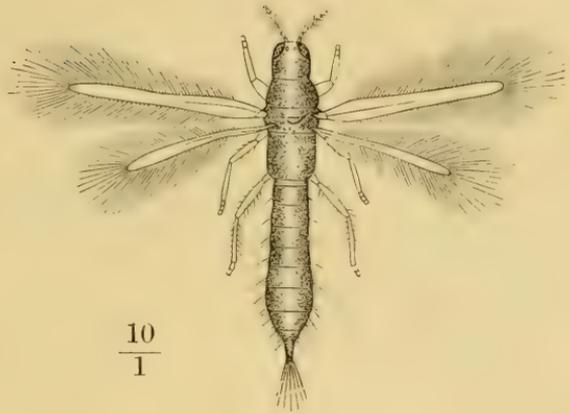
(1) 水棲類 觸角は頭下に隠れ、口吻には關節をなさざるものあり、脚は游泳に適し常に水中に住す、まつもむしたがめ(第六十四圖)たいこうちみづかまきり等

之れに屬す。

(2) 陸棲類

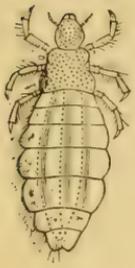
觸角は突出して頭よりも長く、陸上若しくは水上に棲息すと

第六十六圖 ねいのくろあざみまう



10
1

第六十一圖
あたましら
み



同形若しくは不等にして時に全く之れを
缺くものあり、前翅は自在に動き又稀に癒
着するものあり、一名之れを半翅目と云ふ、
變態は不完全なれども介殼蟲雄の如く稀
に完變態をなすことあり、分つて左の三亞
目となす。

(イ) 無翅亞目 口は伸縮すべき肉狀の口吻
にして吸収に適し關節をな^ささず、翅は全
く之れを缺く、頭の兩側には各一個の單
眼ありて複眼を有せず、し^らみ^あたま^じ
ら^み(第六十一圖)け^じら^み等之れに屬す。

(ロ) 同翅亞目 口は普通關節ある口吻より成り
前肢の基節間より起る、二双の翅は膜質同形
にして、靜止のときは之れを屋斜狀に置く、か
ひがらむしあぶらむしきじらみよこほいべ。

すりぎりき 圖九十五第



静止のときは之を屋斜狀に置く、後翅は大形、
 膜質にして静止のときは前翅下に縦疊す、又
 稀に翅を缺くものあり、雌は普通長形の産卵
 管を有す、變態は不完全なり、食肉性と食草性
 の二種ありてかまきり及びきりぎりす(第五
 十九圖)の大部は前者に屬し、ばったいなご及び
 こほろぎの如きは後者に屬す、又すゞむしま
 つむし等の如く美聲を發するものもあり。

(九) 總翅目(胞脚目) 口は吸收及び咀嚼に適し、腮
 延長して刺毛狀に變ず、前後翅は略ぼ同形に
 して細長く長縁毛を有し翅脈少なし、跗節端
 に一個の膨大せる附屬物を有するを以て一
 名胞脚目と云ふ、變態は不完全なり、微小の種類にして多くは花に住すれども
 時にくだあざみうま(第六十圖)の如く、稻麥に大害を加ふるものあり。

(一〇) 有吻目 口は口吻狀にして普通關節を有し、吸收及び齧整に適す、二双の翅は

第五十七圖

にはとりは
じらみ



るものあり。

六食毛目 口は咀嚼に適し、前後翅を缺き、體は扁平、中後の二胸環は相癒着せり、皆禽獸に寄生して軟毛を食ひ又は血液を吸収す、にはとりはじらみ(第五十七圖)及びいぬけじらみ等

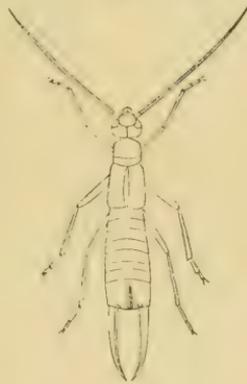
之に屬す。

(七) 疊翅目

口は咀嚼に適し、小形の前翅は硬化して翅脈を有せざれども、後翅は

第五十八圖

おほはさみ
むし



大にして放線狀の翅脈を具へ、靜止のときは之れを縦横に疊置す、又往々後翅を缺くものあり、體は扁平にして尾節に缺子狀の附屬物あり、變態は不完全、食肉性の昆蟲にして養蠶時期に當り屋内に入

り來りて蠶兒を食するものあり、又はさみむしの如く貯藏せる果實を害するものあれども大部分は有益蟲なり、おほはさみむし、第五十八圖之れに屬す。

(八) 直翅目

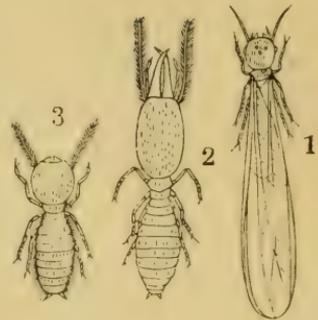
口は咀嚼に適す、前翅は細くして多少硬化し、判然せる網狀脈ありて

類 分 の 蟲 昆

第五十五圖

しろあり

- (1) 成蟲(雄)
- (2) 兵蟻
- (3) 職蟻



害を加ふることあり、又臺灣の如き熱帶地にては家屋内に巢を造りて椽下の柱を食ひ、之れが爲めに家屋の倒るゝこと少なからず。

(四) 白蟻目 (第五十五圖) 口は咀嚼に適し、翅は

膜質不透明にして判然せざる翅脈を有し、二双共に同大にして静止のときは之れを腹上に置く、雌雄の外職蟻及び兵蟻を有し一の社會をなす、變態は不完全なり、之れに屬するしろありは時に茶園に營巢して大

第五十六圖

あぶらむし
もどき



(五) 嚙蟲目 口は咀嚼に適す、翅は膜質にして隆起

せる翅脈を有し、前翅は後翅より遙かに大なれども横脈は小數なり、而して靜止するときは之れを屋斜狀に置く、變態不完全、多くは小形にして大肥を以て他物を搔きて發音す、あぶらむしもどきの如く蘚苔を食するもの多けれども、又こなちやたてむしの如く動物性の標本を食す

第 三 十 五 圖 ちうはとほん 第 五 十 四 圖 かはげら



(二) 蜻蛉目 家は有害なるものなし、かげろふかとんほ等(第五十二圖之れに屬す。口は發達して咀嚼に適し、翅は膜質にして細網狀の翅脈を具ふ、且つ

其前縁の中央には結節と稱するものあり、尾節には二個の短かき附屬物を有し、雄の生殖器は第二腹節に位す、小蟲を捕食するが故に農家に有益なり、幼蟲は水中に住し、俗に之れをやごと云ふ、蚊の幼蟲或は小蟲を捕

食す、うちばとんほ(第五十三圖)やんま等之れに屬す。

(三) 襍翅目 口は咀嚼に適すれども多

くは退化せり、翅は膜質にして横脈なく、靜止する時は之れを腹上に置く、而して後翅は前翅より大にして縦に疊み得べし、尾節には關節ある二個の尾毛あるもの多し、夏日河畔の草間に靜止す、幼魚の食餌として有益なり、幼蟲は水中に住し水藻を食す、かはげら(第五十四圖)之れに屬す。

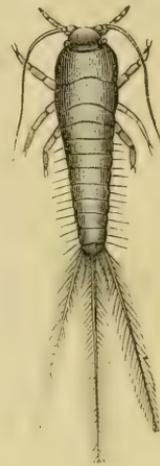
は砂礫地に限りて棲息するものあり、其中農家に有害なるもの二三種あり、之れを分つて左の二亞目となす。

(イ) 衣魚亞目 尾端に鞭狀の附屬物あり、衣服を害するしみ(第五十一圖之れに

屬す。

第五十一圖

しみ(衣魚)



(ロ) 彈尾亞目 尾端に一個の劔狀附

屬物あり、瓜の害蟲まるとびむし

之れに屬す。

(乙) 有翅亞綱 之れに屬する昆蟲は皆中後の兩胸に各一双の翅を有するものにして、時に之れを缺くものなきにあらざれども、必ず其痕跡を存せざることなし、

左の十八目を包含す。

(一) 蜉蝣目 口は退化し、翅は軟弱膜質にして

細網狀の翅脈を有し、前翅は大、後翅は小に

して稀に後翅を缺くものあり、尾端には二

個若しくは三個の鞭狀附屬物あり、變態は

不完全、幼蟲は水中に住して水藻を食し、農

第五十五圖 ほんとか



針附硝子罎に液状ほるまりんを入れるも宜し。

昆蟲を標本箱に入る、前成るべく乾燥すべし、又標本蟲の侵入する患あれば、青酸加里の一片を綿に包み二三時間箱の一隅に挿入すべし。

昆蟲の分類

昆蟲を大別して左の二亞綱とす。

(甲) 無翅亞綱

(乙) 有翅亞綱

甲 無翅亞綱 管て翅を有せし痕跡をも有せざる昆蟲にして、左の一目之に屬す、
一名擬昆蟲と云ふ。

一 彈尾目 二双の腮は頭腔内にありて僅に其末端を現はし、咀嚼及び吸收に適す、單眼は頭の兩側に位し、複眼は只稀に其存在するを見る、體は細鱗若しくは細毛を被り、尾端には鞭狀若しくは劍狀の附屬物ありて跳躍に適す、變態は不完全なり、之れに屬するものは最下等の昆蟲にして、形多くは小に、且つ其性日光を嫌ふが故に、晝間は隠れ夜に至りて出づるを常とす、又水邊の濕地若しく

處より切り、程内に更に別の小程を嵌め後針を刺すべし。

昆虫標本の保存

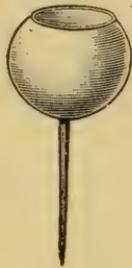
昆虫標本を保存するに當り、最も重要なものは左の二種なり。

(一) 標本箱 (第四十九圖) 此には形狀數多あれども何れの場合にも抽斗となし、其上に硝子板を張るべし、而して外部は門扉となし、成るべく空氣の通ぜざる様且つ光線の透入せざる様注意すべし、底には、西の内[の如き]厚き紙にて張りたる障子を二枚重ね、其間に植物乾燥用の粗紙を置くべし、疊は針に銹を生ずるのみならず、重きを以て目今使用すること極めて稀なり。

(二) 保存用藥劑 從來最も多く使用し來りたるものは那不多林なり、然れども惡

第五十圖

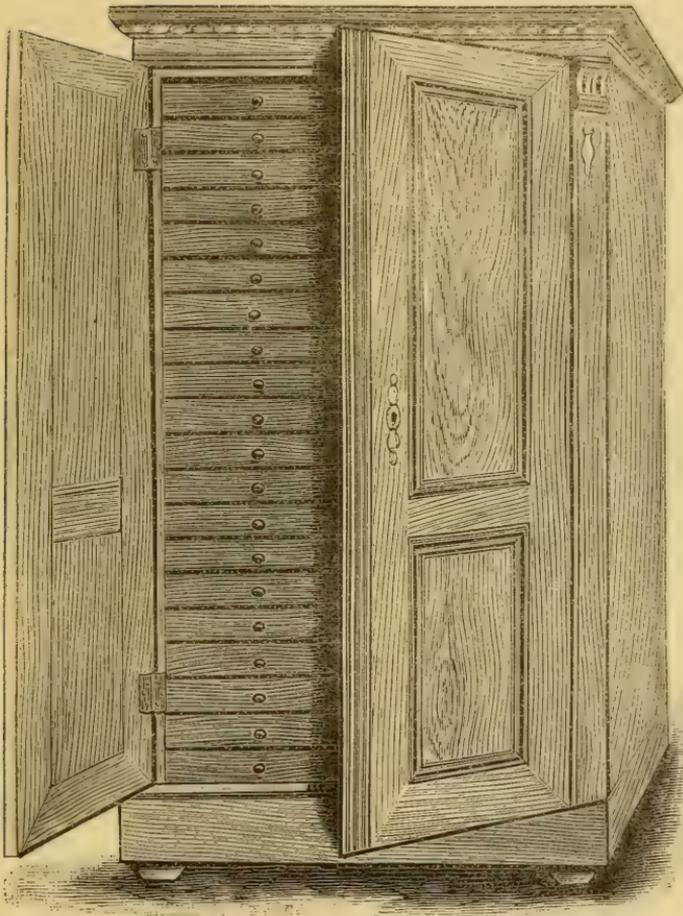
針附硝子罎



臭を發散するを以て現今使用するものは**みるほん油**にして、之れを綿に浸漬し、第五十圖の如き針附硝子罎に入れ置くなり、又黴菌を生ずる

時季殊に四、六、七月頃は固形の**ほるまりん**を綿に包みて入れ置くべし、尤も一ヶ月位にて揮發し去るものなれば、常に注意して換置するを要す、或は前述の

箱本標 圖九十四第



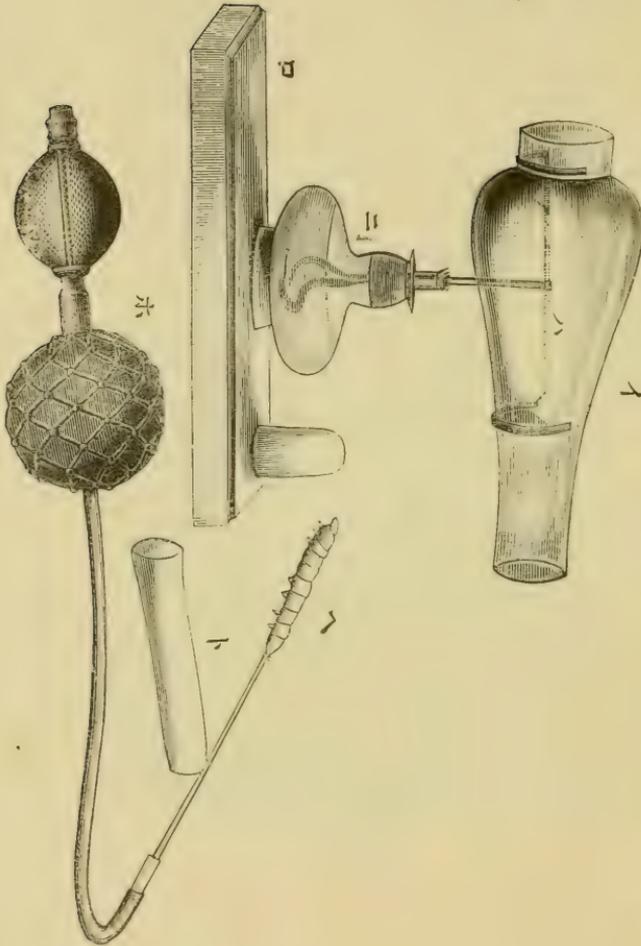
り出すときは適宜の麥稈を挿入して頭部に至らしめ、尾端を微針にて留め之を吹脹器に附屬せる護謨管に通じて吹脹するなり、乾燥後は麥稈を五分位の

昆虫標本の製作

ふ、先づ普通洋燈の『ぼや』を取りて圖の如く装置し、酒精燈を以て之れを熱し、其内にて豫め内臓を取り出したる幼蟲を吹脹しながら乾燥す、内臓を除却するには先づ鋸子にて肛門を破り、之れより徐々に引き出すべし、充分内臓を取

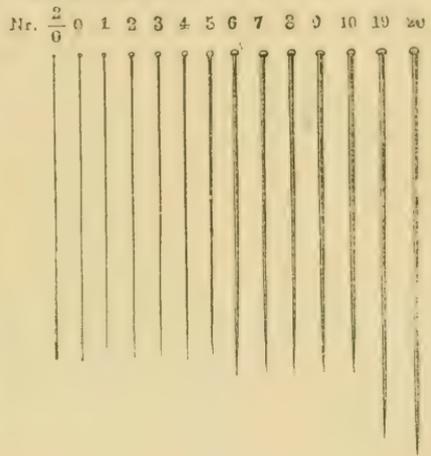
幼蟲吹脹器
第四十八圖

- (ト) 小酒精燈
- (ニ) 酒精燈罩
- (ハ) 鋸子
- (ニ) 幼蟲
- (ハ) 吹脹器
- (ト) 酒精燈
- (ハ) 鋸子
- (ト) 吹脹器



第四十六圖

昆蟲針の種類



象を刺す場合には右方の翅鞘を貫くを定則とす。

の水分を含有する國にては鋼鐵針は寧ろ不適なり、圖の如く20より20號迄の種類を有すれども、普通用ふるものは3・4・5・67の五種なり、微小の昆蟲を刺す場合には白銅製若しくは銀製の微針を用ひ來れり、第四十五圖の如く前述の髓砧に並べ挿すべし、總て針を刺すには四分の三を貫きて四分の一を残し置くべし、甲蟲若しくは椿

第四十七圖

昆蟲用鑷子



六 鑷子 數多の種類あれども、普

通用ふるものは二種なり、一は大にして標本移植に用ひ、一は

小にして微針を貫き後髓砧に移すに用ふ、第四十七圖に示せるは小形のものなり。

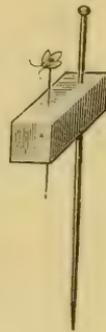
七 吹脹器 第四十八圖に示せるが如き各種の器具を有し、幼蟲を吹脹するに用

全とす、但し此場合には裏面を表はす様、一は裏を貼附すべし、從來ぜらちん貼を用ひたれども變色し易きのみならず火に近接せしむるときは反り返るの患あるを以て、目今之れを使用すること少なし、貼附紙を要する昆蟲は椿象及び小形の甲蟲なり。

三 髓砧 菊芋向日葵通草及び山吹等の髓を長方形に切り、第四十四圖の如く微

第四十四圖

小昆蟲を製作する髓砧



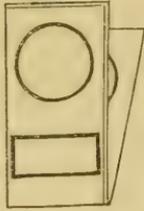
針若しくは細鐵線を貫きたる小昆蟲を挿し、更に其一端を普通の針にて貫き、以て貯藏箱に納むるなり、就中菊芋の髓は質堅く

して最も宜し、但し能く乾燥せざれば針に銹を生ずるを以て宜しく注意すべし、浮塵子、蚜蟲、木蝨、茶挂蟲、蠅、蜂等の如き長脚を有する小昆蟲を刺すに用ふ。

四 貼附硝子 第四十五圖の如き小硝子板にして、紙

第四十五圖

貼附硝子



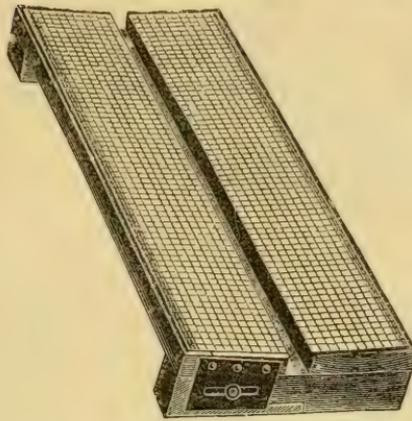
製の框に嵌め、蝨、羽蟲或は蚜蟲の如き乾燥後收縮するものに用ふ、普通めんたいんにて貼附す。

五 昆蟲針 第四十六圖種類多けれども、普通使物す

るものは眞鍮に白銅を被せたる獨乙製のものにして、本邦の如き空氣に多量

第四十二圖

展翅板(伸縮自在)



つ伸縮自在なる様造り置くべし、尤も多數の蝶蛾を展翅する場合に種々の溝を有する固定の展翅板を造り置くを便とす、又左右の板面碁盤様の目を切るときは、翅の開閉上下を同一になすの便あり、昆蟲の翅を展ばすには先づ針附

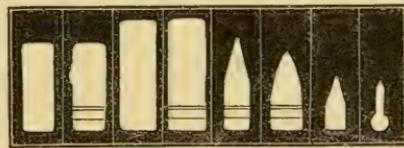
(二) 貼附紙

普通使用するものは第四十三圖の内(2)と(4)との二種にして、小なるものは長さ三分五厘、幅一分三厘、大なるものは長さ四分五厘、幅一分五厘、後縁に三横線を畫き、最後の線に針を刺すべし、又前縁を三角になすときは、裏面の一部を見るに適すれども、亦脱落の患なきにあらざるを以て、寧ろ長方形を安

第四十三圖

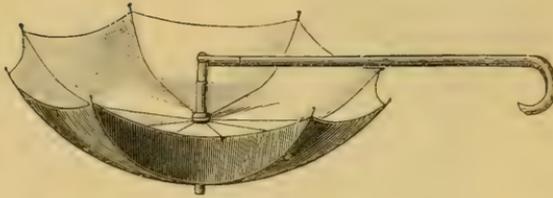
貼附紙の種類

1 2 3 4 5 6 7 8



の昆蟲を其の溝に挿し、大なるものは手にて小なるものは針端にて翅を開き、豫め其上端に附着せしめたる絹布薄くして透き通るものを用ふを其上に置き、後適當の地位に來りたる時絹布に針するにあり。

採集傘 圖一十四第



れに金網を張るべし、内部は普通三室に隔離せられ大・中・小の幼蟲を區別して收容するの構造たらしめ、又上には同じく三個の小孔を穿ち之れより幼蟲を入るゝ様になすべし、尤も此孔はぶりきを以て蓋を造り蝶番テツガイによりて開閉するを便とす。

六 採集傘 普通の洋傘を用ふるも可なれども、採集用として特別に製したるものを使用すれば極めて便利なり、此は第四十一圖に示せるが如く、柄の中程に蝶番を附して自由に屈伸せしめ、且裏面には白布を張りて骨を覆ひ、以て拾集に容易ならしむ、主として甲蟲を捕ふるに用ふるものにして、此内に叩き落して後毒罎に移すべし。

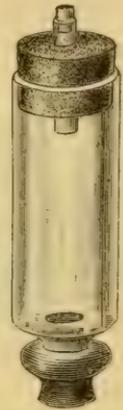
昆蟲標本の製作

昆蟲の標本を作るには主として左の如き器具を用す。

一 展翅板 第四十二圖の如き木製のものにして、中央には蟲體を入れるべき溝を切り、左右の面は成るべく水平になし且

第三十九圖

毒罎



きものにして、底には青酸加里を入れ、其上より石膏を以て蔽ひ置くべし、青酸加里は水を吸収するを以て吸収紙

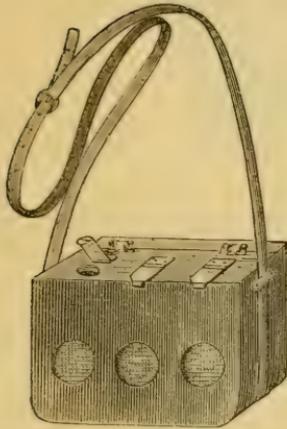
を敷きて時々換置すべし、又昆蟲は口部或は肛門より液汁を出し直に固着することあり、之れを防ぐには半紙を細く切りて其内に入れ置くべし、又栓は二重栓となし大なる昆蟲の外は小栓を取りて入るゝ様なすべし。

(四) 硝子管 酒精を入れ、甲蟲、椿象、彈尾類等を採集するに用ふ、蠅、蜂毛翅目、脈翅目及び綠色の昆蟲は此内に入るべからず、大小數種を用ひて堅硬なる昆蟲と軟弱なる昆蟲とを別々にすべし、又之れに青酸加里を入れ、浮塵子、蜂、蠅の如き小

昆蟲を捕ふるに用ふ。

第四十圖

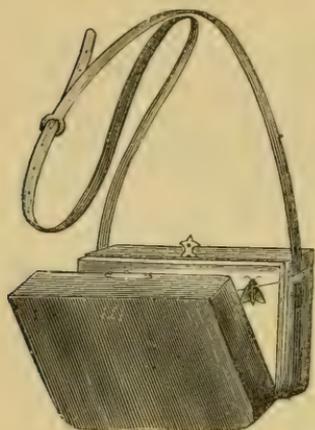
幼蟲採集箱



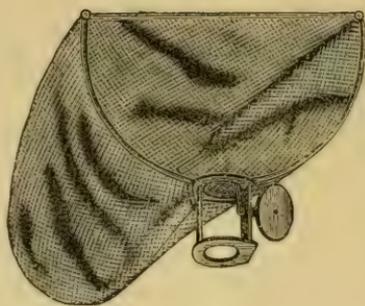
五幼蟲採集箱 成蟲採集箱に酷似し

たる者なれども、生きたる昆蟲に入るゝものなれば、成るべく空氣の流通を宜しくせざるべからず、第四十圖の如く側面に三個の穴を穿ち之

箱集採 圖八十三第



網水 圖七十三第



用には四折となすを便とす、叩網には太き鋼鐵の框を用ふ、此は多數の孔を框縁に有するを以て其孔に網を纏ひ付け置べし、之れ直接網の石枝等に觸れざらんが爲めなり、用布は普通天竺木綿にして、徑一尺

三寸深さ二尺を手頃とす、水網第三十七圖は徑一尺深さ七寸位を適當とし、用布は普通の蚊帳布に澁を引きたるものを便とす、而して以上三種何れも同一の柄に嵌まる様螺旋附になすべし、柄には普通のすてつきを用ふるを便とす、又特別の蝶若しくは蜻蛉を捕ふる場合には六尺位の輕き柄を附すべし。

(二) 採集箱 蝶蛾を採集する場合には採集箱

の必要あり、此は第三十八圖に示せるが如きものにして、底にはこるゝ板を張り針を挿入するに便ならしむ、直翅目若しくは蜻蛉目の如きにも亦之れを用ふべし。

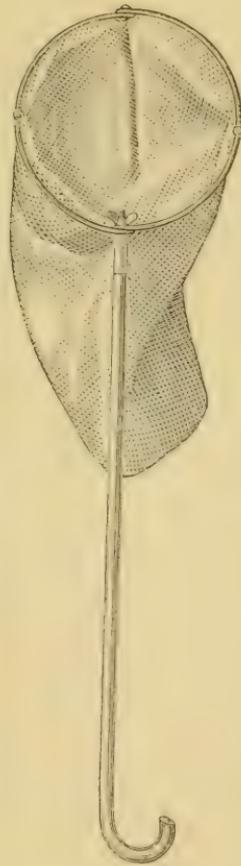
(三) 毒罎 普通用ふるものは第三十九圖の如

昆虫の採集に重要なものは左の六種なり

一網 種類多しと雖ども、先づ掩網叩網及び水網の三種に分つことを得べし、掩

第三十五圖

掩網



網は第三十五圖の如く軽くして使用し易く、専ら飛翔する昆虫を捕ふるに用ふ、叩網第三十六圖は稍や堅固にして叢間の甲蟲、浮塵子等を捕ふるに用ふ、掩

第三十六圖

叩網



に網底に至らしめざることをあり、網框には普通電信線の太きものを用ひ、携帶

網は徑一尺四五寸深さ二尺五寸を適當とす、而して網布を張るには成るべく垂直にすべし、若し傾斜するときは蝶蛾の翅を損じ或は爪をして網目に懸らしめ爲め

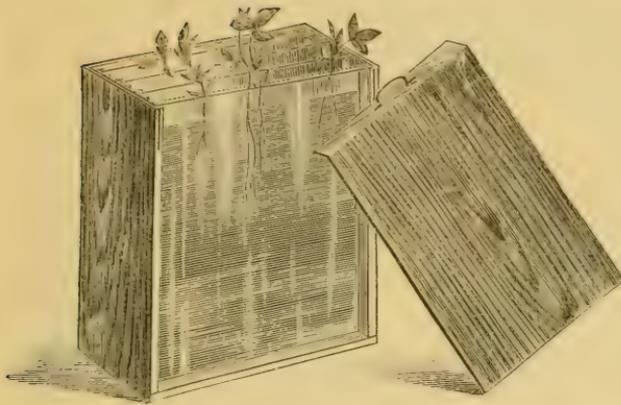
となすを要す、然れども寧ろ田圃に埋め置き、て適當の時を見計ひ之れを舉げて視察するを安全なりとす。

二 野外飼育 幼蟲の有様にて越年する昆蟲に適切にして、室内には到底安全の飼育をなし能はざるものに用ふ、即ち無底の養蟲箱を以て供試作物を蔽ひ、自然同様に飼育するにあり、高さ果木に於て害蟲を飼育せんと欲せば、寒冷紗にて袋を造り、害蟲の靜止せる枝を蔽ひ置くべし、是れ害蟲を見失はざるのみならず、寄生蟲の侵害を避くるに必要なり、冬季に亘るものは養蟲箱の上より筵の如きものにて蓋ひ置くべし、蚜蟲或は沒食子蜂の如く世代交番をなす害蟲の經過を知らんと欲せば、宜しく野外を擇ぶべし、又蛹若しくは幼蟲の有様に越年する害蟲は、其何れの種類を問はず、冬期間は野外に置き、て寒氣に遇はしめ、翌春に至りて室内の養蟲箱に移すべし、室内の溫度にては飼育し難き種類も、自然の氣候に接せしむるときは、案外成蟲を得易きことあり、鋸蜂の如く、中夏より翌春に涉り地中にて蛹化しつゝあるものに於て殊に然りとす。

昆 蟲 の 採 集

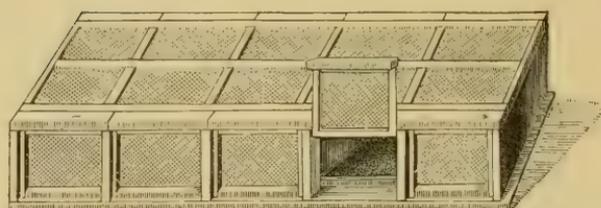
幼蟲の有様にて越冬するものを、室内にて越冬せしむることは頗る困難なり、是れ多くは濕氣の缺乏に因るものにして、冬季の乾燥が能く昆蟲を仆す所以なり、故に斯の如き場合には水邊に生ずる蘚苔を以て之を蔽ひ、後穴庫に入れ置くべし。

第三十四圖
地下に棲息
する幼蟲を
養ふに用ふ
る箱



根を食する害虫、例令ば針金蟲或は蟻
蟻の如き幼蟲を飼育せんと欲せば、第三
十四圖の如き箱を用ふべし、全體を木若
しくは亜鉛板にて造り、前後の兩面に硝
子板を張り、其上に更に口の如き板を箠
むべし、而して硝子板と硝子板との間を
狭くなし、之れに土を充て、稚苗を移植
し、後害虫を其内に入るべし、然らば土の
ある部分は狭さが故に、根の地中に蔓延
する状、害虫の來りて食害する態を認め
得べし、而して平時は(口)板を箠めて暗黒

第三十三圖 蛹化箱



二圖の如き養蟲箱を用ふべし、又蛹化したるものは第三十三圖の如き區劃を施せる箱に移すを要す、此箱には十室ありて五室宛二列をなせり、各室の障壁

三面共に板張となし、上面及び前面には金網を張り、底には細砂を入れ置くべし、小形の箱なれども十數種の害蟲を試験するに足る、而して各室には幼蟲の色澤形狀性質大さ及び脱皮蛹化の時期等を記入したる紙片を入れ置くべし、然らざれば往々錯誤を生ずることあり、寄生蜂の如き小形なる昆蟲の蛹化せるものは、化學用の硝子管に入れ、綿を栓となし時々濕すべし、又ほやの兩端を寒冷紗にて蔽ひ、其内に幼蟲を入れるも可なり、旅行中は寒冷紗にて數多の袋を造り置き、此内に食草及び幼蟲を入れ置くべし、此場合には遅くも二日目に食草を換置せざるべからず。

成蟲より卵子を得んと欲せば、先づ成蟲を養蟲箱に入れ之れに食草を施すべし、而して若し之れに産卵せざる場合には皿に糖液を盛りて與ふべし。

昆虫飼育

昆虫の飼育に二種あり、一種は室内飼育にして他は野外飼育なり

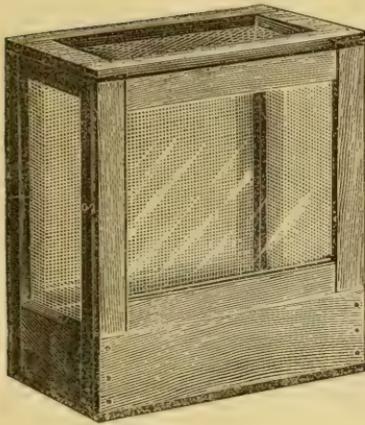
第三十一圖
幼蟲飼育に
用ふる罐



第三十二圖

四齡後より飼育
する養蟲の箱

(蛹化後入れ置く箱)



(一) 室内飼育 四齡前の幼蟲を飼育

するには、水を盛れる大罎に食草を挿入し、罎口には濕ひたる綿を纏ひ置くべし、又第三十一圖の如く徑五寸程ある厚紙の中央を圓形に穿ち、之れを以て罎口を蓋ふも可なり、かくせば害虫の陥落を防ぐのみならず、逃路を索めて下降するも紙片に遇ふて復上昇するに至るべし、然れども四眠後に達するときは大概の障害物を排して逃げ去るものなれば第三十

法 除 驅 蟲 害

なり、然れども亦植物を害するを以て普通硫酸を加へ瓦斯状となして使用す、其使用法は左の如し。

青酸加里 八匁
 青酸加里は粗塊を用ふべし、細末を用ふるときは分解の度速なるを以て植物を害するの患あり、夜間若しくは冬期行しむるには天幕を要す、青色若しくは褐色の綿布に亞麻仁油を塗り、成るべく瓦斯の漏れざる様なすべし、又苗木を熏蒸するには特別の熏蒸室を造るべし、天幕の完全なる場合には四十分乃至一時間其瓦斯に暴露せしむるを以て足れりとす。

硫 酸 十六匁

殺蟲の効大なるのみならず、植物を害するの患なきを以て、目下大に賞用せらる、其製法は左の如し。

亞砒酸鉛 百八十匁
 以上の藥劑を水に投ずるときは、化學的作用により白

醋酸鉛 四十匁
 色の亞砒酸鉛を沈澱すべし、使用するに當りては之れ

水 三石七斗
 を攪拌し唧筒にて灌注すべし。

水 三石七斗

石鹼 百八十匁 石鹼を刻みて二升五合の湯に溶解し、之れに五升の石油を
石油 五 升 唧筒にて攪拌しながら徐々に注入すべし、かくせば一種糊
状の乳白液を得べし、之れを石油乳劑と云ふ、害虫皮膚の強
水 二升五合 弱により十倍乃至三十倍の水を加へ唧筒にて灌注すべし。
②除蟲菊 高等動物に害なく、然かも殺蟲の力大なり、普通之れに石鹼を混
加す、其分量は下の如し。

石鹼 百六十匁 灌注するには更に四斗五升の冷水を加ふべし、あるほゝす
除蟲菊 八十匁 石鹼若しくは魚油石鹼を用ふれば一層効あり。
温湯 一升五合

(3) 松脂合劑 介殼蟲綿蟲等に適切なる合劑にして、其製法は左の如し。

苛性曹達 九十匁 以上文火を以て能く煮解し、其充分溶解するを待ちて更
松脂 百二十匁 に二升五合の湯を加へ、平時は器に貯藏し、必要に臨みて
湯 二合五勺 四倍の水を混じ唧筒にて灌注すべし、又刷毛にて塗抹す
る場合には二倍半の水を加ふべし。

(4) 青酸加里 猛毒にして毒藥の王と稱せらる、害虫を撲滅するに最も有効

法 除 驅 蟲 害

(イ) 誘蟲劑

驅蟲劑と正反對の目的を有し害蟲を誘引するものにして、普通用ふるものは糖液なり、即ち黒砂糖一斤に五勺の湯を混じて溶解し、後二合の粗酒を混加したるものを云ふ、之れを(第三十圖)徑七八寸位の鉢に深さ一寸位容れ、七寸位の臺を造りて其上に置き、晝間は蓋を掩ひ夜間のみ蓋を取り置くべし、之れを燈火誘殺法と兼行するときは一層効あり、而して其誘引せらるゝものは重に地蠶の親蟲なる蛾類なり。

(ロ) 驅蟲劑

害蟲を殺すの力なきものあれども驅蟲の効あるものを云ふ、即ち石炭酸・てれびん油・みるばん油・安息香酸・那不多林樟腦・麝香・ほるまりん及びあるぼーすの如きは其重なるものなり。

(ハ) 殺蟲劑

害蟲を殺滅し得べき藥劑にして之れに二種あり、一は害蟲の胃腑に入りて其効を奏する毒藥を云ひ、一は皮膚に觸れて之れを燃殺する劇藥を云ふ、其重なるものは左の如し。

① 石油 水田の害蟲を驅除するに最も効あり、一反歩に用ふる分量は七合乃至一升にして、之れを水上に成るべく平等に分布せしむべし、石油は作物を害するを以て石油乳劑を製すれば被害の患なし、其製法は左の如し。

服に掛かるを防止するにはぶりき製の鍔ツブを眞鍮口ツブに固着せしむべし、高價なるものには種類多く、背上に携帯し得べきものにはななぶぶささくく唧筒あり(第廿八

圖)

二 散粉器 粉末の驅除劑を散布するに必要なものにして、種類頗る多けれども、普通坊間に販賣せるものは第二十九圖の如く、二枚の木片を革にて連結せ

第三十圖

糖液誘殺用器



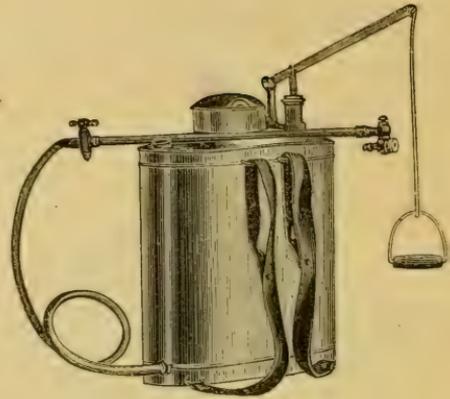
(イ) 鉢
(ロ) 蓋
(ハ) 粘

しめ、其一端にぶりき製の入粉器を附したるものなり、此一端には二個の手あり、之れを左右に動かし内容の粉末を散布せしむ。

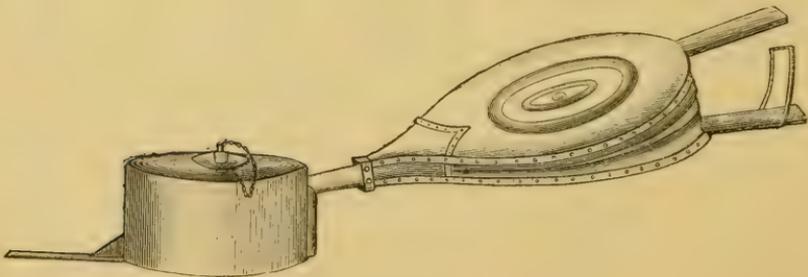
ホ 柄付鋏 果樹栽培家の用ふるものにして、鋏に長柄を附し、梢上に群止する粘けむし蠍を枝と共に切り落すに必要なるものなり。

三 藥劑 之れには誘蟲劑、驅蟲劑及び殺蟲劑の三種あり。

第二十八圖
提携用唧筒



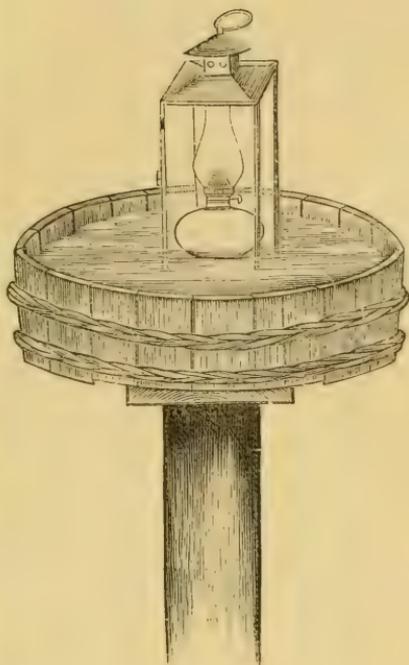
第二十九圖
散粉器



ハ) 唧筒^{ポンプ} 液體の驅除劑を灌注するには唧筒を要す、唧筒には種類多しと雖ども、最も廉價なるものは亞鉛製にして、之れに護謨管を附し、其末端に眞鍮の小片を固着せしめたるものなり、液體を細霧となすには更に眞鍮の小片を其口端に附し、開閉によりて細霧を加減し得べき装置となすべし、又細霧の顔及び衣

第二十六圖

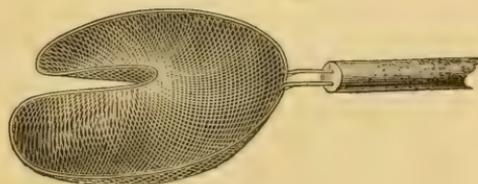
誘蛾燈



第二十七圖

受網

(心臟形)



(口) 網羅 害虫駆除に使用する網に三種あり、甲は掬網にして稻

若しくは亞麻の害虫を捕獲するに用ひ、電信針金に寒冷紗を縫ひ付けて網となしたるものなり、乙は受網にして第廿七圖に示せる如く針金を心臟形に曲げ、之れに白布を淺く張りたるものなり、其凹處を作物の莖に挿入し、手にて莖を動搖すれば、害虫は盡く其内に陥入すべし、丙は有翅の害虫を捕獲するに用ふるものに於て之れを掩網カサと云ふ、之れには西洋蚊帳布の如き風切の能きものを張るべし。

- (三) 梢上に附着する枯葉、卵、子、繭等は、整枝の際注意して除去すべし。
- (四) 秋季耕鋤して地中に越冬せんとする害虫を地上に曝露し、寒暖の變遷に遇はしむべし、かくせば同時に益鳥をも招致して一舉兩得の利あり。
- (五) 輪作 年々歳々連作するに於ては害虫の蕃殖に便なるを以て、成るべく輪作を行ふべし。

害虫驅除法

(一) 器具 種類甚だ多しと雖ども、主要なるものは左の五種なり。

(イ) 誘蛾燈 之れは完全のものを用ふべし、不完全のものを用ふるときは寧ろ有害なり、蓋し害虫は飛來するも多くは死せざるを以て、招致すると同一の結果を生ずればなり、最も有効なるは第廿六圖の如き角燈を水を盛りたる盥の中央に据え、之れに石油數十滴を混加することなり、かくせば害虫は之れに衝突し盥の中に落ちて死すべし、五分心ならば一町歩に四五個を用ふべし、風雨月明の夜は點火するの要なし、燈の高さは昆虫の種類によりて異なれども先づ三尺乃至四尺を可とす。

一、遮斷法 之れには種類多けれども、先づ左の三種に分ち得べし。

イ、明溝法 移轉性の害蟲即ち夜盜蟲、飛蝗の如き害蟲を遮斷するに最も有効の方法なり、此は田圃の一方若しくは周圍に深幅共に一尺内外の明溝を掘り、其被害の恐ある地の一邊を垂直となし、掘り上げたる土を無害地の方に積み、溝底には更に五間乃至十間を離て、深さ一尺程の穴を穿ち置くべし、かくせば害蟲は溝底に沿うて逃路を求むるの途次、其穴に陥りて遂に出で能はざるに至るべし。

ロ、被囊法 此目的に二様あり、一は稚苗の被害ある場合に當り、針金を以て方形の框を造り之れに寒冷紗を張りて稚苗を被覆するにあり、他は梨・苹果・桃の如き果實を澁紙を以て被ひ果蠹蟲の産卵若しくは侵入を豫防するにあり。

ハ、塗抹法 烏黏に一割の種油を混じ樹幹の一部に塗抹し置くべし、かくせば移轉性のけむしを豫防し得べし、又烏黏に換ふるに爹兒を用ゆるも可なり、但し此場合にはてれびん油にて溶解すべし。

二、晩秋若しくは早春地上に放棄せる塵芥落葉其他不用物を集めて燒棄すべし、かくせば越年性害蟲の一部は之れが爲めに滅すべし。

益蟲 益蟲には芫菁の如く發泡の效能を有するものあり、蟻類の如き蟻酸を生じて有用なる藥劑の原料となるものあり、まなむしの如く下劑の機能を有するものあり、染料には五倍子、沒食子、洋紅、かみみんあり、いほたむし、水蠟蟲は白蠟を生じ、しゑらく介殼蟲は、封蠟を産す、絹絲を生ずるものには家蠶あり、山繭あり、食料にはいなごあり、げんごろうあり、美聲を發するものにはすゞむしあり、まつむしあり、此等は皆直接人類に有益なるを以て直接益蟲と云ふ。

又水田の害蟲を捕食するものにはやんまあり、果樹のあぶらむしを食するものにはひらたあぶあり、くさかげろふあり、夜盜蟲を暴食するものにはをさむしあり、げむし若しくはいもむしあり、之れを以て己が幼兒を養ふものにはじがばちあり、あなばちあり、他蟲の體内にありて其肉を食ひ去るものには馬尾蜂あり、やどりばいあり、或は道路の石上に靜止して小蟲の來るを待ち伏せ捕食するものにはしほやあぶ若しくはいしあぶあり、此等は皆間接人類に有益なるを以て間接益蟲と云ふ。

害蟲の豫防法

ものにして、其間劃然たる限界を書くこと容易の業にあらず、現今學名を有する昆虫は約四十萬にして、其中害虫及び益蟲の割合を知るは素より難事に屬すれども、先づ兩者甚だしき大差なきものと見て不可なかるべし、蓋し害虫にして寄生蠅若しくは寄生蜂を有せざるものなく、然も農家の眼に留まらざる所以のもの、は彼等の甚だ微小なるによりてなり、夫れ害虫には億兆の大群其方向を等しくして襲來し農家に大害を加ふる**ばた及びよとうむし**あり、稚莖を切る根切蟲あり、莖液を吸收する浮塵子あり、葉を食ふ**けむし**あり、莖髓を食する螟蟲あり、果實に蠹入する象鼻蟲及び小蛾あり、其他果木を穿つ天牛の如き、厨房を荒らす**ごきぶりの如き**、穀倉に於ける**こくが**の如き、衣服に於ける**しみの如き**、一々枚舉に違あらず、而して斯の如く間接人類に有害なるものを間接害虫と云ふ、又**のみの如きしらみの如き**或はと**こじらみの如き**、直接人類に有害なるものを直接害虫と云ふ、此等害虫の年々歳々人類に加ふるの損害は未だ統計の精査すべきものなしと雖ども、農作物の損害は少なくとも二割以上に昇るべく、況んや臺灣の如き春夏秋冬害虫發生の間斷なき地方にありては、其損害少なくとも三割以上に達すべし、豈に恐るべき事實にあらずや。

蠅・食蟲虻あり、直翅目に屬するものには螻蛄・馬追蟲あり、有翅目に屬するものには食蟲椿象あり、其他蜻蛉目、脈翅目及び蠍蟲目の大部は食肉性なり。

他動物

蜘蛛・蜈蚣及び兩棲類の大部は、主に昆蟲によりて生活するが故に害蟲の驅除に大關係あり、鳥類及び哺乳動物の中にも亦昆蟲を以て食となすもの少しとせず、此に於てか相互の均衡を保ち法外の蕃殖を防止す、是れ動物界の原則にして然も自然の妙要なり、然るに今や益鳥は濫獲せられ有益獸亦寥として見る能はざるに至り、彼の害蟲の獨り蕃殖を逞うするもの亦故なきにあらざるなり。

益 蟲 と 害 蟲

害蟲 蟲にして害をなさざるものなく又益をなさざるものなし、**くろあり**は田圃・花園に巢を造りて農土を害すれども、**又けむしあをむし**を驅除すること少なからず、**ばさみむし**は葉捲蟲若しくは蚜蟲を食するを以て農家に有益なれども、又家屋に入り來りて蠶兒を食害することあり、故に害蟲も時に益蟲となり、益蟲も亦時に害蟲となるものなり、是れ畢竟人類の利益に關する輕重によりて定まる

せば、土中に棲息する昆蟲は之れが爲めに斃死し、同時に黴菌の蕃殖を増進す、是れ間接に昆蟲を滅するものと云ふべし。

黴菌 昆蟲は恰も家蠶の白殭病若くは軟化病に罹りて斃るゝが如く、種々の黴菌によりて侵害せらるゝものなり、即ち細菌あり、蟬花あり、又蟲生菌ありて、大に其蕃殖を抑遏せらる、就中最も激烈なるは細菌なり。

寄生蟲 昆蟲は總て一種乃至數十種の寄生蟲に侵さるゝものにして、其中最も普通なるものは寄生蜂及び寄生蠅なり、此等は農業上甚だ有益なるものにして、少くも昆蟲の七割五分は之れが爲めに斃るゝものとす、寄生蜂は産卵管を以て皮膚下に卵子を納め、寄生蠅は皮膚上に卵子を附着せしむ、前者の中にて殊に農家に有益なるものは小繭峰、姬蜂、卵蜂及び小蜂の四種なりとす、後者にありては家蠅科に屬するもの多く、甚だしく蕃殖力を有するを以て、農家に與ふるの利益寄生蜂に勝るものあり。

食肉蟲 寄生蟲よりも直接農家に有益なるものは食肉性の昆蟲にして、其種類頗る多し、今其主要なるものを擧ぐれば、鞘翅目に屬するものには斑螋、步行蟲、瓢蟲あり、膜翅目に屬するものには細腰蜂、鼈甲蜂あり、双翅目に屬するものには食蚜

を知らしむ。

雌雄淘汰色　雌雄相擇ぶより起りたる彩色を云ふ、こむらさきみどりしぐみの如きは雌雄頗る表面の彩色を異にし雄蟲は常に美なり、然るにへうもんてふ或はぎんやんまの如き却て雌の美なるものあり、此等は雄蟲の割合に小數なるに因るならんか。

識別色　昆蟲相識別するの彩色なり、しぐみてふ若くはあかたてばの如きは飛翔によりて其存在を明ならしめ、又靜止の時と雖ども常に之れを開閉して其存在を顯著ならしむ、其美色は多く雌雄淘汰の法則に支配せらるゝものなれども、亦蕃殖上相互の識別に甚だ必要なるものなり。

昆蟲と外界との關係

氣候　昆蟲は甚だしく氣候に支配せらるゝものにして、忽にして寒、忽にして暖なるが如き不順を呈せば、彼等は多く斃死すべし、然るに溫度順を追ふて下降せば、假令零度以下に降り、蟲軀凍結するも尙死することなし、又乾燥に失するときは、蝶蛾蜂蠅の如きは其蛹皮を破り得ずして死すべし、之れに反して濕度其當を失

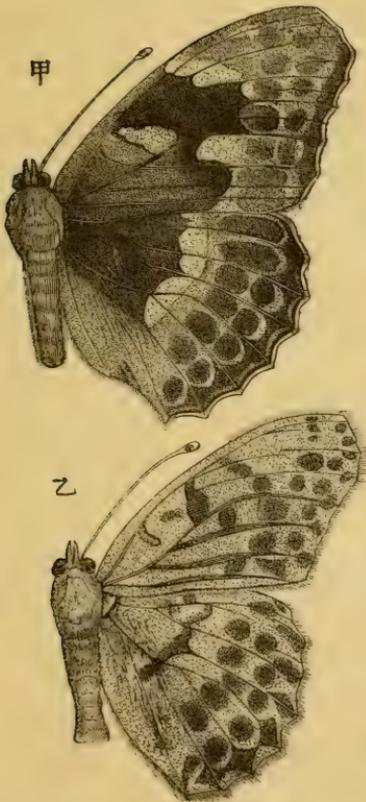
他動物の襲撃に罹ること稀なり、故に蜂の形態を擬するものにはひらたあぶいしあぶ或はかみきりあり、又桑のしやくとりの如く枯枝に自體を擬して外患を免るゝものあり、此の如く防禦又は攻撃の爲め他動物若しくは他物體に似たる形態を有するものを擬態と云ふ。

警戒色 悪臭若しくは毒刺を有するものは他動物の襲撃に罹ること稀なり、故に此等は成るべく顯著なる斑紋若しくは彩色を装ひ、以て強者を警戒するは生存上甚だ利益なり、故に悪臭を發するあさぎまだらの翅は表裏等しく美色を呈し、はんめうは顯著なる藍色紋を具へ、蜂は形態及び彩色によりて容易に其蜂たる

第二十五圖

昆蟲の雌雄淘汰色
及び識別色を示す
めすごろへうもん

(甲)雌
(乙)雄



ことなく、其目的は唯だ子孫を繼續するにあり、故に蕃殖困難なるものは口部發達して長壽を保ち、蕃殖容易なるものは口部退化して食餌をなすことなく、數時間にして死するを常とす。

昆虫の彩色

保護色 葉上に匍匐する螟蛉アテムシ、地中に棲息する蝶タテ、或は草間に啣クきりぎりすの

第二十四圖

昆虫の保護色

(ラード氏
より轉寫)

(1)このはて

ふの枝上に

靜止する状

を示す

(2)枝上の葉
の類似せる

者を示す



如く、其周圍のものに似たる彩色は外患を免るゝに最も必要なり、又草間にありて他蟲を捕獲する蠶娘カマキリの如き其綠色なる爲めに他物を攻撃するに甚だ便なり、斯の如く防禦又は攻撃の爲め其周圍に似たる彩色を保護色と云ふ。

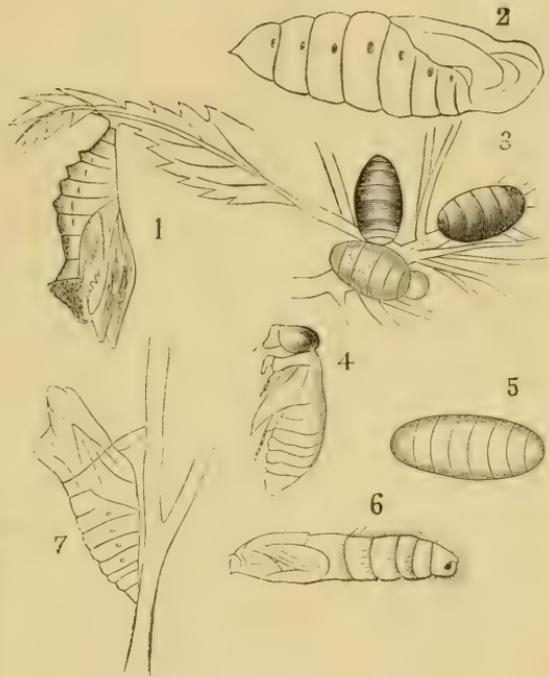
擬態 蜂は毒刺を有するを以て

第二十三圖

蛹の種類

(日本昆蟲學)
より轉寫す

- (1) ひをどし
- (2) よとうむ
- (3) の被蛹
- (4) 甲蟲の繭
- (5) 蠅の固蛹
- (6) あぶの被
- (7) あげはの



く絹絲を以て尾端を他物に固着せしめ垂下するものを垂蛹と云ふ、尙被蛹及び裸蛹には更に被蓋を有するものあり、之れを繭と云ふ。

成蟲 昆蟲の成熟期に達したるものにして、即ち生殖力を有するものを云ふ、無脚の幼蟲も成蟲期にありては悉く六脚を具へ、普通二双の翅を生じ、毫も成長する

期に於ける皮膚の硬化せるまゝ残留したるものにして、被蛹と全く其趣きを異にせるものあり、之れを圍蛹と云ふ、又被蛹にはあげはの如く一本の絹絲を以て自體を縛し蛹化するものあり、特に之れを帶蛹と云ひ、ひをどしてふの如

完變態をなす幼蟲の口部は、成蟲の口部の如く發達せずと雖ども、猶上唇大腮及び下唇を有す、蝶蛾の幼蟲の下唇端には絹絲を吐出する口あり、之れを吐絲口と云ふ。又複眼を缺き其の地位に各一個乃至六個の單眼を具へ、短大の觸角を有す。

幼蟲の氣門は普通體の兩側に位し、頭第二節第三節并に尾節に之れを缺く、但し水中にある甲蟲及び蠅の幼蟲にては、其數僅に二個にして尾端に之れを開き、**かげらふ**の如きは葉狀の鳃を以て呼吸す、幼蟲の皮膚は幾丁質を以て硬化し毫も伸張することなきを以て、其成長と共に表皮を脱せざるべからず、之れを脱皮と云ひ、脱皮より脱皮迄の間を齡と云ふ、幼蟲は普通四回の脱皮をなすを以て五齡を有し、又**かげろふ**の如く二十回の脱皮をなすものは二十一齡を有するものと云ふべし。

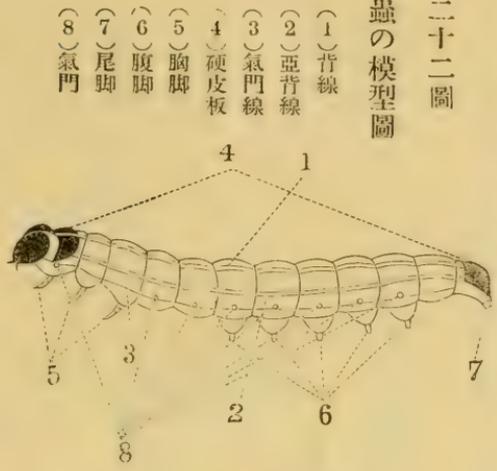
蛹 完變態をなす幼蟲の充分成長したるものは、食餌を止め其形を一變す、之れを蛹と云ふ、蛹に三種あり、蝶蛾の如く觸角脚翅等の硬皮下にありては判然せざるものを被蛹と云ひ、**かみきりかぶとむし**の如く觸角脚翅の判然硬皮を以て被はれざるものを裸蛹と云ふ、又肉蠅の如く硬皮を以て被はるれども、其被蓋は幼蟲

精子門と云ふ、卵は普通精子を受けて發生するものなれども、又みつばちあぶらむしの如く受精せずして發生するものあり、之れを單性生殖と云ふ。

幼蟲 卵子より孵化したるものを幼蟲と云ふ、幼蟲は昆蟲の種類により大に其形を異にすれども、皆無翅なり、完變態をなす

第二十二圖

幼蟲の模型圖



- (1) 背線
- (2) 亞背線
- (3) 氣門線
- (4) 硬皮板
- (5) 胸脚
- (6) 腹脚
- (7) 尾脚
- (8) 氣門

を異にすれども、皆無翅なり、完變態をなす
 幼蟲は頭及び十二の環節より成り、初めの三節は成蟲の胸部に相當し各一雙の脚あり、之れを胸脚と云ふ、殘餘の八節は腹部に相當するものにして、普通一雙乃至七雙の脚あり、之れを腹脚と云ふ、其尾節にあるものを特に尾脚と云ふ、又第一節及び尾節に幾丁質の硬化せるものあり、之れを硬皮板と云ふ。

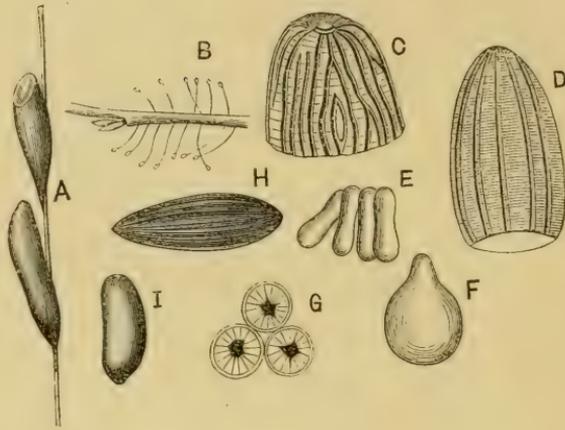
幼蟲には縦走せる斑紋を有するもの多く、其背上にあるものを背線、其兩側にあるものを亞背線、氣門部にあるものを氣門線、其上方にあるものを氣門上線と云ふ。

第二十一圖

卵の種類

(日本昆蟲學
より寫す)

- (A) 馬蠅の卵
- (B) くさかげ
- (C) へうもん
- (D) しろてふ
- (E) 芫菁の卵
- (F) もんしろ
- (G) よとろが
- (H) よこぼひ
- (I) はったの



(一) 不變態 しみとびむししらみの

如く、卵子より孵化して成蟲に至る迄、大きさの外其形狀を變せざるものを云ふ。

(二) 不完全變態 かめむし、はったの如

く、明瞭なる蛹期を有せざるものを云ふ。

(三) 完全變態 はちはいてふ其他甲蟲

の如く、明瞭なる蛹期を經過するものを云ふ。

尙此他異形變態と稱するもの

あり、此は或昆蟲の退化して異様の變態をなすものを云ふ。

卵

昆蟲は多く卵生なり、卵は昆蟲の種類によりて大に其趣きを異にし、動植物の組織内にあるものは概ね白色なり。二枚の皮膜を以て圍繞せられ、其外部にあるものを卵殻と云ひ、其下にある薄膜を卵黃膜と云ふ、卵の一端に小孔あり、之れを

して、何れも之れに小孔、栓状突起及び觸毛を有す、此中最も發達せるものは上喉頭にあり。

四觸官 觸官の位置は種類によりて大に異なれり、蝶蛾にては下唇頭の末端に一個の大なる罍狀孔ありて、其内部の下方に多數の栓状突起を具へ、蠅は小腮鬚の末端に同様のものを具へ、又こほろぎきりぎりすの如きは下唇鬚及び小腮鬚の末端に長短數多の觸毛を具へて之れを掌どる。

五視官 視官を掌どるものは單眼と複眼なり、單眼は近視眼にして垂直の物體を見るに適し、複眼は遠視眼なり、昆蟲の視力は割合に不完全なるものにして、其識別し得べき限度は鱗翅目にありては平均五尺、膜翅目は二尺、蠅は二尺三寸に過ぎず而して、最も發達せるものは蜻蛉にして、最も鈍きものはめくらあぶなり。

昆蟲の變態

昆蟲は普通卵・幼蟲・蛹及び成蟲の四期を經過するものにして、其變化を變態と云ふ、今變態を分つて左の三となす。

び製絲管の四となす、吐絲管の兩側には更に一双の小腺あり之れをふりび腺と云ひ、其効用は吐絲管内を滑澤ならしむるのみならず、又二本の絹絲を一本に固着せしむるの用をなす。

六 蠟腺 殊にわたむしかひがらむしきじらみ等に於て發達せり。

昆 蟲 の 知 覺 器

高等動物と同じく嗅官、聽官、味官、觸官及び視官の五より成る

一 嗅官 其存在する重要な部分は觸角内にある小孔、栓狀突起及び觸毛にして、何れも其内に神經端を有せり、此外小腮頭、下唇頭及び脚に散在せる觸毛も亦嗅官を主とすることあり。

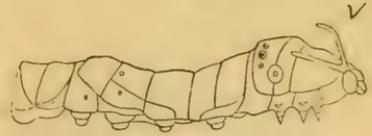
二 聽官 昆蟲の大部分は其觸角に聽官を有す、即ち觸角には嗅管を主とる小孔及び栓狀突起の外一種の溝ありて、嗅官と聽官の機能を併有するものとす、又特別の聽器を有するものあり、即ちばったいなごの如きは第一腹節の基節に之れを有し、まきりぎりすこほろぎの如きは前肢の脛節に之れを見る。

三 味官 昆蟲の味官は口部に位し、上喉頭、下唇副舌、舌及び小腮の内葉外葉等に

第十九圖

あげば幼蟲
の臭腺

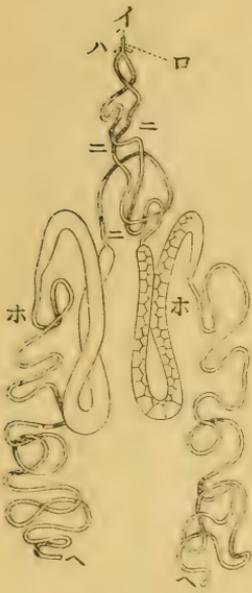
(レ)臭角



第二十圖

かいこの絲腺

- (イ) 吐絲口
- (ロ) 吐絲管
- (ハ) 吐絲管
- (ニ) 輸絲管
- (ホ) 貯絲管
- (ヘ) 製絲管



細長の輸液管あり、其基部は甚だしく膨大して、貯液囊を構成し、毒液は之れより毒刺に傳はりて外出す、而して輸液管は毒液を送るの外、又産卵管となる。

(五) 絲腺 膜翅目、鱗翅目及び毛翅目の幼蟲に存在し、殊に鱗翅目に於て最も發達

(三) 香腺 蝶蛾類の雄に於て殊に發達せり、蝶類の香腺は重に翅に位すれども、蛾類にありては主に腹部及び脚部にあり、其分泌液は一種揮發性の香油にして、其香氣に由りて雌蟲を誘引し、且つ雄の存在を知らしむるものなり。

(四) 毒腺 蜂及び蟻に限りて發達せるものにして、常に尾節に裝置せらる、一双の囊管より成り、之れに連續して

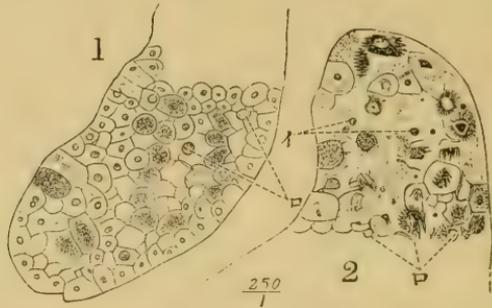
せり、食道の兩側に一雙ありて下唇の末端に開口す、之れを吐絲口と云ふ、而して之れを分つて吐絲管、輸絲管、貯絲管、及

第十七圖

(1) 幼時の
脂肪體

(2) 同老後
の脂肪體

(イ) 尿酸曹達
の結晶
(ロ) 氣管枝



第十八圖

ごきぶりの
唾液腺

(イ) 射液管
(ロ) 排出管
(ハ) 製液管



蟲は第一節の背上に二個の臭角を有し、してむしろは口部より臭液を滲出す、何れも外敵に對する防禦の器官にして、自然淘汰の結果に外ならず。

腺

化前に至れば其量を増すこと甚だしく、而して蛹期間に全く之れを消耗す。

昆蟲内部の重要腺は左の七種なり。

(一) 唾液腺 食道の兩側に各一雙あり、其形に

種々あれども、管狀と葡萄狀との二種に分つことを得べし、其後端は盲囊狀をなし、先端は一本の細管となりて喉頭若くは口内に開口す。

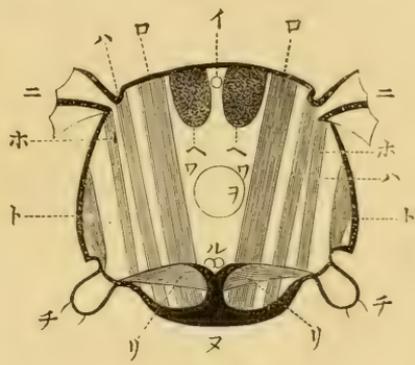
(二) 臭腺 昆蟲に普通なれども、其地位は一定

せず、かめむしは後胸に之れを有し、後肢の中間に開口す、ばさみむしは第三及び第四腺節の兩側に各一雙を具へ、ごきぶりは第六腹節の背上に之れを裝ふ、又あびはの幼

第十六圖

昆蟲の筋肉

- (イ)背管
- (ロ)横走翅筋
- (ハ)舉翅筋
- (ニ)翅
- (ホ)屈翅筋
- (ヘ)縱走翅筋
- (ト)舉脚筋
- (チ)脚
- (リ)屈脚筋
- (ヌ)胸片
- (ル)神經連鎖
- (チ)食道



部筋及び内臓筋の六となす。

脂肪體

腹部の内面及び内臓に附着して白色黄色若しくは綠色を呈する不正形の細胞組織あり、之れを脂肪體と云ふ、其細胞内には普通多量の脂肪球を有するを以て此名あり、脂肪體の構造は昆蟲の種類及び身軀の部分によりて大に異なり、新しき細胞は有核なれども、老成せるものは核を缺き、其限界判然せざるに至る、而して往々其内に菱狀若しくは六角形の結晶體を有す、脂肪體のある處は化學的變化の起る中心にして、其分量の多少は直に壽命の長短に關す、幼蟲の蛹

附着點に向て細小となるを常とす、而して飛翔性の昆蟲にありては、翅脚の筋肉の發達せること鳥類に比するも敢て劣らざるものあり、昆蟲の筋肉は凡て横紋を有するを以て、高等動物の筋肉とは大に其趣きを異にせり、尤も稀にとんぼの幼蟲の如く呼吸鰓に平滑筋を有するものあり、昆蟲の筋肉を分つて頭部筋、胸部筋、翅部筋、脚部筋、腹部筋

如く卵鞘を構成するものなり。

神経系 昆蟲の神経系は脳及び縦走せる二條の神経連鎖より成る、脳は食道上にあるを以て一名之れを喉上神経球とも云ふ、之れより複眼、單眼、觸角及び上唇に神経を送る、此中複眼に至る神経は其末端球状に膨大し、特に視神経球の稱あり、脳の兩側より出づる各一本の神経線を食道神経環と云ひ、食道の左右を過ぎて一雙の喉下神経球に連なり、之れより二條の太き神経線を出し、胸部及び腹部の神経球を連続す、之れを神経幹と云ふ、胸腹の神経球は多くは十一個なり、普通胸部に三個、腹部に八個あれども、多くは癒着して大に其數を減ず、又昆蟲には高等動物の交感神経に相當するものあり、此は腦より出づる細神経線にして處々に球塊を有せり。

神経系には知覚神経と運動神経の二種あり、觸角、小腮鬚、下唇鬚及び其他感觸の機能を掌る部分は、常に知覚及び運動の兩性神経を有し、前者は神経球に向ひて感覺を傳達し、後者は神経球より筋肉に向ひて刺撃を傳達す。

筋肉組織 筋肉は體の部位及び動作の如何によりて大に其形を異にせり、即ち腹部にあるものは主に縦走せる平行の束把より成り、脚部にあるものは臆様筋の

(二) 輸卵管 卵巢に連続せる一双の細管にして、成長せる卵子の陰道に入る通路なり。

(三) 陰道 輸卵管の合して一管となりたる部分を云ふ。

(四) 貯精囊 精子を貯藏する處にして、蜜蜂の如き、一度交尾したるものは長時間其内に多數の精子を貯藏するを以て、再び交尾の必要なし。

(五) 受精囊 前者と同じく直接陰道に開口するものなれども、蝶蛾の如く位置を變じて肛門の直下に位するものあり、但し此場合にありては細管によりて輸卵管に接続す。

(六) 膠腺 普通陰道に開口する盲管にして、種類によりて大に其趣きを異にせり、此分泌液は一種の粘液にして、一は卵子を他物に固着せしめ、一はかまきりの

第十五圖

昆蟲の神経系



四 粘液腺 貯精囊の前方若しくは後方にありて其形状一ならず、之れより分泌

せらるゝ液漿は精子と混和し、或場合には精子包を構成す、精子包は多数の精子を包含する一囊にして、外部は粘液腺の分泌液に蓋はれ、雌蟲の受精囊に至る途次其乾燥を防止するものなり、是れ殊にきりぎりすみつばちに於て見る所なり。

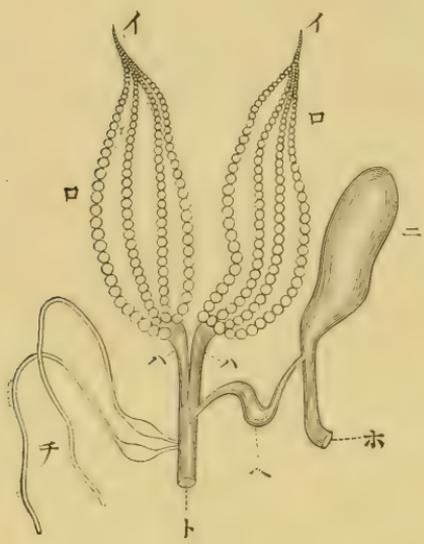
五 射精管 一本の細管にして、甚だ伸縮力に富み、其末端の筋肉は殊に發達し、精子を雌蟲に注射するの機能を有す。

第十四圖

昆蟲の生殖

器

- (イ) 卵巢の端
- 絲
- (ロ) 卵巢
- (ハ) 輸卵管
- (ニ) 受精囊
- (ホ) 陰道に接する道
- (ヘ) 貯精囊
- (ト) 産卵口
- (チ) 膠腺



雌の生殖器を分ちて左の六部となす。

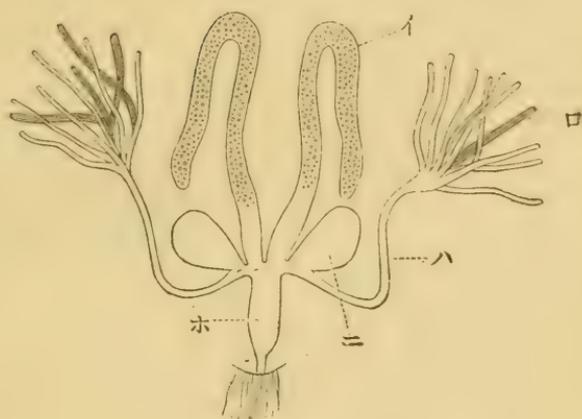
一 卵巢 一対ありて多数の卵巢管より構成せらる、卵巢管は多数の卵室を有し、各室の中間に一種の細胞層ありて、未熟の卵子を養ひ同時に新卵を形成す。

第十三圖

昆蟲の雄の

生殖器

- (イ) 副明精
- (ロ) 明精
- (ハ) 輸精管
- (ニ) 貯精囊
- (ホ) 射精管



生殖器

昆蟲の生殖器は體の上方にありて、普通腹部の第七・八節に位置り、而して雄にありては左の五部に區別することを得べし。

一 卵精

普通體の兩側に一雙あれども、又蝶蛾の如く中央に於て相合し一塊となるものあり、多くは白色なれども、きりぎりすの如く黄緑なるものあり、中に線狀の精子を含有す。

(二) 輸精管

卵精より起れる一雙の細管にして、精子を輸送すべき作用を有す、其後方に當り往々甚しく膨大せる部分あり、之れを貯精囊と云ふ。

三 貯精囊

一個乃至二個ありて、のこりばちの如きは二個を有し、ひらたあぶ若しくはこほろぎの如きは輸卵管の接合部に於て唯だ一個を有す。

第十二圖

背管(心臟)

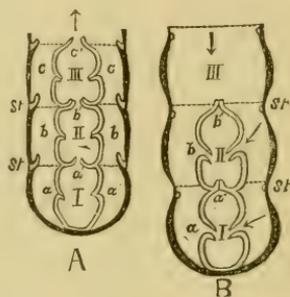
(A) 背管縮小して血液の前を進せるを示す
 (B) 背管伸張し不潔なる血液の瓣口より入り來る

を示す

(I)(II)(III) 背管小室

(a')(a'')(b')(b'')(c')(c'')(e')(e'') 瓣口

(St) 氣門、點線は蟲軀の體節に相當す



運動によりて常に血液を前方に送り、大動脈を経て頭部に入らしめ、終に流れて自在に體內を運行せしむ、而して別に高等動物の如く靜脈に相當するものなく、不潔の血液は唯だ一定の通路を経て凹凸ある背管の外部に集來し、瓣口より其内に入る、斯くて第一室に入る能はざりしものは第二室よりし、漸次最終室に到りて全く收容せらる、各室の前端には前方に向へる膜瓣ありて其逆流するを防止し、且つ瓣口の周圍に存する多數の氣管枝によりて直接酸素と化合せしむ、血は無色透明なれども、黄色若しくは赤色を帶ぶるもの亦少なからず、球形梨形卵形又稀にあみゝば状の血球を含有し、且つ自在に體內を流るゝを以て常に乳糜液を混ぜり。

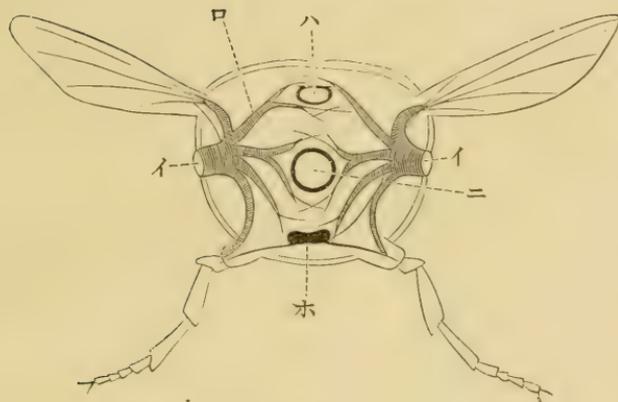
位し、他の十室は腹部に存す、各室の基部は兩側に膨起し、其下方に各一個の瓣口あり、各室は皆之れに附着せる羽狀筋を有し、其

第十一圖

昆蟲呼吸器

(模型圖)

- (イ) 胸部氣門
- (ロ) 氣管枝
- (ハ) 背管
- (ニ) 食道
- (ホ) 神經



し、他の八又は腹部の初八節に開口せり、氣門に連続せる細管を氣管と云ふ、次第に分岐して終に體の諸部に至る、氣管は體の兩側を縦走し、空氣を含有するを以て恰も銀管の如き觀を呈す、内外二層より成り、外層は六角形をなせる細胞の單層より成り、内層は幾丁質を以て硬化

し、内に横線ありて螺旋狀をなして相連続す、而して氣管よりは氣管枝を分出し、其端には氣胞を有せり、金龜子及び鍬形蟲の如き重大なる昆蟲の能く飛翔し得るは之れが爲なり

背管 昆蟲の心臟は高等動物と其趣を異にして、胸腹の背部を縦走せる一本の細管より成り、後端は盲囊狀に終り、前端は大動脈となりて頭部に入る、之れを背管と云ふ、普通十三個の小室より成り、初めの三室は長くして胸部に

せり、此部分には特に乳糜室の名あり、之れに連続せる部分を後胃と云ふ、小腸は普通緊縊によりて後胃に接す、此は元來迂曲せる細長の管なれども、又いなごきりぎりす等の如く其甚だ大なるものあり、小腸に附屬してまるびぎ氏管あり、高等動物の腎臓に相當するものにして、内に尿酸・尿酸石灰及び磷酸石灰の結晶を含有し、普通四個若しくは六個より成れども、時には直翅目の如く多數なることあり、多くは迂回せる細長管にして小腸の起點に開口す、結腸は小腸に連続する部分にして、多少緊縊によりて直腸と區別せらるれども、其分解の判然せざるもの多し、直腸は消化器の最後に位し、其筋肉は厚くして結腸よりも大なるを常とす、其外昆蟲の種類によりて盲腸を有するものあり、此は直腸より生ずる一個の盲囊にして、蝶蛾及びびんごらうの如き甲蟲に於て發達せりと雖ども、之れを缺くものも亦尠なからず、唾液腺は食道の兩側に位し、鞘翅目にては之れを見ること稀なれども、直翅目及び有吻目に於ては極めて普通なり、又直腸に隣接して肛門腺を有するものあり、之れ歩行蟲に於て常に見る所なり。

呼吸器

昆蟲の呼吸器は氣門及び氣管より成る、氣門とは體の兩側に位せる呼吸器の開口部にして、其數多くも十双に過ぎず、而して前二双は中胸及び後胸に存

ども、成蟲期には其判然せざるもの多し。

昆蟲内部の構造

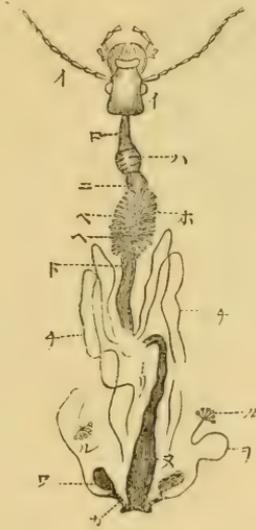
消化器

昆蟲の消化器は、口部に始まり肛門に終れる細長の一管にして、食草性の

第十圖

をさむしの消食管

- (イ) 頭部
- (ロ) 食道
- (ハ) 嚙囊
- (ニ) 前胃
- (ホ) 胃(乳糜室)
- (ヘ) 盲管突起
- (ト) 後胃
- (チ) まるびぎ氏管
- (リ) 小腸
- (ヌ) 直腸
- (ル) 肛門腺
- (ヲ) 輸液管
- (ヲ) 貯液管
- (カ) 射液管



ものは長く、食肉性のものは短かし、其最も發達せるものにありては、喉頭、食道、嚙囊、前胃、小腸、結腸及び直腸の諸部を識別する

ことを得べし、而して食物は先づ口部より入りて喉頭に達し、食道を経て嚙囊に到る、嚙囊に次で存在するは前胃にして、此は食物を壓搾する場所なるが故に、其筋肉大に發達し、内に隆條・棘狀・疣狀突起若しくは剛毛等ありて、食物の逆行を防ぐべき作用を有す、胃は直翅目に於て最も膨大し、其前端に一双乃至數双の盲囊を裝ふ、又をさむしの如きものは其前方甚しく膨大し、之れに小形の盲管を着生

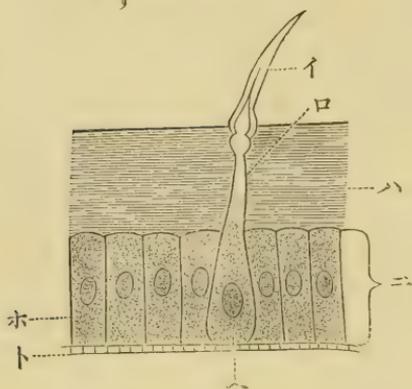
線と云ひ、外縁に近く波状をなせる横線を波状線と云ふ。

腹 腹は普通十節より成れども、第一節は後胸に癒着して判然せざるのみならず最後の二節は其次節下に隠るゝこと普通なり、而して其後端に現はれたる末節を殊に尾節と云ふ、腹の兩側には氣門を有し、其數多くは八双なり、初めの八節には各一雙ありて、尾端の兩節に之れを缺く、尾節には肛門及び交尾器を具へ、之れによりて雌雄を區別することを得べし、又尾端には産卵管尾毛、角状突起若しくは叉状突起を有するものあり。

第九圖

昆蟲の皮膚

- (イ) 體毛
- (ロ) 孔道
- (ハ) 外皮
- (ニ) 内皮
- (ホ) 内皮細胞
- (ヘ) 體毛の生ずる内皮細胞
- (ト) 底膜



皮膚 皮膚は二層より成り、上層にあるもの

のを外皮、下層にあるものを内皮と云ふ。

尙其下に底膜と稱するものあり、外皮は

内皮より分離したるものにして細胞を

なさず、多數の小孔ありて内部に貫通し、

殊に其大なるものは罎状の細胞に源を

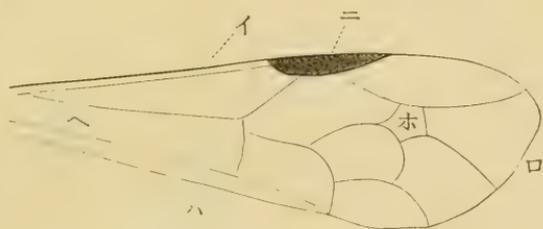
發する觸毛を通ぜり、内皮は石垣状をな

せる細胞の單列より成りて皆有核なれ

第七圖

ひめばちの前翅

- (イ) 前縁
- (ロ) 外縁
- (ハ) 後縁
- (ニ) 緑紋
- (ホ) 鏡胞
- (ヘ) 翅底



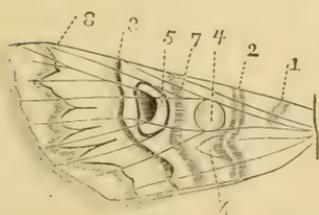
翅は前縁外縁後縁及び翅底の各部を有す、而して其前縁と外縁と相接する處を前縁角と云ふ、又蜻蛉の如く後翅に内縁を有するものあり、其内縁と後縁と相接する處を内縁角と云ふ、又前縁の前縁角に近く一個不透明の斑紋を有するもの多し、之れを特に縁紋と云ふ。

蛾の前翅には普通固有の斑紋ありて、各固有の名稱を有す、即ち翅底に近く前縁に接する短かさ横紋を半横線と云ひ、

第八圖

其次ぎに位する前縁

より後縁に達する横線を前横線と云ひ、其外側に於ける稍や圓形の一紋を環狀紋と云ひ、之れと相並びて其下にある圓錐形の一紋を栓狀紋と云ひ、其外側にある横線を中横線と云ひ、其外側に存する耳形の斑紋を腎狀紋と云ひ、更に其外側にある横線を後横

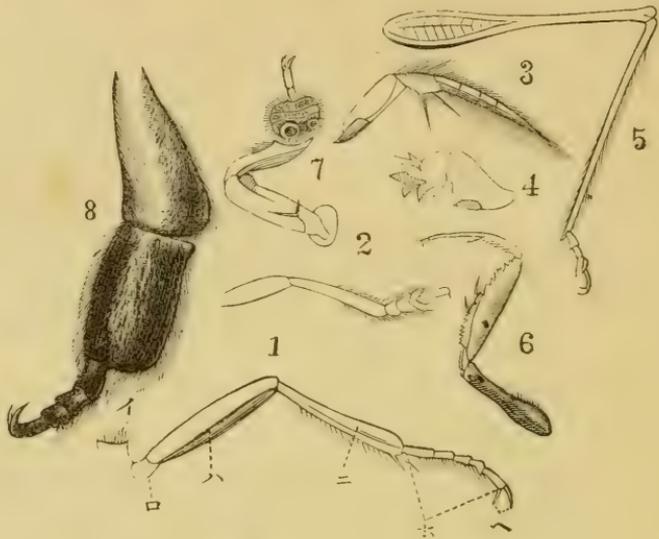


(圖型模) 翅前の蛾夜

- (1) 半横線
- (2) 前横線
- (3) 後横線
- (4) 環狀紋
- (5) 腎狀紋
- (6) 栓狀紋
- (7) 中横線
- (8) 波狀線

第六圖

- (1) 歩行肢 (をさむし)
- (イ) 基節
- (ロ) 轉節
- (ハ) 腿節
- (ニ) 跗節
- (ホ) 跗節
- (ヘ) 爪
- (2) 攀昇肢 (天牛)
- (3) 游泳肢 (がむし)
- (4) 開掘肢 (けら)
- (5) 跳躍肢 (きりぎりす)
- (6) 捕獲肢 (かまきり)
- (7) 附着肢 (げんごらう)
- (8) 採集肢 (みつばち)



甲蟲の如く前翅發達して角質に變ぜるものを特に翅鞘と云ふ、又かむしのように前翅の半部は角質にして、末端の膜質なるものあり、之れを半翅鞘と云ふ、翅は普通膜質にして翅脈を以て支持せられ、氣管神經及び血液を通ず。

翅

翅は普通二双にして、中を後肢と云ふ、脚は基節、轉節、腿節、脛節及び跗節の五部より成り、跗節端に爪を有し、爪間には更に小爪若しくは吸盤あるを常とす、其種類多けれども、主なるものを歩行肢、攀昇肢、游泳肢、開掘肢、跳躍肢、捕獲肢及び採集肢の七種とす。

翅は普通二双にして、胸にあるものを前肢、後胸にあるものを後翅と云ふ、

るが如き即ち之れなり。

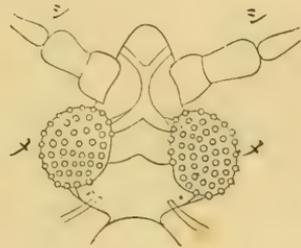
觸角 觸角は頭の兩側に各一個あり種類によりて大に其趣を異にす、其中最も普

第五圖

かひがらむ

しの雄

(シ)觸角
(メ)集眼



通なるものは鞭狀・絲狀・連鎖狀・紡錘狀・棍棒狀・鋸齒狀及び櫛齒狀なりとす、此他尙劍狀・球桿狀・兩櫛齒狀・羽狀・旋毛狀・鰓葉狀・膝狀・枝狀・不正形等あり。

胸

胸は前胸・中胸及び後胸の三部に分つことを得べし、前胸は獨り背面に現はれ、中後の兩胸環

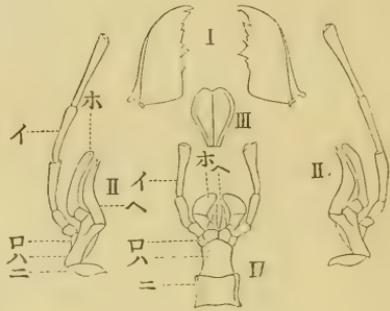
は往々翅下に隠る、又胸環は凡て三部に區別することを得べし、其背面に現れたる部分を背片と云ひ、側面にあるものを側片と云ひ、下面にあるものを胸片と云ふ、中胸の背片には菱狀部と稱し三角形の小片を有するものあり、椿象に於て最も能く發達す、又胸には三双の脚を具へ、中後の二胸環に各一双の翅あるを常とす、尙中胸と後胸と相接する處、及び後胸と腹と相接する處の兩側に各一双の氣門あり。

脚 脚は三双ありて、前胸にあるものを前肢、中胸にあるものを中肢、後胸にあるもの

第三圖

きりぎりすの口器

- (I) 大腮
- (II) 小腮
- (イ) 小腮鬚
- (ロ) 小腮鬚基
- (ハ) 莖節
- (ニ) 基節
- (ホ) 外葉
- (ヘ) 内葉
- (III) 舌
- (IV) 下唇
- (イ) 下唇鬚
- (ロ) 下唇鬚基
- (ハ) 莖節
- (ニ) 基節
- (ホ) 外葉
- (ヘ) 内葉



せらる、吸収口にありては下唇基節を缺き、下唇及び小腮は延長して口吻に變じ、延長せる舌の外更に發達せる副舌を有す、而して蝶蛾の如く螺旋線をなせるものを殊に螺旋口と云ふ。

眼 眼には複眼、集眼及び單眼の三種あり、複眼とは小眼の集合より

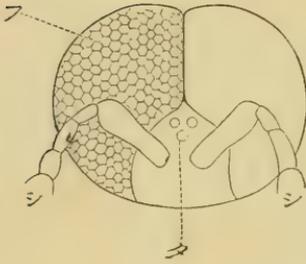
成り、其限界の六角形をなせるものを云ふ、小眼とは一個の角膜、一個の晶體、一個の

第四圖

みつばちの

複眼

- (フ) 複眼
- (シ) 觸角
- (タ) 單眼

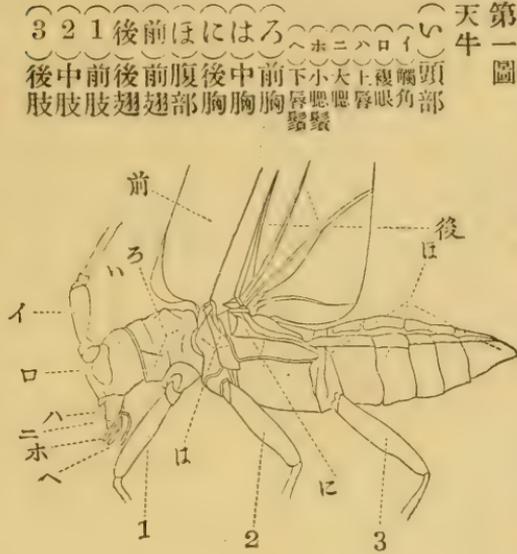


らぶどむ及び一個のれちぬーらを有するものにして、單眼とは大に其趣を異にせり。

單眼とは一個の角膜と多數のらぶどむ及び多數のれちぬーらを有するものを云ふ、集眼とは小眼の相隔離して集合するものを云ひ、俗も複眼の如く隆起するものあり、介殼蟲の雄に於け

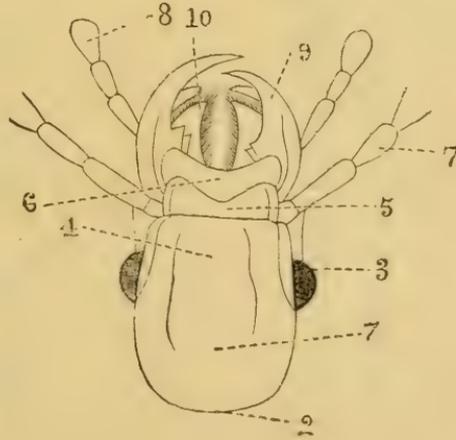
以て食餌となす昆蟲の口を云ひ、吸收口とは蝶蟬椿象の如く、液汁を攝取する昆蟲の口を云ふ、咀嚼口を有する昆蟲には一個の上唇と三双の顎あり、顎の第一双

第一圖
天牛



第二圖
をさむし
の頭部

- (1) 頭頂
- (2) 後頭
- (3) 複眼
- (4) 前頭
- (5) 額片
- (6) 上唇
- (7) 觸角
- (8) 小腮鬚
- (9) 大腮
- (10) 小腮



を大腮と云ひ、第二双を小腮と云ふ、小腮は頗る複雑なる構造を有し、其最も發達せるものにおいて、小腮鬚外葉内葉莖節及び基節の諸部より成る、第三双を下唇と云ひ、其最も發達せる昆蟲にありては、基節、莖節、下唇鬚、内葉、舌、外葉、副舌より構成

大日本害蟲全書 前編

理學博士 松村松年 著

總論

昆蟲外部の構造

昆蟲 昆蟲は節肢動物の一にして、躰は明瞭に頭・胸及び腹の三部に分つことを得べく、而して頭には一雙の觸角と三雙の顎を有し、胸には普通二雙の翅と三雙の脚を具へ、又胸腹には氣門ありて大氣を呼吸するに供す。

頭 頭には口と一雙の觸角と普通一雙の複眼とあり、眼と眼との間を頭頂と云ひ、其前方を前頭、後方を後頭と云ふ。

口 口には咀嚼口と吸收口との別あり、咀嚼口とは、甲蟲キリギリス・蠃カマキリ・蟻アリ・蠍ササゲの如く固形物を

大日本害蟲全書
目次終

七
うちすずめ

八
ももすずめ

九
めんがたすずめ

天蠶蛾科……………二八二——二八四

- 一 くすさん
- 二 ゆうがほべうたん

枯葉蛾科……………二八六——二九四

- 一 まつかれは
- 二 りんごしらほし
- 三 かれはが

- 四 ひめかれは
- 五 おびかれは

毒蛾科……………二九六——三一五

- 一 のんねまいまい
- 二 かしはまいまい
- 三 まいまいが

- 四 やなぎどくが
- 五 もんしろどくが
- 六 ちやどくが

- 七 どくが
- 八 りんごどくが
- 九 まめどくが

- 一〇 あかもんどくが
- 一一 しろもんどくが

天社蛾科……………三二七——三三〇

- 一 もんくろしやちほこ
- 二 しやちほこが

天蛾科……………三三二——三三五

- 一 びろうどすずめ
- 二 せすぢすずめ
- 三 こすずめ

- 四 ゑびがらすずめ
- 五 くるますずめ
- 六 ぶだうすずめ

五 むらさきえだしやく 六 とんぼえだしやく
 七 うめえだしやく

夜蛾科

二四三—二七九

一 りんごつまさりあつば 二 こがたのきしたば

三 あけびこのは 四 ひめあけびこのは 五 むくげこのは

六 きしたあしぶと 七 ふくらすずめ 八 いねきんうはば

九 ふたおびこやが 一〇 うすべにこやが 一一 たばこが

一二 つめくさが 一三 さたばこが 一四 あやもくめ

一五 しまがらす 一六 ひえのしろよとう 一七 いねよとう

一八 あはのよとう 一九 しやうぶよとう 二〇 よとうが

二一 かぶらやが 二二 たまなやが 二三 しろもんやが

二四 まへじろやが 二五 りんごけんもん 二六 さくらけんもん

二七 おほけんもん 二八 あさけんもん

家蠶蛾科

二八〇

一 くはご

避債蛾科……………二二四——二二六

一 ちやのみのが……………二 みのが

刺蛾科……………二二六——二二九

一 くろしたあをいらが……………二 なしいらが

三 いらが……………四 てんぐいらが

斑蛾科……………二二〇——二二二

一 うすばつばめが……………二 りんごすかしくるば

燈蛾科……………二二二——二二七

一 ひとりが……………二 あまひとり……………三 くるばねひとり

四 まへあかひとり……………五 くはごまだらひとり

實蛾科……………二二九

一 わたりんが

尺蛾科……………二二二——二四二

一 くはえだしやく……………二 ちやえだしやく

三 りんごえだしやく……………四 くはとげえだしやく

一	なのみいが	二	あはのみいが
三	まめのめいが	四	くはのみいが
五	すかしのめいが	六	わたくろへのめいが
七	わたのみいが	八	ごまだらのめいが
九	いねこみづめいが	一〇	いねのはかじ
一一	ふたすぢしまめいが	一二	くわしのしまめいが
一三	こめのしまめいが	一四	なしはまきまだらめいが
一五	なしもんくろまだらめいが	一六	つつまだらめいが
一七	なしまだらめいが	一八	いつてんおほめいが
一九	ひとすぢおほめいが	二〇	めいが
二一	つとが	二二	はちみつが
蝙蝠蛾科			
一	きまだらこうもりが	二一〇	
硝子蛾科			
一	こすかしば	二二二	
二	ぶだうすかしば	二二三	

目次

葉捲蛾科……………一六二——一八〇

一 りんごしろはまき……………二 りんごおほしんくひが

三 あづきさやむしが……………四 まめひめさやむしが

五 まめのしんくひが……………六 しろもんはまき

七 くはひめはまき……………八 くははまき

九 ももしんくひが……………一〇 りんごきまだらはまき

一一 すももはまき……………一二 いしだはまき

一三 とびはまき……………一四 さくらとびはまき

一五 ぎんすちはまき……………一六 おほぎんすちはまき

一七 りんごひめはまき……………一八 りんごおほはまき

一九 かくもんはまき……………二〇 くはいとひきはまき

二一 りんごはまき……………二二 あときはまき

鳥羽蛾科……………一八一

一 まだらとりば

螟蛾科……………一八二——二〇九

鱗翅目 一四七

殼蛾科 一四七—一四九

一 こくが 二

二 さが 三

三 ころが

四 もうせんが

筒蛾科 一五〇—一五三

一 つつみのむし 二

二 ぴすとるみのむしが

細蛾科 一五三—一五四

一 さんもんほそが 二

二 ぎんもんほそが

麥蛾科 一五五—一五七

一 わたみが 二

二 いもこが

三 ばくが

小菜蛾科 一五七

一 こなが

巢蛾科 一五九—一六一

一 りんごひめしんくひが 二

二 りんごすが

一 めだかかめむし 二 いちごかめむし
 緑椿象科……………一三七—一四〇

一 くもかめむし 二 ほそはりかめむし
 三 はりかめむし 四 あづきかめむし
 五 はらびろかめむし 六 ほそへりかめむし
 七 ほほづきかめむし

椿象科……………一四〇—一四五

一 ながめ 二 なしかめむし
 三 くさぎかめむし 四 むらさきかめむし
 五 ぶちひげかめむし 六 あをかめむし
 七 うづらかめむし 八 いねかめむし
 九 あかすぢかめむし 一〇 くろかめむし
 一一 ひめまるかめむし 一二 まるかめむし

毛翅目……………一四六

筒石蠶科……………一四六

田鼈科 一三〇

一 しろをびあわふき 二 もんさあわふき 三 まるあわふき

一 たがめ 二 こおひむし

紅娘華科 一三一—一三二

一 ゆりはなすひ 二 みづかまさり 三 ひめみづかまさり

床蝨科 一三二

一 とこじらみ

盲椿象科 一三三—一三五

一 あをめぐらがめ 二 まさばめぐらがめ

三 まだらめぐらがめ 四 あかひげめぐらがめ

五 むぎのめぐらがめ 六 あかすぢめぐらがめ

七 りんごくろめぐらがめ 八 くはひめめぐらがめ

軍配蟲科 一三六

一 ぐんばいむし

長椿象科 一三六—一三七

- 一二 あかはねながうんか
- 一三 しまうんか(こなふきうんか)
- 一四 ほそみどりうんか

浮塵子科……………一二〇——一二八

- 一 よつもんひめよこばひ
- 二 うすばひめよこばひ
- 三 ちまだらひめよこばひ
- 四 みかんひめよこばひ
- 五 まだらよこばひ
- 六 いねのまだらよこばひ
- 七 ひろづいねまだらよこばひ
- 八 むぎよこばひ
- 九 いなづまよこばひ
- 一〇 おほいなづまよこばひ
- 一一 りんごまだらよこばひ
- 一二 つまぐるよこばひ
- 一三 とばよこばひ
- 一四 よつてんよこばひ
- 一五 ふたてんよこばひ
- 一六 むつてんよこばひ
- 一七 かすりよこばひ
- 一八 もんきひろづよこばひ
- 一九 おほよこばひ
- 二〇 くはきよこばひ
- 二一 おほつまぐるよこばひ

沫吹蟲科……………一二八——一二九

二一 みかんのしろかひがらむし 二二 ふうらんかひがらむし
 二三 ひめながかひがらむし 二四 ちやのながかひがらむし
 蚜蟲科……………一〇三——一一一

一 わたむし 二 いねのくろあぶらむし
 三 いねのきばらあぶらむし 四 ぶだうあぶらむし
 五 まめのあぶらむし 六 りんごのあぶらむし
 七 だいこんのあぶらむし 八 まめのこなあぶらむし
 九 むぎのあぶらむし 一〇 いねのあぶらむし

木蝨科……………一一二——一二三

一 なしきじらみ 二 くはきじらみ

白蠟蟲科……………一一四——一二〇

一 ぜじろうんか 二 とびいろうんか 三 ひめとびうんか
 四 ひしうんか 五 ぐんばいろんか 六 つまぐろすけば
 七 てんぐすけば 八 ひめてんぐすけば 九 あをばはごろも
 一〇 べつこうはごろも 一一 すけばはごろも

蚌蠟科 七九—八一

一 わもんごきぶり 二 こわもんごきぶり 三 ごきぶり

四 こばねごきぶり 五 ちやばねごきぶり

蝗蟲科 八一—八五

一 はねながいなご 二 こばねいなご 三 こいなご

四 えぞいなご 五 ひしばつた 六 だいめうばつた

七 たいわんばつた

蟋蟀科 八六—八八

一 えんまこほろぎ 二 みつかどこほろぎ 三 けら

總翅目 八九

管蘆馬科 八九

一 いねのくだあざみうま

有吻目 九〇

蝨科 九〇—九二

一 あたまじらみ 二 ころもじらみ 三 うまじらみ

茶柱蟲科……………七四——七五

- 一 こなちやたてむし
- 二 しろこなちやたてむし

食毛目……………七五

羽虱科……………七五——七六

- 一 にはとりはじらみ
- 二 がてうはじらみ

長羽虱科……………七六——七七

- 一 にはとりながはじらみ
- 二 ひめにはとりはじらみ

- 三 はとのながはじらみ

獸蟲科……………七七——七八

- 一 いぬけじらみ
- 二 ひつじけじらみ

疊翅目……………七八

蠶蝮科……………七八——七九

- 一 くぎぬさはさみむし
- 二 おほはさみむし

- 三 こぶはさみむし

直翅目……………七九

各論

昆蟲の採集	四三
昆蟲標本の製作	四七
昆蟲標本の保存	五三
昆蟲の分類	五四
彈尾目	七一
圓跳蟲科	七一—七二
一 まるとびむし	
二 きまるとびむし	
衣魚科	七二
一 しみ	
白蟻目	七三
白蟻科	七三
一 しろあり	
嚙蟲目	七四

大日本害蟲全書前編

目次

總論

昆蟲外部の構造	一
昆蟲内部の構造	八
昆蟲の知覺器	一九
昆蟲の變態	二〇
昆蟲の彩色	二五
昆蟲と外界との關係	二七
益蟲と害蟲	二九
害蟲の豫防法	三一
害蟲驅除法	三三
昆蟲飼育	四〇

せるものなるを以て九州及び臺灣地方のものゝ如きは之と
少しく異なる所あるべし。

一、本書には益蟲に關する記事を載せず、是れ他日篇を更めて之
を叙述せんことを期すればなり。

東北帝國大學農科大學

昆蟲學教室に於て

明治四十二年三月

理學博士 松村松年識

例言

一、本書は東北帝國大學農科大學に於て害蟲に關し余が講演せる要項を編纂せるものなり。

一、本書は拙著日本害蟲目錄(六盟館發行)に記載せる害蟲を悉く網羅して之に説明を施せり。

一、本書は學名の判然せざるもの及び其經過習性の未だ詳かならざるものは姑く之を省略せり。

一、本書は害蟲の經過及び習性に重きを置けり、其形態に關する説明の簡なるものあるは専ら實物標本によりて之を知らしめんことを欲すればなり。

一、本書は成るべく挿畫を多くして了解に便にせり。

一、本書に記載せる害蟲の經過は多くは東京を中心として觀察

卷之二

會通
命

夫日本

西

理學博士
農學士 松村松年著 (前編)

大日本害虫全書

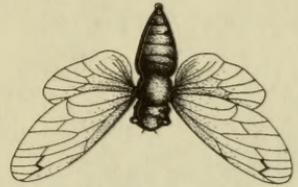
東京

合資
會社 六盟館

1885-1956

Dr. Z. P. Matigale

LIBRARY OF



士博學理
著年松村松

大日本害蟲全書

前編